

49-28/八



1200701659175

49
28



始



49
28.1

金澤醫學專門學校教授石川喜直編著

增訂第三版
(補圖二百六十七)

人體解剖學

卷參第

內臟學
感覺器學

吐鳳堂書店發行

金澤醫學專門學校教授石川喜直編著

增訂第三版

(挿圖二百六十七)

人體解剖學

卷參第

內臟學
感覺器學

吐鳳堂書店發行



增訂 人體解剖學 第三卷目次

第四編 內臟學

甲 消化器

イ 口腔	三六一
い 唇	三六一
ろ 頬	三六七
は 舌	三六八
に 口蓋	三九七
ほ 齒	四〇三
一 永久齒	四〇四
二 乳齒	四〇六
(齒ノ構造)	四〇八
(齒ノ發生)	四一一
へ 唾腺	四二三

口	咽頭	四二七
ハ	食管	四二五
ニ	胃	四二八
ホ	腸	四三七
イ	小腸	四三七
ろ	大腸	四四六
へ	肝臓	四五四
ト	膵(腹唾腺)	四六四
チ	脾	四六六
チ	(腸管ノ發生)	四七〇
乙	呼吸器	四七一
イ	喉頭	四七一
い	喉頭ノ軟骨	四七二
ろ	喉頭ノ靱帯	四八一
は	喉頭ノ筋	四八四

に	喉頭ノ粘膜	四八八
ロ	氣管及氣管枝	四九〇
ハ	肺	四九三
ハ	(胸膜)	四九六
ニ	(呼吸器ノ發生)	五〇八
ニ	ちいむす(胸腺)	五〇九
ホ	甲状腺	五一二
丙	泌尿器	五一四
イ	腎	五一五
ロ	輸尿管	五一八
ハ	膀胱	五二〇
ニ	副腎	五二四
丁	生殖器	五二六
イ	(陽男生殖器)	五三七
イ	辜丸	五三八

口	副 辜	五四一
ハ	輸精管	五四三
ニ	精 囊	五四三
ホ	射精管	五四五
ヘ	攝護腺	五四六
ト	尿道球腺	五四七
チ	辜丸ノ被膜	五四八
	(精系)	五五〇
	(辜丸下行)	五五一
リ	陰 莖	五五四
又	尿 道	五五八
	(陰)女生殖器	五六一
イ	卵 巢	五六二
ロ	子 宮	五六七
ハ	子宮喇叭管(輸卵管)	五七〇

第五篇 感覺器學

甲 視 器

イ	眼 球	六〇七
ヰ	眼球纖維膜	六一〇
ろ	脈絡膜又葡萄膜	六一一

乙 會陰筋及筋膜

己	腹 膜	五九一
戊	會陰筋及筋膜	五九三

	(子宮ノ位置及其周圍ノ器管)	五七一
ニ	腔	五七三
ホ	大陰唇	五七五
ハ	小陰唇(腔前庭,女子尿道)	五七六
ト	陰 核	五七七
チ	乳 腺	五七八
	(尿生殖器ノ發生)	五七九

は	内膜即網膜	六二五
に	水晶體	六三三
ほ	硝子體	六三四
ロ	眼球筋	六三五
ハ	眼瞼及結膜	六三九
ニ	涙器	六四三
	(眼球ノ血管神經)	六四四
	(眼球ノ發生)	六四〇
乙	聽器	六四一
イ	外耳	六四一
い	耳殼(耳翼)	六四一
ろ	外聽道	六四六
は	鼓膜	六四九
ロ	中耳鼓室	六四九
い	室壁	六五〇

ろ	小聽骨	六五一
は	靭帶及筋	六五四
に	鼓室粘膜	六五六
ほ	聽管、えうすたき管又耳喇叭	六五八
ハ	内耳	六五八
い	骨様迷路	六五九
一	前庭	六六〇
二	半規管	六六一
三	蝸牛殼	六六二
ろ	膜様迷路	六六四
一	楕圓囊	六六五
二	半規管	六六五
三	球狀囊	六六五
四	膜様蝸牛殼管	六六七
	(神經)	六七〇

(脈管)..... 六七

(耳ノ發生)..... 六七

丙 嗅器..... 六八

(嗅器ノ發生)..... 六八

丁 味器..... 六八

外 皮膚又總皮..... 六八

い 真皮..... 六八

ろ 表皮..... 六八

は 爪..... 六九

に 毛..... 六九

ほ 脂腺又毛囊腺..... 六九

へ 汗腺又絲球腺..... 六九

(神經ノ終末)..... 六九

(脈管)..... 六九

增訂人體解剖學第三卷目次終

增訂人體解剖學 第三卷

金澤醫學專門學校教授 石川喜直編著

內臟學 Splanchnologie

內臟學トハ植物性管内ニアル所謂內臟 Eingeweide ニ關スル研究ナリ、內臟ノ種類ハ數多ナリト雖モ其目的ヨリ考フレバ榮養ヲ目的トスルモノ、生殖ヲ目的トスルモノ、二種類ニ過ギス之等ハ數種ノ臟器ノ集合ヨリ成ルヲ以テ之ヲ數個ノ系統 System 即器官 Apparat ニ別ツテ昔ハ凡テ身體ノ內腔ニ包含セラレタル臟器ヲ內臟トシ心臟、腦脊髓、五官器雖系統解剖學ニ於テハ相待テ同一ノ作用ヲ營ムベキモノヲ同一系統ノモノトシ類別スルヲ以テ上記諸器官ノ如キハ內臟學ニ於テハ論セザルモノトス

呼吸器消化器系統

消化器 Verdauungsapparat
呼吸器 Atmungsapparat

尿生殖器系統

泌尿器 Harnapparat
生殖器 Geschlechtsapparat

此諸器官ハ其內面粘膜炎ヲ以テ覆ハレタル管ニシテ體外ニ開口シ管ノ內端或ハ側壁ニハ

之ニ屬スル分泌腺ニ連リ管ノ外口ニ於テ粘膜ハ外皮ニ移行ス粘膜ノ遊離面ハ一般ニ上皮ヲ蒙リ次層ハ血管ヲ通スル結締組織ニ多少腺ヲ有ス又其中ニ粘膜ニ屬スル平滑筋 Tunica muscularia mucosae ヲモ含有ス此層ニ次テ大血管及神経枝ヲ通スル鬆粗ノ結締組織層 (Tela submucosa) アリ或一部分ニ於テハ粘膜直ニ骨膜ニ連ルコアリ (齒齦、硬口蓋) 上記ノ粘膜管ハ固有ノ筋層ヨリ覆ハル此筋ハ横紋或ハ滑平筋ニ小部分ハ缺ルコアリ或ハ特別ノ筋ニ接スルモアリ (脣、舌) 内臟學ニ於テハ上術ノ如キ固有ノ器官ヲ論ズルノミナラズ之等ノ器官ノ作用ヲ助クル部分 (舌筋、喉頭筋、腸筋、乳腺、陰囊) ヲモ併論セリ又生理的ノ關係ナク部位的關係ヨリ併論セシモ少カラズ假令ハ脾ヲ消化器ニ甲狀腺及ヒトスヲ呼吸器ニ副腎ヲ泌尿器ニ合併シタルカ如シ

粘膜 Tunica mucosa 上皮ハ器官ノ種類ニ及白血球ヲ含有ス此膜ノ上皮ト接觸スル部分ハ無組織ノ薄膜トナル之ヲ基礎膜 Membrana basilaris ト云ヒ粘膜筋ノ存スル場合ニハ其外層ニアリ腺 Glandulae ハ粘膜ノ一部管狀或ハ囊狀ニ深部ニ陥入シタル部ニシテ形状ニ從ヒ管狀腺 Tubulose Drüse 或ハ胞狀腺 Alveolare Drüse ト云フ斯ノ如キ腺ノ分岐シ枝ニ枝ヲ生シ漸ク複雑ナルモノヲ腺ト云フ又管狀腺ヨリ起リ後ニ胞狀腺ノ如キ腺ヲ呈スルモノアリ故ニ腺ヲ次ノ六種ニ區別ス (一) 單管狀腺 Tubulose einfache Dr. 例ハ、胃底腺 (二) 複管狀腺 Tubulose Zusammengesetzte Dr. 例ハ、腺液性舌腺、淚腺 (三) 單胞狀腺 Alveolare einfache Dr. 例ハ、皮膚腺 (四) 複胞狀腺 Alveolare Zusammengesetzte Dr. 例ハ、耳下腺、腺ノ一部 (五) 單胞狀腺 Tubulo-alveolare einfache Dr. 例ハ、胃ノ幽門腺、尿道腺 (六) 複胞狀腺 Tubulo-alveolare Zusammengesetzte Dr. 例ハ、舌下腺、十二指腸腺ノ如シ腺ハ固有ノ分泌物ヲ産出シ其壁ハ固有ノ上皮細胞即腺細胞 Drüsenzellen ヲ以テ被ハル然レモ粘膜面ニ接近シタル部ハ柱狀或ハ骰子形細胞ニ變シ只分泌物ヲ排泄スルヲ以テ此部ヲ導管ト云ヒ腺細胞ノ部ヲ腺體ト云フ細胞ノ外圍ハ透明無組織ノ基礎膜又固有膜 Membrana propria ヲ導

リ時トシ腺細胞トノ間ニ星形形ノ細胞籠狀細胞 (Korbzellen) ナ見ルコトアリ、粘膜下層 Tunica submucosa ハ粘膜外圍ノ鬆粗結締組織層ニシテ一面ハ固有膜ニ移行シ一面ハ筋層ニ連リ稍大ナル血管神經ノ通路トナル筋層 Tunica muscularis ハ通常滑平筋ニシテ層稀ニ三層ヲ爲シ層間及外圍ニハ結締組織層アリテ血管、淋巴管、神經及神經細胞ヲ伴フ藥膜 Tunica serosa ハ最外層ニシテ維維結締組織トシ層ノ上皮細胞トヨリ成リ仍トシ透明無組織ノ基礎膜ヲ有ス、上皮細胞ノ間ニ往々裂隙 Stomata ナ見ル此膜ハ血管神經ニ乏シケレバ血管上皮ニ達シ淋巴管ハ著大ニシテ間成濃チ形

甲 消化器 Apparatus digestivus

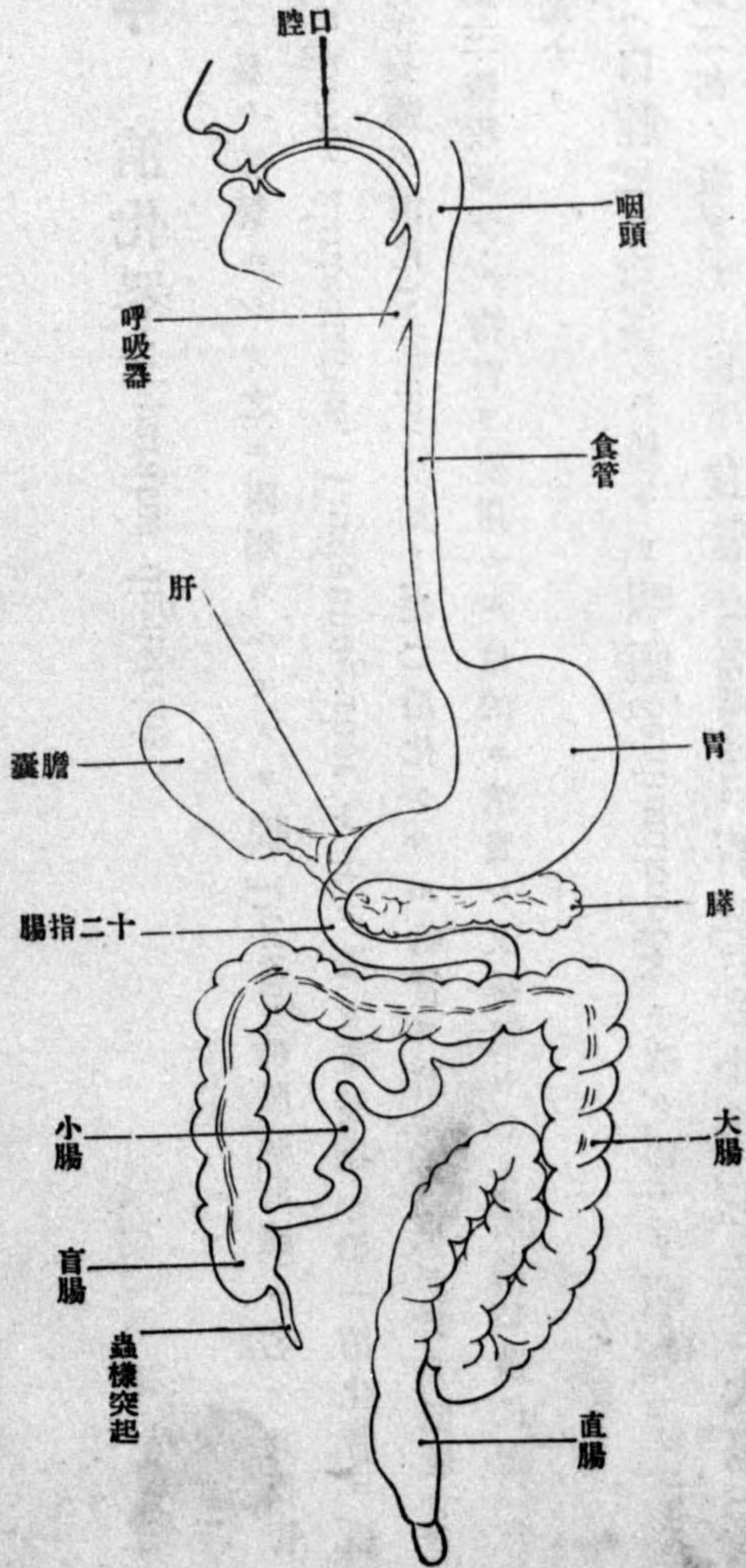
消化器ハ長キ膜管ニシテ之ニ附屬スルモノヲ腺 Drüsen (唾腺、肝臟) ト名ケ其膜管ヲ消化管 Tubus alimentarius, Verdauungsrhor ト云フ蓋シ榮養機ハ第一消化管ニ接取シタル榮養物ノ消化 Digestion ニ始リ第二消化シタル物質ヲ溶液ノ形ニ於テ吸收 resorption シ第三吸收シタル物質ヲ要用ナル目的ニ消費シ又排泄セシム所謂新陳代謝 Stoffwechsel 是ナリ

消化器ハ口腔 Mundhöhle ニ始マリ咽頭 Schlundkopf ニ次グ而シテ咽峽 Rachenenge ハ此二部ノ境ヲナシ以下食管 Speiseröhre 胃 Magen 小腸 Dünndarm 大腸 Dickdarm 順次相位シ大腸ノ下端ハ肛門 After ヲ以テ終ル

消化管ハ軀幹ノ全部ニ互リ上端即口腔ハ頭蓋ニアリ三種ノ腺之ニ屬シ咽頭ハ頭

蓋底ヨリ頸ノ上部ヲ下リ、食管ハ頸部ヨリ下リテ胸廓ヲ縦貫シ横隔膜ヲ穿テ腹腔ニ入ル、胃竝ニ腸ハ腹腔ニ位シテ消化管ノ大部ヲ領シ、小腸ノ上部十二指腸 *Zwöl-*

第四百三十三圖
消化器ノ想像圖



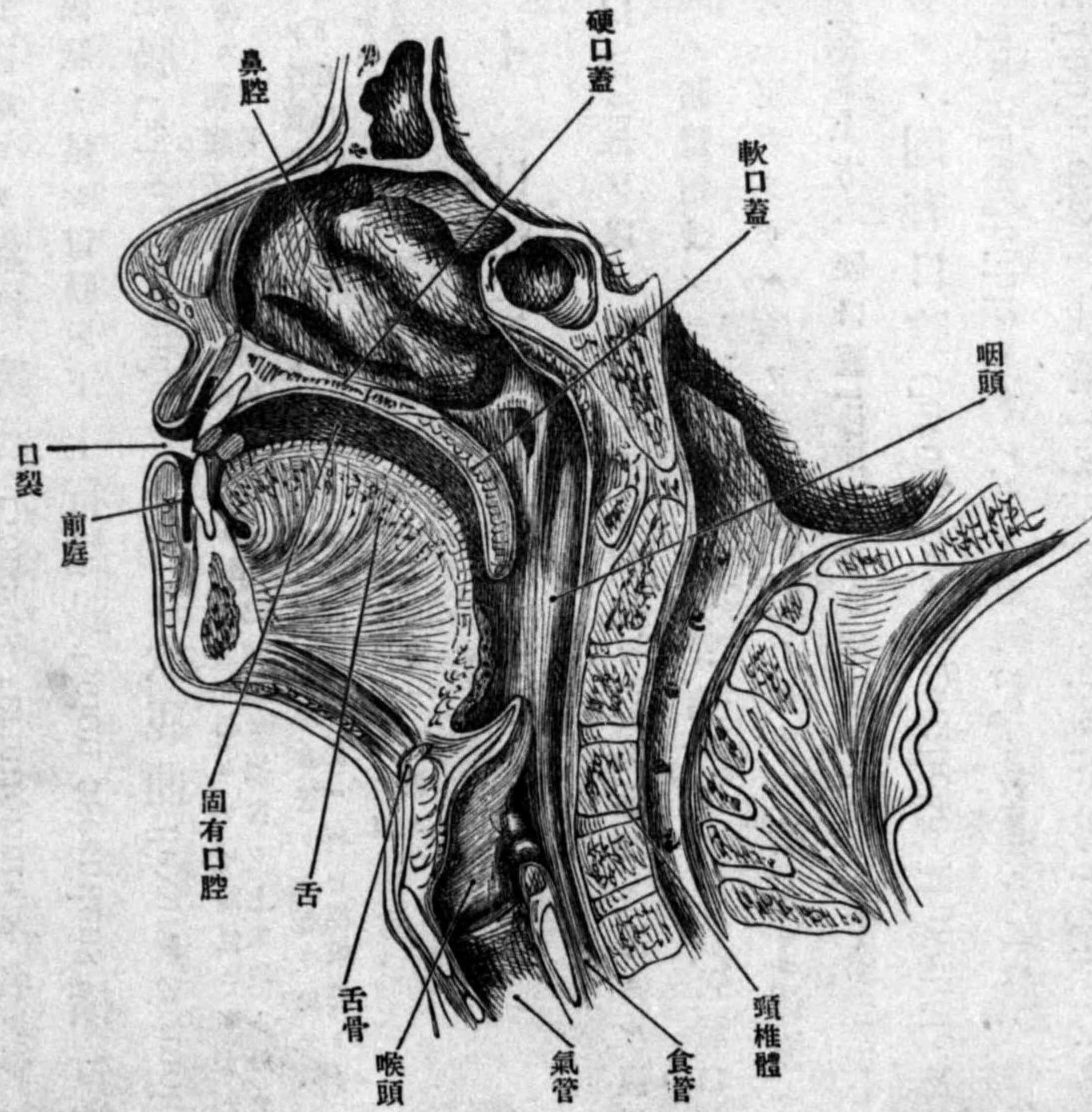
Fingerdarm ハ後腹壁ニ附著シ、肝 *Leber* 及膵 *Pankreas* ハ細管ヲ以テ之ニ連ル、次ハ小腸ノ長キ部分ニシテ上半ヲ空腸 *Jejunum* ト云ヒ、下半ヲ廻腸 *Ileum* ト云フ、此二部ハ遊離的ニ存シ唯一側ノミ腸間膜ヲ以テ後腹壁ニ連ル、大腸ノ始部ハ盲腸 *Blinddarm*

ニシテ其盲端ヨリ蟲様突起 *Processus vermiformis* ト名クル細キ盲管ヲ生ズ、大腸ハ全形蹄係狀ヲ呈シ盲腸以下上行結腸 *Colon ascendens* 横行結腸 *Colon transversum* 下行結腸 *Colon descendens* しぐま狀屈曲 *Flexura sigmoidea* 直腸 *Mastdarm* ノ六部ト爲ス、粘膜 *Schleimhaut* ハ常ニ分泌物ヲ以テ潤ハサレ、上部ニヨリテ異ナリ、上皮 *Epithel* 位ニヨリテ性質及厚薄一様ナラズ、口腔及咽頭及食管ノ上部ニ於テハ横紋筋ニシテ、食管ノ下部以下直腸下端迄ノ間總テ平滑筋ヨリ成リ、肛門ニ於テ再ビ横紋筋トナル、外圍ハ結締組織膜或ハ漿液膜 *Serosahaut* ナリテ覆ハレ、漿液膜ハ腹部以下ニシテ腹膜 *Peritoneum* ノ一部分ヨリ成リ、胃腸ノ大部分ヲ被覆ス。

イ 口腔 *Cavum oris, Mundhöhle*

口腔ハ口 *Mund* ヲ以テ體外ニ開キ咽峽ヲ以テ咽頭ニ通ズル複雑ナル場所ナリ、之ヲ閉ヅルトキハ諸壁相接シテ殆ト腔ヲ殘サズ、然レドモ下顎、舌、唇、口蓋等ノ運動ニヨリテ大小形狀ノ一定ナラザル腔ヲ生ズ、腔壁ハ前方ハ唇 *Lippen* 側方ハ頬 *Backen* 及下顎枝 *Aste des Unterkiefers* 上方ハ硬口蓋 *harte Gaumen* 及軟口蓋 *weiche Gaumen* 下方ハ舌 *Zunge* ヲ以テ成ル、口腔ヲ分チテ固有口腔 *Cavum oris, eigentliche Mundhöhle* 及前庭 *Vestibulum oris, Vorraum der Mundhöhle* トナシ、上下齒列 *Zahnreihen* ハ二腔ノ境界ヲナス、
イ 唇 *Labia oris* ハ上唇 *Labium superius* 下唇 *Labium inferius* ノ二アリ、其間ヲ口

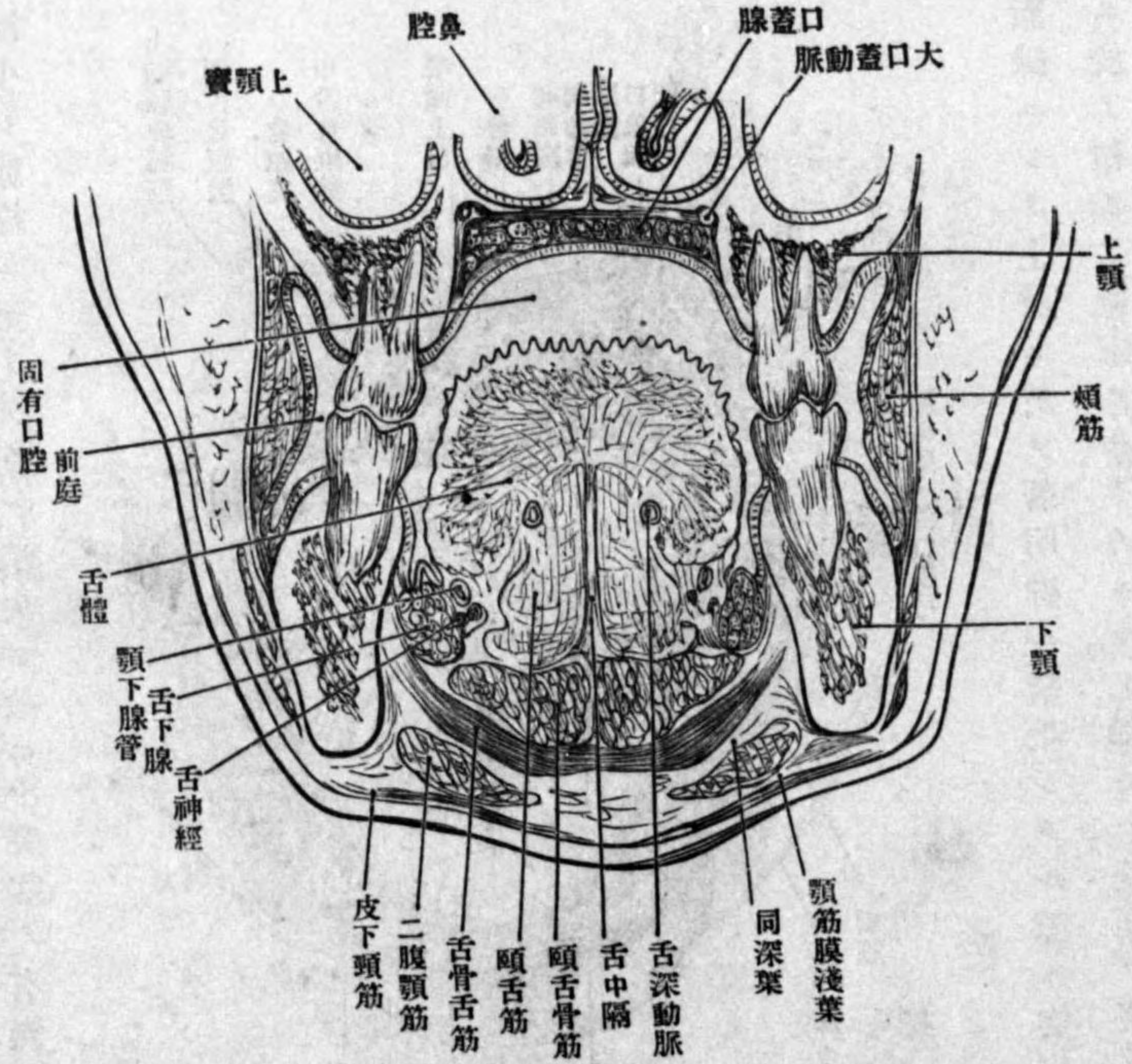
第四百四十四圖 頭及頸之矢狀斷狀



裂 Rima oris ト アヒ
口裂ノ兩端ヲ口角
Angulus oris ト云フ
上唇ハ鼻翼底ヨリ
弓形ヲ爲シテ口角
ノ外方ニ走ル鼻唇
溝 Sulcus nasolabialis ニ
ヨリ境セラレ下唇
ノ下境ハ頤唇溝 Sul-
cus mentolabialis ナリ
唇ハ外皮粘膜炎及筋
質ヨリ成リ其口裂
ヲ境スル遊離縁ヲ
赤縁 Lippenrot ト
云フ外皮ト粘膜炎ノ

第四百四十五圖

固有口腔及前庭 (面頰前ノ部齒白)



移行部 Pars intermedia ナリ、
赤縁ノ中部ハ廣幅ニシ
テ兩端ニ至ルニ隨ヒ次
第二狹小シ、外皮トノ分
界ハ確然タリ、而モ粘膜炎
ニハ漸々移行シテ敢テ
境界ヲ現サズ、ハ初生兒ニ
見赤縁ノ色ハ長幼ノ別、
血液盈虚ノ度及其性質
ニ關シテ青赤色、赤色、暗
赤色等ノ差ヲ呈シ、赤縁
ノ面ハ滑澤ニシテ粘膜炎
ニ有スル如キ小突起ヲ
有セズ、但シ唇粘膜炎ノ小
突起ハ境界部ニ進ムニ

隨テ漸々減少シ赤線ニ至リテ全ク消失ス、故ニ小突起ノ有無ニヨリテ滑澤帶 Zona glabra

絨毛帶 Zona villosa

ノ名アリ

上唇外皮ノ中央

ニ淺キ縱溝アリ

人中 Philtrum

ト云フ、其下端ニ

於ケル赤線ノ突

隆部ヲ上唇結

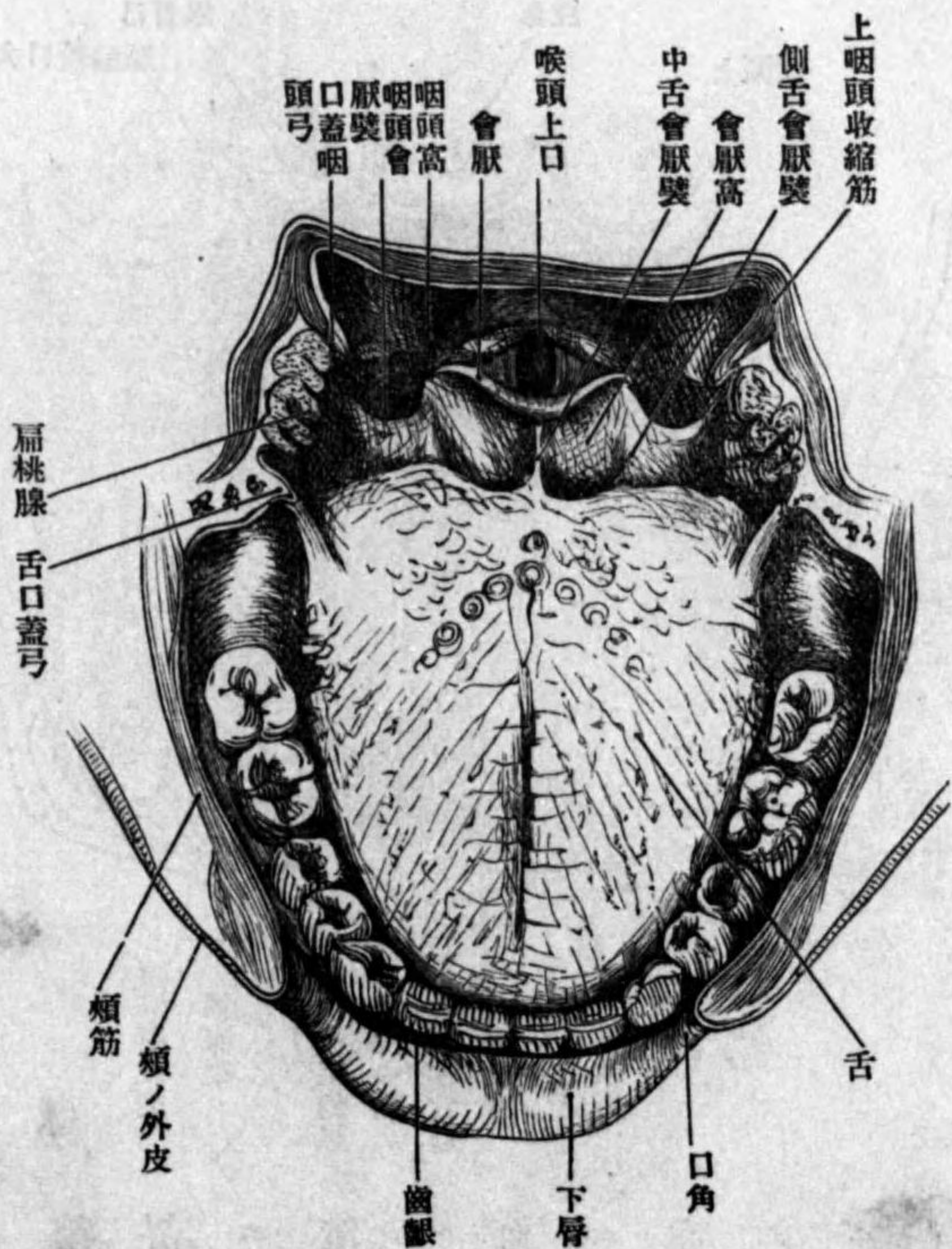
節 Tuberculum

Labi superioris

ト名ク、口角ノ近

傍ニ黃色斑アリ

圖六十四 第四百六十號
口腔底 (ノモルタシ斷平水ヲ面顔テウ沿ニ裂口)



此斑ハ皮脂腺ニシテ上唇ニ於テ著明殊ニ緊張シタル際ニ突出ス、而モ小兒ニハ現存セズ婚嫁期ニ於テ初メテ發生スルモノニシテ稀ニハ全面ヲ蔽フニ至ル、唇粘膜ハ上、下顎

骨ノ齒槽突起ノ下縁ニ達シ、中央ニ於テ齒齦トノ間、縱皺襞ヲ現ハス之ヲ上唇及下唇

唇繫帶 Frenulum labii superioris

und inferioris ト云フ、粘膜面ハ滑

澤鏡狀ヲ呈スト雖モ無數ノ唇腺

Glandulae labiales アリ其開口部ハ指

ヲ以テ觸知シ得ヘキ基底ノ圓形

ナル點狀突起ヲ爲ス

汗腺ノ構造シ外面即チ外皮ハ毛、毛囊腺、

部ハ赤線即チ唇腺ノ一ニ此二面ノ中間

チ缺クナリ、皮下組織ハ著ク發達シ毛及腺

チ管力神經維ヲ通シ成リ汗腺、脂肪組織及

シモ此中ニア腺下組織モ及之ニ膜同

ニ乳頭ニ至ルニ於テハ次頭ニ入リ之

ハ深部ヨリ漸次移行シニ或

ニ入リ分枝ヲ出シ造リ深部ニ入

ルハ毛細管網ヲ作シ、漸次移行シニ

ミニ反シテ粘下膜ニ於テハ密網ヲ形

ルハ毛細管網ヲ作シ、漸次移行シニ

ニ入リ分枝ヲ出シ造リ深部ニ入

ルハ毛細管網ヲ作シ、漸次移行シニ

ニ入リ分枝ヲ出シ造リ深部ニ入

ルハ毛細管網ヲ作シ、漸次移行シニ

ニ入リ分枝ヲ出シ造リ深部ニ入

ルハ毛細管網ヲ作シ、漸次移行シニ

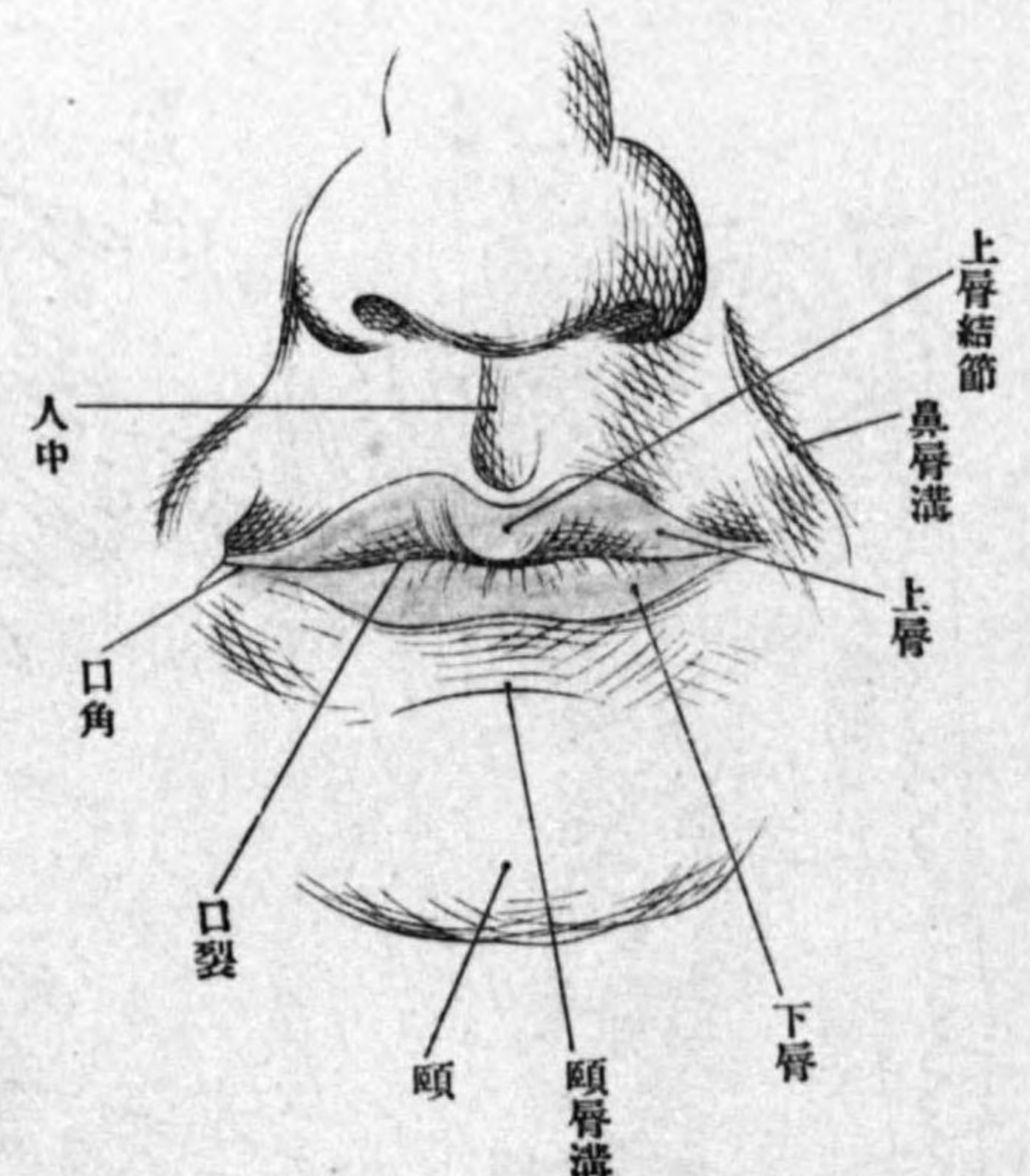
ニ入リ分枝ヲ出シ造リ深部ニ入

ルハ毛細管網ヲ作シ、漸次移行シニ

ニ入リ分枝ヲ出シ造リ深部ニ入

ルハ毛細管網ヲ作シ、漸次移行シニ

圖七十四 第四百七十號
唇下及唇上

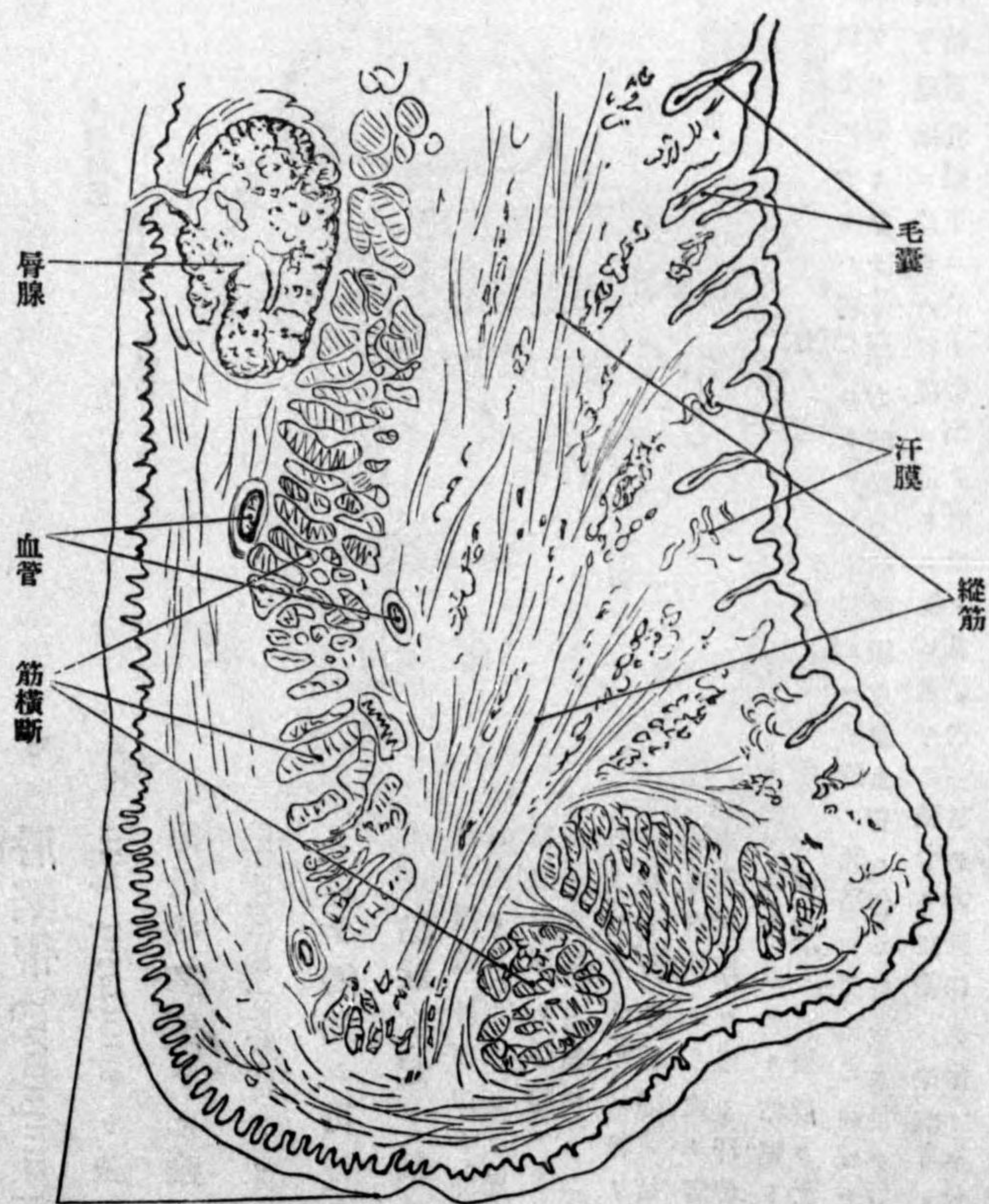


下組織ノ結締組織ノ方向ハ種々ニシテ外皮若クハ粘乳頭ニ於テハ密網ヲ形ニ入リ分枝ヲ出シ造リ深部ニ入ルハ毛細管網ヲ作シ、漸次移行シニ

唇

圖 八 十 百 四 第

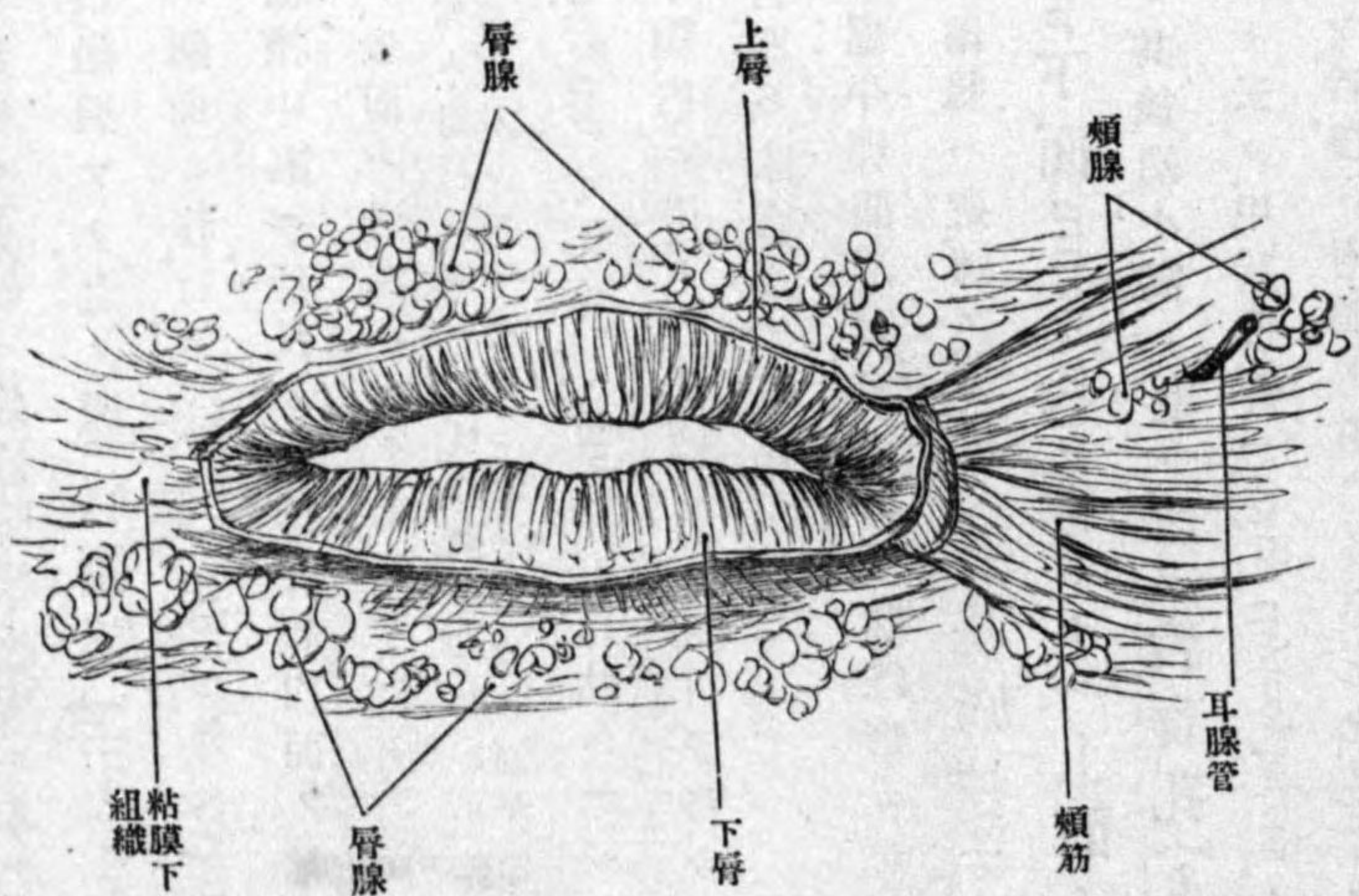
斷 狀 矢 唇 上 ノ 兒 年 二 齡



上部角化部ノ境界
粘膜(高キ乳頭ヲ有スル部)

圖 九 十 百 四 第

腺 液 粘 頰 及 唇
(ス 去 除 ヲ 筋 及 皮 外)



器ニ終リ或ハ無髓トナリテ上皮膚層及
進ミ仍分岐シテ遊離ニ終ル皮層下及
粘膜下組織ノ間アリハ専ラ口輪匠筋ニ
リ成ル横紋筋層アリ仍縦走及矢狀經
混維チ
ろ 頰 Buccae, Backen ハ唇ノ繼
續部ニシテ口腔外壁ノ一部ヲナシ
外皮筋粘膜ヨリ成ル粘膜ハ滑澤
ニシテ強キ粘膜下結締織ニヨリテ
頰筋ト緊著シ上第二白齒冠ニ對シ
耳腺管ノ開口部ナル小隆起ヲ見ル
之ヲ上唾乳頭或ハ頰乳頭 Papi-
lla salivaris superiores, buccalis ト云
フ又粘膜ノ中ニ所謂頰腺 Glandu-
lae buccales アリ小且稀ナリ後部
ニ於ケル其集簇ヲ白齒腺 Gl.
molares ト名ク多クハ粘膜ト筋質ノ

間ニ存在スト雖モ小部ハ頰筋纖維ノ中ニ入ル、又粘膜中ニハ脂腺ヲ有シ、後方ニハ軟口蓋ニ向フ縦皺襞アリ之ヲ翼狀顎襞 *Plica pterygo-mandibularis* ト云フ、頰及唇ノ粘膜ハ境界ナク齶肉ニ移行ス、齶肉 *Gingiva*. *Zahnfleisch* ハ顎骨ノ齒槽突起ヲ被ヒ齒頸ノ周圍ヨリ齒槽中隔ニ延長シ齒槽突起内面ノ粘膜ニ連ル、其質ハ緻密ニシテ硬ク密ニ骨膜ト癒著シ、表面ハ滑澤ニシテ光輝アリ腺ヲ有セズ、唇頰、口腔底等凡テ口腔底ハ重層磚狀ニ接シタル部ハ圓柱狀次ハ多稜形表面ニ近クニ從ヒ漸次扁平多角形トナルト雖必ズ核ヲ有シ唇緣ニ於テ外皮ノ扁平無核細胞ニ移行ス

は 舌 *Lingua*, *Glosse*, *Zunge* ハ口腔ニアル肉質ノ器官ニシテ粘膜ヲ以テ覆ハレ静止時ニハ下顎内ニ匿レ、作用時ニハ起リテ種々ノ形狀ニ變化シ飲食及發聲ヲ補成ス、即消化器、發言器及味官器ヲ兼有ス

舌ノ形狀ハ扁平卵圓形若クハ扁平圓錐形ニシテ、後端ハ舌骨ニ連リ、下面ハ口腔底ニ附著シ前端及兩緣ハ遊離ス、區別シテ基底 *Basis* 體 *Corpus* 尖端 *Apex* 緣 *Ränder* 上面 *obere Fläche* 下面 *untere Fläche* トナス、上面ノ中央ニ舌正中溝 *Sulcus medianus* *linguae* フリ、其後端小窩ニ終ル之ヲ舌盲孔 (もるがにい) *Foramen caecum linguae* (*Morgagnii*) ト云フ、甲狀舌管 *Ductus thyroglossus* ノ退化シタル痕跡ナリ、舌根及舌體ハ其發生ヲ異ニシ舌根ハ兩側ノ第二及第三鰓弓ノ中部ヨリ起リ、舌體及舌尖ハ口腔底ノ隆

起ヨリ發生ス、此兩部ノ癒著部ニ所謂舌終溝 *Sulcus terminalis linguae* ヲ生ジ二部ノ

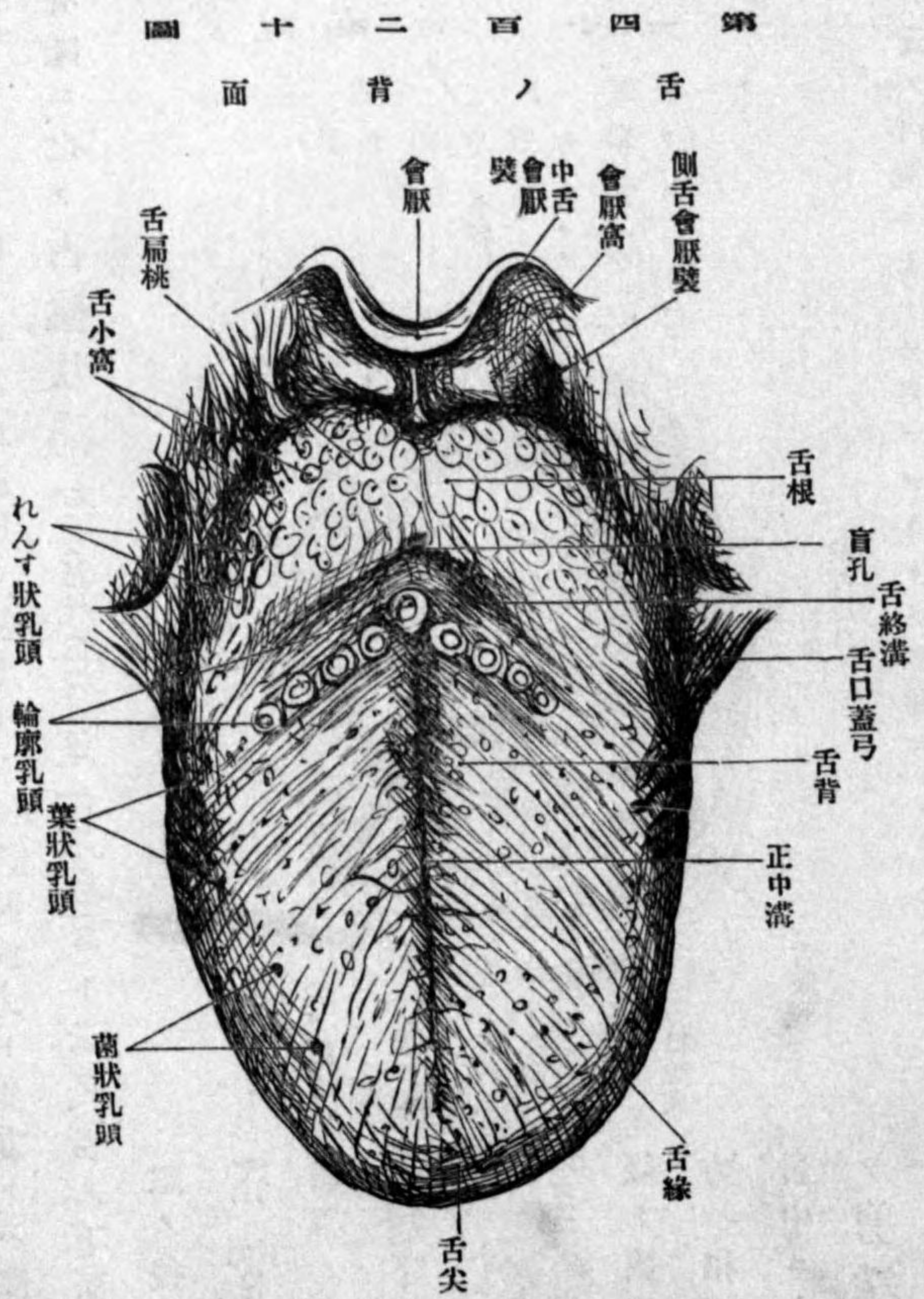
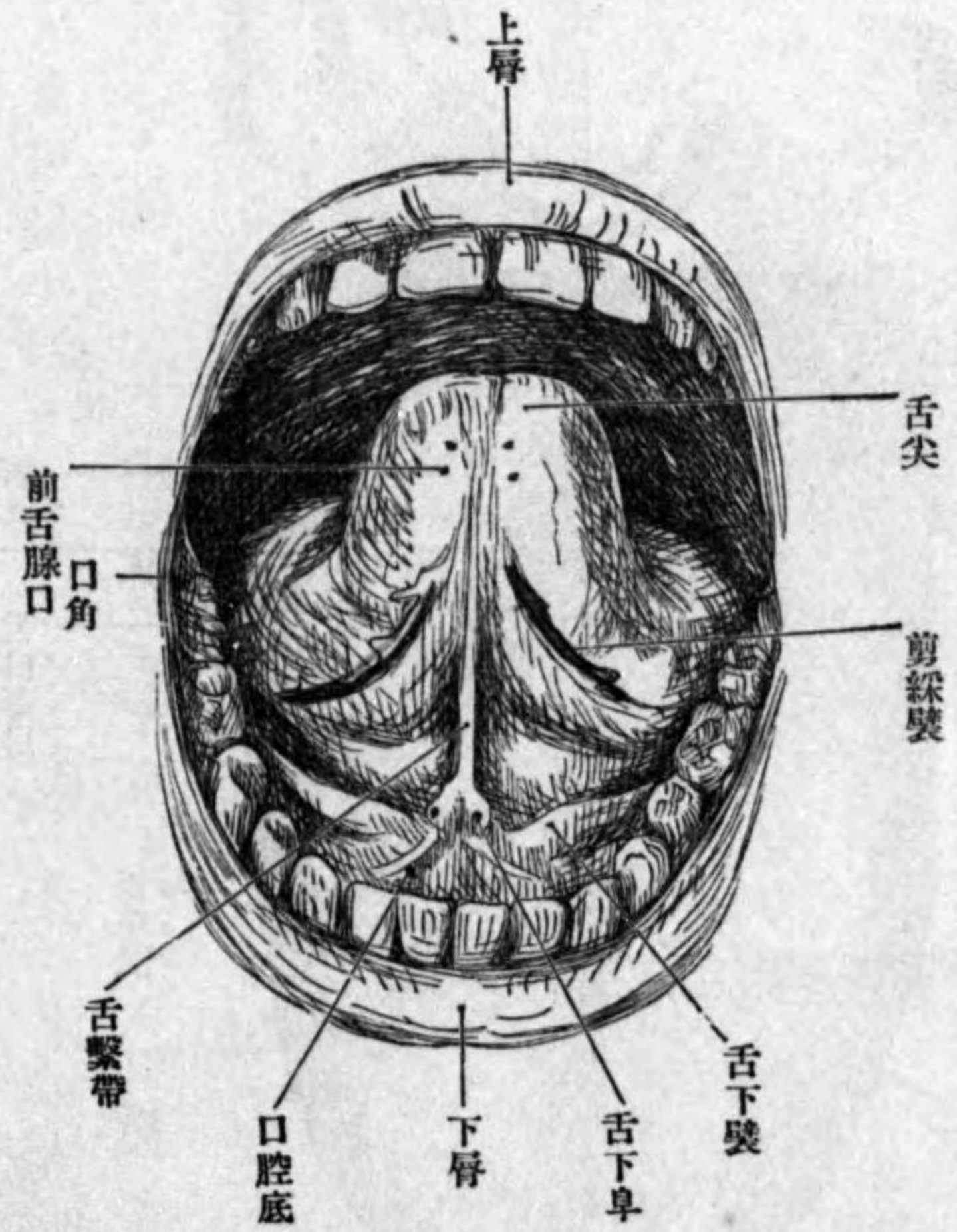


圖 十 四 第 舌 背 面
 雙 *Plica glossoepiglottica media* 兩側ノモノヲ側舌會厭皺襞 *Plica glosso-epi-*

gloptica laterales トシ此皺襞間ニ生ズル二個ノ凹窩ヲ會厭窩 vallecule epiglottica ト稱ス、舌ノ下面ハ全部口腔底ニ附着セズシテ其前方ト側方トハ深溝ニヨリテ口底ヨリ分離ス、之ヲ舌輪狀溝 Sulcus circum lingualis ト云フ、舌ノ下面中央ニ縱皺襞アリ齒齦ノ後側ニ連ル之ヲ舌繫帶 Frenulum linguae ト云フ、

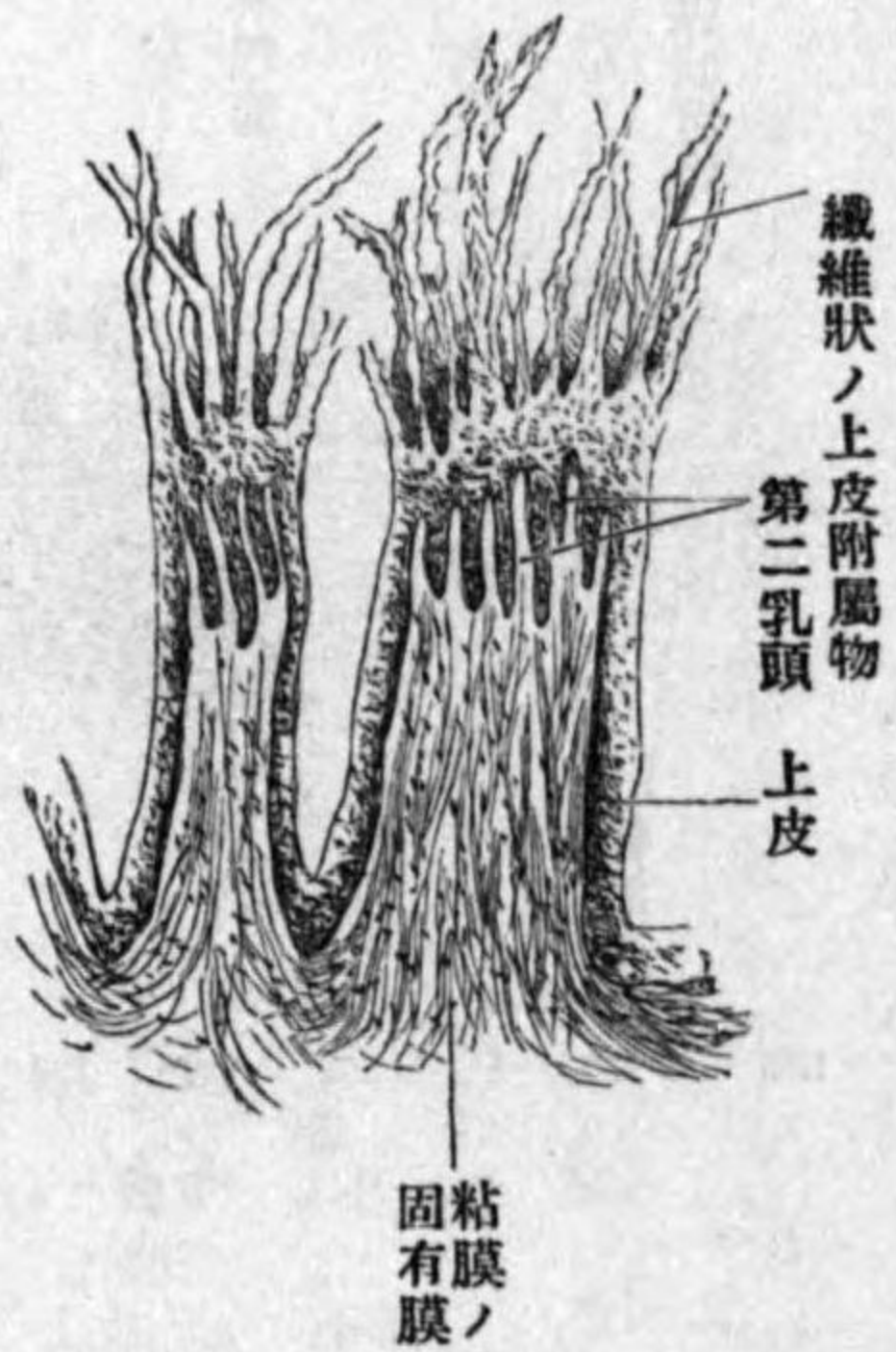
圖一十二百四第
面下ノ舌
(ク舉テ舌キ開テ口)



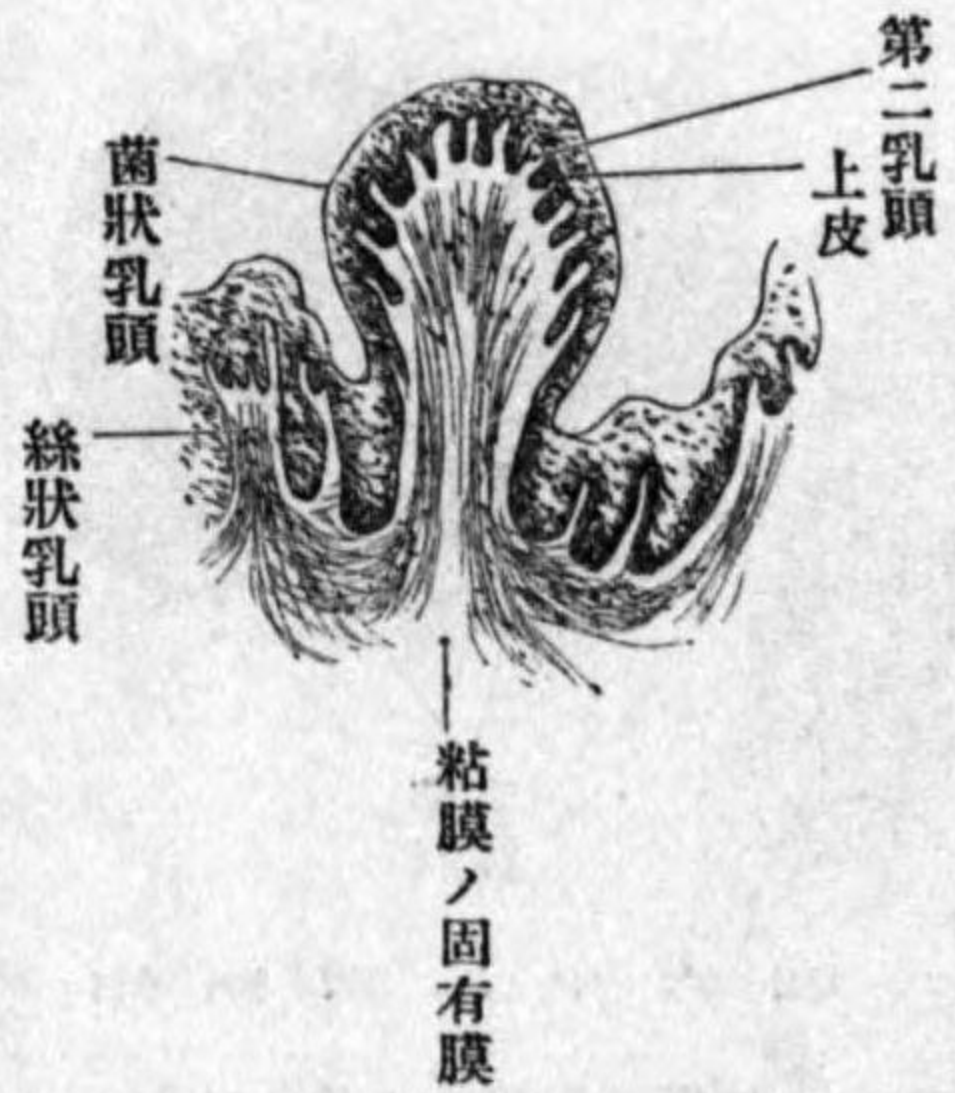
ト云フ小兒ニ於テ著明ニシテ多クノ動物ニ又繫帶ト剪綵皺襞ノ間ニ三角形ノ小腫起部アリ質中舌下腺ヲ含ミ前端舌下阜ニ連ル

繫帶ノ兩側ニ於テ小隆起アリ顎下腺管茲ニ開口ス、之ヲ舌下阜 Caruncula sublingualis ト云フ、繫帶ノ兩側舌緣ト並行ニ薄キ皺襞アリ前方ハ相接近シテ繫帶ニ連リ質中ニ大ナル靜脈幹走ル之ヲ剪綵皺襞 Plica fibriata

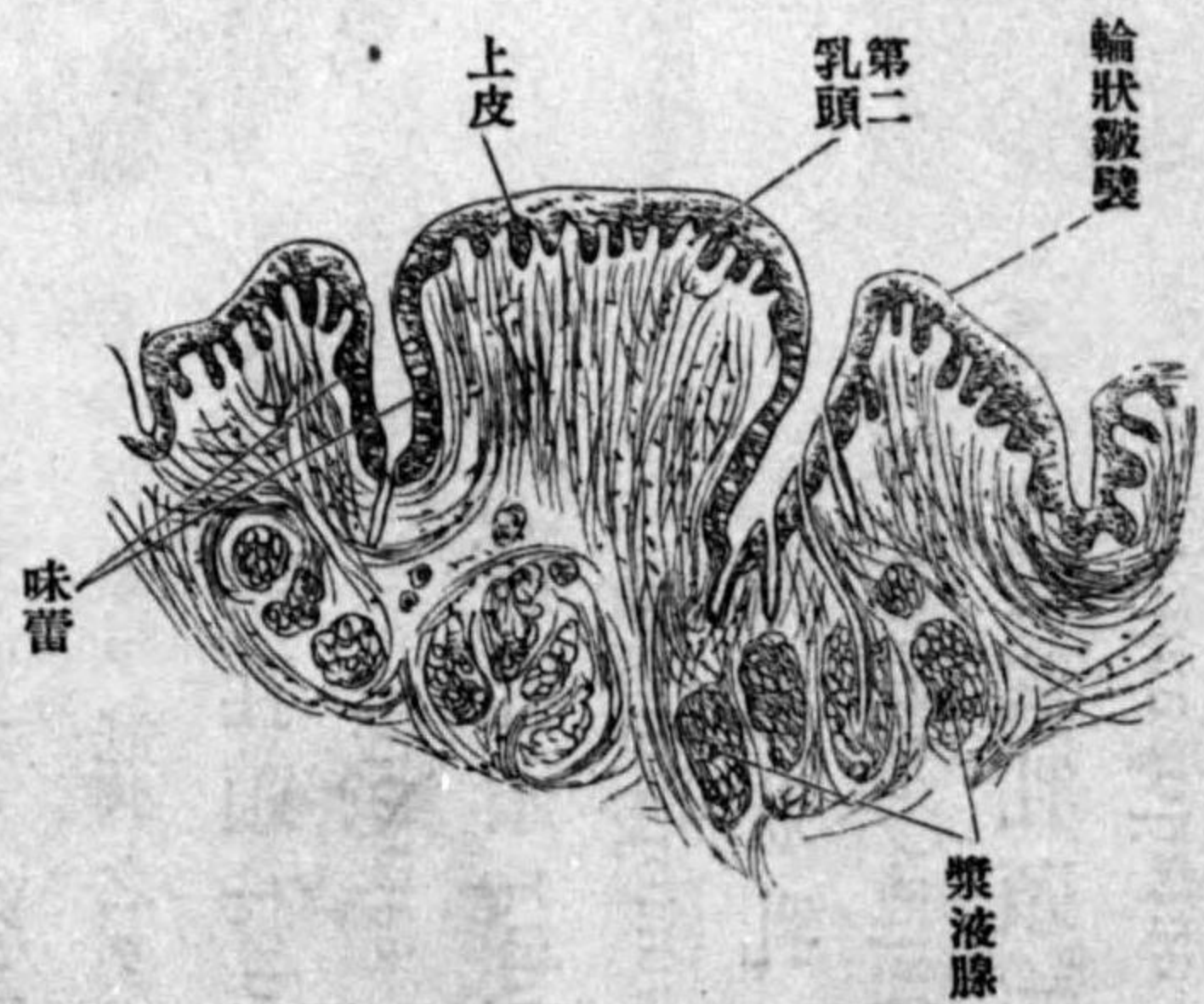
圖二十二百四第
頭乳狀絲



圖三十二百四第
頭乳狀菌



圖四十二百四第
頭乳廓輪



圖五十二百四第

頭乳狀絲ルタ見リヨ上



乳菌頭狀

圖六十二百四第

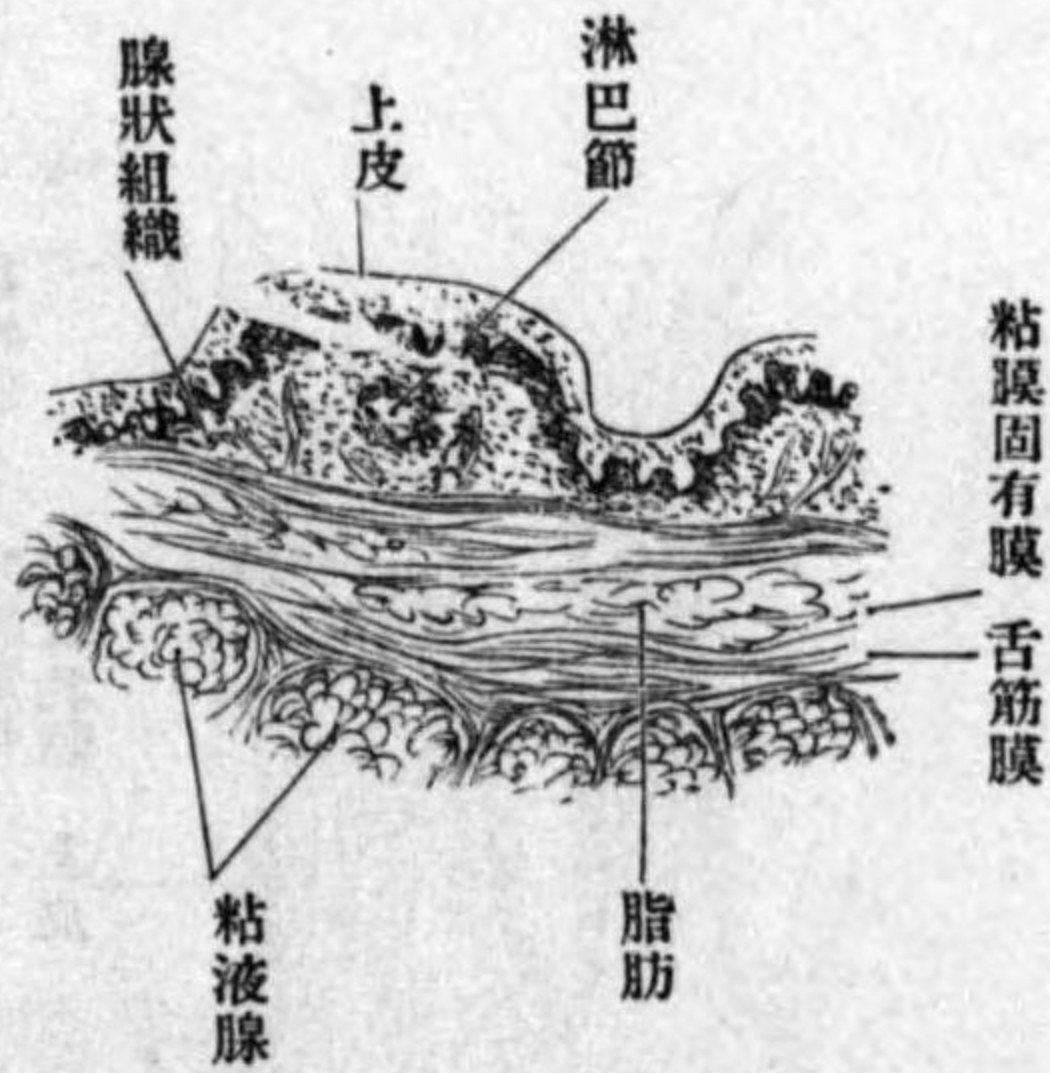
頭乳狀廓輪ルタ見リヨ上



頭狀輪廓乳

圖七十二百四第

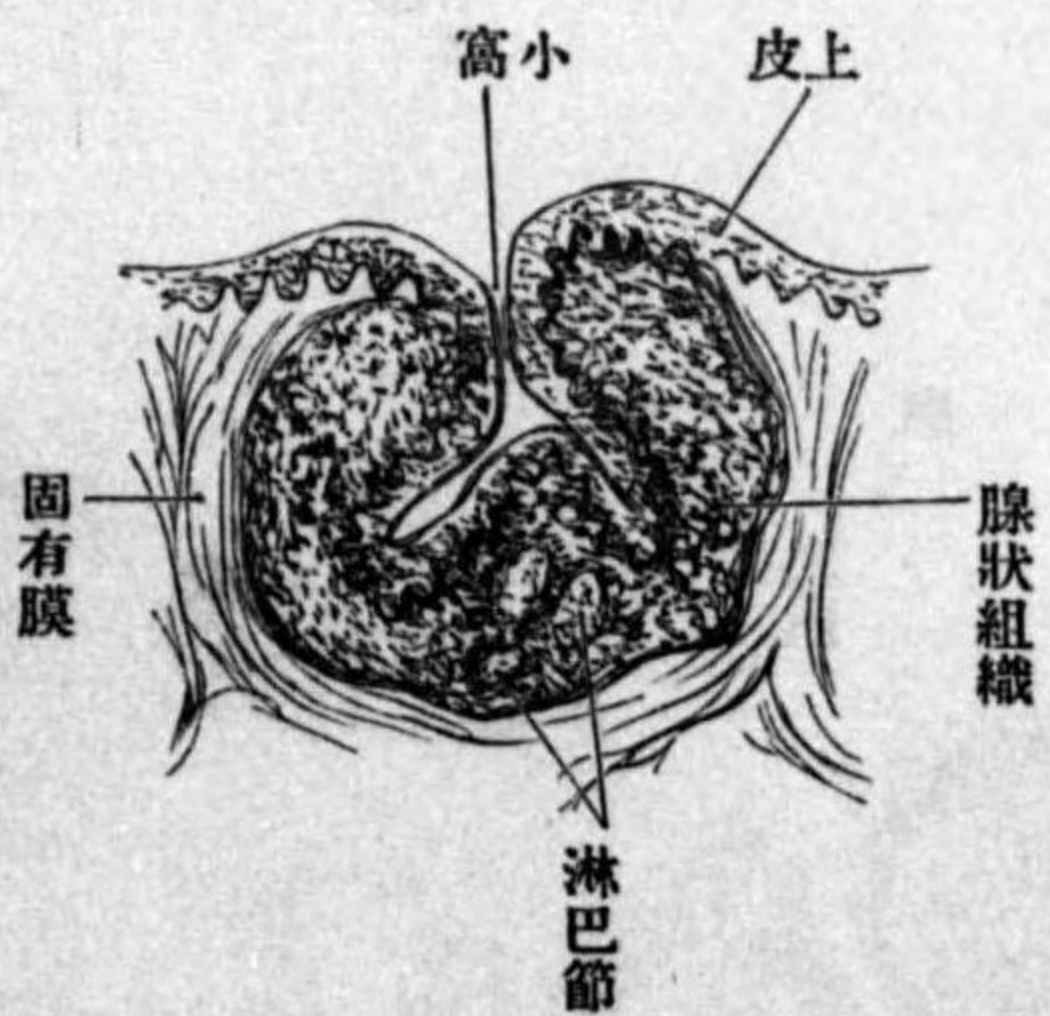
頭乳狀すんれ



粘膜固有膜 舌筋膜

圖八十二百四第

高小舌



腺狀組織

固有膜

舌背ノ粘膜ニハ
無數ノ突起即チ
乳頭アリ第二乳
頭ヲ冠ス之ヲ絲
狀乳頭 Papillae
filiformes 菌
狀乳頭 Papillae
fungiformes
輪廓狀乳頭
Papillae vallatae
葉狀乳頭 Papillae
foliatae 丸
んす狀乳頭
Papillae lenticu-
laresノ五種トナ

圖九十二百四第

面下ノ尖舌



粘膜切斷線

前舌腺

尖舌

頤舌筋

下縦舌筋

ス絲狀乳頭ハ白色ニシテ柱狀ニ壘積シタル上皮ヲ戴キ普ク舌背ノ大部分ニ布蔓シ
正中溝ヨリ前方ニ向ツテ放線狀ニ列シ菌狀乳頭ハ赤色球形ニシテ下方ハ狭少シ絲
狀乳頭ノ間ニ散在シ殊ニ舌尖ニ多シ、輪廓狀乳頭ハ八個乃至十五個ニシテ正中溝
ノ後端ニ於テV字形ニ列シ、形チ菌狀乳頭ニ近似スト雖モ其周圍ニ溝及堤ヲ廻ラスヲ以

テ異ナリトス 味神經即舌咽神經ニ Glosso-pharyngeusノ末端
捲スル溝壁中ニアリ、之ヲ末端裝置ノ乳頭及之ヲ環
ハ被蓋細胞及味細胞ノ二種ヨリ構成セラレタル聚形ノ
小體ナリ

葉狀乳頭ハ舌縁ノ後部ニアリ 家兎ニ於テ發育ス
れんす狀乳頭ハ舌根ノ側部ニ位シ質中腺狀組
織ヲ含ム、舌乳頭ハ變形ヲ呈スルヲ鈔カラズ即
チ絲狀乳頭ノ上皮非常ニ増殖シ乳頭端後方ニ向ヒ
互ニ相重疊シテ舌ノ表面一見白膜ノ如キ觀ヲ呈ス
ルヲアリ之ヲ舌苔ト云フ又上表層延長シテ三乃至四五密米ニ達スルキハ絨毛舌 Lingua
villosa ト云フ之ニ反シテ短ク且上皮薄ク茸狀乳頭ト區別シ難キアリ或ハ個々別々ニ
分離セズ共同ノ表皮ヲ被ル殊ニ老人ニ於テ舌表面殆ド滑澤ナルヲアリ會厭ト輪廓狀

乳頭トノ間ニ圓形ノ小隆起許多アリ隆起ノ中央ニハ小凹陥ヲ現ハス之ヲ舌小窩 Folliculi linguales ト云フ又此部ヲ總稱シテ舌扁桃 Tonsilla lingualis (Waldeyer) ト名ク舌小窩ハ漏斗狀ノ所謂皮腔 Balghöhle ニシテ其周圍ニ多クノ淋巴濾胞即皮濾胞 Lymph-s. Balgfollikel 排列ス濾胞ハ結締織性ノ固有膜(腔被膜 Balghülle) ヲ以テ包マレ之ヨリ上皮ヲ透シテ無色細胞即唾液小體 Speichelkörperchen ヲ粘膜炎ニ遊走セシム舌粘膜炎中ニハ許多ノ分枝管狀腺ヲ有ス舌腺 Gl. linguales ト云フ就中粘液腺ハ盲孔ノ後方輪廓狀乳頭ノ近傍ヨリ葉狀乳頭ノ間ニ散蔓ス是等ヲ後舌腺 Gl. linguales posteriores ト云フ其微細構造及分泌物ニヨリテ二種ニ分ツ即うえへる氏腺 Weber'sche Drüsen 及えふねる氏腺 Ebner'sche Drüsen 之ナリ前者ハ粘液腺ニシテ後者ハ唾腺ナリ其他舌尖ノ下面ニ許多ノ腺アリ剪線皺襞ノ下側ニ開口ス之ヲ前舌腺 Gl. linguales anteriores (Nuhn'sche oder Blandin'sche Drüse) ト名ク

舌ノ實質ハ七筋ヨリ成リ就中四個ハ舌固有ノ筋(内舌筋 Innere Zungenmuskeln) ニシテ三個ハ他ノ部分ヨリ來ル(外舌筋 Aeusere Zungenmuskeln) 實質ノ中央ニ纖維性ノ舌中隔 Septum linguae ヲリ兩側筋ヲ隔ツ

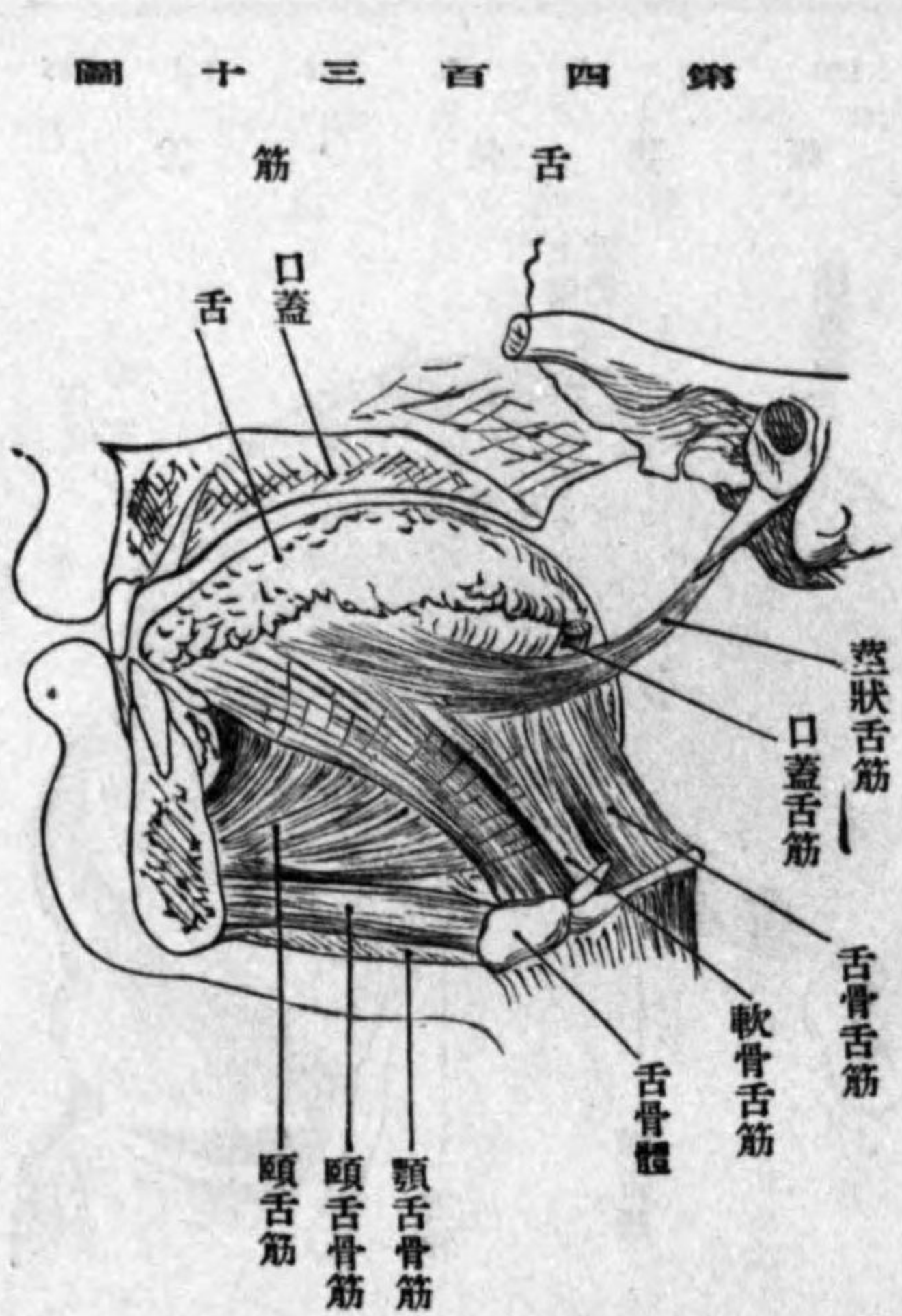
1. 上縦舌筋 M. longitudinalis superior ハ粘膜炎ノ直下ニ於テ縦徑ニ走り舌根ヨリ舌

尖ニ達ス作用ハ舌尖ヲ後方ニ牽キ舌ヲ擴張ス

2. 横舌筋 M. transversus linguae ハ中隔ヨリ起リ纖維ハ數多ノ束ニ分レ他ノ筋纖維ノ間ヲ側方ニ走り舌縁ニ達ス口蓋舌筋及舌咽頭筋ノ纖維モ此筋ノ一部ニ加ハルモノトス口蓋及咽頭作用ハ舌ノ幅員ヲ狭バメ長徑ヲ増サシム

3. 下縦舌筋 M. longitudinalis inferior ハ舌ノ下面ニ於テ縦徑ニ位シ舌尖ニ達ス作用ハ上縦舌筋ト同シ

4. 鉛直舌筋 M. verticalis linguae ハ舌尖ニ於ケル小許ノ筋纖維ニシテ舌質ヲ鉛直ニ貫キ舌背ヨリ下面ニ達ス

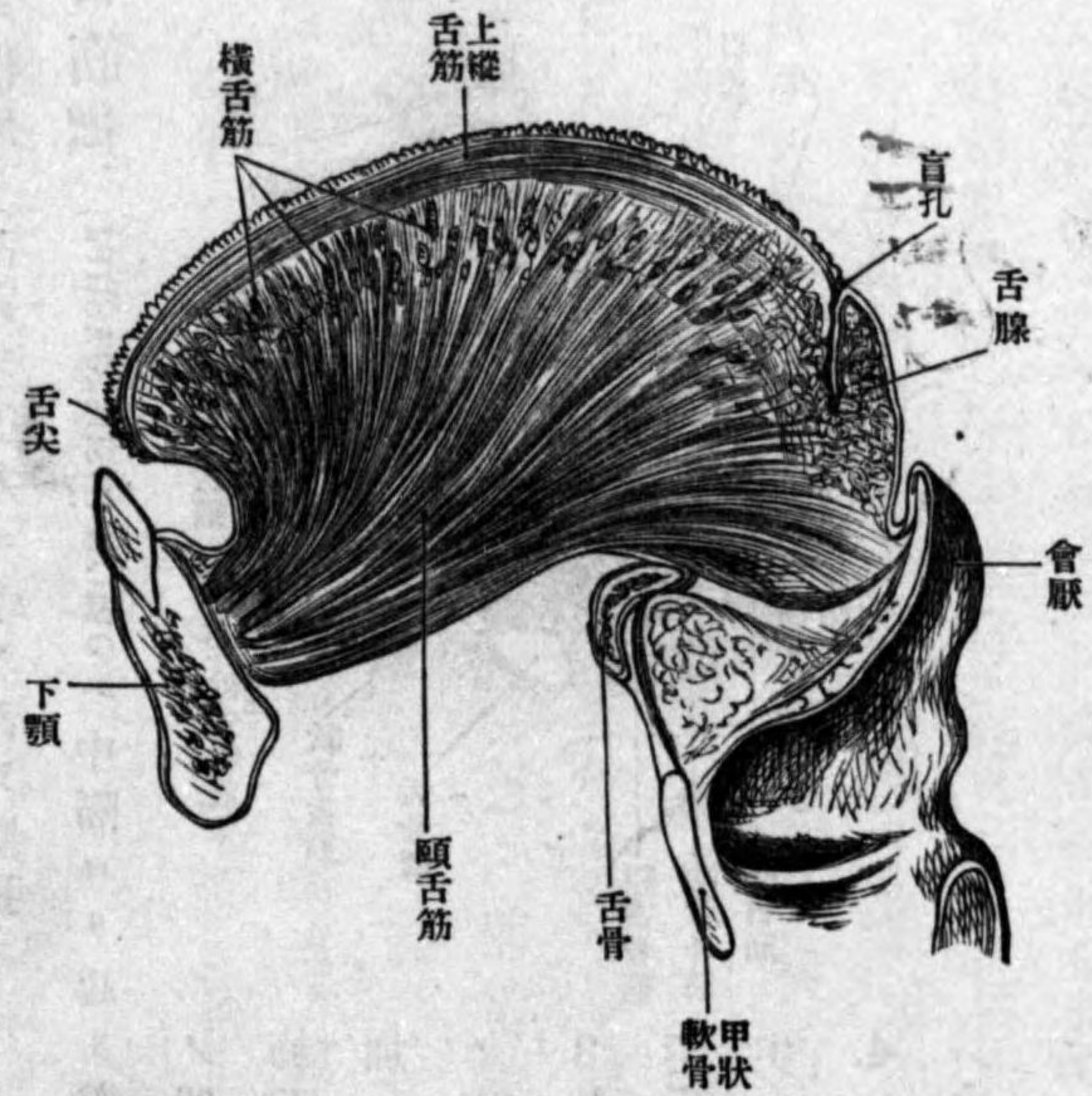


第四百三十三圖 舌筋

5. 頤舌筋 M. genio-glossus ハ強キ筋ニシテ下顎骨ノ頤棘ヨリ起リ中隔ノ兩側ニ沿ウテ扇狀ニ分散シ舌背ノ近クニ終ル其舌骨ニ達スルモノヲ上頤舌骨筋 M. geniohyoideus

superior ト云ヒ會厭軟骨ノ基底ニ達スルモノヲ頤會厭筋 M. genio-epiglotticus ト云フ作用ハ舌ヲ下方ニ牽キ舌尖ヲ口腔ヨリ出サシム

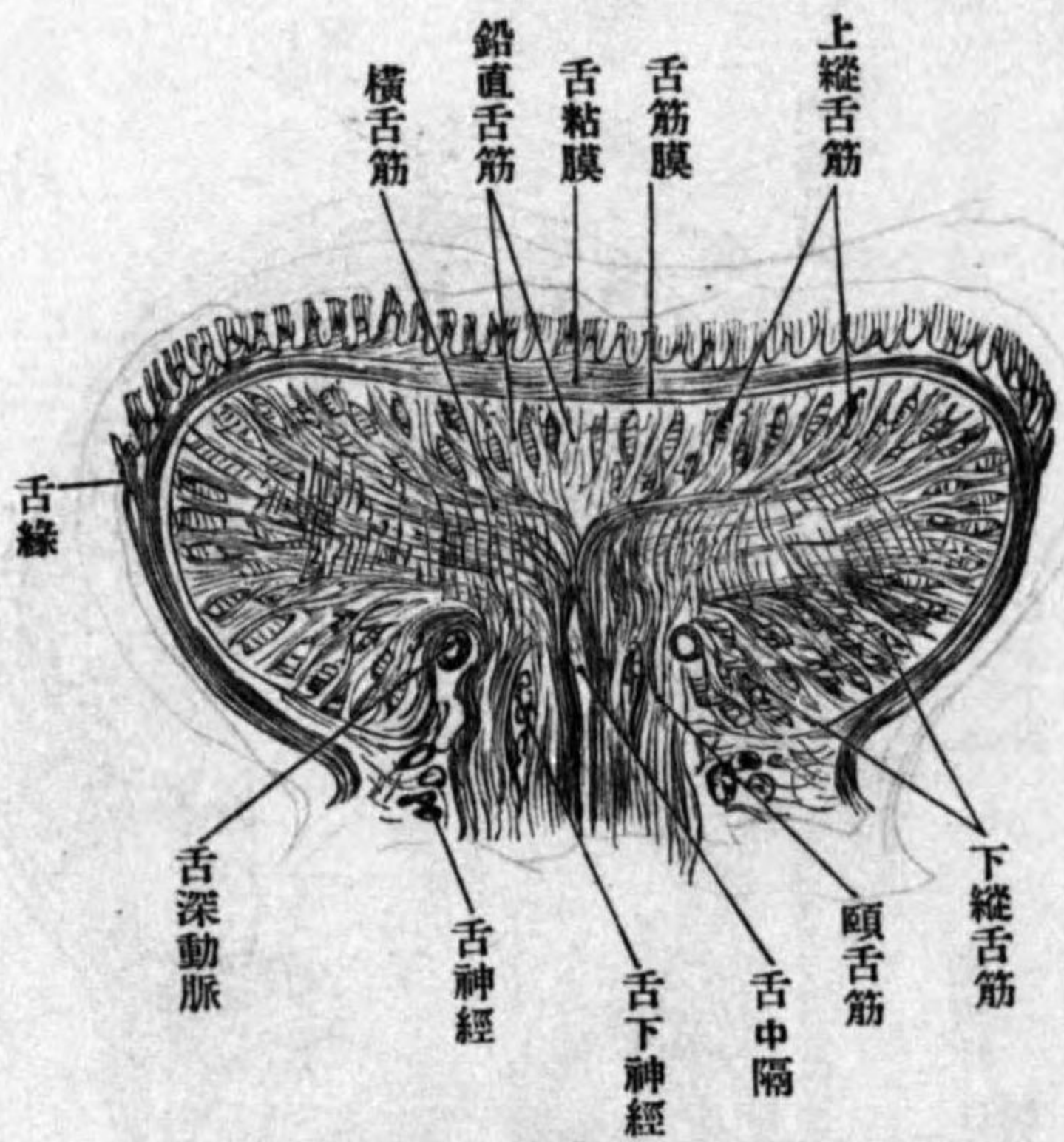
第四百三十一圖 舌ノ矢狀斷



6. 舌骨舌筋 M. hyo-glossus
ハ舌骨ノ兩半部ヨリ起リ舌ノ側縁後部ニ終ル作用ハ舌ヲ下方ニ牽ク此筋ノ一小部ハ舌骨小角ヨリ起ル之ヲ軟骨舌筋 M. chondro-glossus ト云ヒ又喉頭ノ麥粒軟骨ヨリ來ル小部ヲ舌麥粒軟骨筋 M. trichico-glossus ト名ク

7. 莖狀舌筋 M. stylo-glossus
ハ岩様骨ノ莖狀突起及莖狀顎靱帶ヨリ起リ舌縁ニ達シ尙延長シテ舌尖ニ終ル此筋往々缺ルヲアリ作用片側ノ筋ハ舌ヲ

第四百三十二圖 舌體前額斷



側方ニ牽キ兩側同時ニ作用ヲ起ス片ハ舌ヲ後方ニ牽ク

神經舌ニハ三種ノ神經アリ舌下神經 XII. ハ運動ヲ司リ舌咽神經 IX. ハ舌根粘膜ノ $\frac{1}{3}$ ヲ領シ、舌神經ハ前方 $\frac{2}{3}$ ニ分佈ス但シ舌咽神經及舌神經ノ一部(鼓索)ハ味覺ヲ司リ舌神經固有ノ纖維ハ寒熱等ノ知覺ヲ主宰ス

ニ 口蓋 Palatum, Gaumen

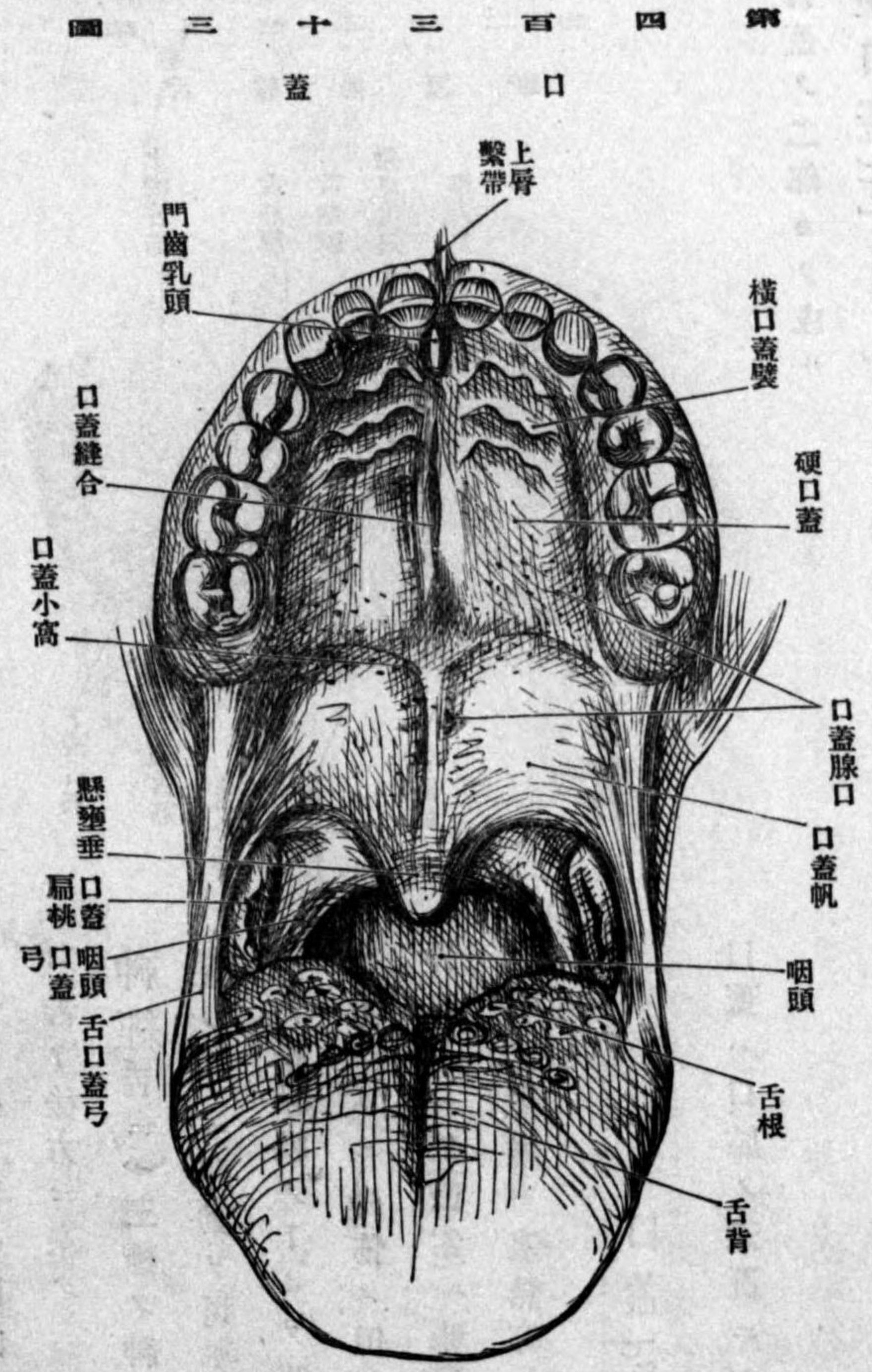
口蓋ハ口腔ノ天蓋ニシテ硬口蓋及軟

口蓋ノ二部ヨリ成ル

硬口蓋 Palatum durum ハ上顎骨及口蓋骨ノ口蓋突起ヨリ成リ骨膜及靱肉ヨリ移行シタル粘膜ヲ被リ後方ハ軟口蓋ニ連リ中央ニ縫線 Raphe palatina ヲ現ハス其形狀ハ種々ニシテ或ハ溝狀或ハ隆線ヲ爲シ或ハ廣ク牀狀ニ隆起(口蓋牀 Torus palatinus)ス此部

ノ粘膜ハ側方及前方ハ厚ク強固ニシテ蒼白色ヲ呈シ骨膜ト緻密ニ連結シ後部ハ赤色
薄弱ナリ門齒ノ後側ニ二個ノ小ナル門齒管 Ductus incisivi (Stenson)ノ下口アリ骨門齒

管ヲ通シテ
鼻腔ニ至ル
ト雖モ屢々退
化ス此二口
ノ間ニ小隆
起アリ門齒
乳頭 Papi-
lla incisiva
ト云フ其側
方ニ二三ノ
横皺襞 Pl-
ica palatin-
ae transver-



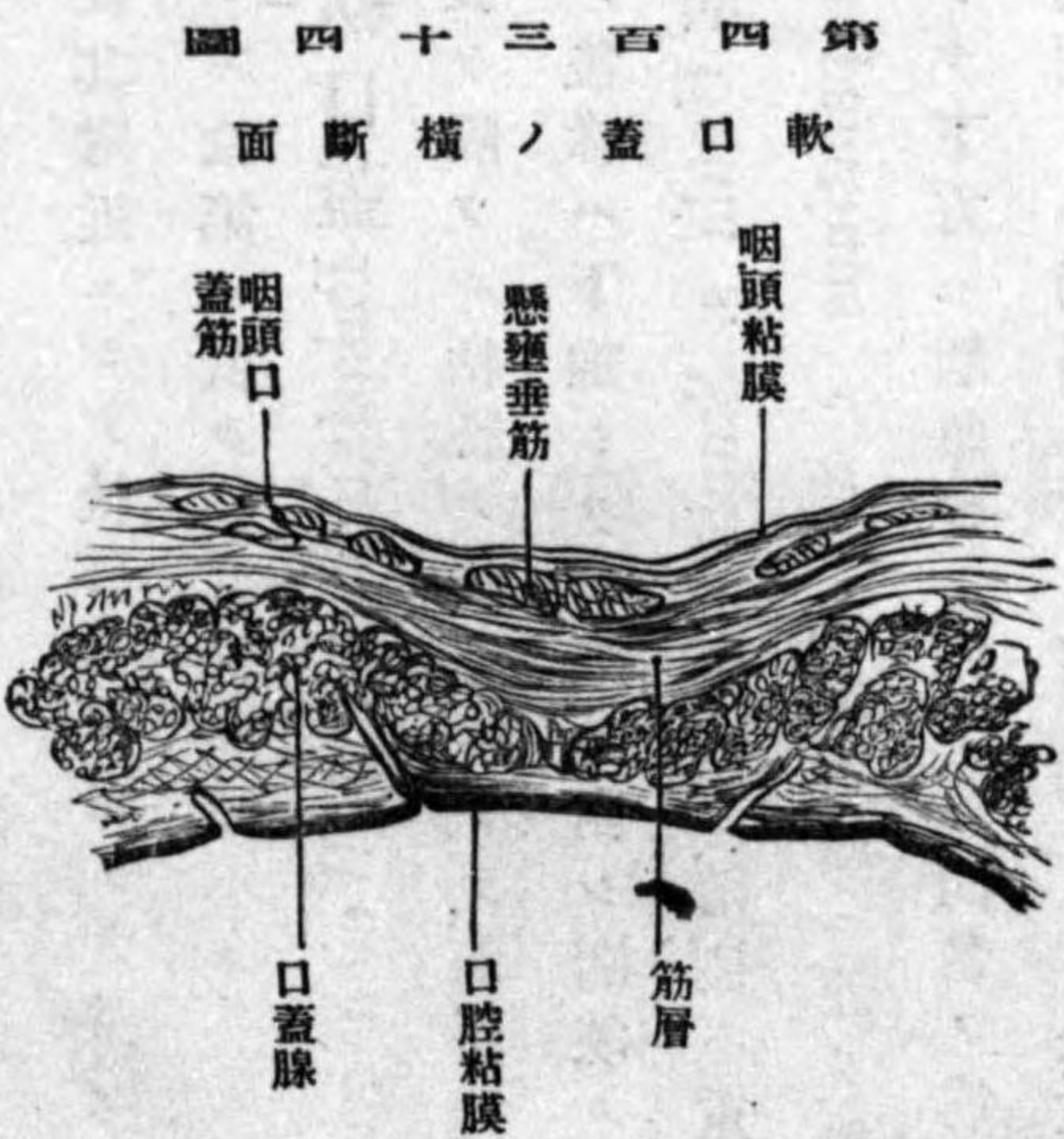
第 四 百 三 十 三 號 口 蓋

sae, Rugae palatinae アリテ波狀ヲ呈ス、小兒ニ於テハ著明ニシテ老年ニ至レバ漸々消
滅ス、縫線ノ後方軟口蓋ノ境界ニ於テ淺窩アリ口蓋窩 fovea palatina ト云フ、粘膜ハ後
方ニ進ムニ從ヒ骨膜ト分離シ其間ニ粘液腺 Glandulae palatinaeヲ藏ス其開口部ハ口蓋窩
及其附近ニシテ軟口蓋ニ至リテ益々多キヲ加フ粘膜乳頭ハ前部ニ於テハ高ク後部ニ至
レハ次第ニ低ク且其數モ減小ス

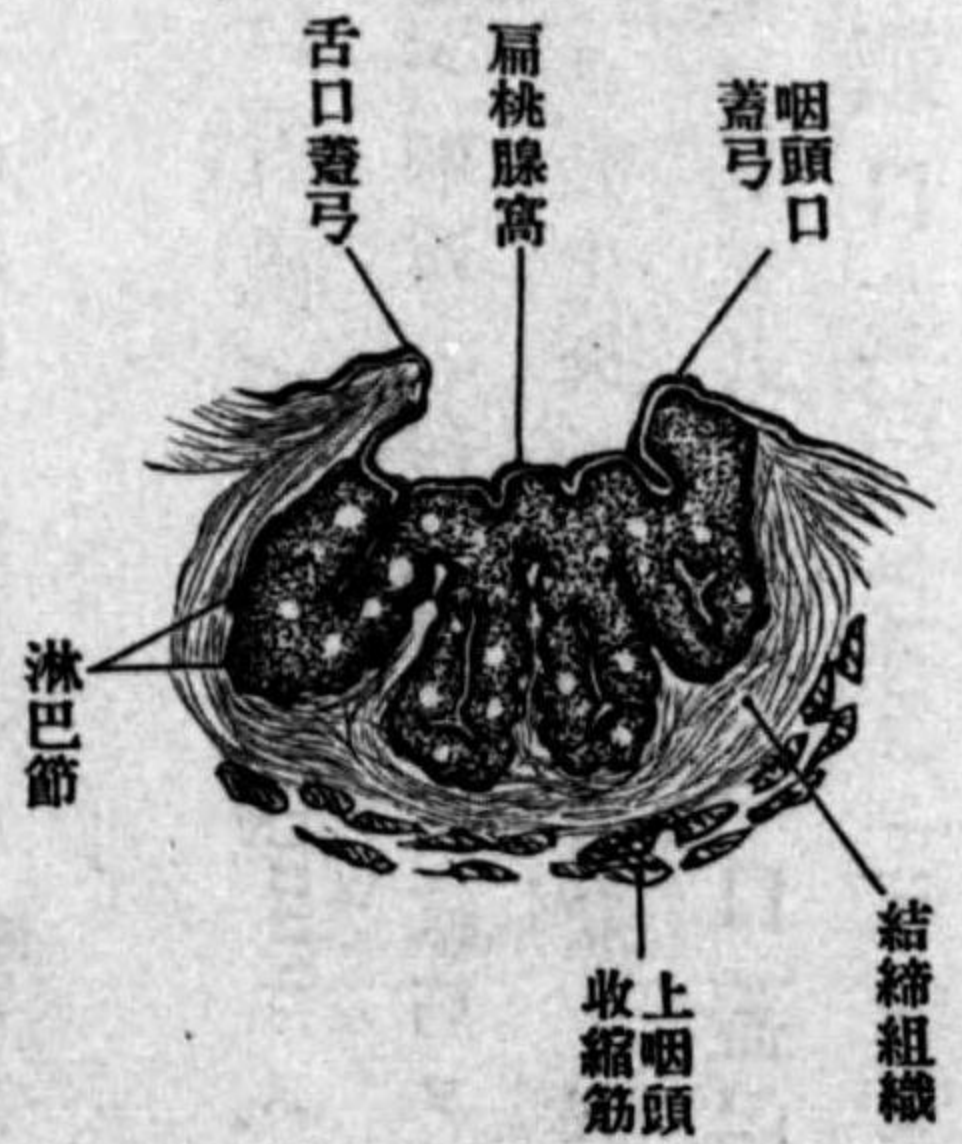
軟口蓋 Palatinum molle, Weich gaumen 又口蓋帆 Velum palatinum ハ口腔及咽頭
腔ヲ隔ツル粘膜ノ皺襞ニシテ、前面ハ口腔、後面ハ咽頭ニ向ヒ、質中横紋筋ヲ藏ス、軟口蓋
ノ後縁ハ下垂シテ會厭ニ對シ咽峽ノ上境トナリ、其中央ニ於ケル舌狀ノ突起ヲ懸壅
垂 Uvula s. Staphyle ト云フ、兩側ハ重複ノ皺襞ヲ爲シ其前側ハ舌口蓋弓 Arcus glo-
ssopalatinus ニシテ下端舌縁ニ連リ、後側ハ咽頭口蓋弓 Arcus pharyngopalatinus ニ
シテ下方ハ咽頭壁ニ終リ、各同名ノ筋ヨリ成ル、兩弓ハ下方ニ至ルニ隨ヒ漸々分離シテ
其間ニ小凹陷ヲ生ジ其下方ニ口蓋扁桃腺 Tonsillen s. Tonsillae palatinaeヲ容ル此
腺ハ半球形ノ隆起ニシテ質ハ數多ノ粘膜ノ皺襞ヨリ成リ大小ニ回陥ヲ生ズ、之ヲ扁
桃竇 Sinus tonsillares, Lacunae, Crypten. ト云フ、竇壁ノ粘膜中ニハ無數ノ濾胞集合シ
粘膜面ニ無色細胞即唾液小體 Speichelkörperchenヲ遊走セシム口蓋弓及舌根ヲ以テ圍擁

口 蓋

サレタル空隙ヲ咽峽 Isthmus faucium ト云フ其前部ハ舌口蓋弓ト舌根ノ間ニシテ半月狀ヲ呈シ (Isthmus faucium anterior s. pharyngooralis) 後方ハ咽頭口蓋弓ト喉頭口ノ間ニアリテ橢圓形ヲ呈ス (Isthm. fauc. post. s. pharyngonasalis) 粘膜ハ前部ニ比スレハ薄ク乳頭ハ懸壺垂ニ



圖四十三百四第
面斷横ノ蓋口軟



多ク前部ニ抄シ初生兒ニハ縫線及齒槽縁ニ沿フテ白色麻實大ノ小節アリ (Epithelien) 之上

皮細胞塊ニシテ後ニ消失ス、粘液腺 (Glandulae palatinae) ハ後面ニ少ク前面ニ多ク且大ナリ又懸壺垂ニモアリ

軟口蓋ノ實質ハ縫線ニヨリテ左右ニ別レ五筋ヲ有ス左ノ如シ

1. 口蓋舉筋 *M. levator veli palatini* (*M. petrosostaphylinus*) ハ三角形ニシテ、聽管 (Tuba

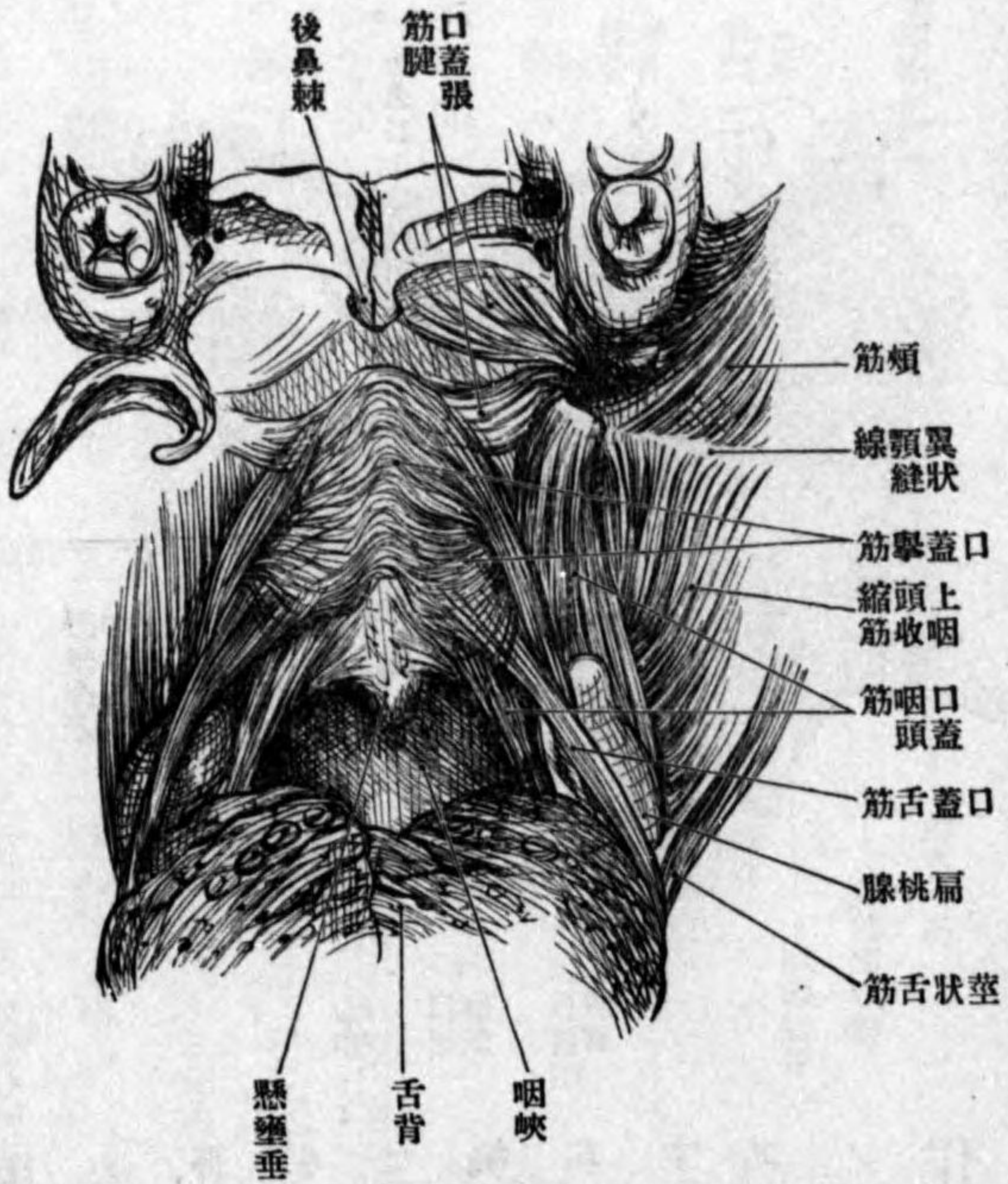
及頤顫骨錐體ノ尖端ヨリ起リ口蓋張筋ノ内側ヨリ口蓋帆ニ分散シ終ル

2. 口蓋張筋 *M. tensor*

veli palatini (*M. sphenosalphingostaphylinus*) ハ扁平紡

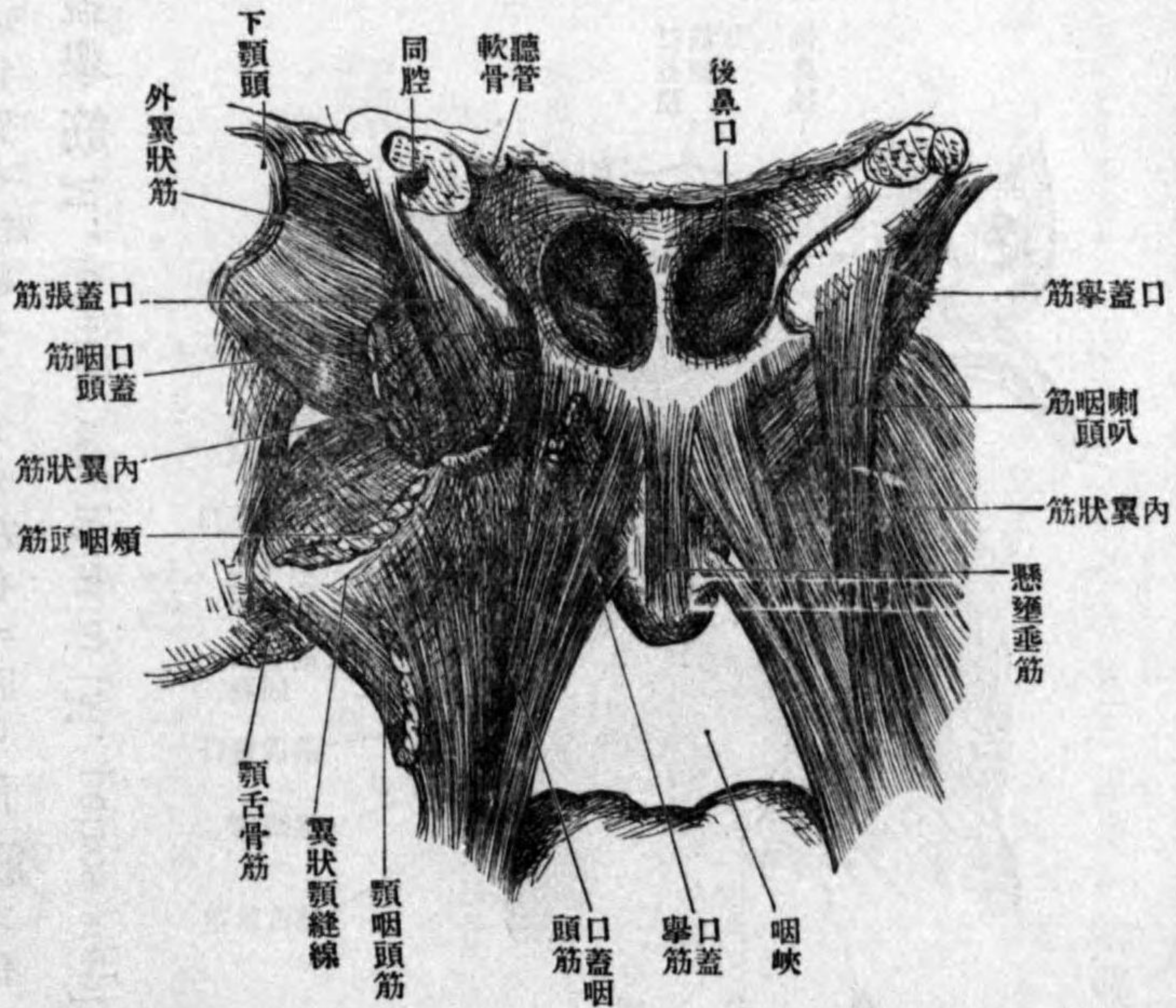
錐形筋ニシテ内翼狀筋ノ内側ニ於テ翼狀窩ニアリ聽管蝴蝶骨ノ隅棘及舟狀窩ヨリ起リ其腱ハ翼狀鈎ヲ廻轉シ内方ハ屈曲シテ硬口蓋ノ後縁及軟口蓋ニ終ル

圖六十三百四第
(側前)筋蓋口



第四百三十七圖

頭蓋前額斷之軟口蓋及其周圍部筋之方後ヲヨリ出ス



3. 懸壅垂筋 *M. uvulae* ハ小且鉛直ナル筋ニシテ、後鼻棘ヨリ起リ懸壅垂ニ終リ左右相接著ス

4. 口蓋舌筋 *M. glosso-palatinus* ハ舌口蓋弓中ニアリ、口蓋帆ニ起リ舌筋中ニ終ル

5. 口蓋咽頭筋 *M. pharyngo-palatinus* ハ咽頭口蓋弓中ニアリ、口蓋帆ニ起始シ咽頭側壁ノ筋ニ終ル

作用 1. 及 2. ハ其名ニヨリテ明ナリ 3. ハ懸壅垂ヲ短縮シ、4. ハ舌ノ之ニ相對シタル筋ト共ニ口腔後口ノ括約ヲ爲シテ咽

峽ヲ狭メ 5. ハ鼻咽腔ト咽頭ノ他部分トノ間ノ不全ナル閉合筋ヲ爲シ、其收縮時ニハ接近シタル兩側口蓋弓ノ間ニ懸壅垂ヲ夾ム

神經 4. 及 5. ハ咽頭神經叢ヨリ迷走神經枝ヲ受ケ、2. ハ耳神經節枝ヲ受ケ、他ハ蝴蝶口蓋神經節ヨリ來ル口蓋神經ヲ受ク

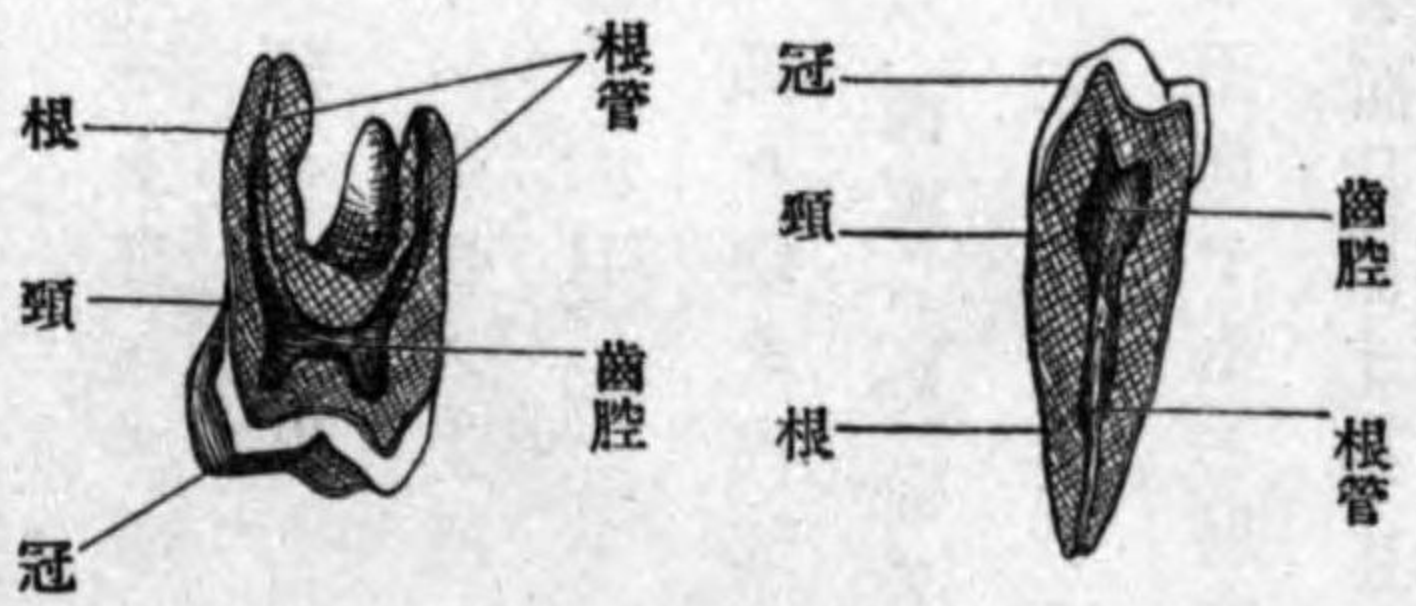
ほ 齒 Dentes, Zähne

齒ハ一部ハ上皮ヨリ發生シ、^{珐瑯}一部ハ結締組織ヨリ來ル、^{齒槽骨}齒槽骨ハ眞皮、白堊質ハ其割合ハ動物ノ種類ニヨリ異ナリトス

齒ハ一半ハ顎骨ノ齒槽中ニ匿レ、一半ハ粘膜炎ニ現ハル、區別シテ冠 *Corona dentis* 頸 *Collum dentis* 根 *Radix dentis* トナス、頸ハ冠根ノ限界部ニシテ齦肉ヲ以テ圍擁セラ、其質ハ頑ル硬ク内部ニ腔洞ヲ有シ齒髓 *Pulpa dentis* ヲ藏ス、之ヲ齒腔 *Cavum dentis* ト云フ、齒腔ハ齒根ヲ縱貫スル一管(根管 *Canalis radialis*) ヲ以テ根ノ末端ニ開キ(尖孔 *Porus apicalis*) 脈管神經ヲ通ゼシム

齒冠ハ各五面ヲ有ス、唇面或ハ頰面 *facies labialis, buccalis* 舌面 *facies lingualis* 接觸面 *facies contactus* 咀嚼面 *facies masticatoria* 之ナリ

第四百三十八圖 齒ノ縦斷



齒ヲ二種ニ分ツ永久齒、乳齒是ナリ

一 永久齒 *Dentes permanentes*

永久齒(成人齒)ハ總計三十二個ニシテ上下顎各十六個ヲ有シ各顎ノ兩半部ハ各八個ナリ、之ヲ内方ヨリ算フレバ二個ノ門齒(第一門齒第二門齒)、一個ノ犬齒、二個ノ小白齒(第一小白齒第二小白齒)、三個ノ大白齒(第一大白齒、第二大白齒、第三大白齒)之ナリ

1. 門齒 *Dentes incisivi, Schneidezähne* ハ齒冠鑿狀ヲ呈シ、生

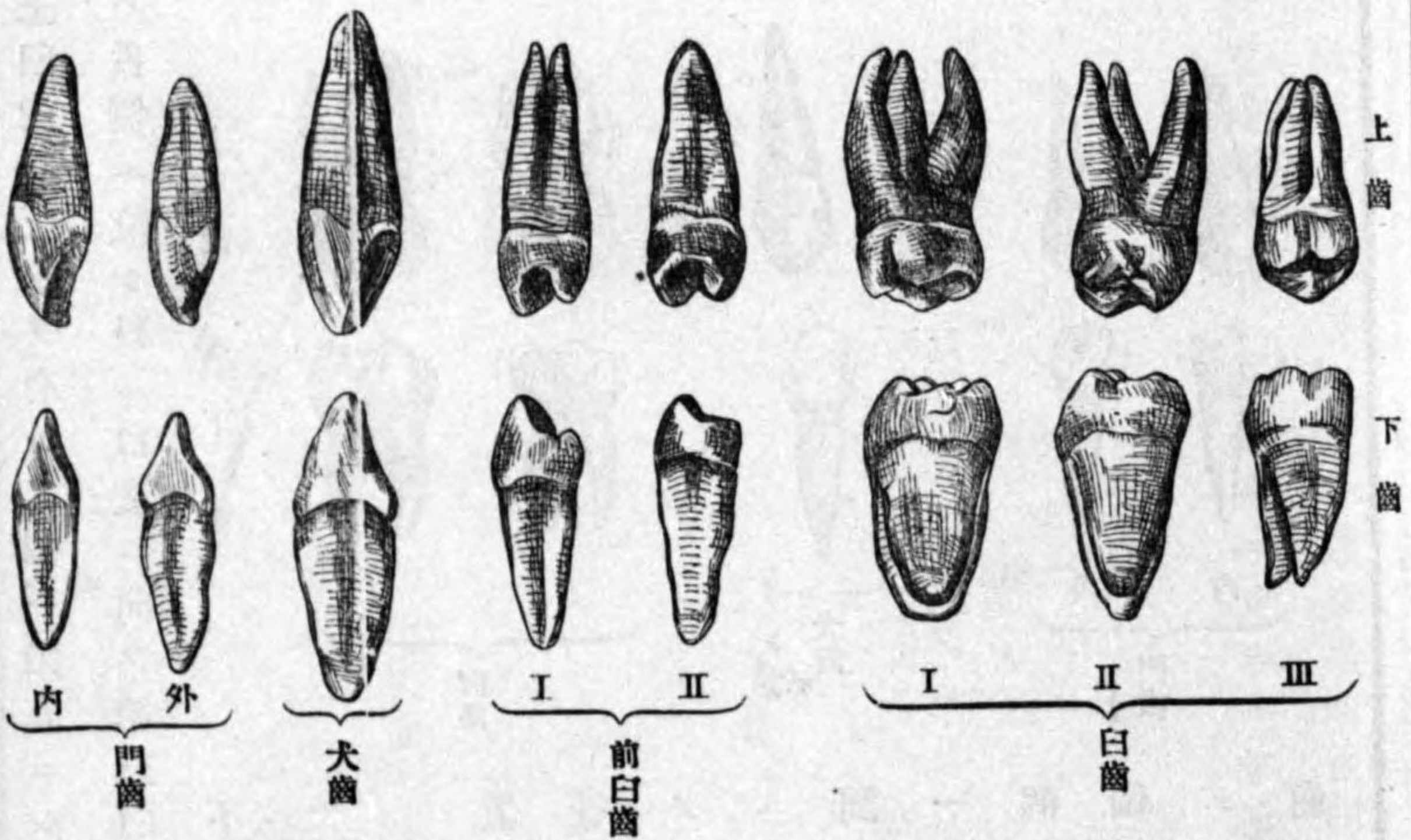
齒ノ當時咀嚼緣ハ三尖ニ分ル、然レモ使用ニヨリテ漸々平坦

トナル後面ハ凹陷シ下部ニ一隆起アリ冠隆起 *Tuberculum coronae* ト云フ根ハ圓錐形ニシテ側方ヨリ壓平セラレ且縦溝ヲ現シ上顎ニ於テハ殆ド眼窩底ニ達シ(眼齒 *Augenzähne*) 上

2. 犬齒 *Dentes canini, angulares* ハ齒冠不規則圓錐形ニシテ、後面ハ凹陷シ根ハ長ク

側方ヨリ壓平セラレ且縦溝ヲ現シ上顎ニ於テハ殆ド眼窩底ニ達シ(眼齒 *Augenzähne*) 上犬齒ハ下犬齒ヨリ少シク外方ニ位ス

第四百三十九圖 永久齒



3. 小白齒 *Dentes praemolares, vorderen Backzähne* 齒冠ハ圓柱狀ニシテ咀嚼

面ニ二個ノ尖リタル結節ヲ現ハス、其一ハ唇側ニ位シテ稍高ク、一ハ舌側ニアリテ低シ根ハ扁平ニシテ兩接觸側ニ縦溝走り末端屢、二脚ニ分岐ス、此分岐ハ上第一小白齒ニ殆ド正規ノ如ク來リ、他ノ小白齒ニハ極メテ稀ナリ

4. 大白齒 *Dentes molares, hinteren Backzähne* ハ第一ハ大第三ハ小第二ハ其

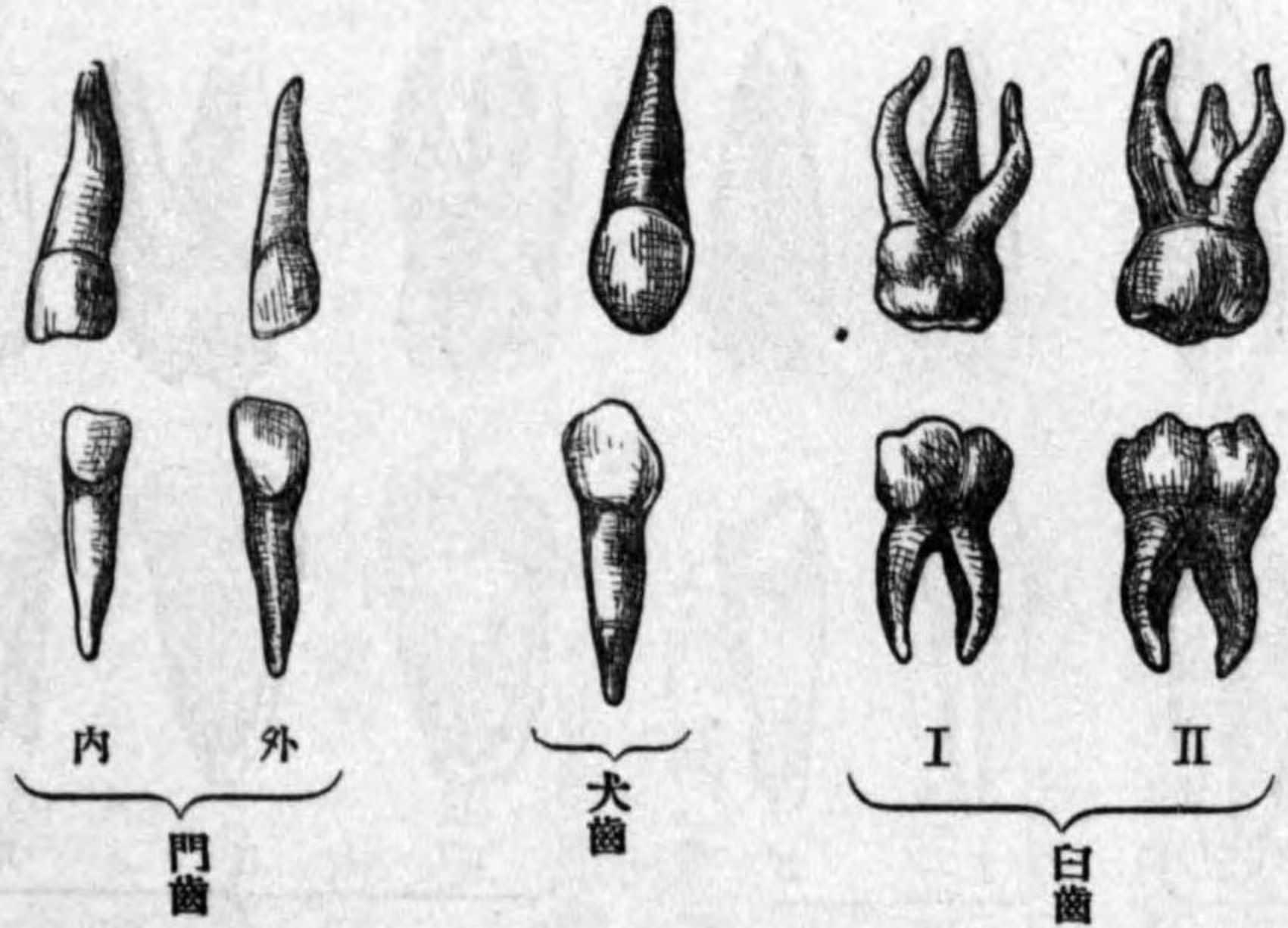
中間ニ位ス齒冠ハ斜稜柱形ニシテ、咀嚼面ニ四或ハ五個ノ鈍結節ヲ有シ(上白齒ハ四個下白齒ハ五個)根ハ上下ニ於テ異ナリ下白齒ノ根ハ二枝ニ岐レ廣ク扁平ニシテ前後ニ位シ其前側ニアルモノハ

稍強シ、上白齒ハ三根ヲ有シ二個ハ鉛直ニシテ頰側ニ列ス、其前側ニアルモノハ少シク強ク一ハ舌側ニ位シ斜ニ口蓋ニ向フ第三白齒(遲齒又智齒 *Dens serotinus*, *Dens sapientiae*)ハ不規則ニシテ殊ニ其分岐根ハ互ニ相接觸ス

二 乳齒 *Dentes decidui, lactei*

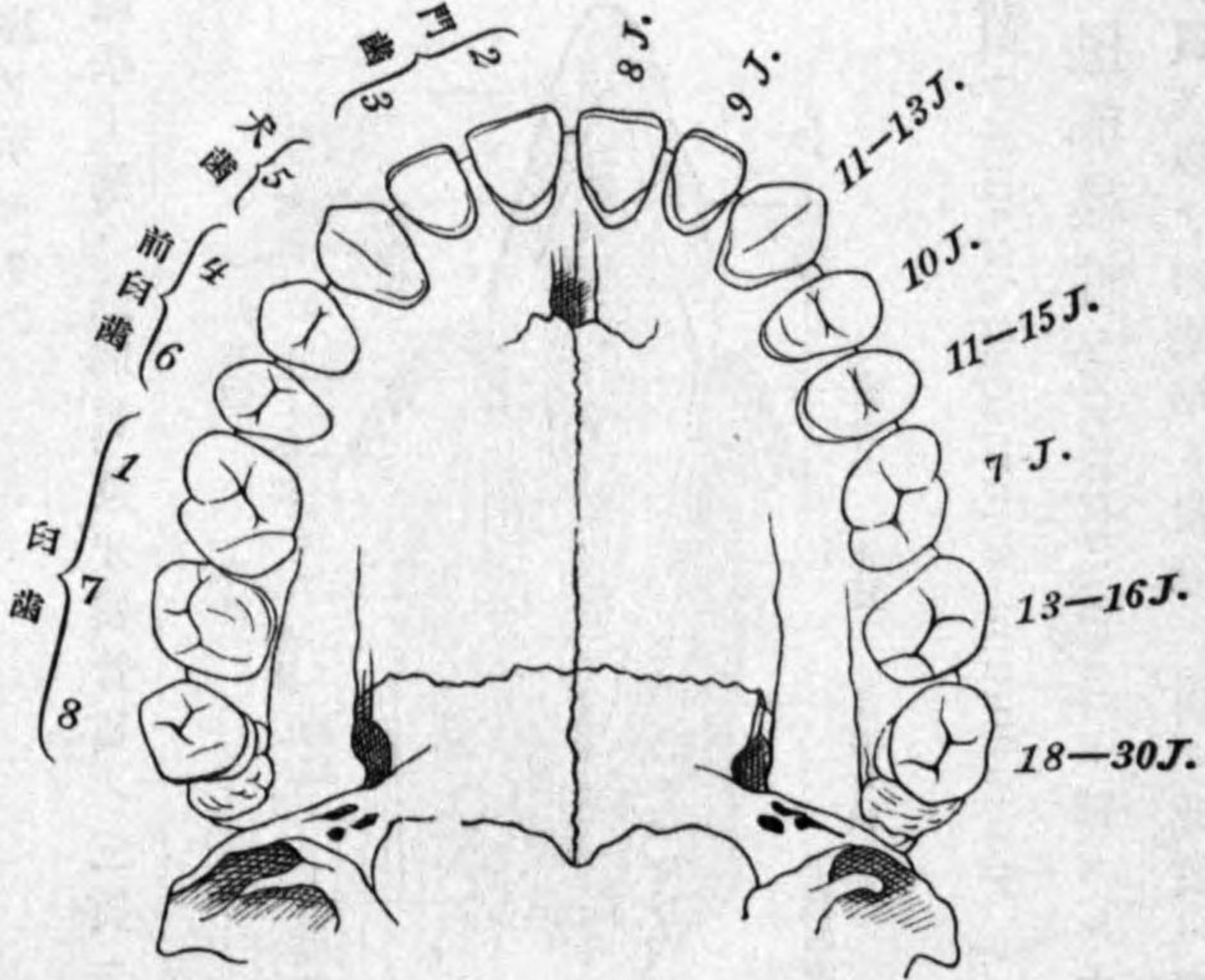
乳齒ハ總計二十個ニシテ各顎各十個ヲ具ヘ各側ハ其1/2即二個ノ門齒、一個ノ犬齒、二個ノ白齒ヨリ成リ、門齒及犬齒ハ其形狀永久齒ニ類似シ、白齒ハ後ニ其位置ヲ襲フ小白齒ト同シカラズシテ成人ノ大白齒ニ類似シ上第一ノ齒冠ハ三個ノ隆起ヲ有シ(二個ハ外側一個ハ内側)上第二及下第一ハ四個下第二ハ五個(三個外側、二個内側)ノ隆起ヲ有ス、齒根ハ小ニシテ頭ヨリ分岐シ互ニ著シク離開ス齒ノ發生時期竝ニ其順序ハ實際ニ於テ屢、必

第 四 百 四 十 圖
乳 齒

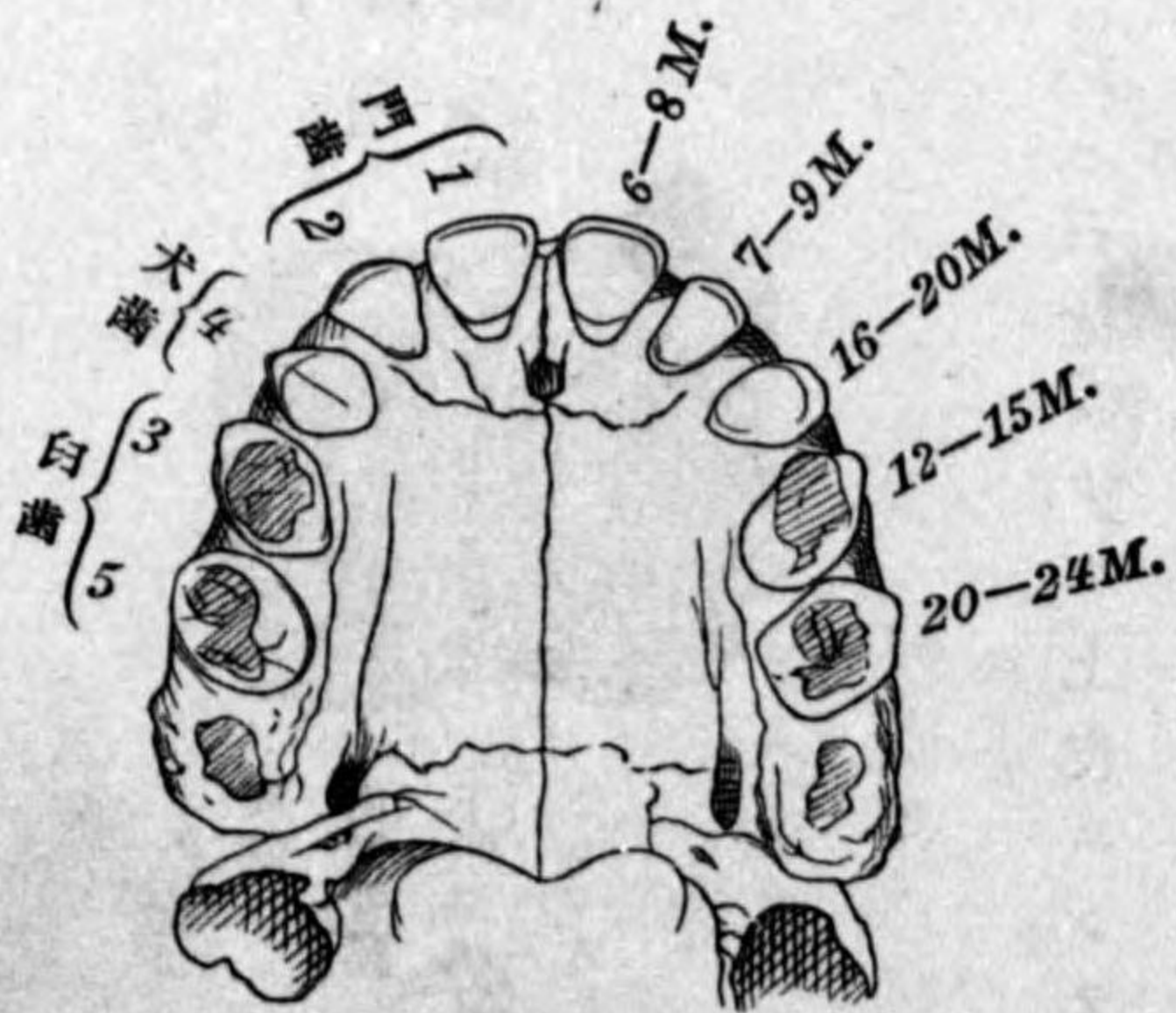


要アリ、其概要ハ第四百四十一圖及第四百四十二圖ニ就テ見ルベシ、圖ニ於テ其右側ノ數字ハ發生時期ヲ示シ(永久齒ニ於テハ年齢、乳齒ニ於テハ月數ヲ現ハス)左側ノ數字ハ

第 四 百 四 十 一 圖
永 久 齒

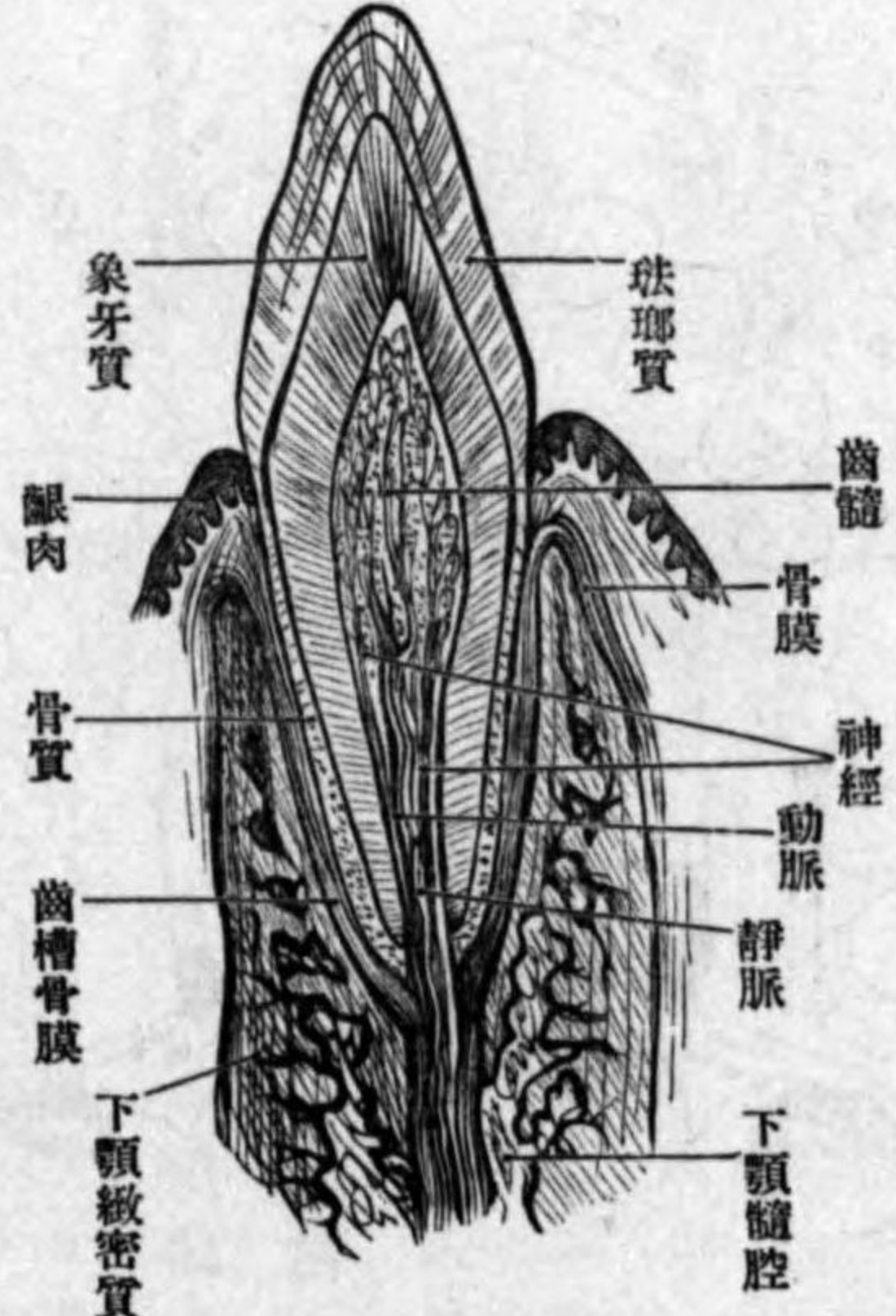


第 四 百 四 十 二 圖
乳 齒

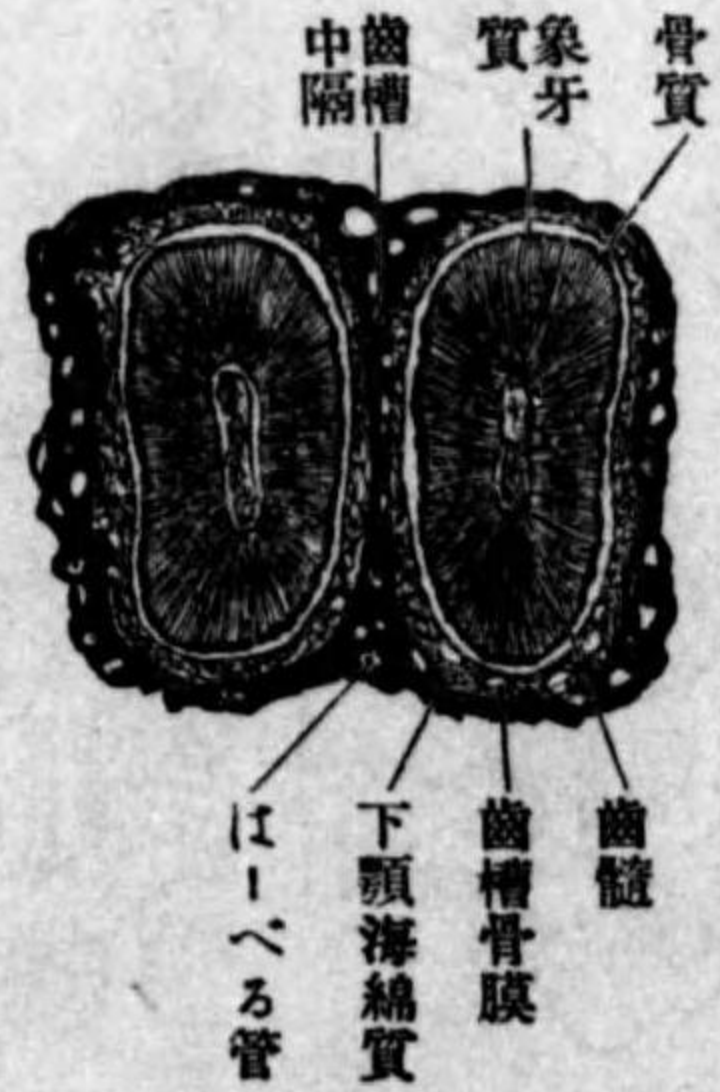


生齒ノ順序ヲ示セリ
構造組織學上、齒ヲ珐瑯質、象牙質、骨質ノ三質ニ別ツ

圖三十四百四第
齒犬下ルマシ斷縱ニ共ト顎下

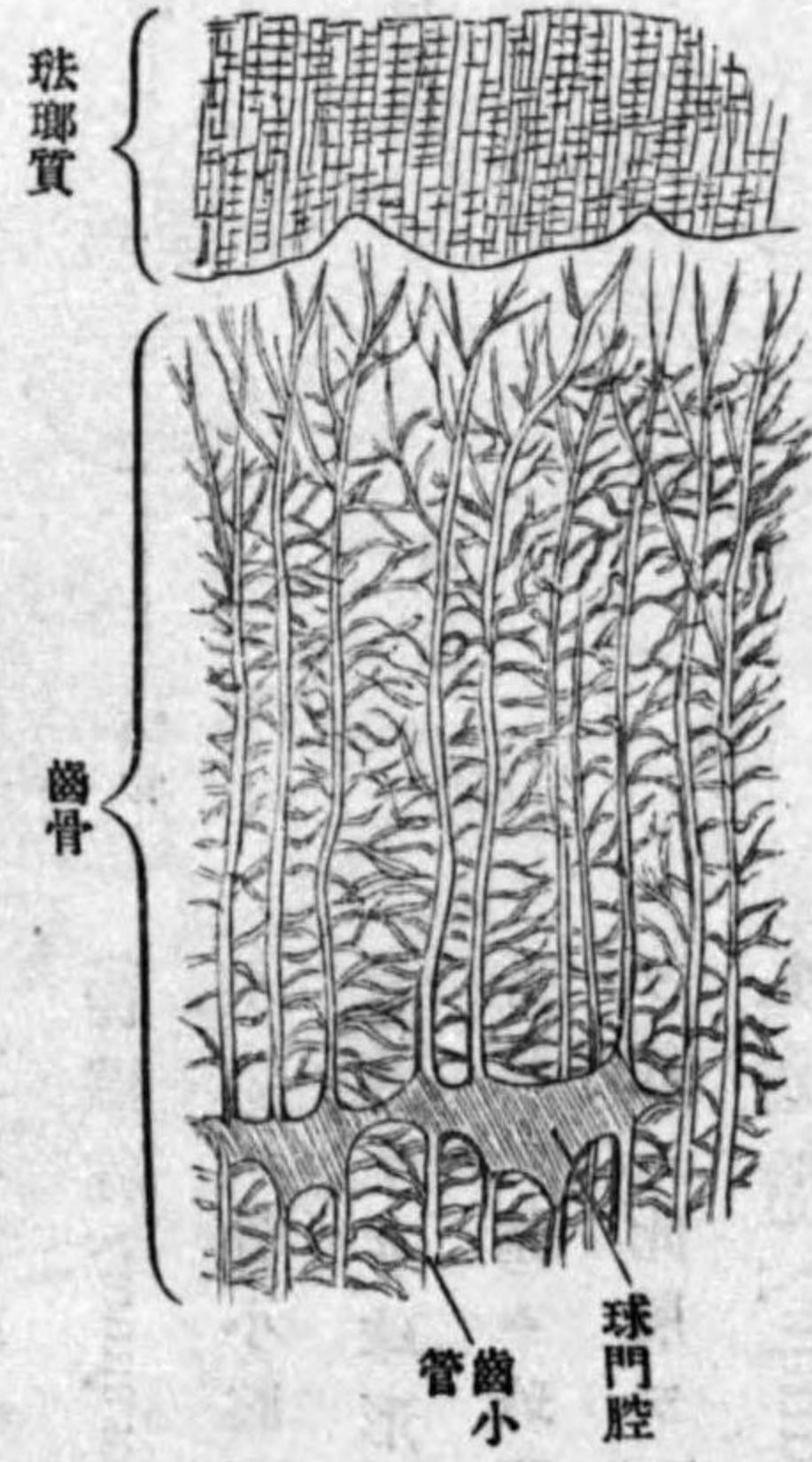


圖四十四百四第
斷平水部圖周其及根齒
(齒二齒門顎下)



1. 珐瑯質 Schmelz, Substantia adamantina, Vitrea, Email, 石化シタル上皮ニシテ
六稜柱即珐瑯稜柱 Schmelzprismen ト稱スル巾三乃至六(ミクロン)ノ纖維ヨリ成リ少
量ノ黏合質ヲ以テ相連結シ齒冠ヲ覆フ、此質ハ動物組織中最モ硬ク半透明ニシテ其表
面ハ上皮ヨリ化成シタル抵抗力ノ極メテ強キ珐瑯上皮 Cuticula dentis, Schmelzober-
häutchen ヲ被ル

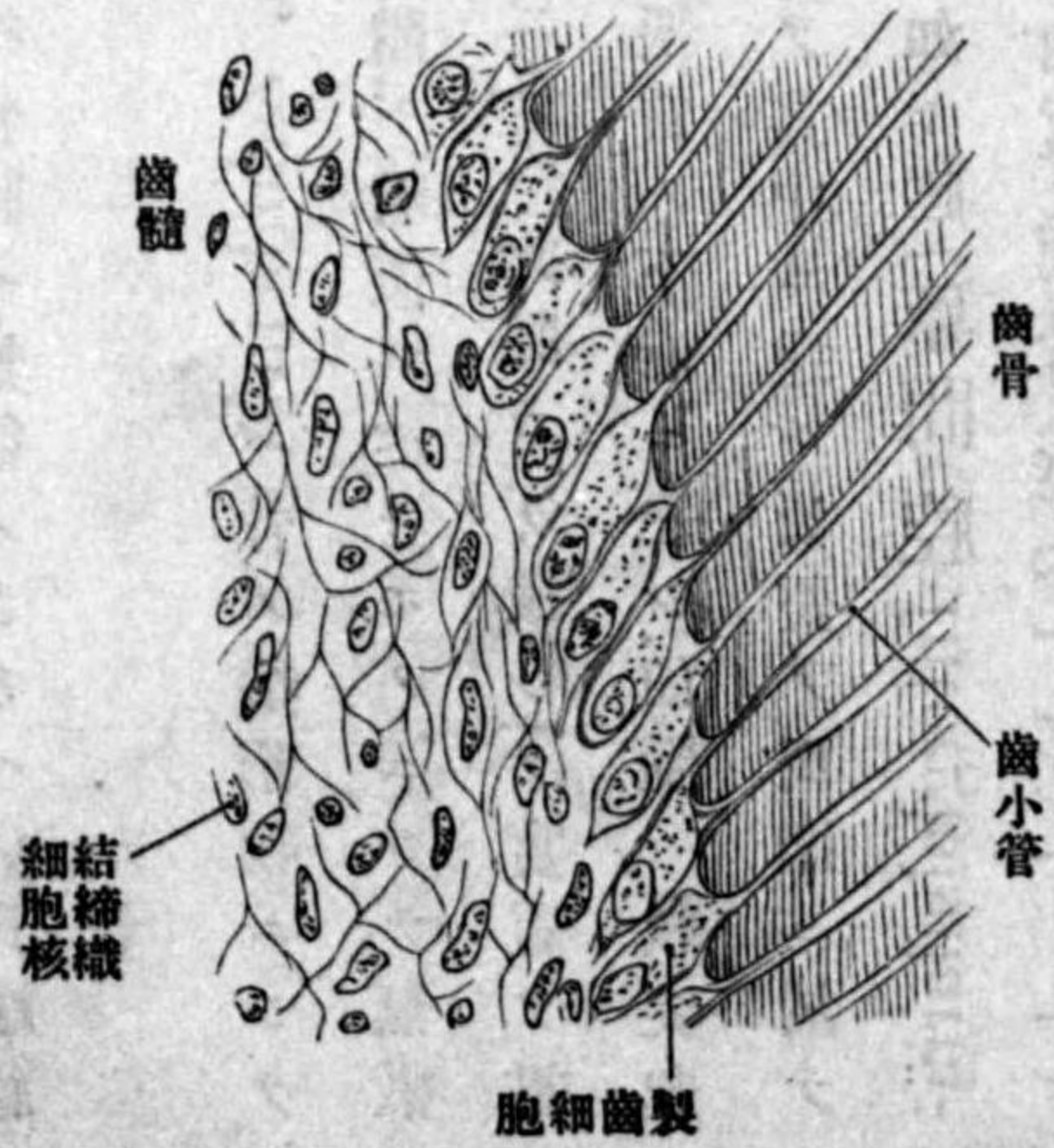
圖五十四百四第
片切ノ冠齒
(大擴倍十三百三約)



圖六十四百四第
片切ノ根齒
(大擴倍百三約)



第四百四十七圖
齒骨、齒髓ノ境界切片、乳齒
(約五百倍擴大)



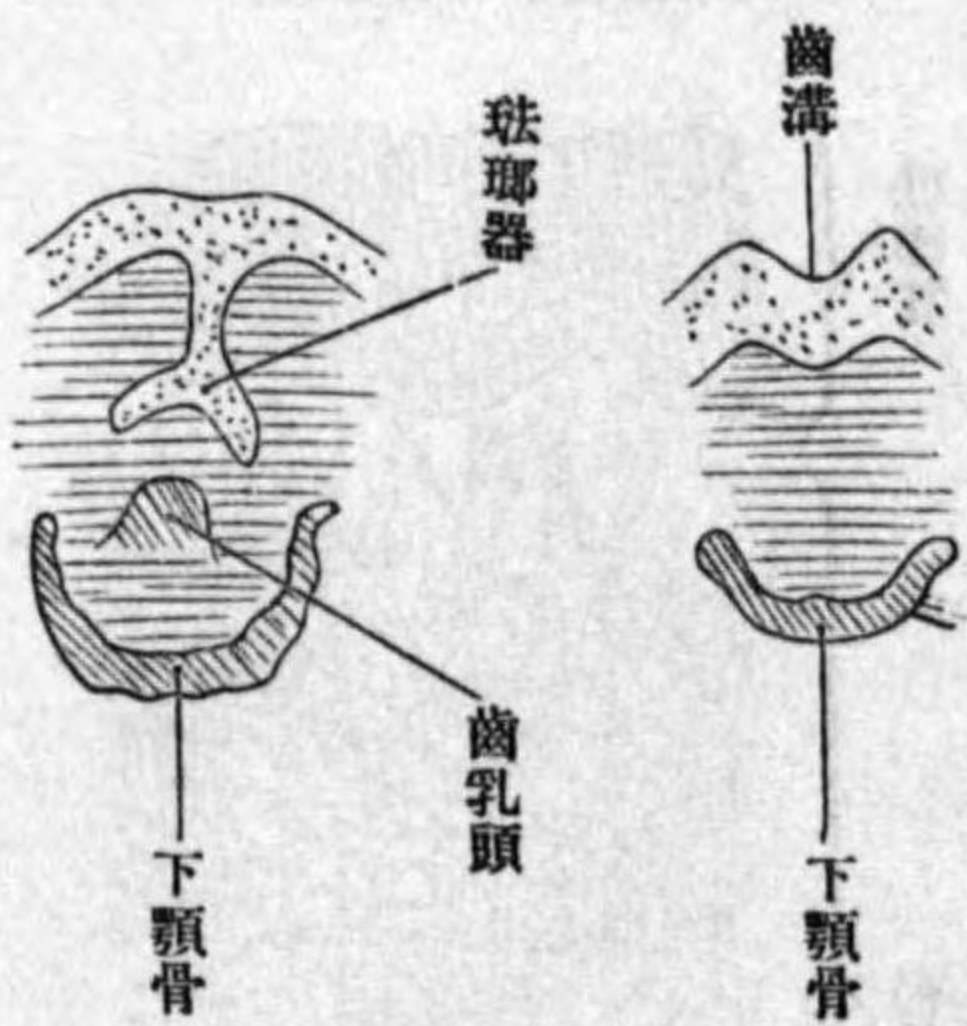
2. 骨質(白堊質) Substantia ossea, Cement ハ化骨シタル結締組織ニシテ二十乃至三十「ミクロン」ノ厚ヲ以テ齒根ヲ覆ヒ、骨小體ヲ備フト雖モハ一ベる氏管竝ニ血管ハ甚ダ稀ナリ(老人殊ニ白齒ニ見ル)齒骨膜 Zahnperist 即齒槽骨膜ハ無數ノさるべし氏纖維 Sharpey'sche Fasern ヲ以テ齒槽ト緻密ニ連著ス

3. 象牙質(齒質)又齒骨 Substantia eburnea, Dentin, Zahnbein ハ骨ノ變形物ニシテ骨ヨリ硬ク中央ニ髓腔 Pulpaohle アリ即巨大ナル骨小體ト看做スベキモノニシテ無數ノ分歧且吻合シタル骨小管(齒小管 Canaliculi dentales) 此腔ヨリ發シテ實質ヲ貫

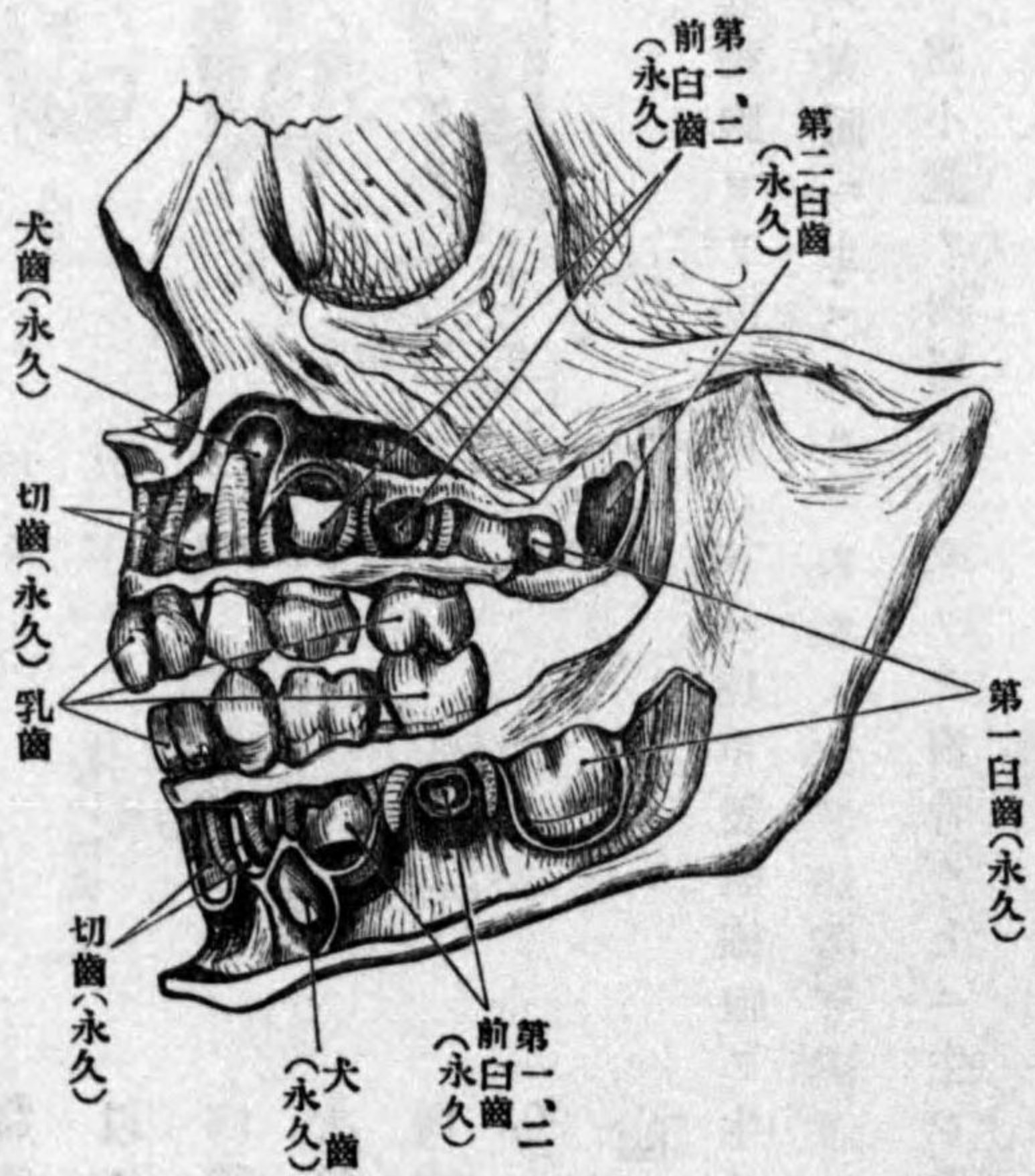
キ珐瑯質或ハ白堊質ノ下面ニ達シ、齒髓ハ軟突起(齒纖維 Zahnfasern)ヲ其中ニ送ル、齒質ノ周圍ニ於テ小ナル骨小腔ノ如キ腔(球間腔 Interglobularräume)アリ球形ノ齒質(齒骨球 Zahnbeinkugeln). 此腔ヲ圍ム球間腔ハ白堊質ノ下ニ於テハ細少ナリ故ニ此層ヲ顆粒層 Körnerschicht ト名ク

4. 齒髓 Zahnpulpa ハ血管神經ニ富ミタル微細ノ鬆粗結締組織ヨリ成リ、周圍即齒質ニ向テ鉛直ニ

第四百四十八圖 齒ノ發生想像圖



第四百四十九圖 二齡半兒ノ顎骨、永久齒ノ顎骨ニ生ズル起突槽齒ノモルタシ刻チ面外ノ



位シタル紡錘蔓陀羅實形ナル有核細胞ノ一層アリ、之ヲ製齒細胞 Odontoblastzellen ト云フ其外側ヨリ出ル長突起(齒纖維 Zahnfasern)ハ前述ノ如ク齒質中ニ延長ス、齒骨膜ハ神經ヲ富有ス

(乳齒ノ發生)胎兒第二ヶ月ノ終リニ始マリ第七ヶ月迄ニ成就シ結締組織囊ヲ以テ包マル、而シテ珐瑯質及齒

骨ハ早ク發生シ、珐瑯上皮及白堊質ハ胎兒產生ノ後、乳齒ノ齒齦縁ニ現ハルルニ先ツテ生ズ

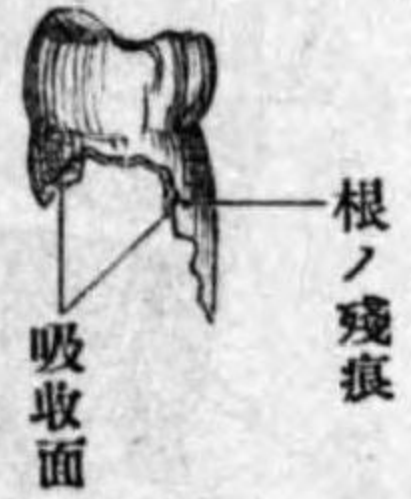
齒ハ三種ノ異ナリタル物質ヨリ發生ス、珐瑯質ハ其始メ先ヅ顎縁ノ上皮増殖シ一帶ノ肥厚部ヲ生ズ、之ヲ齒堤 Zahnleiste ト云フ、此者漸次顎中ニ陥入シテ表面ニ溝ヲ生ズ

(齒溝 Zahnfurche) 溝ハ肥厚縁ヲ以テ境セラレ溝底ハ尙増殖シ側方ニ數箇ノ突起ヲ生ズ、此突起ハ漸々固有膜ノ乳頭ニ接近シ鐘狀ヲナシテ之ヲ覆フ(珐瑯器 Schmelzorgan)

圖 十 五 百 四 第
度程育發ルケ於ニ年各齒白二第下



圖 一 十 五 百 四 第
齒乳ルメラサ收吸分部大ノ根ア於ニ期落脫



乳頭(齒乳頭 Zahnpapille)ハ許多發育スト雖モ其十個ノミ上記ノ珐瑯器ヲ被リ之ヨリ來ル圓柱狀上皮ヲ以テ覆ハル、此者後ニ石灰シテ珐瑯稜柱トナル、珐瑯器ノ上部即頸ハ次第ニ絞窄シテ、狹少シ終ニ齒牙ノ周圍ハ結締組織性ノ齒小囊 Zahn-säckchenヲ以テ包擁セラル、ニ至ル

齒骨ハ結締組織性ノ乳頭(齒乳頭)ヨリ成リ、其細胞ヨリ珐瑯質ノ下ニ長キ製齒細胞ヲ生ジ、外部ハ化石灰スト雖モ細胞ハ始終齒髓ノ表面ニ止マルモノトス
白堊質ハ齒小囊ノ内層ヨリ來リテ齒骨ノ上ニ生ジ、齒囊ノ外層ハ乳齒發生ノ後ニ於テ齒槽ノ骨膜トナル

唾腺 Glandulae salivales, Speicheldrüsen.

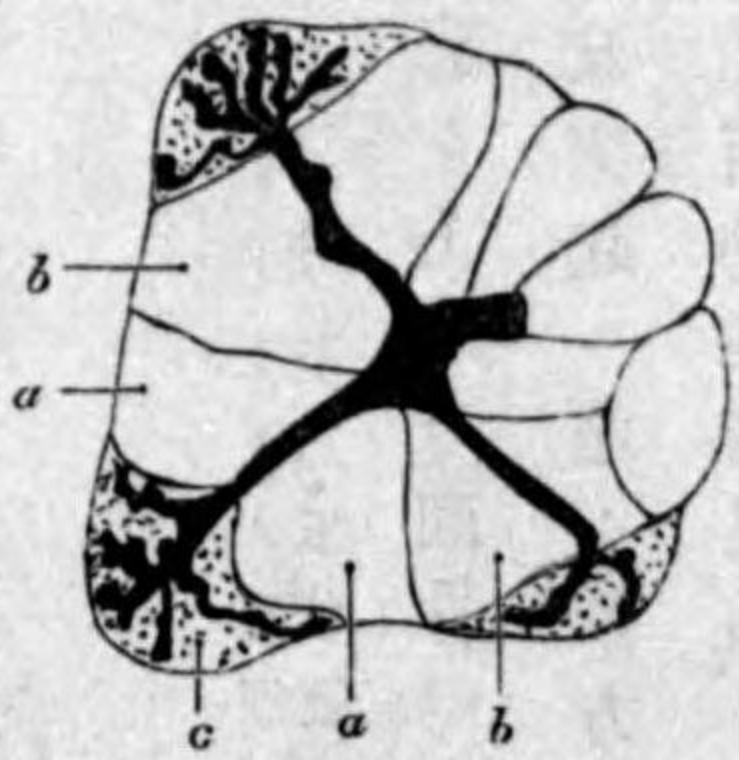
唾腺ハ複管狀腺ニシテ唾液ヲ分泌ス、即耳腺、顎下腺、舌下腺ノ三對アリ、舌下腺ハ粘膜ノ直下ニ位シ

圖 二 十 五 百 四 第
端末經神ノ腺唾 (G. Retzius)



維纖經神 n. 月半 h. 面斷ノ葉小 l.

圖 三 十 五 百 四 第
本標ぎるご片切ノ腺下顎ノ犬 (G. Retzius)



胞細腺 b. a 竝
細毛泌分其
管細毛泌分其

他ノ二種ハ
口腔ヨリ遠
カリ長キ導
管ヲ以テ分
泌物ヲ口腔
ニ排泄ス、腺
體ハ結締組

織ヲ以テ包マレ數葉ニ分ル、其少部分ヲ小葉ト云フ、導管ハ漸々集合シテ漸ク大トナリ全形樹狀ヲ呈ス

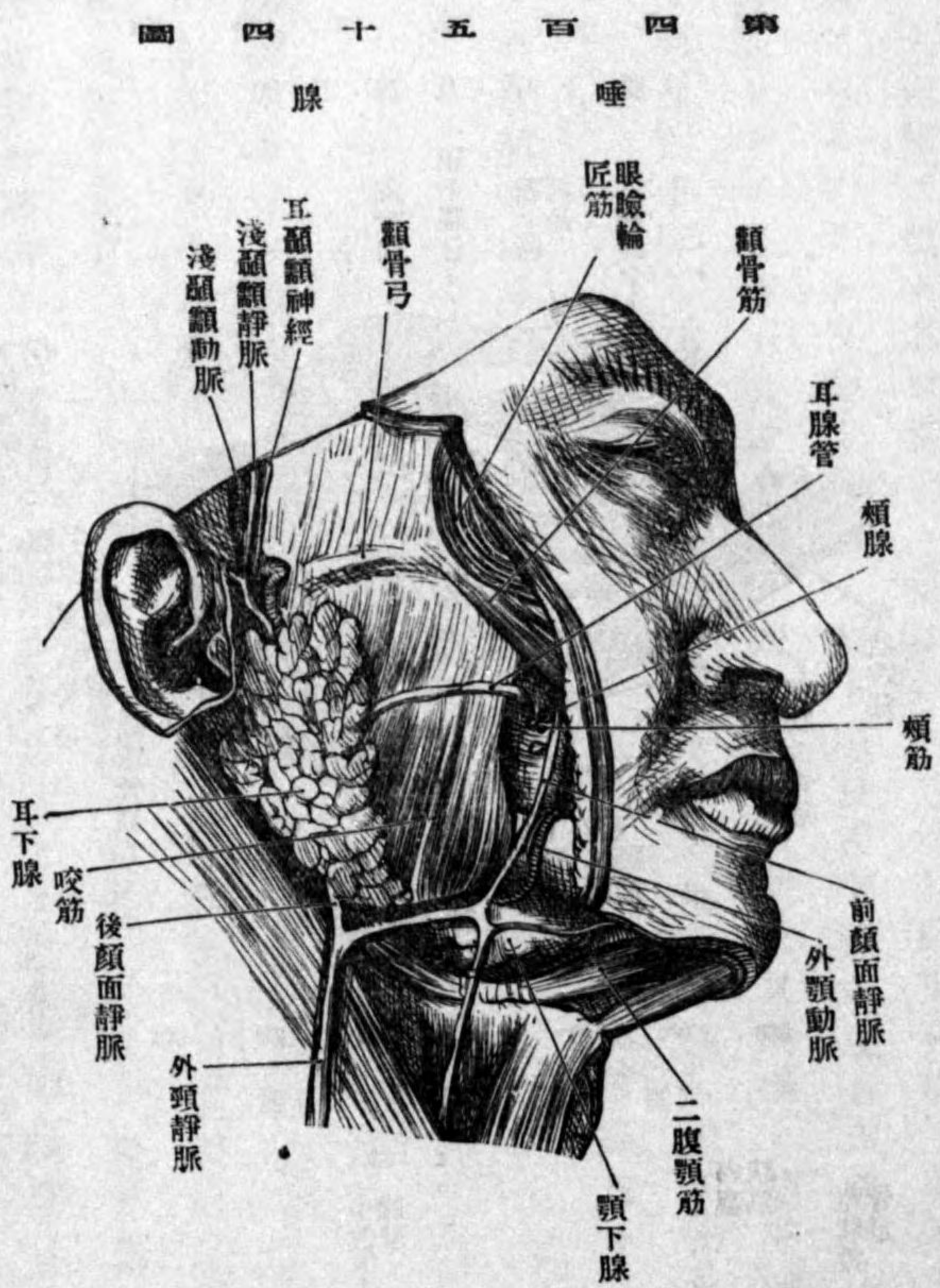
唾腺ノ構造耳腺ハ漿液腺 Seröse Drüsen ニシテ發育シタル複管狀腺ナリ此腺ハ蛋白質ニ富メル漿液ヲ分泌シ導管ノ分枝ハ分泌管 Sekretrohre 及中間部 Schaltstücke ニ移リ迂

回セル末端部ニ終ル末端部ノ上皮ハ骰子形ノ蛋白腺細胞 Eiweissdrüsenzellen ナリ舌下腺ハ粘液腺 Mukose Drüsen ニシテ導管分枝ハ短キ分泌管ヲ以テ末端部ニ連リ中間部ヲ缺ク末端部上皮ハ粘液細胞 mukosen Zellen 及漿液細胞 Serösen Zellen ヨリ成リ漿液細胞ハ往々集合シテ大ナル半月 Halbmond ヲ爲ス顎下腺ハ混合腺 Gemischte Drüsen ニシテ導管分枝ハ耳腺ノ如ク分泌管中間部末端部ニ分レ末端部ハ混合上皮或ハ單ニ漿液細胞ヨリ成ルト雖モ漿液細胞ハ小數ニシテ半月モ隨テ又小ナリ半月ノ細胞ハ分泌毛細管ニ頼テ腺腔ニ通ズ

1. 耳腺 Glandula parotis, Ohrspeicheldrüse ハ三角形 上下ノ直徑四乃至五仙迷幅三・三乃至三・五ニシテ後顎骨窩 Fossa retromandibularis ヲ充シ上方ハ頰骨弓及外耳ニ接シ後方ハ乳頭突起及胸鎖乳頭筋ニ接シ内方ハ頰骨莖狀突起ニ達シ前方ハ咬筋ノ外側ニ延展シ下方ハ下顎隅ニ終リ後顔面靜脈外頸動脈及顔面神經齶足叢ヲ覆ヒ腺自身ハ耳腺咬筋膜 fascia parotideo-maseterica ヲ以テ覆ハル導管(耳腺管 Ductus parotidens, Ste-noni) 徑約三ハ頰骨弓ト並行シテ約一指下方咬筋ノ外側ヲ前走シ其前縁ニ於テ頰筋ヲ穿テ上顎第二大臼齒冠ニ對シ上唾乳頭 Papilla salivaris superior ヲ以テ口腔ニ通ズ

2. 顎下腺 Glandula submaxillaris, submandibularis, Unterkieferspeicheldrüse ハ橢圓形鳩

卵大直徑二・五乃至三・五仙迷厚サニシテ顎下小窩 下顎骨内面ト前後二腹顎ニアリ顎舌骨筋ノ後縁ニ位シ一部ハ其上面ニ延長ス腺ノ上面ニ溝アリテ外頸動脈ヲ通シ前顔面靜脈其下面ヲ走り淺頸筋膜ノ舌骨上部ヲ以テ覆ル導管顎下腺管 Ductus submaxillaris (Whartonii) 長サ五乃至六仙迷ハ顎舌骨筋ノ上ヲ前走シ舌神經ト交叉シ舌下阜ニ開口ス



3. 舌下腺 Glandula sublingualis, Untertungenspeicheldrüsen ハ顎下腺管ノ外側ニ沿ウテ口腔底粘膜炎顎舌骨筋ノ間ニ位シタル細長ノ腺ニシテ長サ三乃至四仙迷厚サ一仙迷以下重量五瓦

圖 四 十 五 百 四 第

唾腺

其存在ニヨリ粘膜炎ニ豐隆ヲ生ズ其導管ノ大ナルモノ大舌下腺管 Ductus sublingualis major ハ舌下阜ニ開口シ自他八個乃至十個ノ小舌下腺管 Ductus sublingualis minores ハ剪線襞ニ沿ウテ直接ニ粘膜炎ニ注ギ或ハ顎下腺管ニ合ス



神經 唾腺ニハ血管ニ伴ウテ來ル交感神經ノ他耳下腺ニハ舌咽神經、顎下腺及舌下腺ニハ鼓索神經分布ス、舌咽神經ノ耳腺ニ達スル徑路ハ先ヅ舌咽神經ノ岩様部神經節ヨリ鼓室神經トシテ鼓室ニ入り交感神經及顔面神經纖維ト混合シ淺小岩様部神經トナリテ鼓室ヲ出デ耳神經節ニ連リソレヨリ耳顚顚神經トナリ耳腺下ヲ上リ之ニ分枝ヲ與フルモノナリ又鼓索神經ノ顎下腺及舌下腺ニ達スル徑路ハ先ヅ顔面神經ヨリ鼓索神經トシテ分枝シ鼓室ヲ經テ頭蓋底ニ出デ三叉神經ノ顎下神經節ニ連リ其一部ハ顎下腺及舌下腺ニ分布シ一部ハ舌ニ分布ス、今此神經ニ溯リテ其ノ起根ヲ探レバ中間部 Portio intermedia (Wisbergii) ノ連續ニシテ延髓ノ舌咽神經核ヨリ發スルガ故ニ總テ唾腺ニハ舌咽神經分布スト云フニ歸著スベシ

咽頭 Pharynx, Schlundkopf, Rachen

咽頭ハ少シク前後ニ壓平サレタル圓椎形ノ腔(咽頭腔 Cavum pharyngis)ニシテ長徑十前方ハ後鼻孔ヲ以テ鼻腔ニ通ジ、咽峽ヲ以テ口腔ニ通ジ、喉頭口ヲ以テ喉頭氣管ニ通ス、側壁ニ聽管 Tuba auditiva (Eustachii)ノ咽頭口開キ舌骨ノ高サニ於テ最モ廣ク下方ハ狹小トナリテ食管ニ移行シ上端ハ圓天井形ヲ爲ス之ヲ咽頭穹窿 Fornix pharyngis, Schlunddachト

云ヒ、後頭骨體及蝴蝶骨體ノ下面ニ接シ後方ハ椎前筋膜ニ連リ、側壁ノ前部ハ蝴蝶骨翼狀突起、頰咽頭筋膜、舌骨、喉頭等ニ連ル咽頭ヲ其部位ニヨリテ鼻部 Pars nasalis (咽鼻腔 Cavum pharyngo-nasale) 口部 Pars oralis (咽口腔 Cavum pharyngo-orale) 喉頭部 Pars laryngea 咽腔 Cavum pharyngo-laryngeum ニ別ツ、軟口蓋ハ咽鼻腔ト咽口腔ノ境ヲ爲シ嚥下及發音ニ際シ咽頭後壁ニ接著シテ此二腔ヲ全ク隔ツ

咽頭壁ハ二三ノ重リタル層ヨリ成ル之ヲ内方ヨリ外方ニ算フレハ粘膜、基礎咽頭筋膜、筋層及頰咽頭筋膜之ナリ

粘膜ハ鼻部ハ重層頰毛上皮ヲ被リ餘ハ重層扁平上皮ナリ、聽管ノ咽頭口 Ostium pharyngeum tubae ハ咽頭側壁ニ於テ下鼻道ノ高サニアリ、口

縁ハ縱徑ニ延長シテ少シク豐隆シ前後唇 vordere und hintere Tubenlippen ヲ爲ス、後唇ハ腫瘍狀ニ隆起(聽管隆起 Torus tubarius, Tubenwulst) シ其後側ニ小窩(咽頭小窩 Recessus pharyngeus s. Rosenmuller, sehe Grube) ヲ生ス、聽管隆起ヨリ下方ニ延ビタル縱皺襞ヲ喇叭咽頭皺襞 Plica salpingopharyngea ト云フ、其下部ハ漸々消滅ス、

圖七十五百四第
圖像想斷狀矢ノ頭咽及蓋頭



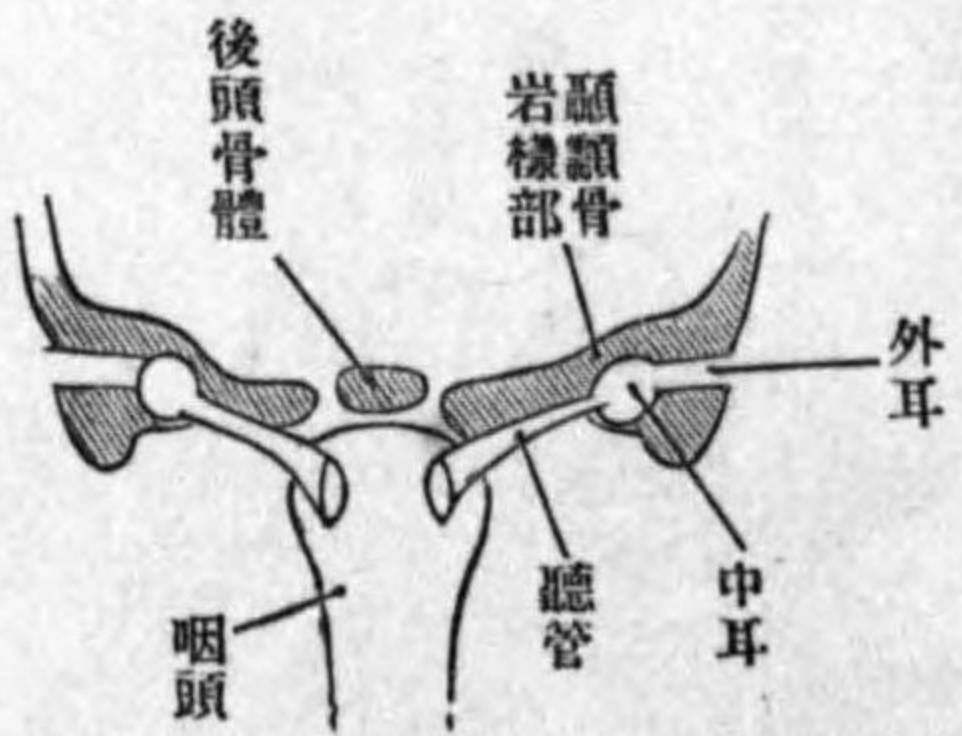
後壁ニ於テ兩咽頭小窩ノ間ニアル小凹陷ヲ咽頭囊 Bursa pharyngea ト名ク

兩聽管口ノ間即咽頭後壁ニ於ケル粘膜下層中ニハ多クノ淋巴濾胞ト分枝管狀腺密集シ許多ノ囊狀腔ノ周圍ヲ擁シ、恰モ舌扁桃ノ形ヲ呈ス、之ヲ咽頭扁桃 Tonsilla paryngea ト云フ、又聽管扁桃 Tuben tonsille ト名クル濾胞ノ小集合アリ咽頭扁桃ト口蓋扁桃ノ間ニ介在シ、此兩扁桃竝ニ舌扁桃ト互ニ相並列シテ

一輪ヲ爲ス

咽頭側壁ノ粘膜ハ喉頭ノ内部ニ移行シ、披裂會厭皺襞 Plica ary-epiglottica ト喉頭腔トノ境界ナリ、喉頭ノ後壁咽頭ニ向ヒタル面ハ喉頭口ノ兩側ニ一對ノ凹陷ヲ現ス之ヲ梨子狀窩 Recessus piriformis ト云フ、上喉頭神經ニヨリテ生ズル小皺襞(喉頭神經襞 plica nervi laryngei) 其中ヲ内下ニ斜走ス

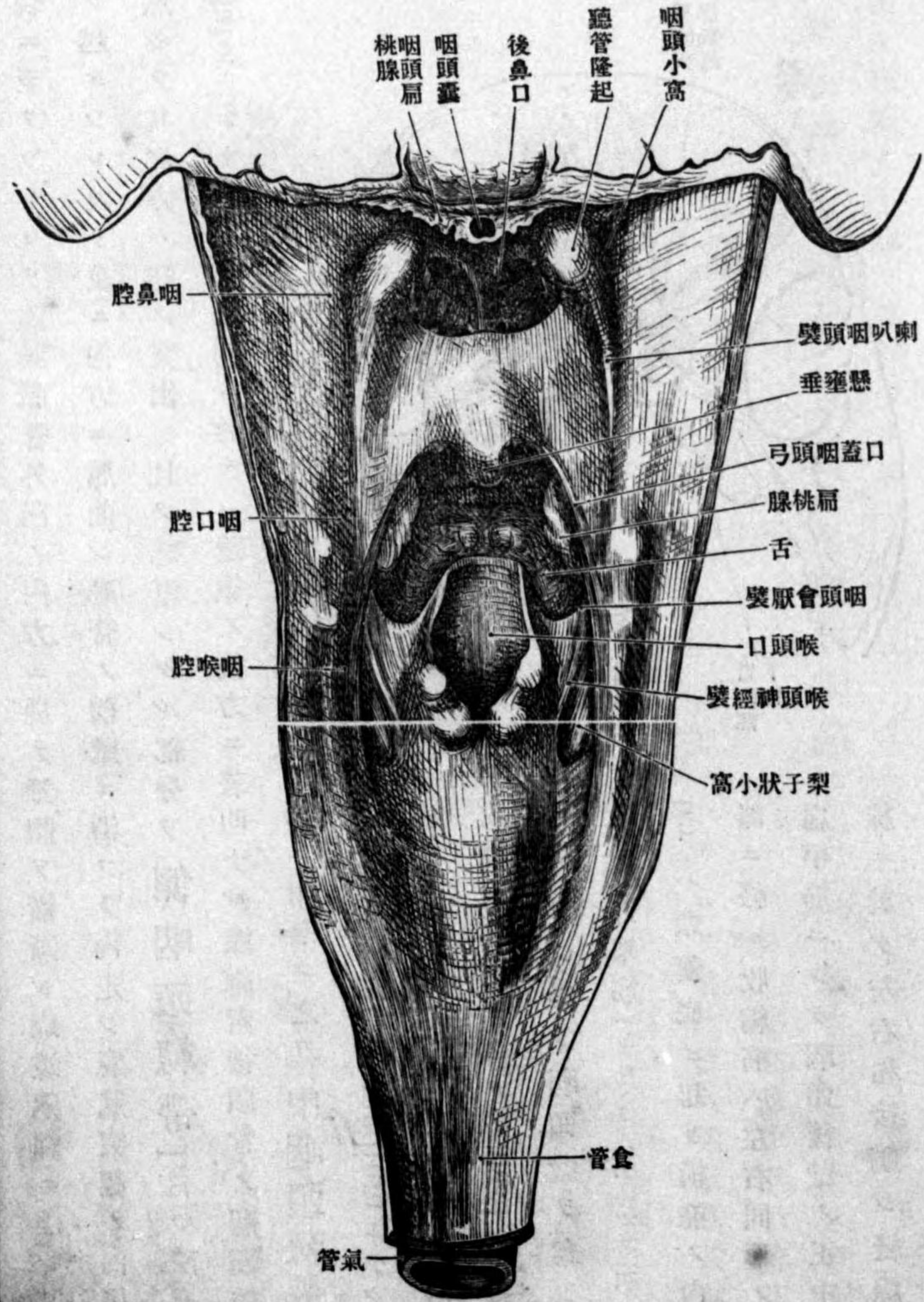
圖八十五百四第
圖像想斷額前ノ頭咽及蓋頭



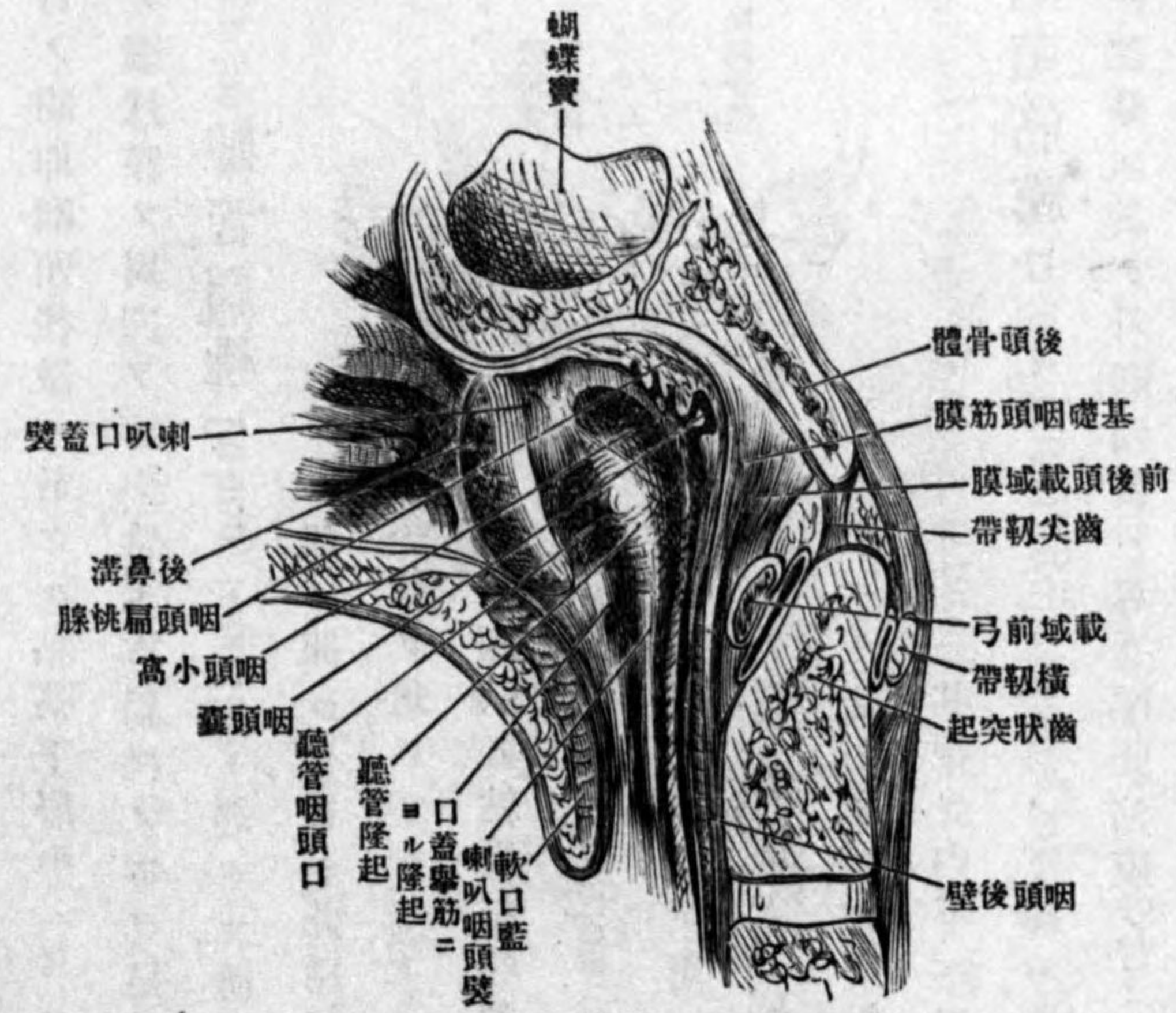
基礎咽頭筋膜 fascia pharyngobasilaris ハ下部ハ弱ク上部ハ強ク最上部筋纖維ノ闕

乏シタル部分ニ於テハ咽頭壁ハ專ラ唯此筋膜ノミヨリ成ル、此筋膜ノ上端ハ前方ニ彎曲シタル弓形線ノ形ヲ以テ頭蓋底ニ附著ス、其後方ハ後頭骨體ノ咽頭結節ヨリ側方岩

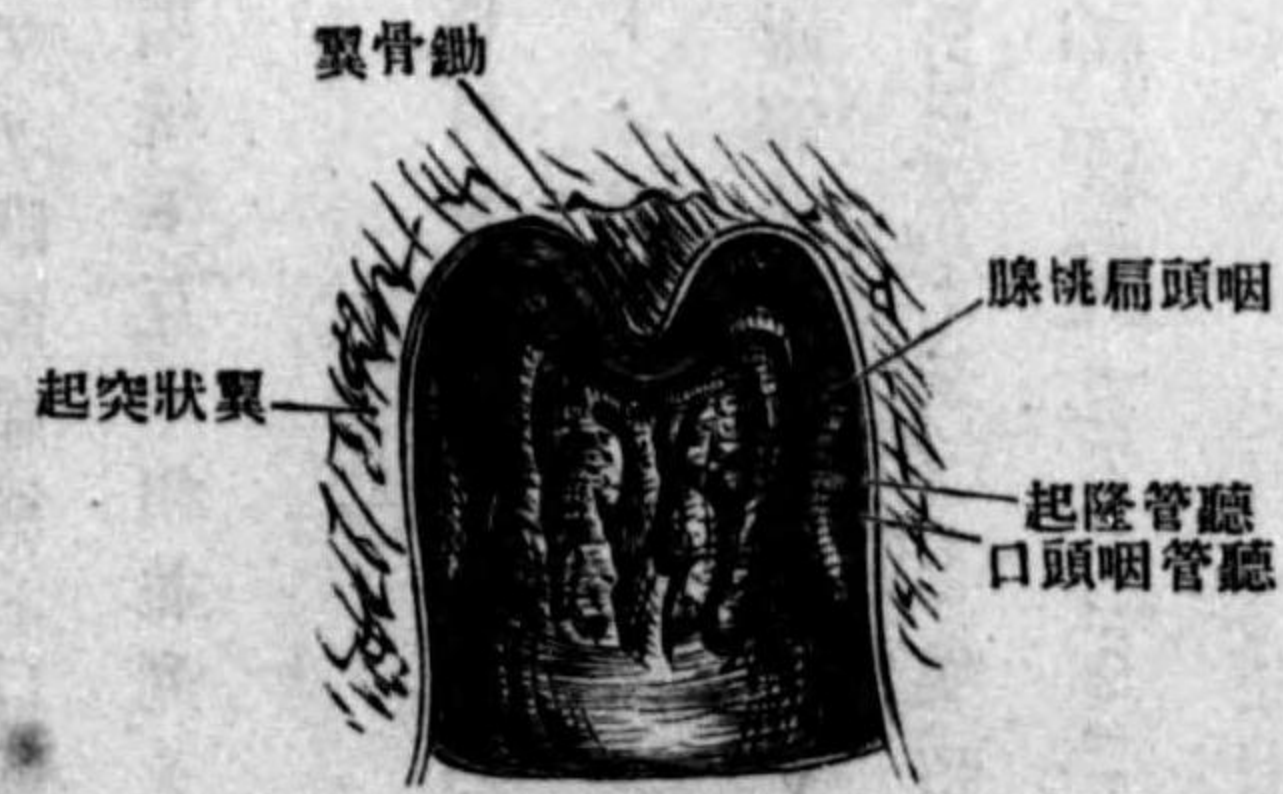
圖一十六百四第
ノモルタキ開チ壁後ノ頭咽



圖九十五百四第
斷狀矢部鼻頭咽

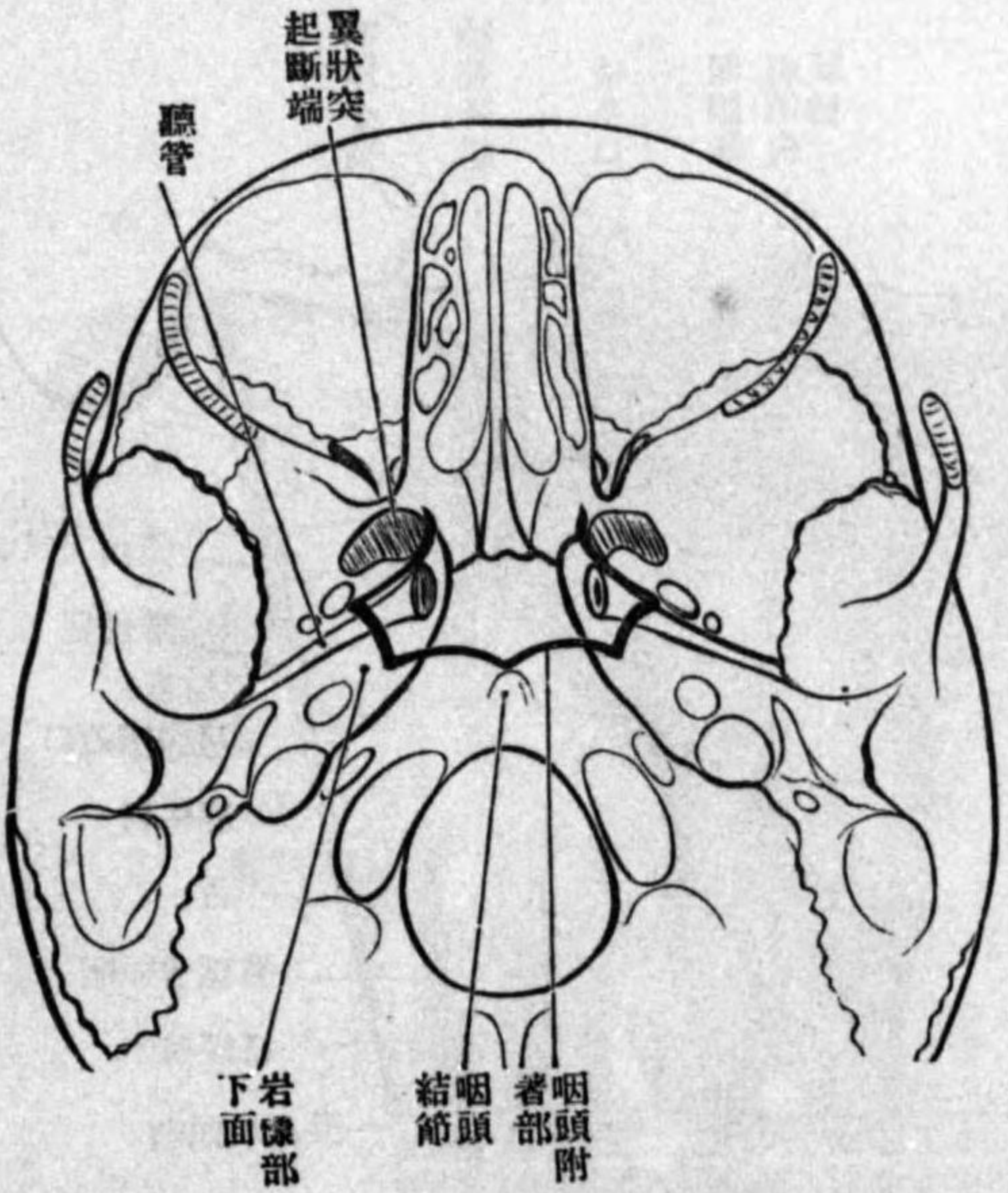


圖一十六百四第
壁後頭咽
(斷額前蓋頭)



様後頭裂ニ至リソレヨリ頸動脈管外門ノ内方ニ於テ錐體ヲ横斷シ蝴蝶隔棘ニ達シ其際聽管ヲ越エソレヨリ更ニ内方ニ屈曲シ聽管ノ前壁ニ沿フテ内走シ翼狀突起ノ内縁ニ至ル然シテ其側方ノ強ク突出シ且ツ肥厚シタル部分ヲ側咽頭靱帶 Lig. pharyngea lateralia ト云フ又後側ニ於テハ縫線ノ後方ニ著明ナル纖維索後頭骨ノ咽頭結節ニ附著ス之ヲ中咽頭靱帶 Lig. pharyngeum medium ト名ク

圖二十六百四第
部著附底蓋頭ノ層維織頭咽

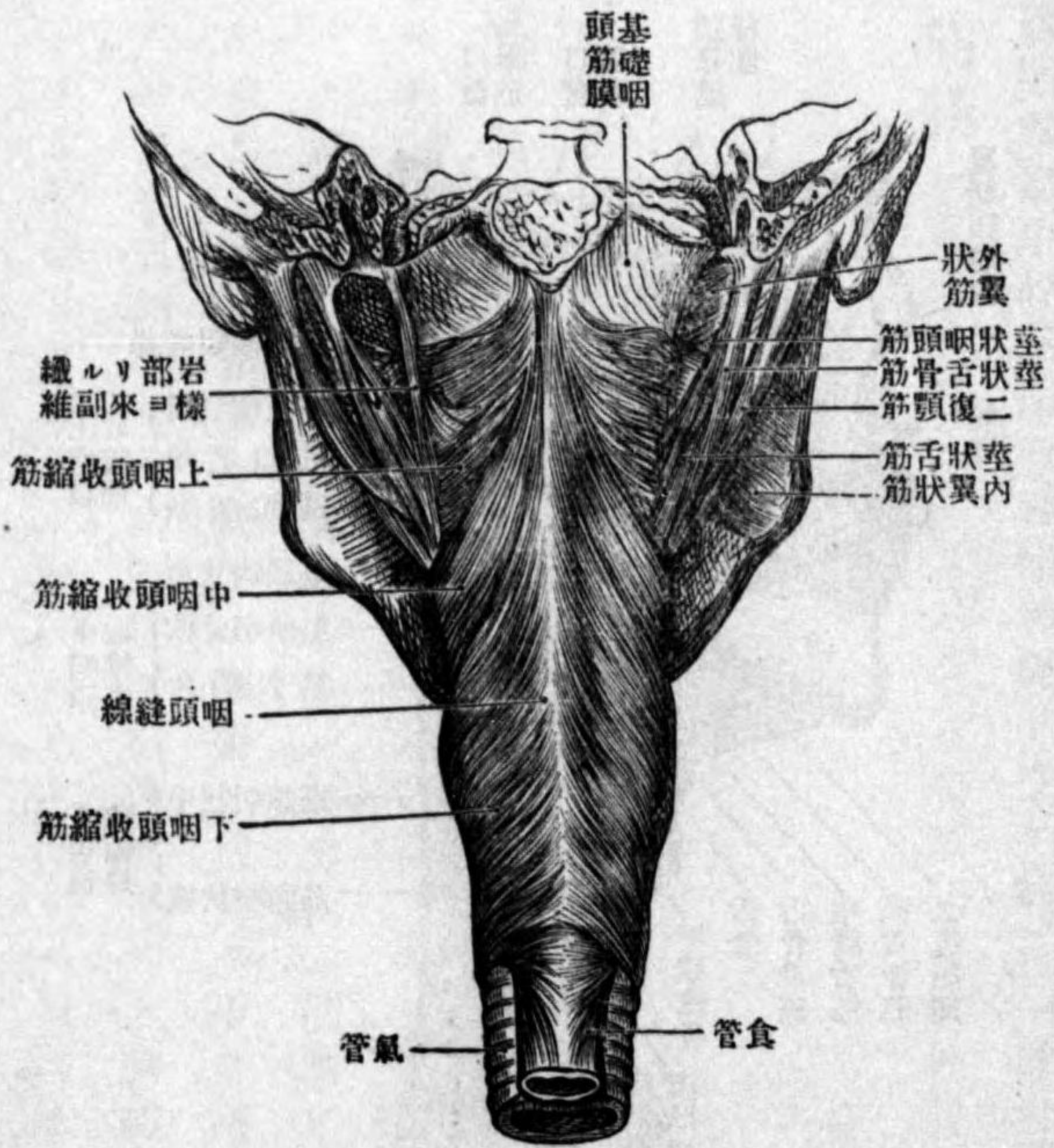


筋ハ縱横ノ二種アリ、横筋ハ收縮筋 Constrictores, Schlundschnitter ニシテ專ラ咽頭壁ヲ爲シ縱筋即舉筋 Levatores, Schlundheber ハ頭蓋底ニ起リ横筋ノ内節ニ終ル、收縮筋ハ左右同形ノ扁平筋ニシテ咽頭後壁ノ正中線ニ於テ左右相接觸シ縫線 Raphe ヲ爲シ、起始ハ側方ニアリ

下收縮筋、中收縮筋、上收縮筋是ナリ下、中收縮筋ハ起始部ヨリ放線狀ニ分散シ、其上縁ヲ以テ順次上在筋ノ下縁ヲ外側ヨリ覆フ

1. 下收縮筋 M. constrictor inferior 一名喉頭咽頭筋 M. laryngo-pharyngeus ハ環狀

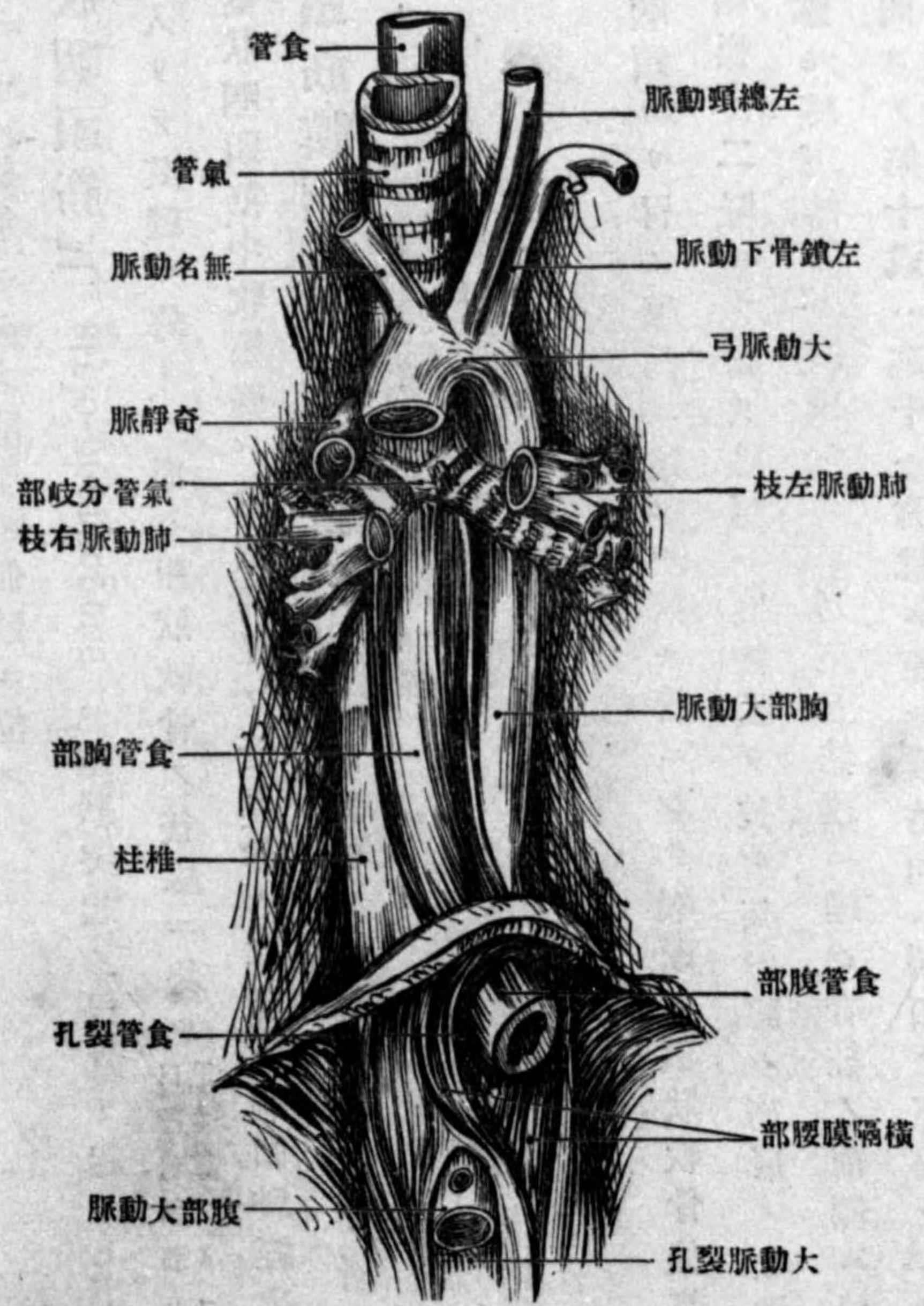
圖三十六百四第
面後筋縮收頭咽



軟骨ノ側部及甲狀軟骨板ヨリ起ル、故ニ環狀咽頭筋及甲狀咽頭筋 M. crico-und-thyreo-pharyngeus ト名ク
2. 中收縮筋 M. constrictor medius 一名舌骨咽頭筋 M. hyopharyngeus ハ舌骨ヨリ起ル、其大角上縁ヨリ起ルヲ角咽頭筋 M. clato-pharyngeus 小角ヨリ起ルヲ軟骨咽頭筋 M. chondro-pharyngeus ト名ク

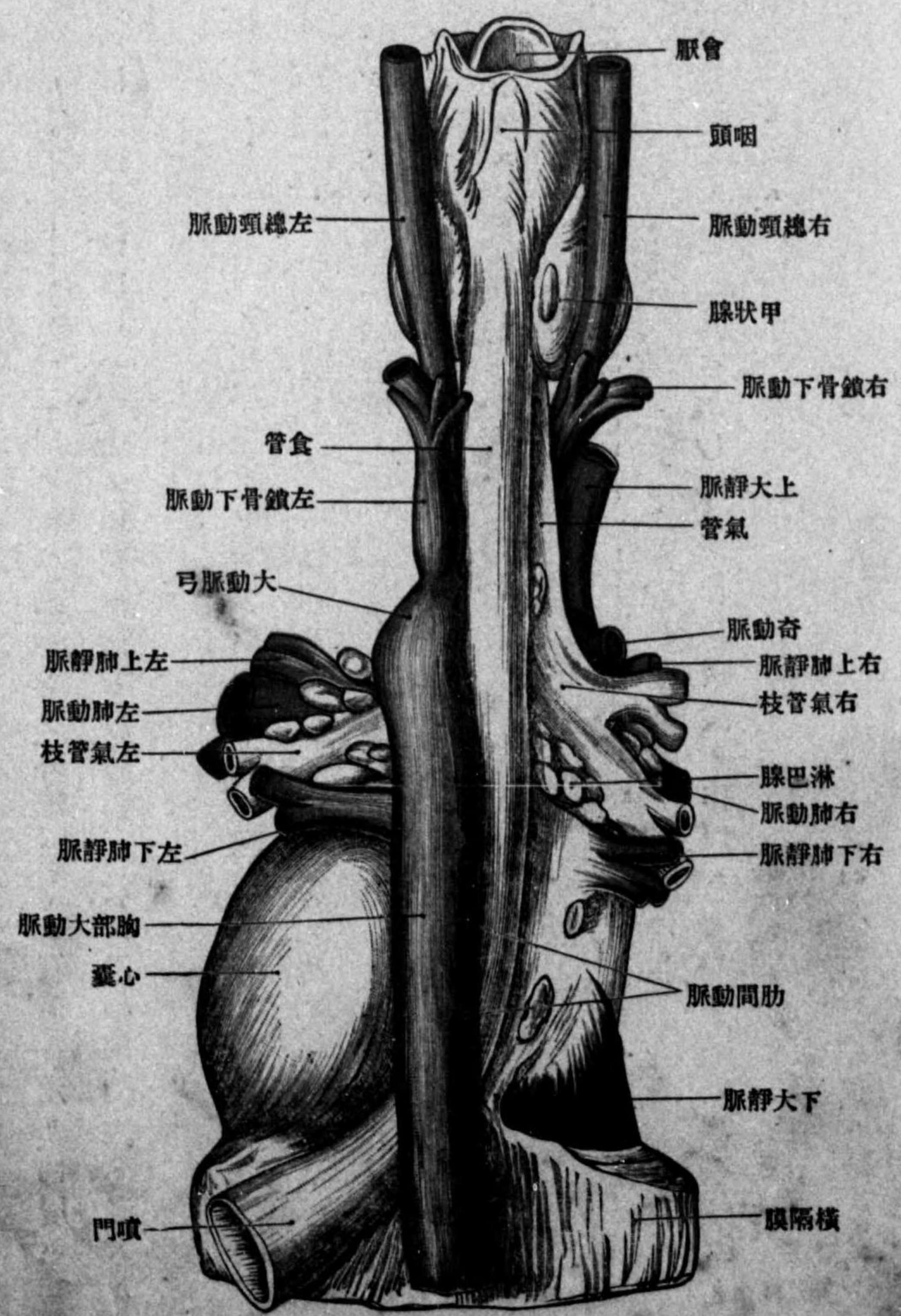
テ近傍ノ器官ト連結スルヲ以テ其運動ヲ妨ゲラル、コナシ、然レモ左氣管枝及左胸膜ヨリ微細ノ筋纖維ヲ受ク、之ヲ氣管枝食管筋 *M. broncho oesophagens* 及胸膜食管筋 *M. pleuro oesophagens* ト云フ、食管ノ兩側ニ沿ウテ迷走神經下リ、下部ニ於テハ左

圖五十六百四第
係關ノ他其及管氣管食



側ノモノハ前側ニ轉ジ、右側ノモノハ後側ニ轉ズ、食管ヲ分ツテ頸部 *Pars cervicalis* 胸部 *Pars thoracica* 腹部 *Pars abdominalis* ノ三部トナス、而シテ左氣管枝ト交叉スル部、上端及横隔膜直上部ハ

圖六十六百四第
側後係關ノ管器接隣ト管食



狭シ之ヲ狹隘 *Angustiae oesophagi* ト名ク
 食管ノ筋層 *Muskerhaut* ハ二層ノ滑平筋ニシテ、外層ハ強ク縦徑ニ走り、内層ハ弱ク輪狀ヲ爲ス、咽頭壁ノ横紋筋ハ食管ノ中部迄達シ移行部ニ於テ滑平筋纖維ト混ズルヲ見ル

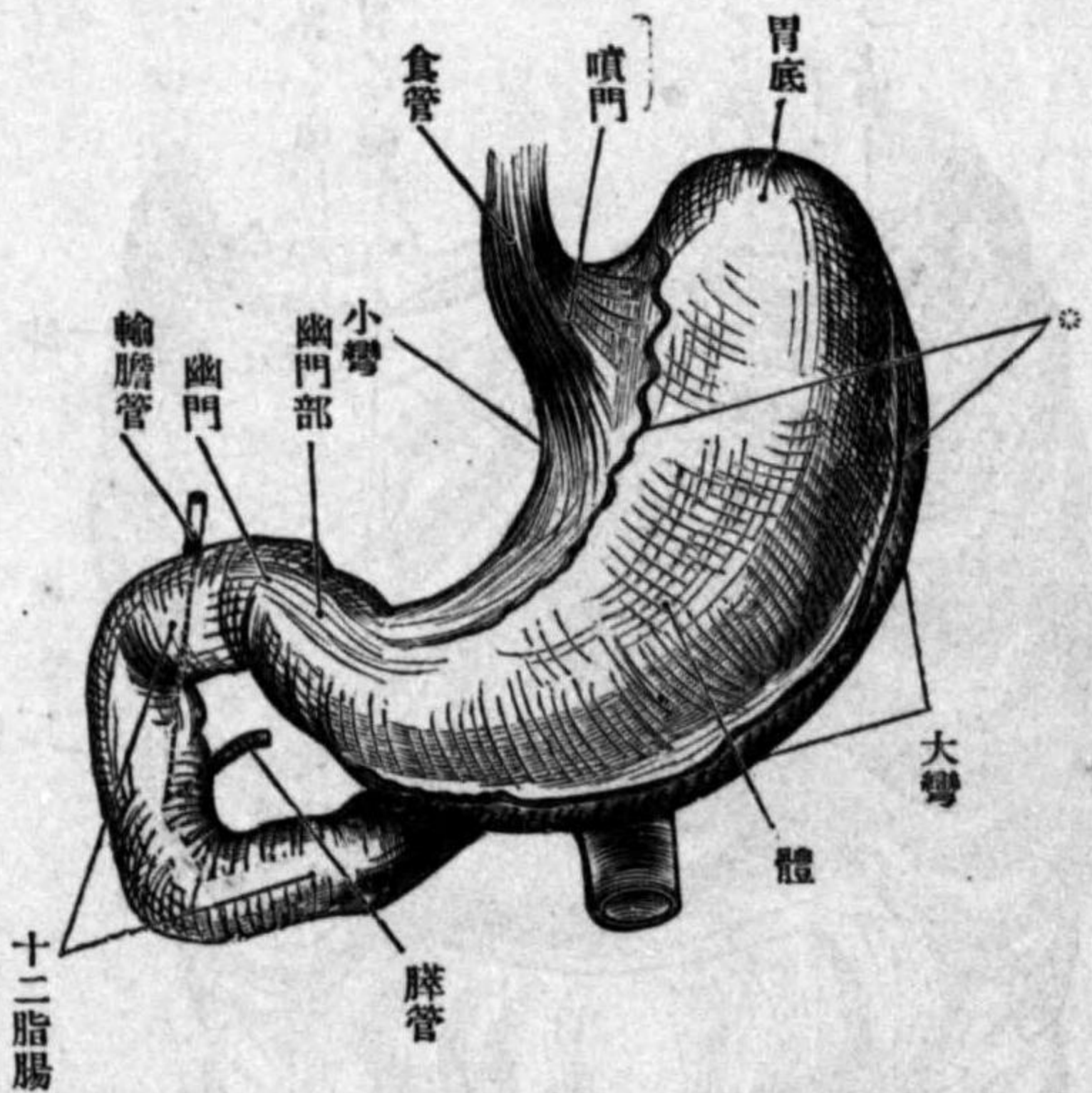
粘膜 *Schleimhaut* ハ重層ノ扁平上皮ヲ被リ、固有膜ニハ乳頭ヲ有シ小數ノ小分岐管狀粘液腺(食管腺 *Gl. oesophageae*) 及淋巴腺ヲ藏シ、又粘膜筋ヲ具フ、此筋ハ下ルニ從ヒテ厚サヲ増シ纖維ハ縦走ス、筋層トノ間ニ鬆粗ナル縦走ノ結組織層(粘膜下膜)アリ、血管神經其中ヲ走り又粘液腺ノ腺體ヲ有ス、粘膜ノ遊離面ニハ無數ノ縦皺襞アリ互ニ接觸シテ内腔ヲ閉合ス

二 胃 *Ventriculus, Gaster, Magen*

胃ハ蛋白ヲ消化シ蛋白體ヲベふしん *Pepsin* 及鹽酸ノ作用ニヨリテ溶解性ノベふとをん *Peptone* ニ變ゼシムル器ニシテ、左季肋部及上腹部ニ位シ右季肋部迄延長シ腹膜ヲ以テ覆ハレ、形チれとると狀ニシテ其廣部ヲ胃底 *Fundus ventriculi* 狹端ヲ幽門部 *Partes pyloricae* ト云ヒ、之ニ接シタル部ヲ幽門竇 *Antrum pyloricum* ト云フ、元來胃ハ植物性管

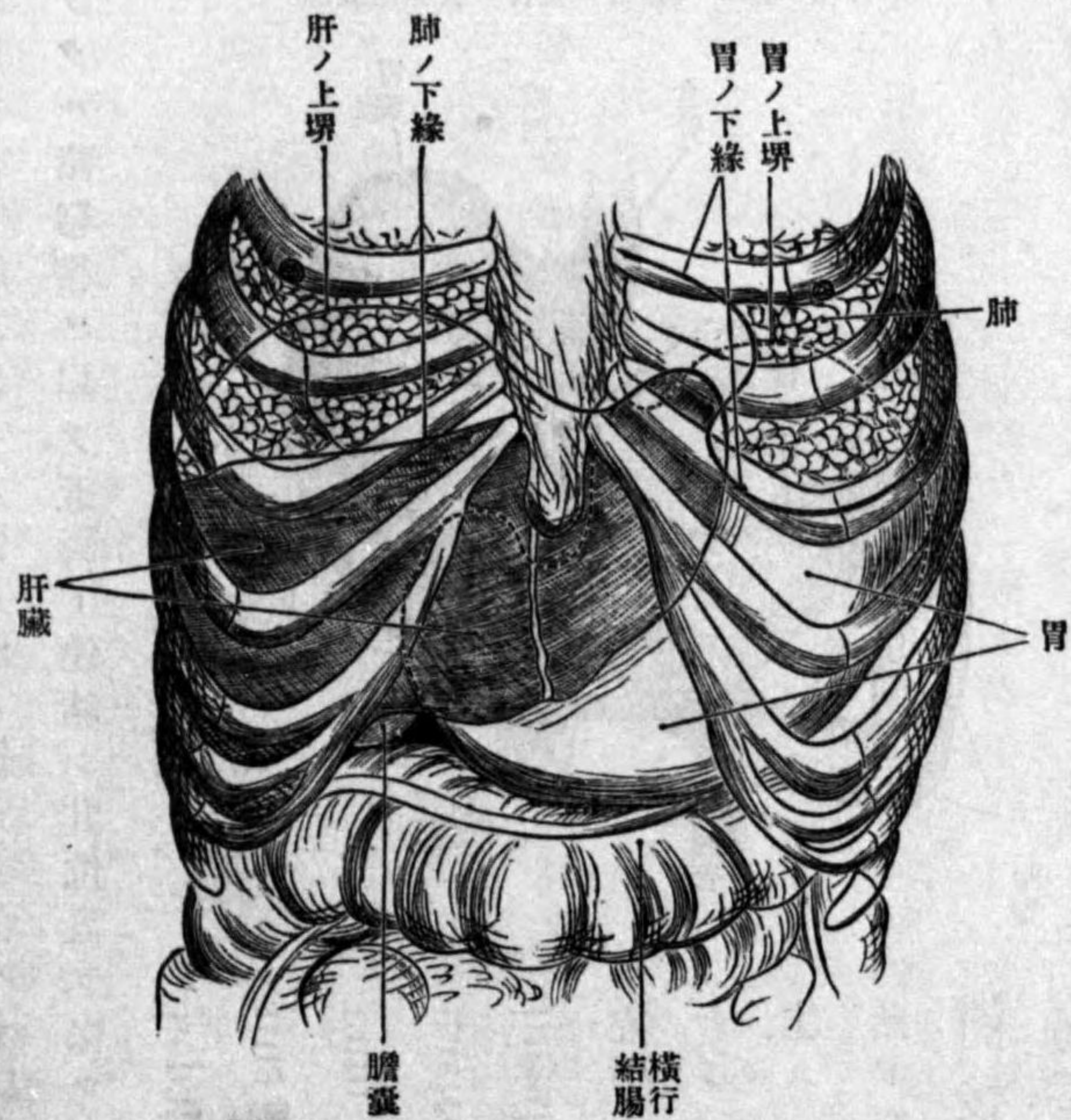
ヲ縦走スル腸管ノ一部擴張シタル部ニシテ、發育ノ進ムニ伴ヒ漸ク其形狀及位置ヲ變シテ水平ト成リ、其上方ハ横隔膜ニ接シ、前方ハ胃底ヲ除キ肝臟左葉ヲ以テ覆ハレ、下方ハ横行結腸後側ハ臍、左側ハ左腎及脾ニ接シ、右側ハ十二指腸ニ移行ス、胃ハ腹膜ノ皺襞ヨリ成リタル諸韌帶ヲ以テ近隣ト連結シ其位置ヲ保ツ即肝胃韌帶或小網 *Lig. hepato gastricum s. Omentum minus* 胃結腸韌帶 *Lig. gastro-colicum* 横隔胃韌帶 *Lig. phrenico-gastricum* 胃脾韌帶 *Lig. gastro-lineale* 之ナリ而シテ其5/6ハ體ノ左方1/6ハ右方ニ位ス、大サハ一樣ナラズ、破格的ニハ其下緣大骨盤ニ達スルモノアリト雖モ、稀ニ萎縮シ殆ド管狀ナルモノアリ、區別シテ前面、後面、小彎 *Curvatura minor* 大彎 *Curvatura major* 噴門 *Cardia* 幽

圖 七 十 六 百 四 第
 (置位然自) 面前ノ胃
 腺界境ノ部ルス著密ニ壁胃ノ板臟内膜腹



門 *Cardia* 幽

圖八十六百四第
係關ノト器臟他ト胃

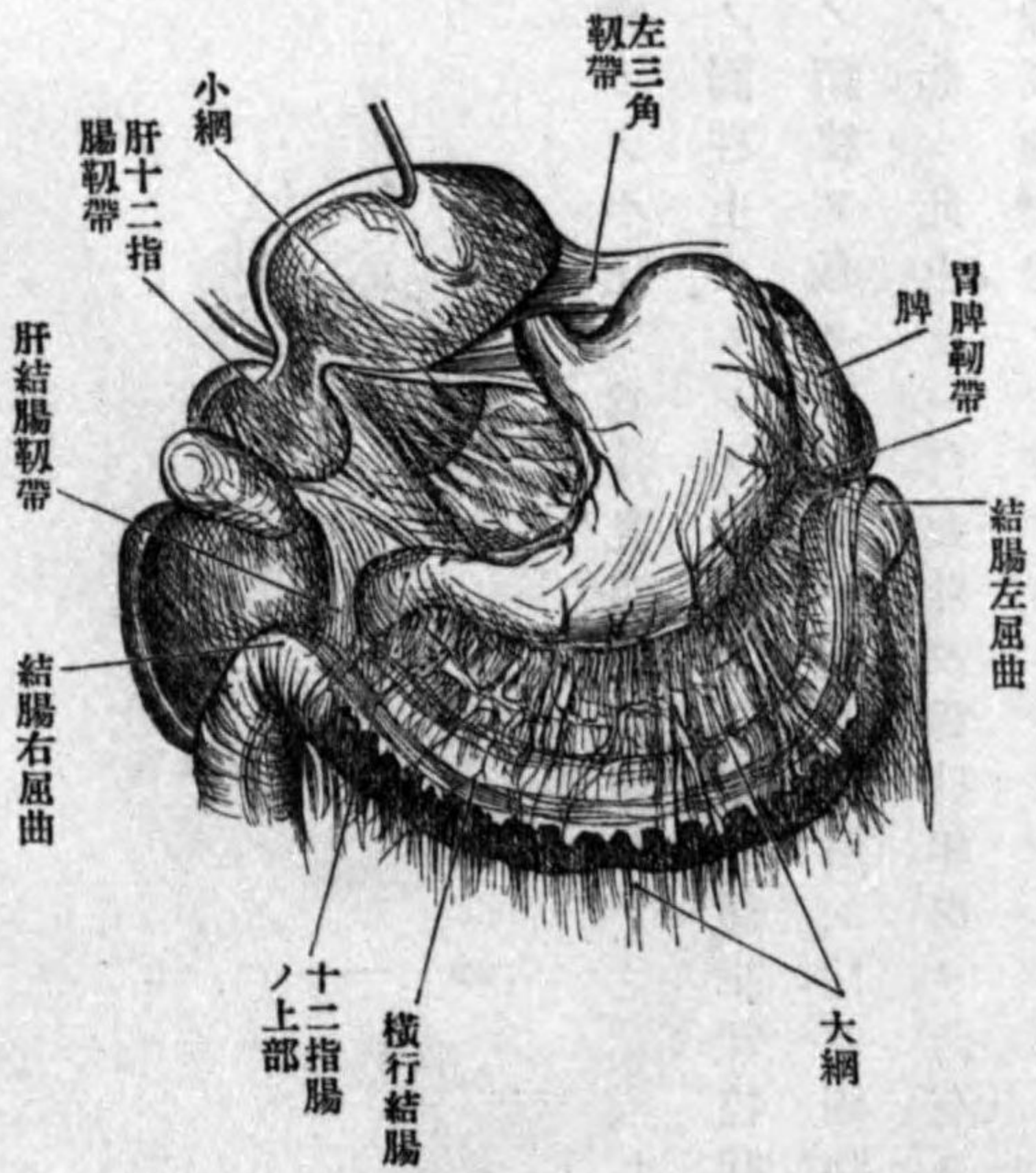


門 Pylorus トナス小彎ハ上方ニ向ヒテ凹陥大彎ハ下方ニ向ヒテ突隆シ各其長徑ニ沿ウテ腹膜附着シ胃血管幹ノ走行スル部ナリ胃ハ空虚時ニハ小彎ヲ上方ニ向ケ大彎ヲ下方ニ向ケシムト雖モ一朝膨滿スルキハ其長軸ヲ廻轉シテ小彎ヲ後方ニ向ケ大彎ヲ前方ニ轉ジテ前腹壁ニ接セシム

噴門 Cardia ハ横隔膜ノ下面第十一胸椎ノ高サニアリ

テ食管ニ連リ胃底ハ左季肋部ニ於テ横隔膜ノ頂ニ接シ噴門ヨリ稍高ク後方ハ横隔膜ノ根左腎及左副腎ニ接シ左方ハ脾ニ接ス中部即體 Corpus ventriculi ハ脊柱横隔膜ノ椎

圖九十六百四第
(上舉臟肝)帶靱ノ胃及臟肝



骨部臍ノ前側ニアリ上方ハ肝ニ覆ハレ前下方ハ横行結腸結腸左彎曲及大網ニ接ス
幽門 Pylorus ハ後腹壁ニ接シ第一腰椎ノ右方ニ位シ十二指腸ニ連ルト雖盈虚ニヨリテ其長徑ヲ變ズルヲ以テ收縮時ニハ左方擴張時ニハ右方ニ移動ス容量ハ約二〇〇〇乃至二五〇〇瓦長二五乃至三〇幅一二乃至一四仙迷ナリ

胃ノ位置ハ左方ヨリ右方ニ延長シ噴門ハ幽門ヨリ高ク小彎ハ斜ニ脊柱ヲ廻リテ左上方ヨリ右下方ニ向テ峻シク下リ其位置ハ専ラ兩端噴門及ニ於テ保持セラルモノトス胃壁ハ次ノ六層ヨリ構成セラル

1. 粘膜 Tunica mucosa ハ最内層ニシテ死體ニ於テハ灰色ヲ呈シ長キ縦及斜皺襞アリ

網狀ヲ爲シ幽門部ニ於テハ短キ網狀皺襞及絨毛狀ノ小突起絨毛襞 *Plicae villosae* ヲ現ス
粘膜炎ニハ小ナル無數ノ胃小窩 *Foveolae gastricae*, *Magengrübchen* ヲリ窩口ノ周圍

圖 十 七 百 四 第
面 觸 接 器 臟 他 ノ 面 前 胃

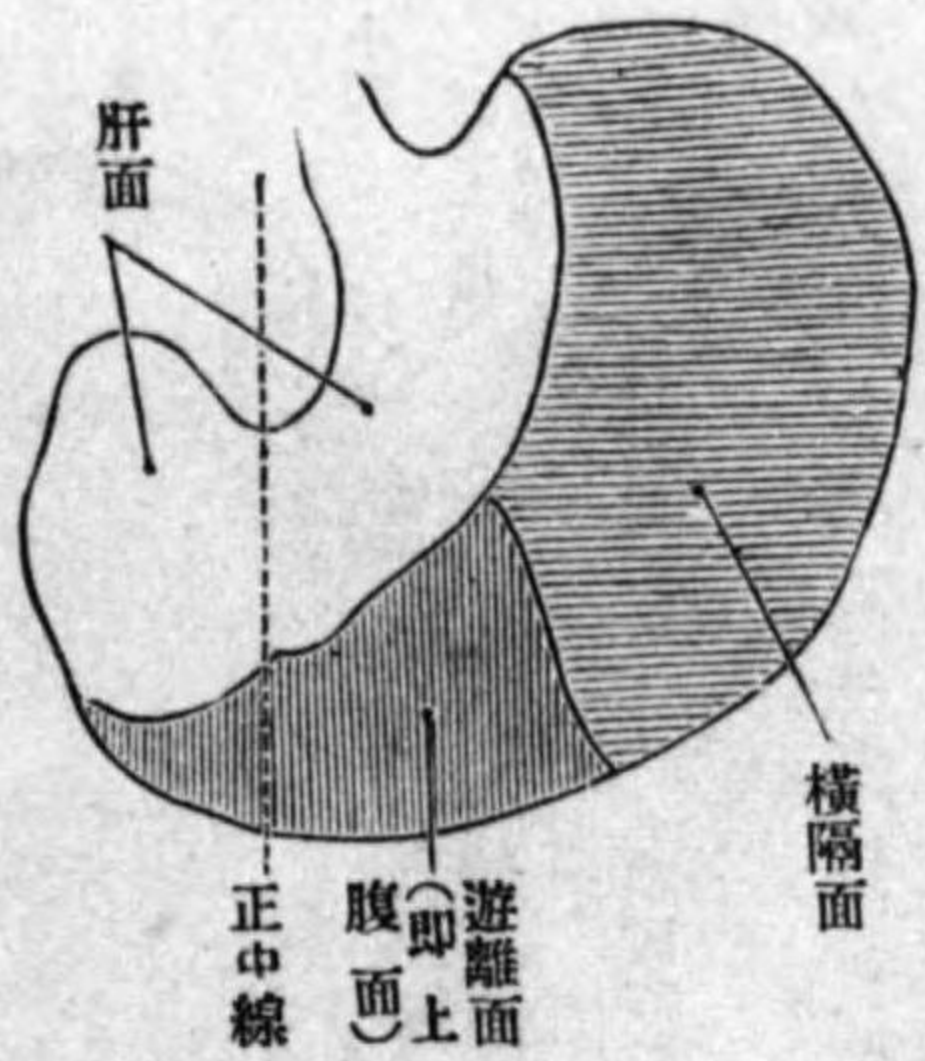
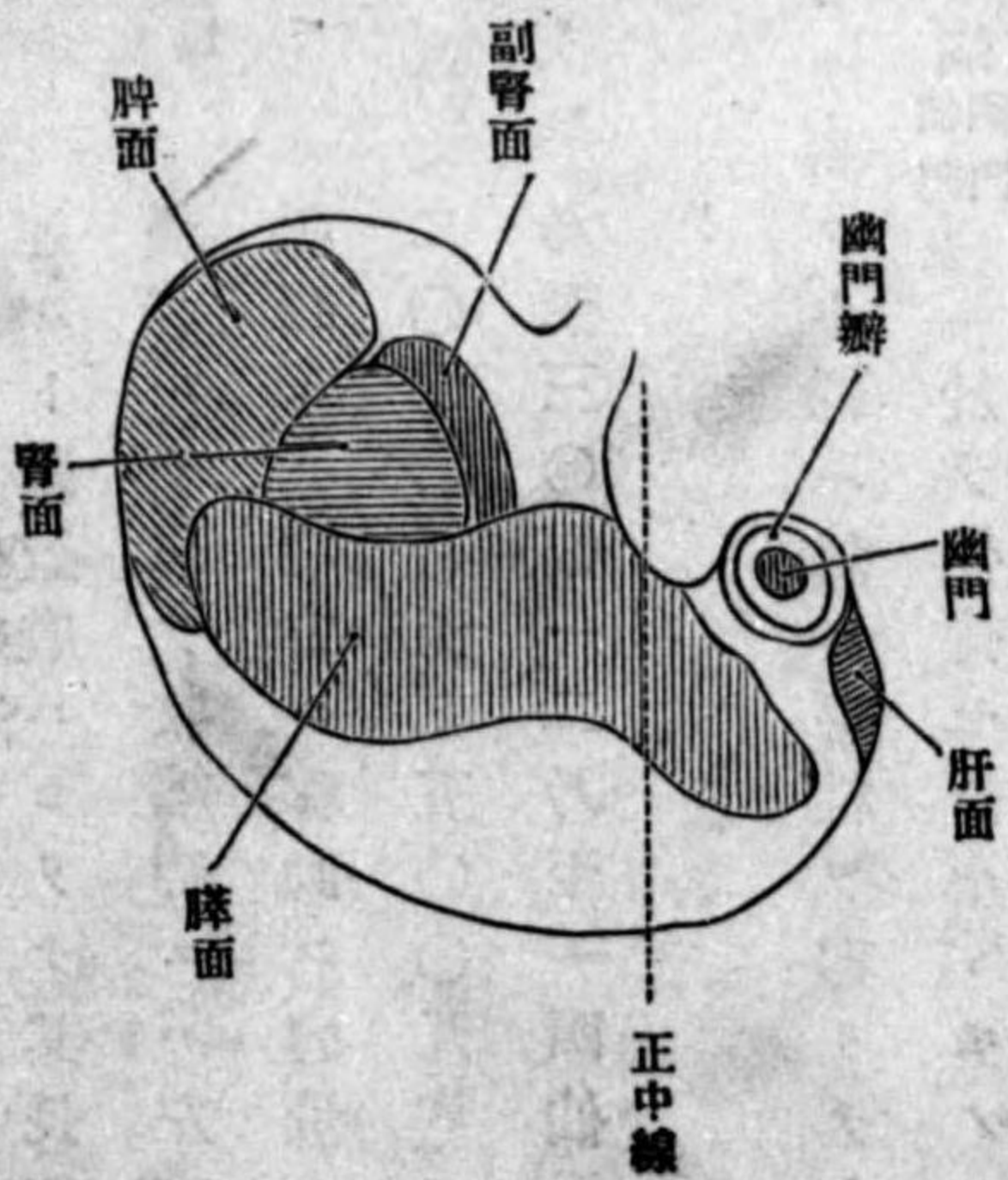


圖 一 十 七 百 四 第
面 觸 接 器 臟 他 ノ 面 後 胃



ハ稍突隆シテ小丘ヲ爲ス乳頭狀態 *Etat mamelonne* ト云フ窩底ニ胃腺開口ス、粘膜炎ノ表面
ハ單層ノ圓柱上皮ニシテ細胞ノ下半ハ微細顆粒狀ヲ呈シ核ヲ含ミ上部ハ稍暗色ニシ
テ粗大ノ顆粒ヲ有ス此顆粒ハ變性溶解シ往々細胞ノ上部ヲ破リテ流出スルヲ恰モ杯
狀細胞ノ如シ此上皮ハ白血球及腺狀組織ヲ含有スル纖維性ノ固有膜上ニアリ粘膜炎
ハ胃底腺及幽門腺ノ二種ヲ有ス

胃腺

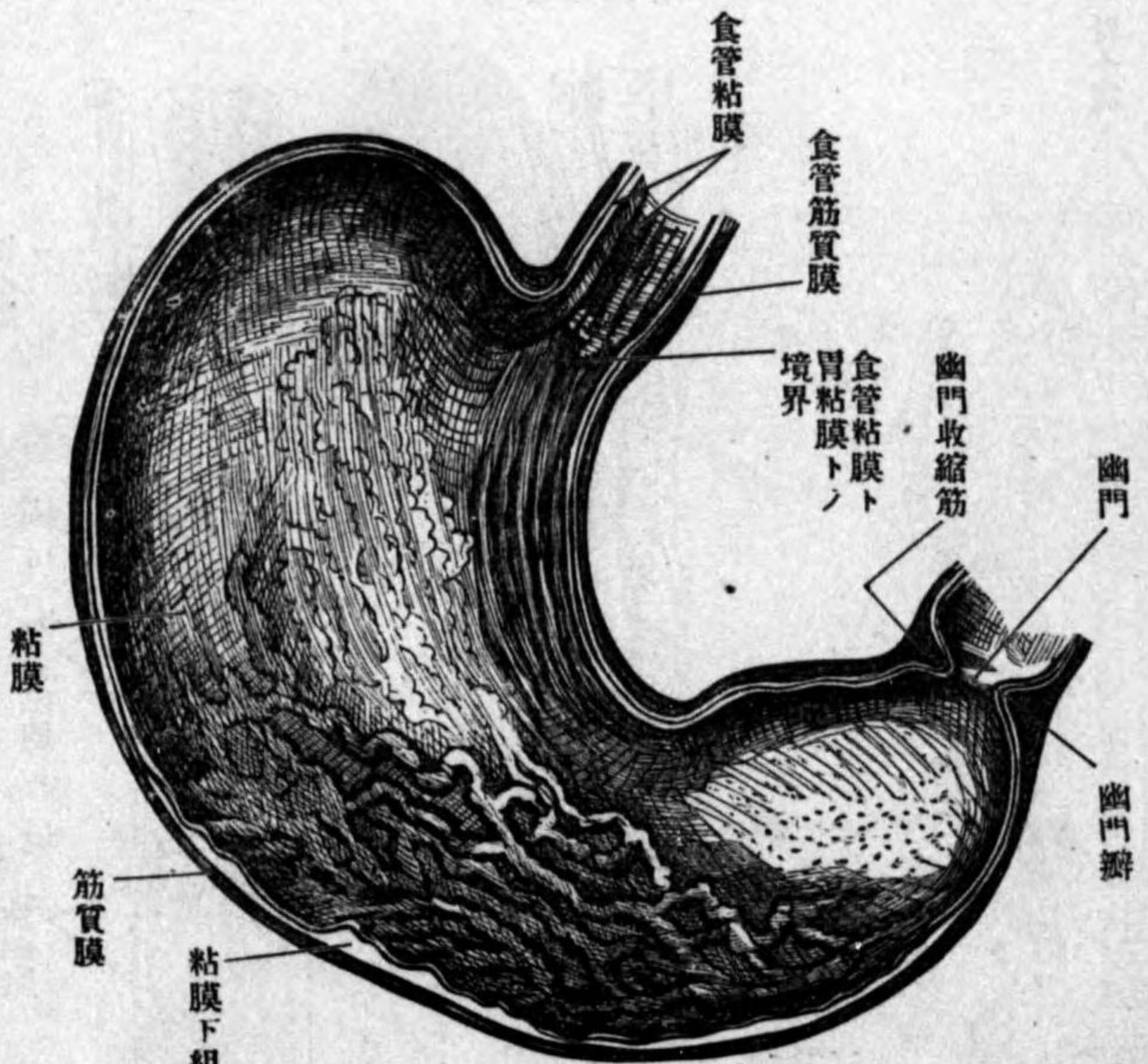
Glandulae gastricae 胃底腺 *Fundusdrüsen* ハ胃底部其他ニ廣ク存在スル單管狀腺
ニシテ其形狀手囊ノ指ニ髣髴タリ、(*handschuhfingerförmige Drüsen*) 細胞二種アリ主細

胞 *Hauptzellen* 及覆壁細

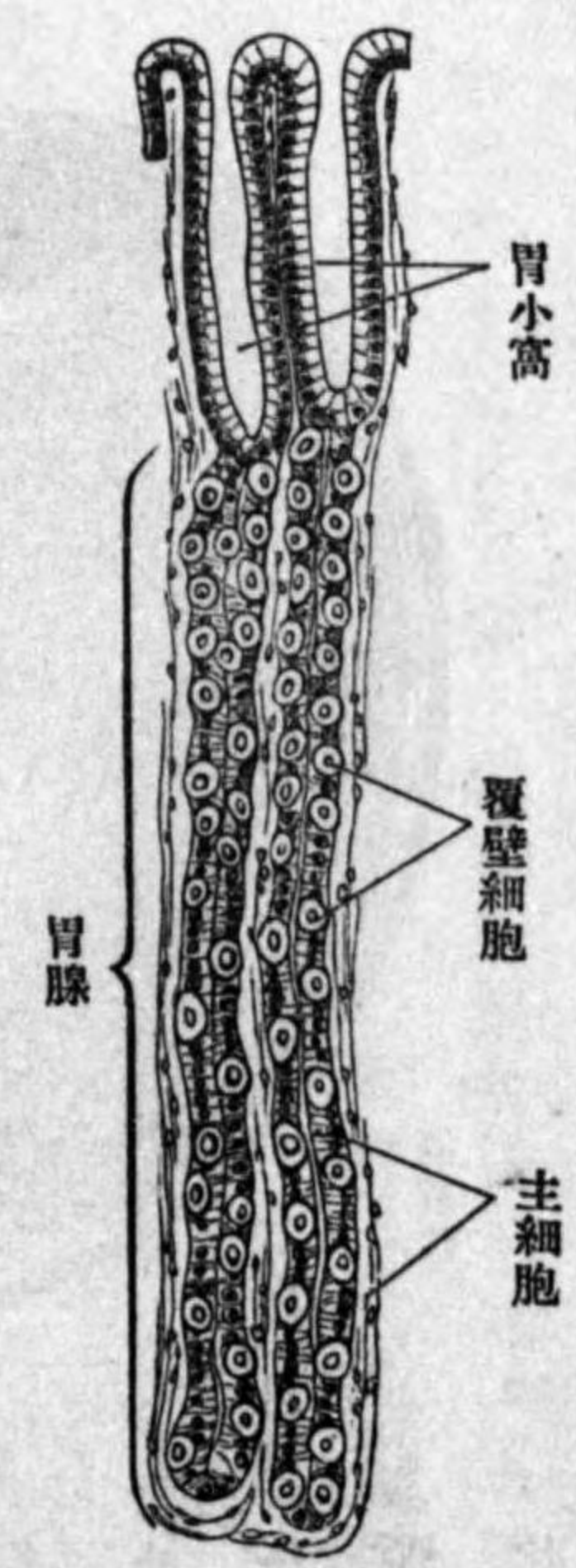
胞 *Belegzellen* 之ナリ主細

胞ハ其多數ヲ占メ暗色ニシテ胞體及胞核ノ境界判明ナラズ胞體中ニ多數ノ光澤アル顆粒ヲ含ミ固定硬化ニヨリ却テ透明トナリ檢舉シ難クベふしんヲ分泌シ、覆壁細胞ハ腺頸ニ多ク腺底ニ稀ニシテ主細胞ノ外方ニ存シ形狀圓形若クハ橢圓形ニシテ大ナリ然シテ體內ニ細顆粒ヲ含ミ境界判然シ固定硬化ヲ施セハ暗色ニ變シテ檢出

圖 二 十 七 百 四 第
面 內 半 前 斷 額 前 胃



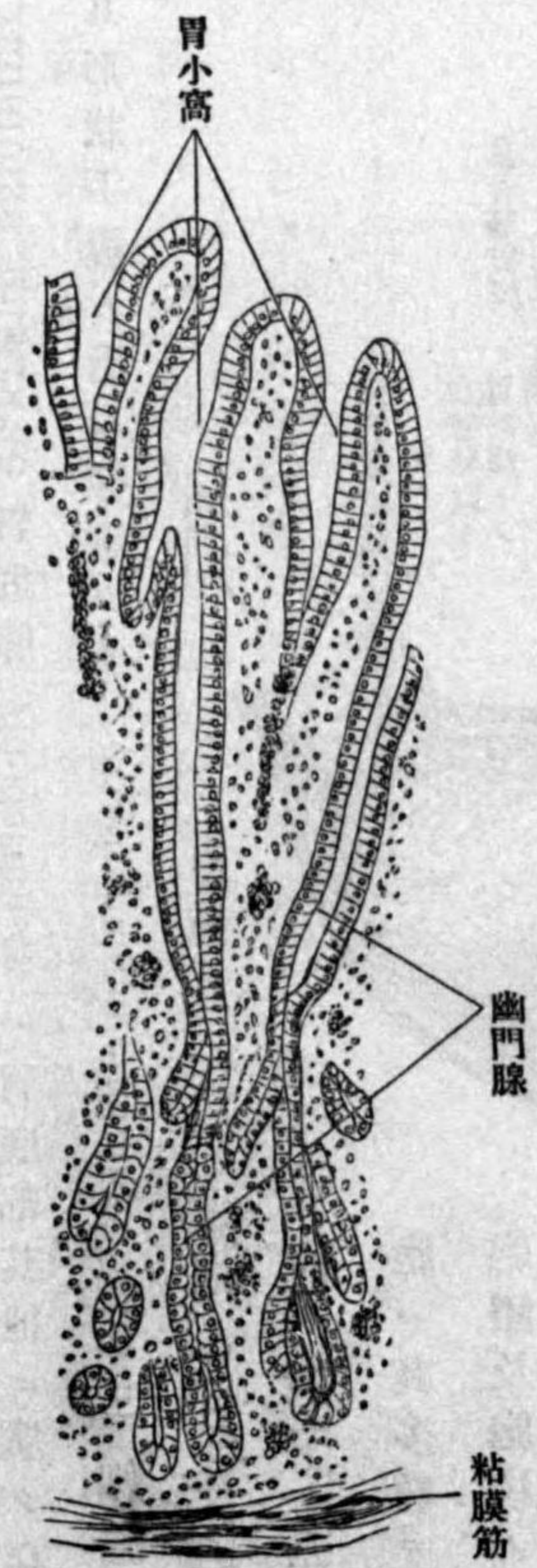
圖三十七百四第
腺底胃



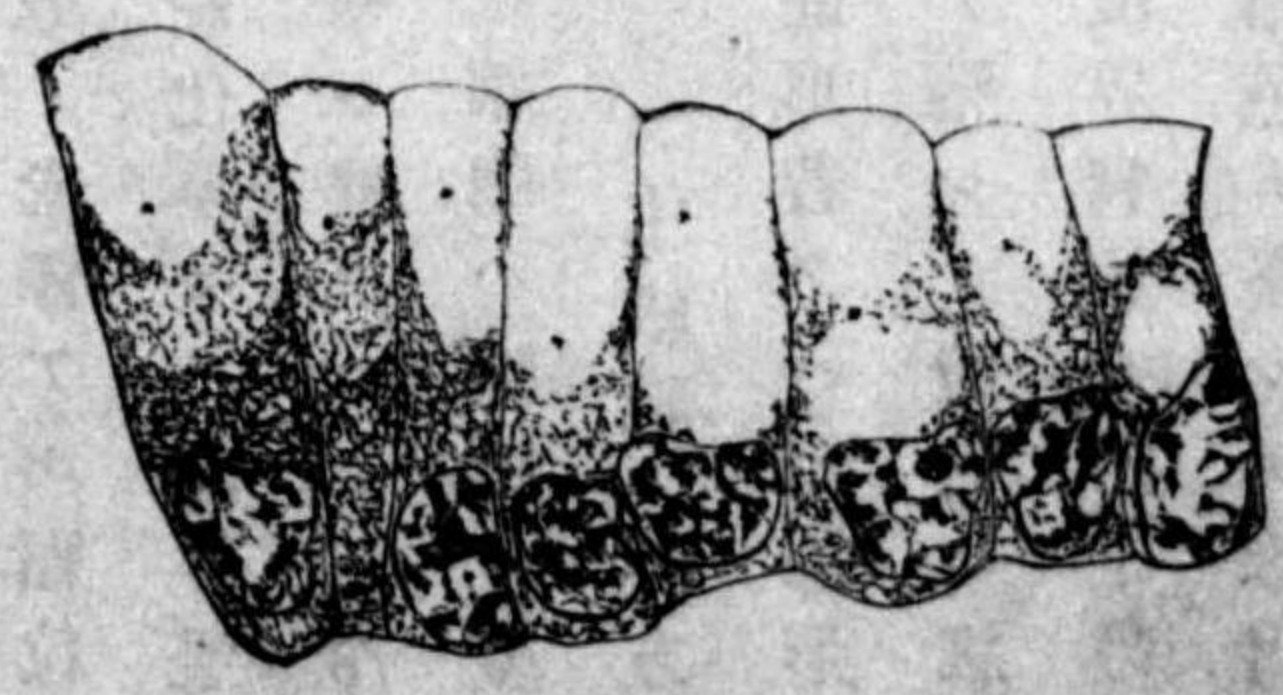
圖五十七百四第
腺底胃
管細毛泌分



圖六十七百四第
腺門幽

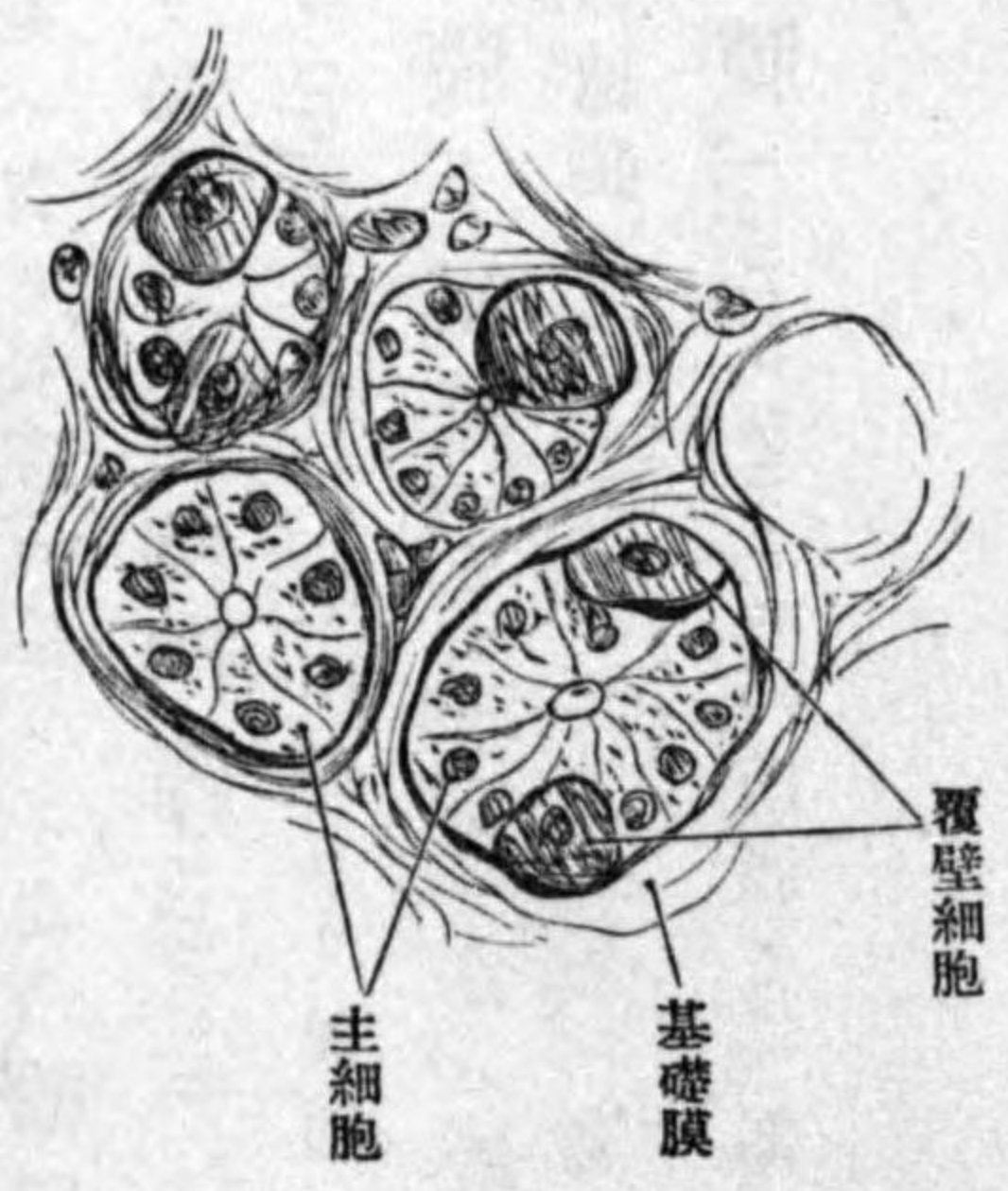


圖四十七百四第
皮上ノ胃
(M. Heidenhain)

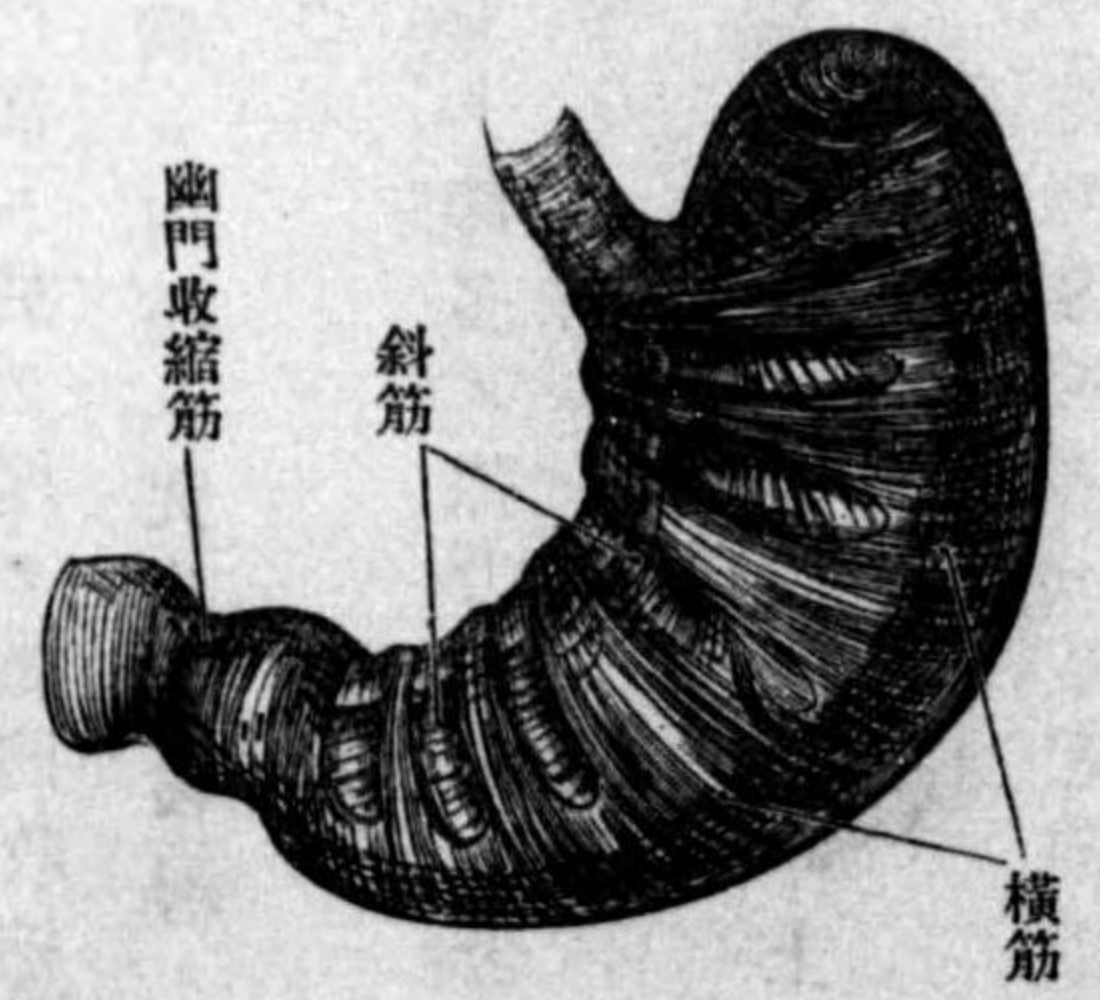


シ易ク小顆粒
ヲ呈シ鹽酸ヲ
分泌ス此ノ細
胞ハ細網狀ノ
分泌毛細管
Sekretkapilla-

圖七十七百四第
面斷ノ腺底胃



圖九十七百四第
層内膜質筋ノ胃



圖八十七百四第
層外膜質筋ノ胃



圖十八百四第
△望ヲ門幽リヨ竇門幽



renヲ以テ圍
擁セラル幽
門腺 Glandulae pyloricaeハ幽門部ニアル小
分岐管狀腺
ニシテ内面
ハ主細胞ニ
類スル細胞
ヲ以テ覆ハ
レ粘液ヲ分
泌スルノミ
ナラズベ
シんヲある

かり性液トシテ分泌スルモノナリト云フ其他食道下端ト胃トノ境界ニ幽門腺ニ類スル集合管狀腺 Cardia drüsenアリ往々多數ノ覆壁細胞ヲモ有スト

2. 粘膜炎 Lamina muscularis mucosae ハ粘膜炎ノ深層ニアル微細ノ滑平筋層ニシテ腺ノ周圍ヲ縫綴シ或ハ其間ヲ昇ル纖維アリ、腺ノ排泄ニ關係ヲ有スルガ如シ

3. 粘膜炎下組織 Tela submucosa ハ鬆粗結締組織ニシテ、粘膜炎ニ分布スル血管神經ヲ有シ、血管ハ爰ヨリ縦徑ノ毛細管網トナリ腺ヲ圍擁ス

4. 筋層 Tunica muscularis ハ外縦層 Stratum longitudinale 内輪層 Stratum circulare ヲ爲シ、縦層ノ纖維ハ胃ノ長徑ニ沿ウテ走リ輪層ハ幽門部ニ於テ厚ク幽門收縮筋 Sphincter pyloriトナリ粘膜炎ト共ニ幽門瓣 valvula pyloriヲ爲シ内腔ニ突出ス、輪層ノ内側ニ斜纖維 fibrae obliquaeアリ噴門部ヨリ周圍ニ分散ス

5. 漿液膜下組織 Tela subserosa ハ纖維層ニシテ許多ノ彈力纖維ヲ含ミ、筋層ノ運動ニ應ジテ縮張ス

6. 漿液膜 Tunica serosa ハ腹膜炎ノ一部ニシテ結締織性ノ薄膜ニ扁平上皮ヲ被リタルモノナリ

胃ノ神經ハ迷走神經及交感神經ニシテ二種ノ叢ヲ爲ス一ハ粘膜炎下叢 Plexus submucosus (Meissneri). 一ハ筋肉叢 Plexus myentericus (Auerbachii) ニシテ縦横二層筋ノ間或ハ筋中ニ

アリ
血管ハ左冠動脈、右冠動脈、肝動脈、左胃網膜動脈、脾動脈、右胃網膜動脈、腸動脈、十二指腸動脈、上腸間膜靜脈ニ注ギ、或ハ直接ニ門脈ニ注グコトアリ

淋巴管ハ粘膜炎ヨリ粘膜炎下網次テ筋層網ニ下リ終ニ漿液膜下ニ出テ血管ニ伴行ス

木 腸 Intestinum, Darmkanal

分テ小腸 Dünndarm 及大腸 Dickdarm ノ二部トナヌ

い 小腸 Intestinum tenue, Dünndarm

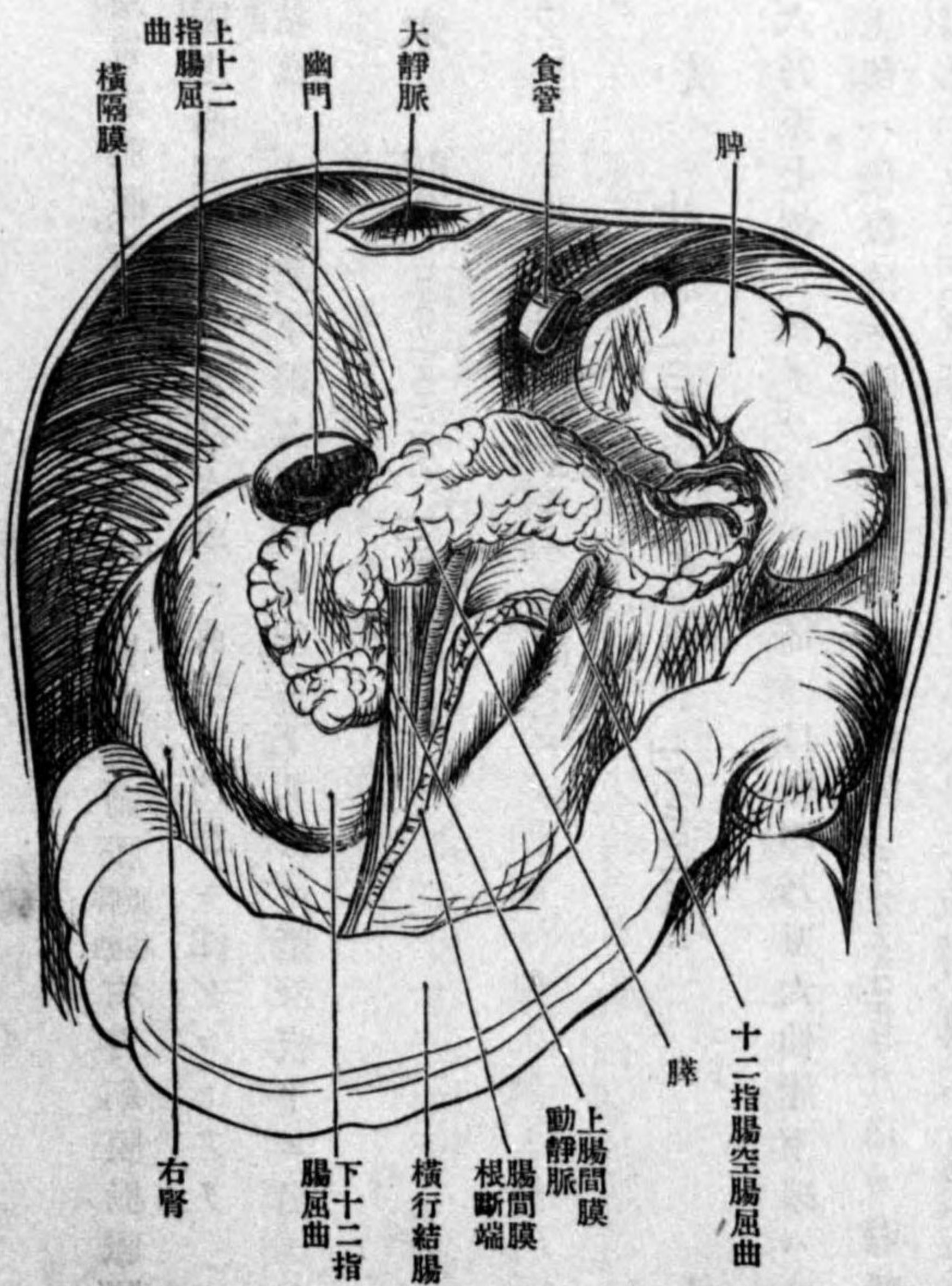
小腸ハ約六乃至七迷ノ長サヲ有シ、上部ハ口徑四乃至六仙迷、下端ハ二五乃至三仙迷ナリ然シテ上部ハ後復壁ニ附著シ其他ハ腸間膜 Mesenterium ヲ以テ遊離的ニ後復壁ニ連ル、故ニ腸間膜ナキ十二指腸 Duodenum ヲ除キ、餘ヲ腸間膜小腸 Intestinum tenue mesenteriale ト云ヒ其上半ハ空腸 Jejunum ニシテ下半ハ廻腸 Ileum ナリ

十一 脂腸 Duodenum, Zwölffingerdarm ハ蹄鐵形ニシテ左方ニ向ヒ、其彎曲部ニ臍頭

ヲ含ミ長サ約三十仙迷アリ、之ヲ三部ニ分ツ、上部(横行部) Pars superior, transversae
ハ脊柱ノ右方ヲ殆ド水平ニ後右方ニ走リ、直角(十二指腸上屈曲 Flexura duodeni
superior) ヲ以テ

下行部ニ連ル、下
行部 Pars des-
cendens、右腎ノ
前ヲ下リ第三腰
椎ノ高サニ於テ
銳角(十二指腸
下屈曲 Flexura
duodeni inferior)
ヲ以テ下部ニ移
ル、下部 Pars in-
ferior (水平部
horizontalis) 又上

圖 一 十 八 百 四 第
係 關 ノ 器 臟 他 ト 腸 指 二 十
(ス 壓 ニ 方 下 ヲ 腸 結 行 横、去 除 胃 肝)



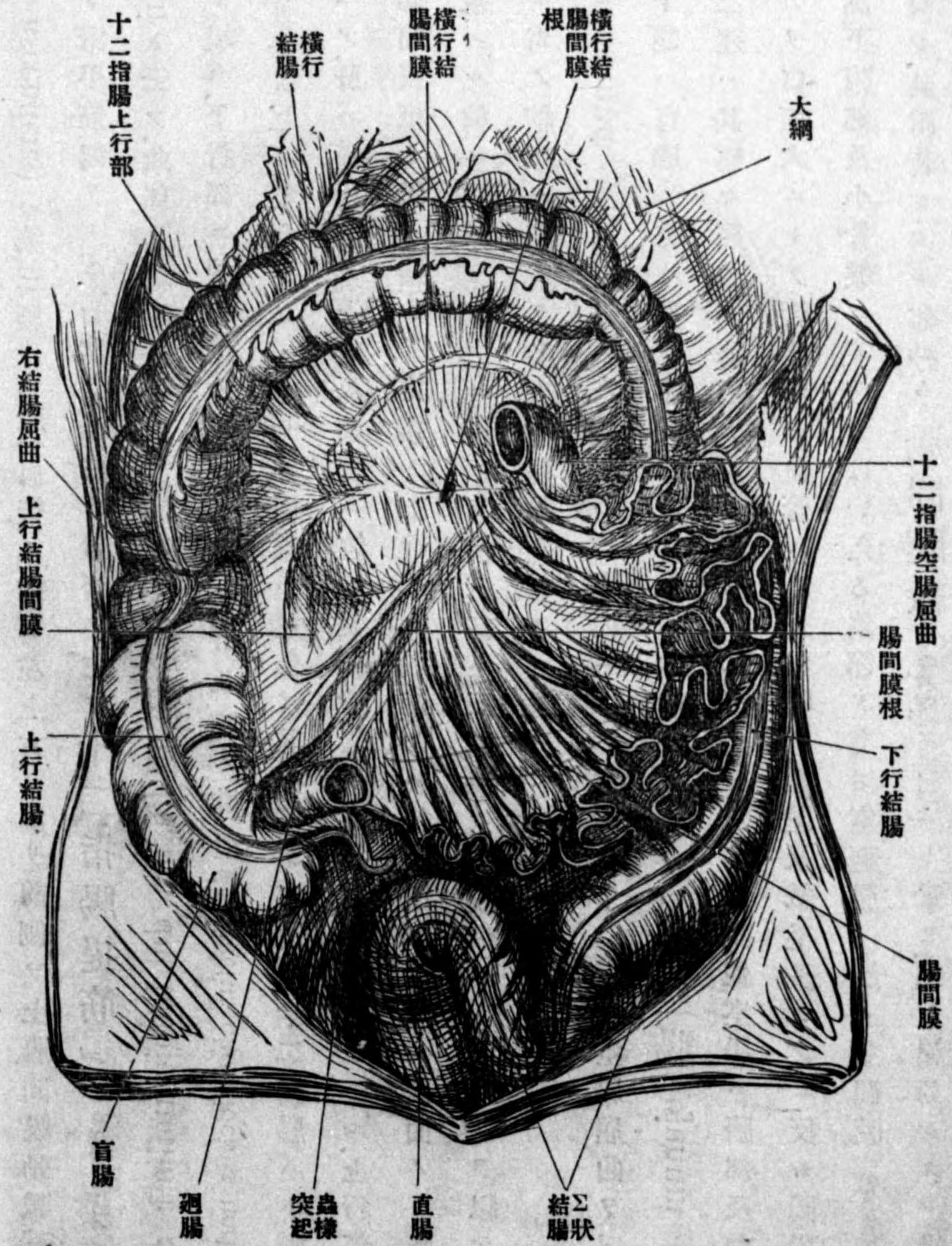
行部 Pars ascendens) ハ第三腰椎及大血管ノ前ヲ左上方ニ走リ前側ヲ上腸間膜動脈下

リ、其鞘ヨリ滑平筋起リテ上行部ノ始部ニ附著ス之ヲ十二指腸提筋 M. suspensorius duodeni ト云フ、此部ノ終端ハ十二指腸空腸屈曲 Flexura duodenojejunalis ニ
リテ空腸ト境ス、下行部ニ於テ後方及左方ヨリ肝及膵ノ排泄管 Ductus choledochus und
Ductus pancreaticus 互ニ集合シツ、來リ各別或ハ連合シ其後壁ヲ穿通ス、十二指腸ハ小腸
中最廣部ニシテ肝ハ横行部ノ上方及前方ニ位シ、其排泄管ハ横行部ノ後方ヲ下ル、上行部
ノ前側ハ腸間膜根ト斜ニ接シ、下行部ト上行部トノ後面ハ後腹壁ト接著シ、前面ノミ腹
膜ヲ以テ被ハル故ニ移動セズ之ニ反シテ横行部ハ周壁悉ク腹膜 (後面ハ網膜蓋ヲ以テ
被覆セラレ胃ノ縮張ニ應ジテ多少ノ移動ヲナスニ適スベシ)

空廻腸 Intestinum jejunoleum 空廻腸ハ約五迷ニシテ、上端ハ十二指腸空腸屈曲ヲ以
テ始マリ、下端ハ盲腸ニ終ル、其上半約二迷ノ部ハ空虛時多キヲ以テ空腸 Jejunum ト
シ、下半約二迷ハ其轉々屈曲ノ著明ナルヲ以テ廻腸 Ileum トス、其他空腸ハ臍部及左
腸骨窩ニアリ口徑大ニシテ管壁厚ク血管ニ富ミ粘膜ノ皺壁及絨毛多シ之ニ反シ回腸
ハ右腸骨窩、下腹部及小骨盤ニアリテばいえる集節ヲ有ス空廻腸ハ廣キ腸間膜 Mesen-
terium ヲ有シ、其附著シタル部分ヲ腸間膜縁 gekroserand ト云ヒ、之ト相對シタル縁

圖 二 十 八 百 四 第

轉ニ方上ニ共ト網大ヲ腸結行横)腸大
(ズ轉ニ方左ヲ膜間腸シ去除ヲ腸小、シ



ヲ遊離縁 *Freiendrand* ト云フ此部ハ數回彎曲(廻轉 *Windungen*) シテ腹腔ノ中及下部ヲ占メ下方ハ骨盤腔ニ入ル腸間膜ハ扇面狀ヲ爲シ狹縁ハ後腹壁ニ連リ廣縁ハ非常ニ延張シテ巨多ノ皺襞性移動ヲ生ジ腸ノ腸間膜縁ニ連ル狹縁ヲ腸間膜根 *Radix mesen-*

圖 三 十 八 百 四 第

面 膜 粘 腸 空

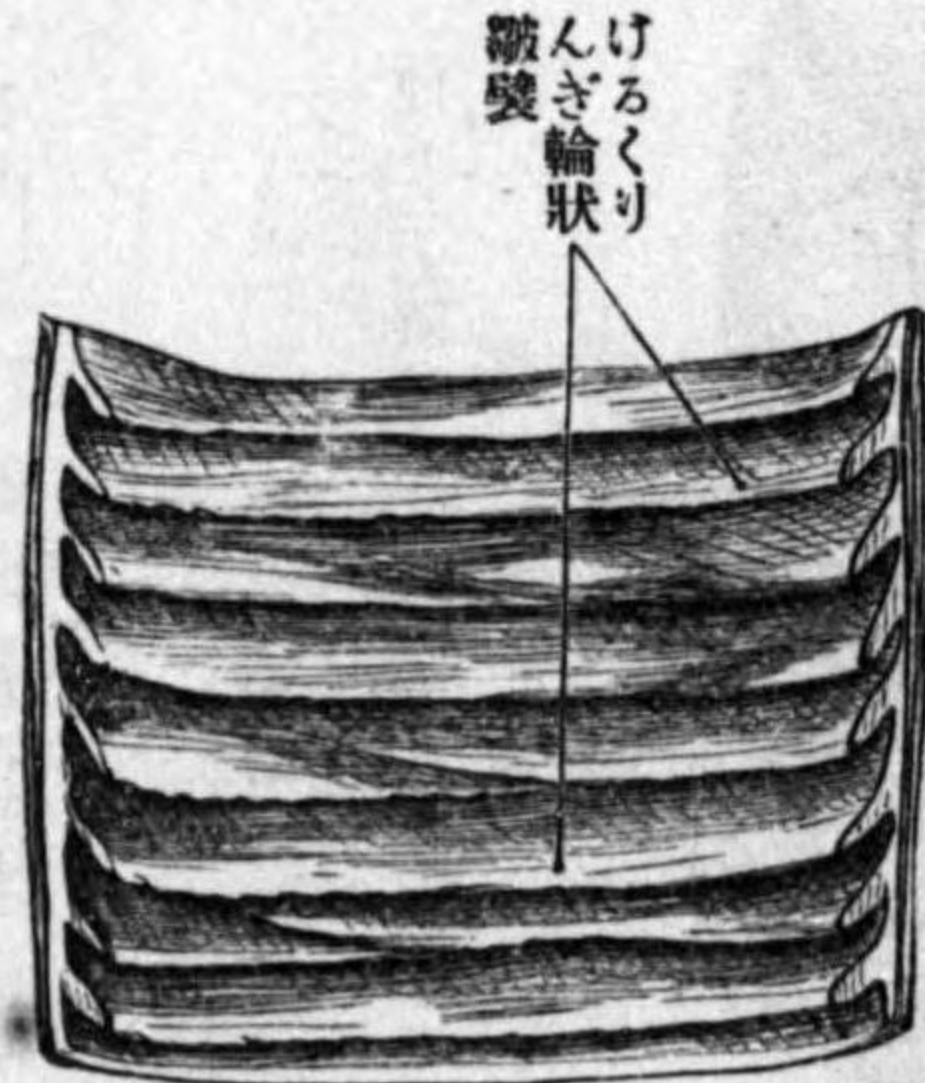


圖 四 十 八 百 四 第

面 斷 部 頭 乳 ノ 腸 指 二 十

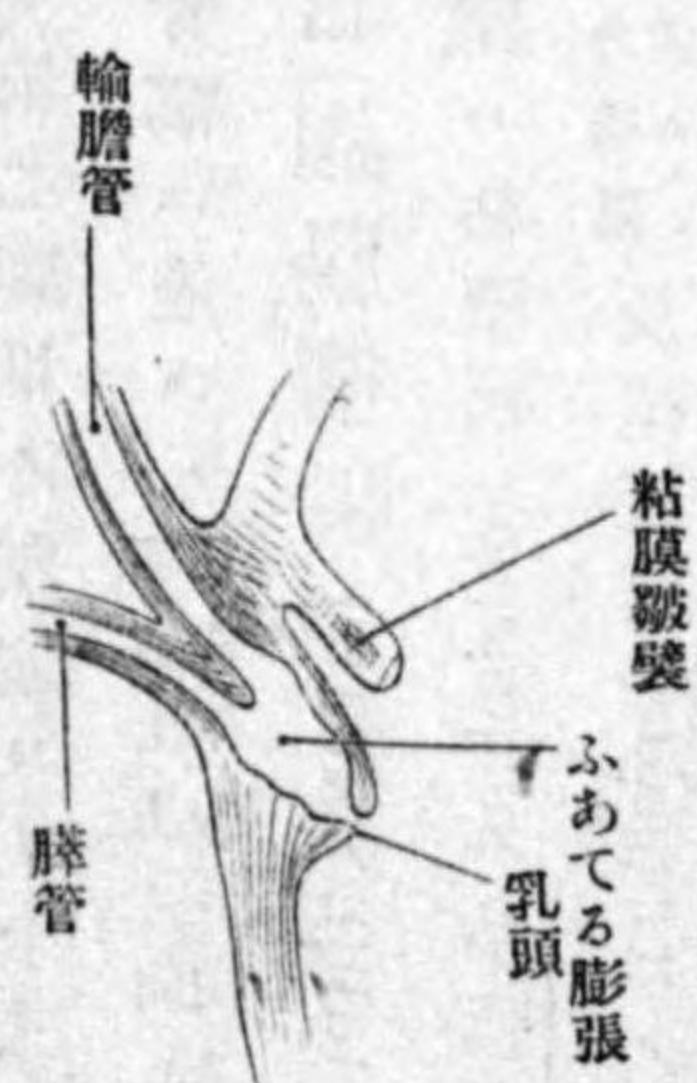
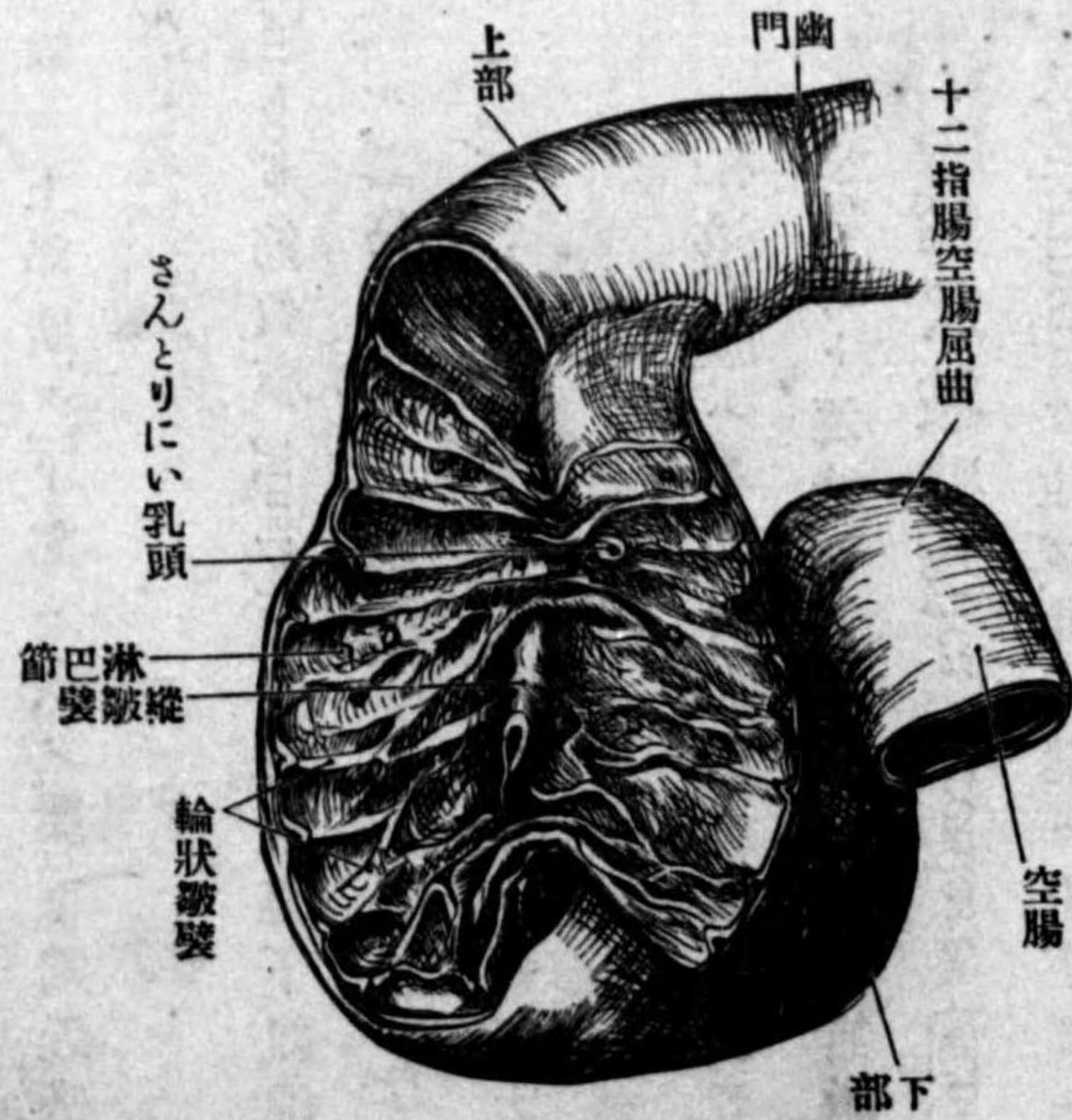


圖 五 十 八 百 四 第

ク 開 ナ 壁 前 腸 指 二 十

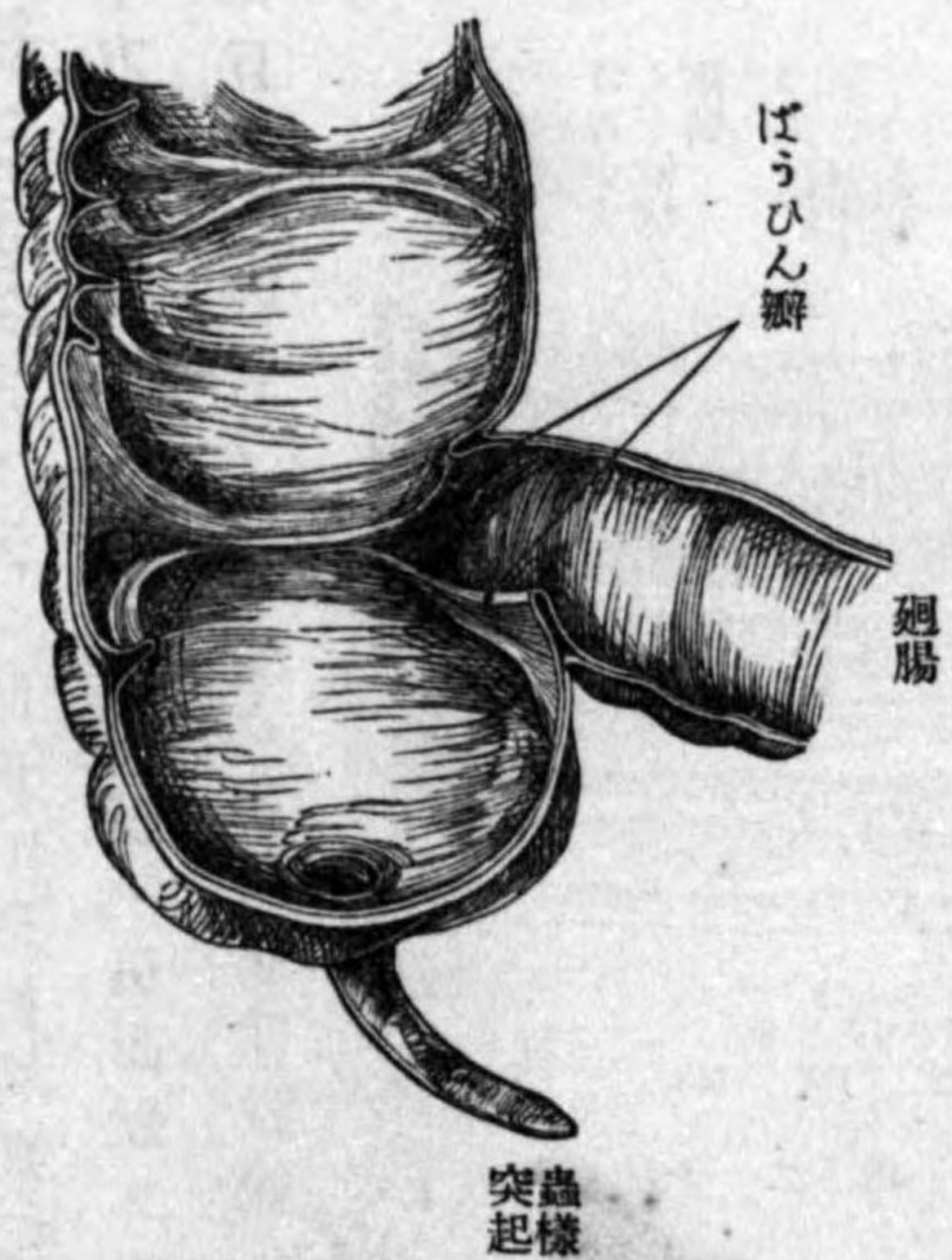


Teriト云ヒ、第二腰椎ノ左側ヨリ十二指腸地平部椎柱及大血管ノ前ヲ斜ニ右下方ニ走リ右ノ腸骨窩ニ達ス一面右上方ニ向ヒ小腸ハ一般ニ上部廣ク下部ハ狭ク屢々下端近傍ニ於テ膨出(廻腸擴張 *Diverticulum ilei*)ヲ見ル

小腸ノ壁ハ粘液膜 *Schleimhaut* 粘膜下組織 *Submucosa* 筋質膜 *Muskelhaut* 漿液膜下組織 *Subserosa* 弾力纖維及漿液膜 *Serosenhaut* ノ五層ヨリ成ル其筋質膜ハ外縱纖維層 *äußere Längsfaserschicht* ト内輪狀纖維層 *innere Kreisfaserschicht* ノ二層ニシテ漿液膜ハ腹膜ノ一部ナリ

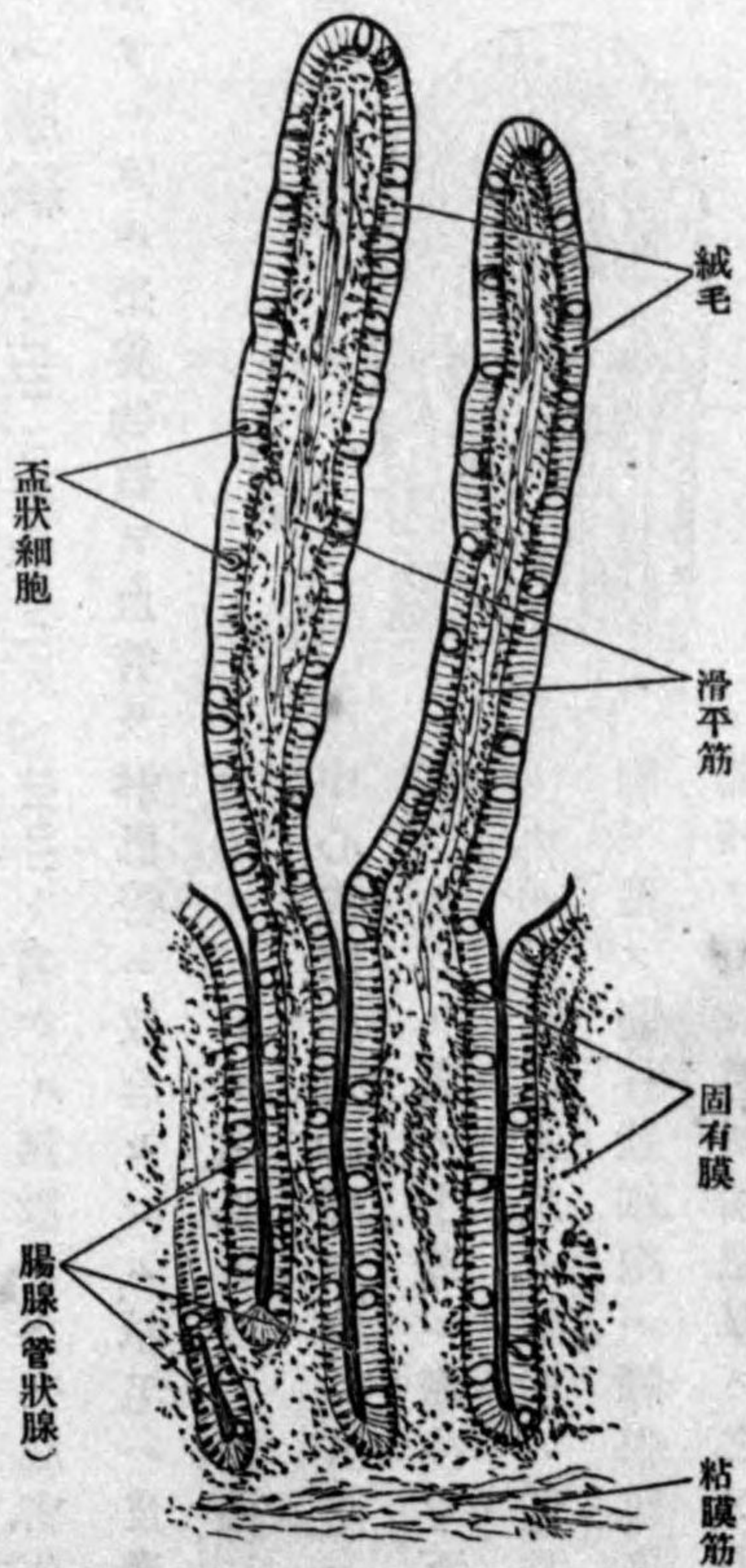
粘液膜ハ帶灰白赤色ヲ呈シ緩ク筋質膜ト連結シテ移動シ易ク無數ノ輪狀皺襞 *Plica circulares* (*Rektingi*) ヲ生ズ此皺襞ハ上半部ニ於テハ互ニ接近シテ殆ド重疊シ下部ニ進ムニ隨ヒ漸次減少シ十二指腸ノ横行部ト小腸ノ下端ニ於テハ全ク闕乏ス各襞ノ長短大小ハ一様

圖六十八百四第
(斷額前)面膜粘腸盲



ナラズト雖モ大概周圍ノ半ニ渡ルモノトス蓋シ此皺襞ハ粘膜面ヲ大ナラシメ分泌吸收ニ便ナラシム十二指腸下行部ノ後壁ニ短キ縱皺襞 *Plica longitudinalis duodeni*アリ其下端ニ於ケル低キ乳頭 *Papille* ノ上ニ小凹陷(ふあてる膨脹 *Diverticulum Vateri*)アリ内ニ肝管及膵管開口ス縱皺襞ノ右方ニ小隆起(さんとり)にい乳頭 *Papilla duodeni* (*Santrini*) アリ副膵管 *Ductus pancreaticus accessorius* ノ開口部アリ

圖七十八百四第
斷縱膜粘腸小



小腸ノ下端ハ左前ヨリ右後方ニ向ヒ盲腸ト連ナリ二枚ノ粘膜皺襞(ばうひん瓣 *Valvula coli*, *Bahini*)ニ由

テ隔テラル其後上ニアル者ヲ上唇 *Labium superius* ト云ヒ前下ニアルモノヲ下唇 *Labium inferius* トス各鎌狀ヲ呈シテ大腸内容ノ逆流ヲ防キ其遊離縁ハ盲腸ノ内腔ニ突出ス其

二層間ノ裂隙ヲ大腸瓣裂孔 Apertura valvulae coli ト云ヒ瓣ノ兩端ハ盲腸ノ横皺襞ニ移行ス皺襞ノ稍著明ナル部ヲ結腸瓣繫帶 Frenula valvulae coli ト云フ

粘膜面ニハ腸絨毛 villi intestinalis, Zotten ト名クル無數ノ小突起密生シ吸収ノ器管トナリ消化サレタル榮養物質ヲ血管及淋巴管ニ收容セシム絨毛ハ皮膚ノ乳頭ニ比スベ

キモノニシテ肉眼ヲ以テ觀得ベク中ニ毛細管網中心乳糜腔及神經ヲ有シ其形ハ圓錐乳頭或ハ葉

狀ヲナシテ腸ノ上部ニ密生シ下部ニ至リテ稀粗トナル粘膜ノ上皮ハ單層ノ圓柱細胞ニシテ杯狀細胞ヲ混ス圓柱狀細胞ハ細顆粒ヲ含ミ其中央ニ橢

圓核ヲ有シ遊離端肥厚ス之ヲ小皮縁 Cuticularsaum ト云フ杯狀細胞ハ透明粘液ヲ含ミテ膨大シ下方

ハ縮小シ有顆粒ノ原形質ヨリ成リ壓平セラレタル核ヲ含ム

腺ハ腸腺 Darmdrüsen 竝ニぶるんねる十二指腸腺 Glandulae duodenales (Bruner) ナリ腸腺一名リへるくうん小腸腺 Glandulae intestinales (Liberkuni) ハ單管

狀腺ニシテ腸ノ全部ニ散蔓シ口ヲ絨毛ノ間ニ開ク故ニ單突鏡ヲ以テ粘膜面ヲ觀レバ

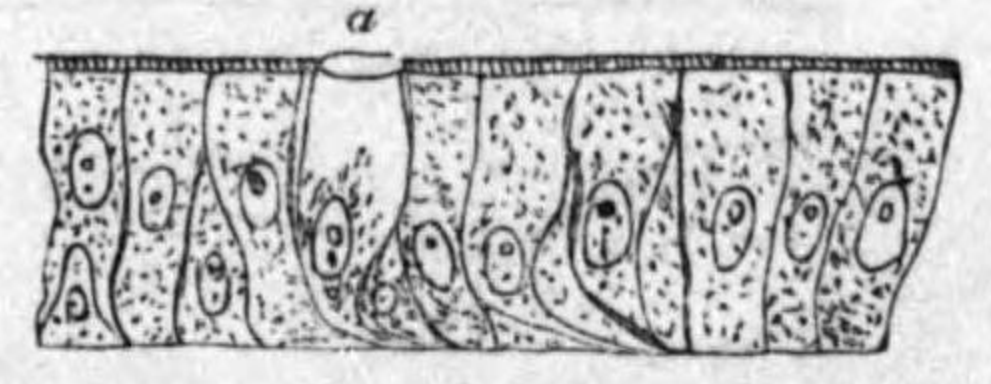
圖八十八百四第
線離遊ノ毛絨腸小



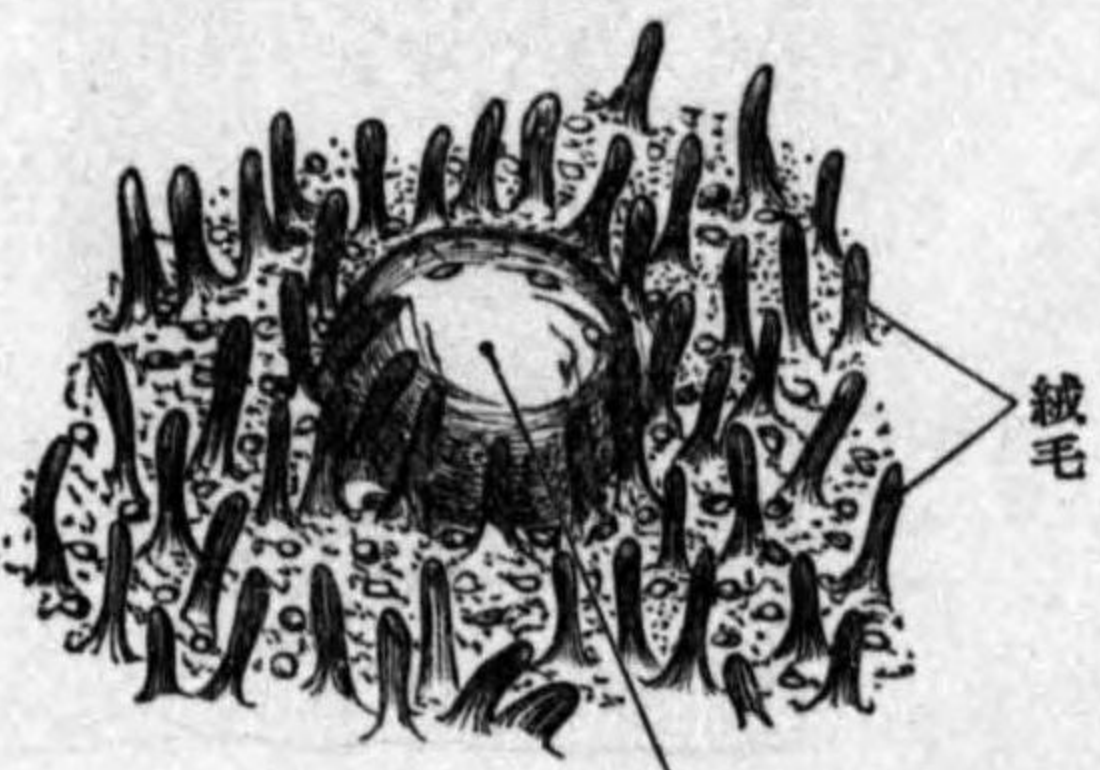
中心乳糜腔
絨毛ノ組織
上皮

恰モ篩板狀ヲ呈シ上皮ハ腸粘膜ノ上皮ト同シク腺底ニハ一種ノ顆粒細胞アリトぶるんねる腺ハ十二指腸ニ固有ナル分岐管狀腺ニシテ上部及下行部ニ多ク腺體ハ粘膜下組織中ニアリ排泄管ハ粘膜筋ヲ穿テ粘膜面或ハりへるくうん腺ニ開ク腺細胞ハ短キ圓柱形ニシテ細顆粒ヲ含ミ分泌毛細管ヲ有ス

圖九十八百四第
25%胞細狀柱圓ノ膜粘腸
胞細狀杯 a



圖十九百四第
節小巴淋



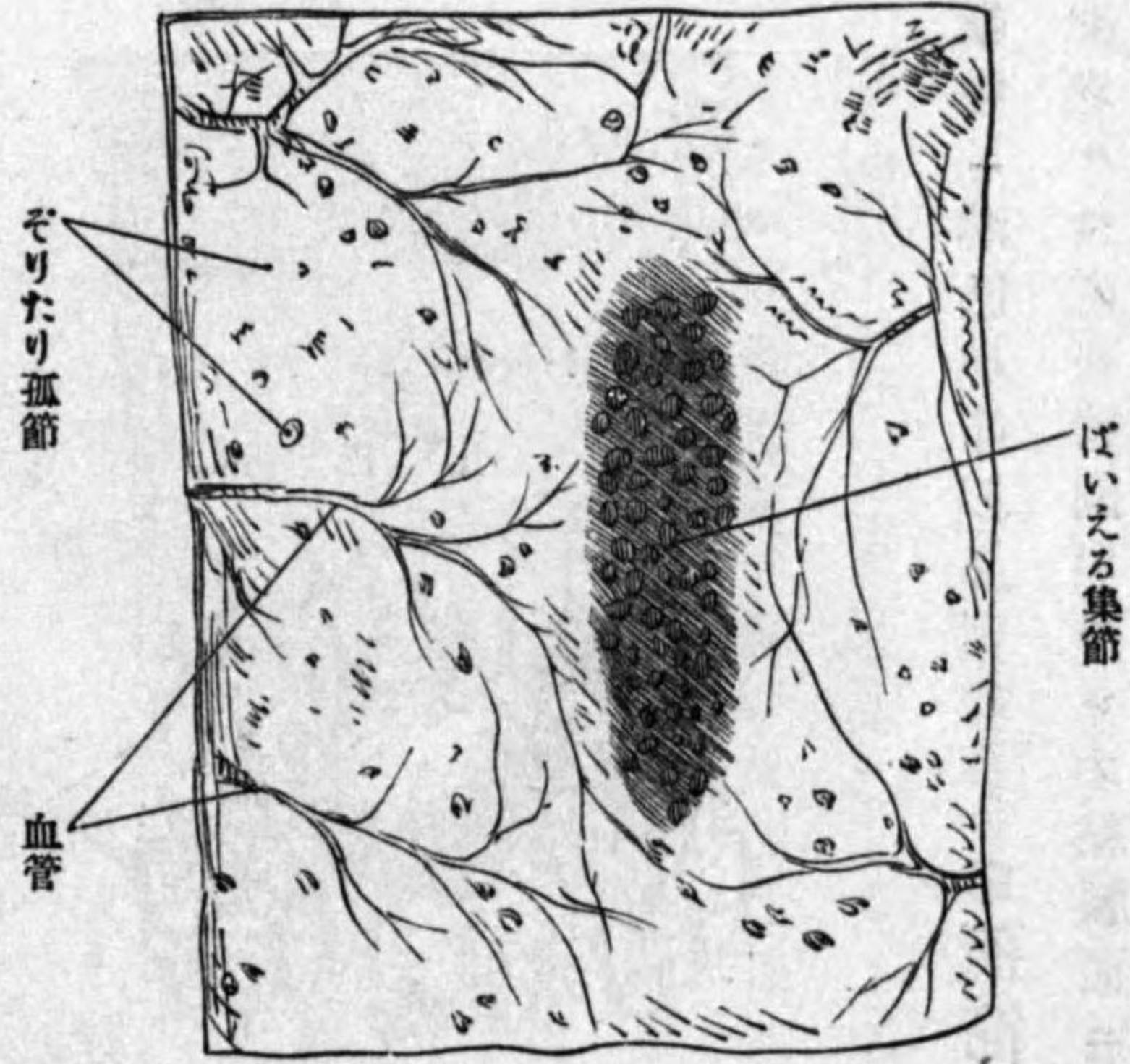
ぞりたり
淋巴孤節

圖一十九百四第
面膜粘腸廻
節孤巴淋りたりぞ

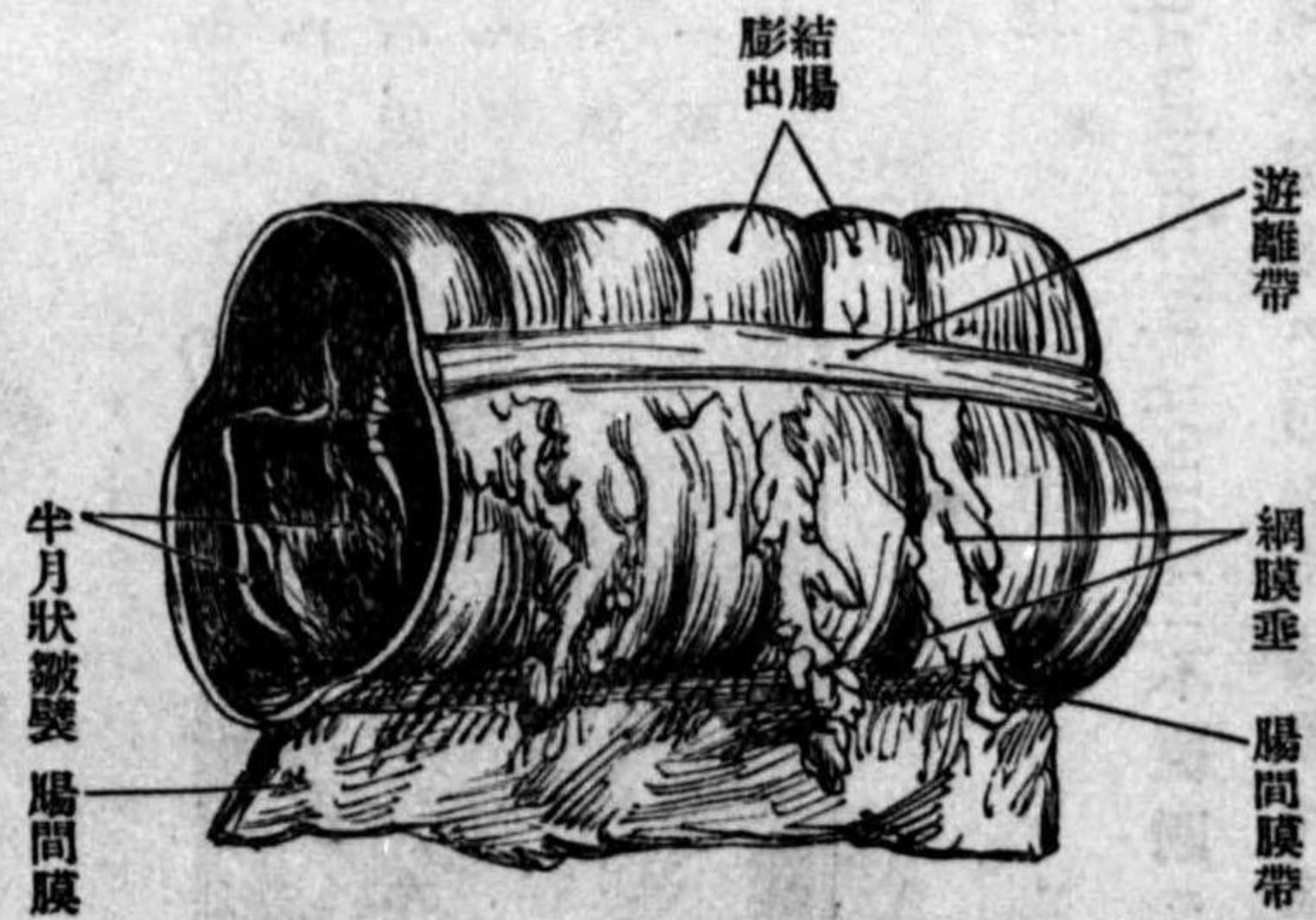


粘膜下組織中ニ淋巴小節 Lymphknötchen 即孤節 Nodul lymphatici Solitarii 不規則ニ散在ス其集合シタルモノハ楕圓形ニシテ粘膜面ニ向ヒ少シク突隆ス而シテ其部ニ絨毛ヲ

圖二十九百四第
節弧りたりぞ及節集るはいば
面内部下ノ腸小



圖三十九百四第
片一ノ腸結

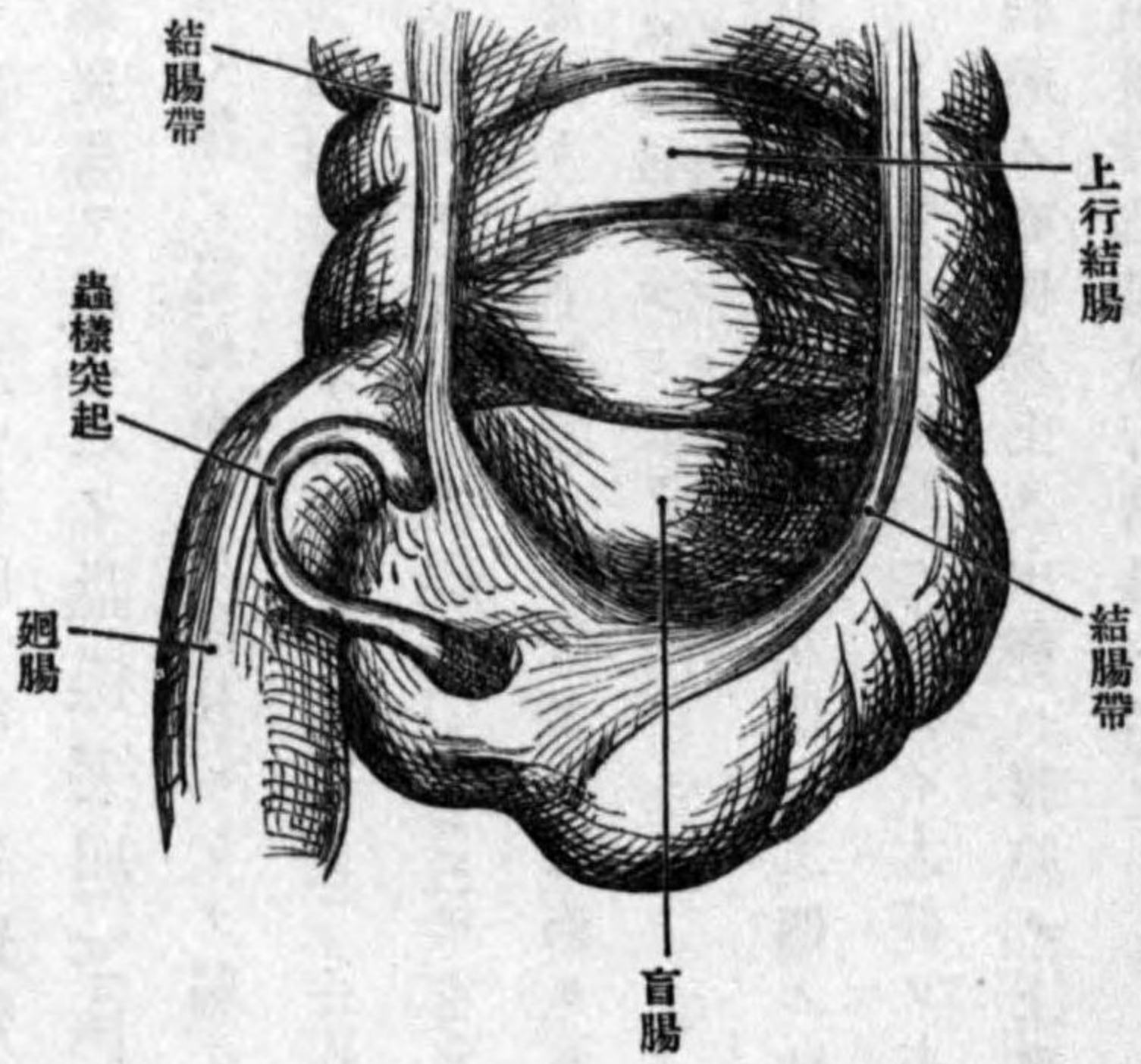


缺ク之ヲはいえる集節 Noduli Lymphatici aggregati (Peyer) ト稱ス其大サ及數ハ一様ナラズシテ小腸ノ下部ニ夥シ

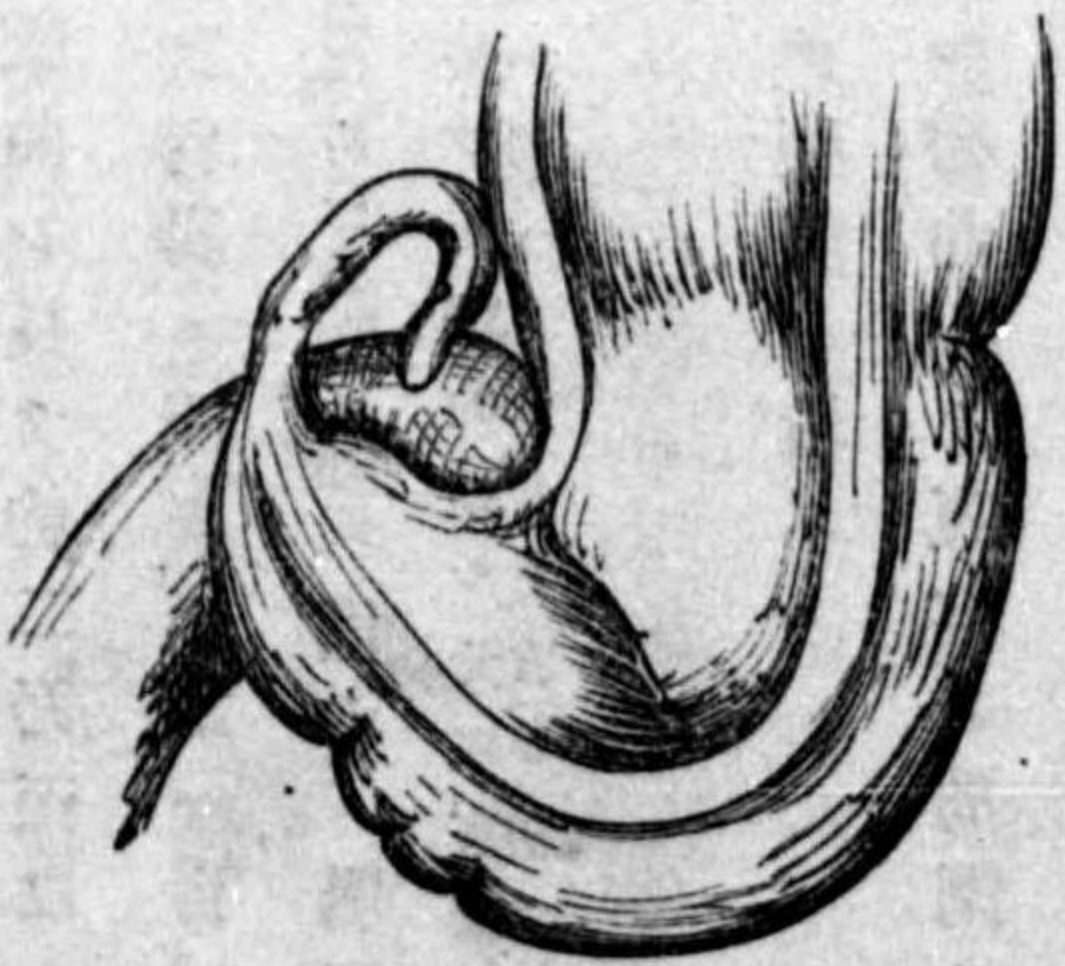
る 大腸 Intestinum crassum, Dickdarm

大腸ハ長サ約一迷半ニシテ盲腸、結腸、直腸ノ三部ニ分ツ、外形ハ特異ニシテ其長サニ隨ヒ三條ノ結腸帶 Taeniae coli 走り、其間ニ數個ノ結腸膨出 Haustra coli ヲ生ズ、内腔

圖四十九百四第
(側後)態狀ノ張擴腸盲
ス去除チ膜腹



圖五十九百四第
(側後)態狀ノ縮收腸盲



ハ結腸半月狀皺襞 Plicae semilunares coli ニヨリテ小區ニ分タル、外面ノ所々ニ小葉狀ノ單純或ハ分岐シタル突起ヲ出ス、是レ腹膜ノ膨出部ニ脂肪ヲ含ミタルモノナリ

名ケテ網膜垂 *Appendicus epiploicae* ト云フ

盲腸 *Intestinum caecum*, *Blinddarm* ハ上行結腸ノ下部盲腸瓣裂孔ノ下方盲端ノ部分ニシテ右腸骨窩ニ於テ腸骨筋膜ニ連リ稍擴張シ周圍ハ腹膜ヨリ覆ハレ後壁ノ下部ヨリ鷲鬮大ノ長突起ヲ出ス之ヲ蟲様突起 *Proc. s. Appendix vermiformis*, *Wurmfortsatz* ト云フ之ハ腸ノ退化シタル部分ニシテ弱ク螺旋狀ニ彎曲シ長サ約二乃至二十仙迷ノ間ニアリ其内腔ハ小口 *Ostium processus vermiformis* ヲ以テ盲腸ニ開キ下端ハ盲端ニ終リ口縁ニハ小ナル蟲様突起瓣 *valvula processus vermiformis* ヲ備ヘ固有ノ腸間膜ヲ以テ腸骨筋膜ト連リ粘膜ニハ許多ノ孤節ヲ有ス 胎兒ニ於テ比較的長シ元來盲腸及蟲雖生育ニ隨ヒ漸次變形スルモノトス

盲腸ハ上方直ニ上行結腸ニ連リ左側ハ二個ノ粘膜瓣ヲ以テ廻腸ト境ス
結腸 *Colon*, *Grimdarm* 結腸ハ大腸ノ大部ヲ占メ締係狀ニ彎曲シテ腹腔ノ周圍ヲ廻旋シ始部ハ腹腔ノ右側ヲ上リ中部ハ腹腔ノ上部ヲ横行シ終リハ腹腔ノ左側ヲ下行ス之ヲ上行結腸、横行結腸、下行結腸ト名ク

上行結腸 *Colon ascendens* ハ盲腸ノ上ヨリ殆ド鉛直ニ右腸骨櫛ヲ越エテ右腎ノ下1/3ノ前ヲ昇リ肝ノ下面ニ於テ前方ニ向ヒ忽然左方ニ屈折シ(結腸右屈曲 *Flexura*

coli dextra) 横行結腸トナル其前側及兩側ハ腹膜ヲ以テ覆ハレ小腸ニ接シ後側ハ結締組織ヲ以テ腸骨筋膜方形腰筋膜橫筋膜及右腎ト連結ス

横行結腸 *Colon transversum* ハ結腸右彎曲ヨリ肝及胃ノ下方ヲ左方ニ走リ左季肋部ニ於テ左腎ノ前脾ノ下側ニ於テ結腸左屈曲 *Flexura sinistra* ヲ以テ下行結腸ニ移リ締係狀ニ彎曲シ凹側ハ後方凸側ハ前方ニ向ヒ其兩端ハ後腹壁ニ接シ中部ハ前腹壁ニ接シ横行結腸間膜 *Mesocolon transversum* ニヨリテ後腹壁ト連繫シ上方ハ肝ノ下面膽囊胃ノ大彎竝ニ脾ニ接ス下方ハ空腸ニ接シ後方ニハ十二指腸下半部アリ結腸ハ斯ク直線ナラザルヲ以テ其長サハ兩屈曲間直徑ノ約二倍ヲ有シ加之左屈曲部ハ更ニ小締係狀ヲ爲シテ上昇シ橫隔結腸韌帶 *Lig. phrenico colicum* ヲ以テ固定セラル

下行結腸 *Colon descendens* ハ左屈曲ヨリ左腎及左方形腰筋膜及左腸骨筋膜ノ前側ヲ下リ左腸骨窩ニ於テしぐま狀結腸ニ連リ經過中後側ハ前述諸部ト結締組織ヲ以テ連結シ前側及兩側ハ腹膜ヲ被リ小腸ヲ以テ覆ハル

しぐま(S)狀結腸 *Colon sigmoidem* 又えす(S)字狀結腸ハ下行結腸ト直腸ノ間ニ於ケル通常C形ノ締係ニシテ左薦腸關節部ニ於テ直腸ニ連リ腸間膜 *Mesocolon sigmoid-cum* ヲ有ス其長短形狀一樣ナラズ或ハ小骨盤ニ入り或ハ腸骨窩ニアリ或ハ小腸ヨリ

覆ハレ、或ハ小腸ノ間ニアリ、或ハ下行結腸ノ前ヲ昇リテ胃或ハ肝ニ達スルコトアリ
 直腸 *Intestinum, rectum, Mastdarm* ハ大腸ノ下端ニシテ、小骨盤内ニ位シ、二十五仙乃至
 明ナル境界ナク、左薦腸關節ニ於テ弓状結腸ノ下端ニ始マリ、肛門 *Anus* ニ終ル、後側ハ薦
 骨ニ接シ之ト共ニ弓形ニ彎曲ス、之ヲ薦骨彎曲 *Flexura sacralis* ト云ヒ、下端ハ肛門ニ
 向ツテ後方ニ彎曲ス、之ヲ會陰彎曲 *f. analis* ト云フ

爾他直腸ハ始メ右方ニ彎曲シ、次ニ左方ニ彎曲シ、終リニ直下スト雖モ此側方彎曲ハ移
 動性ナリ、肛門ノ直上部ハ稍擴張ス、之ヲ直腸膨大 *Ampulla recti* ト云フ

大腸ノ壁ハ小腸ト同ジク粘液膜 *Schleimhaut* [筋質膜 *Muskelhaut* 及漿液膜 *Serosahaut* ニシ
 テ、各膜ノ間ニ結締組織性ノ粘液膜下組織及漿液膜下組織アリテ相互ニ連結ス

粘液膜ハ結腸帶ノ間ニ於テ數個ノ横皺襞ヲ生ズ、之ヲ半月狀皺襞 *Plica semiluna-*
res ト云フ、直腸ニ於テハ唯肛門ノ上方約五仙迷ノ部ニ於テ前側ニアリ、之ヲ直腸横

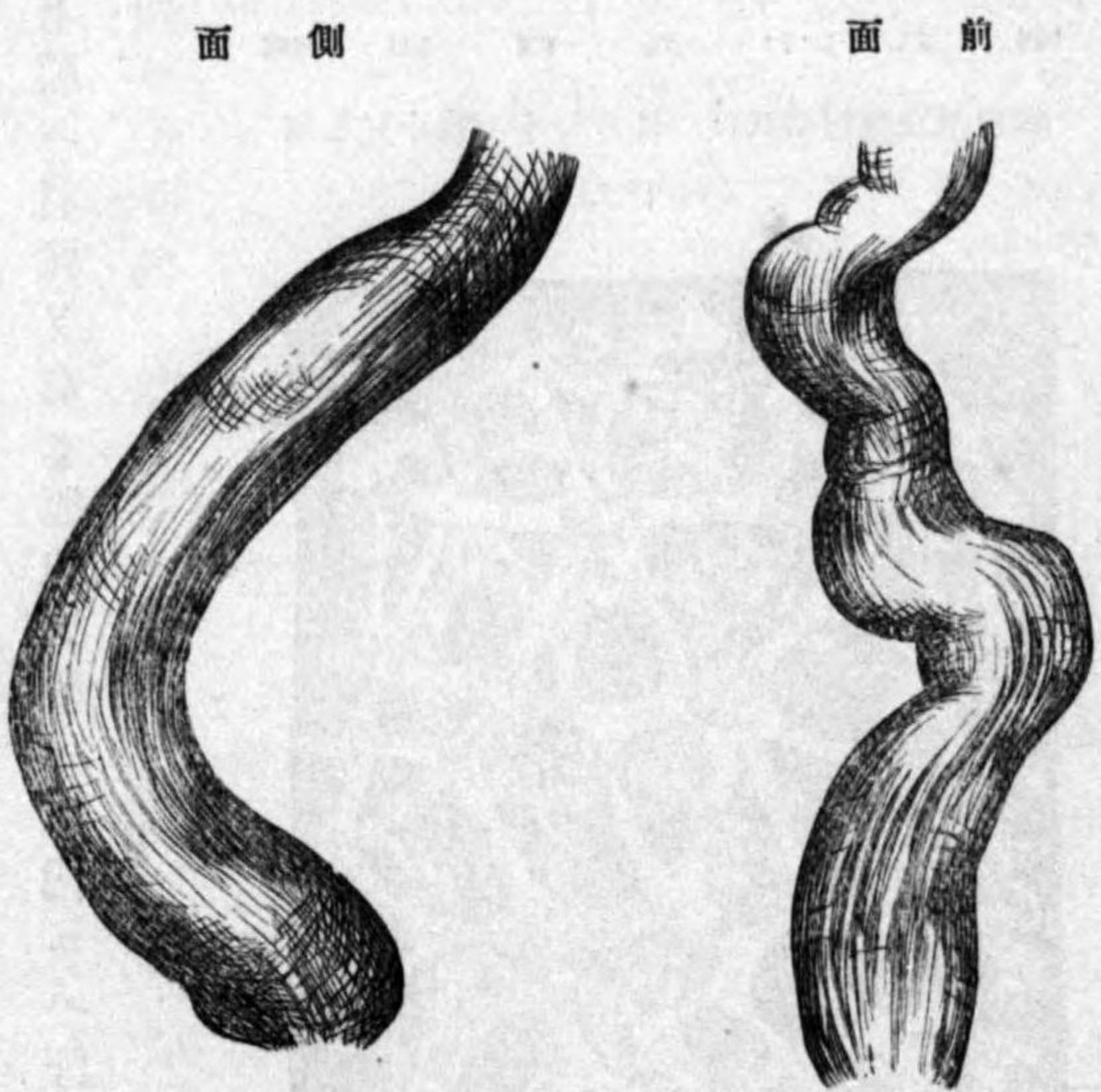
皺襞 *Plica transversalis recti* ト云フ、尙其上方及下方ニ不定ノ小皺襞ヲ現ハス、肛門直
 上ニ於テハ六乃至八個ノ縦皺襞アリ、もるがに直腸柱 *Columnae rectales* (*Mor-*

sagii) ト名ク、又其間ヲ直腸竇 *Sinus rectales* ト云フ、直腸柱ノ下端ハ相集合シテ輪狀
 縁ヲ爲ス、之ヲ痔輪 *Annulus haemorrhoidalis* ト云フ、大腸粘膜ハ一般ニ滑澤ニシテ絨毛

ヲ有セズト雖モ無數ノ單管狀腺即大腸腺 *Dickdarmdrüsen* (*Gl. intestinales Liberkuh-*

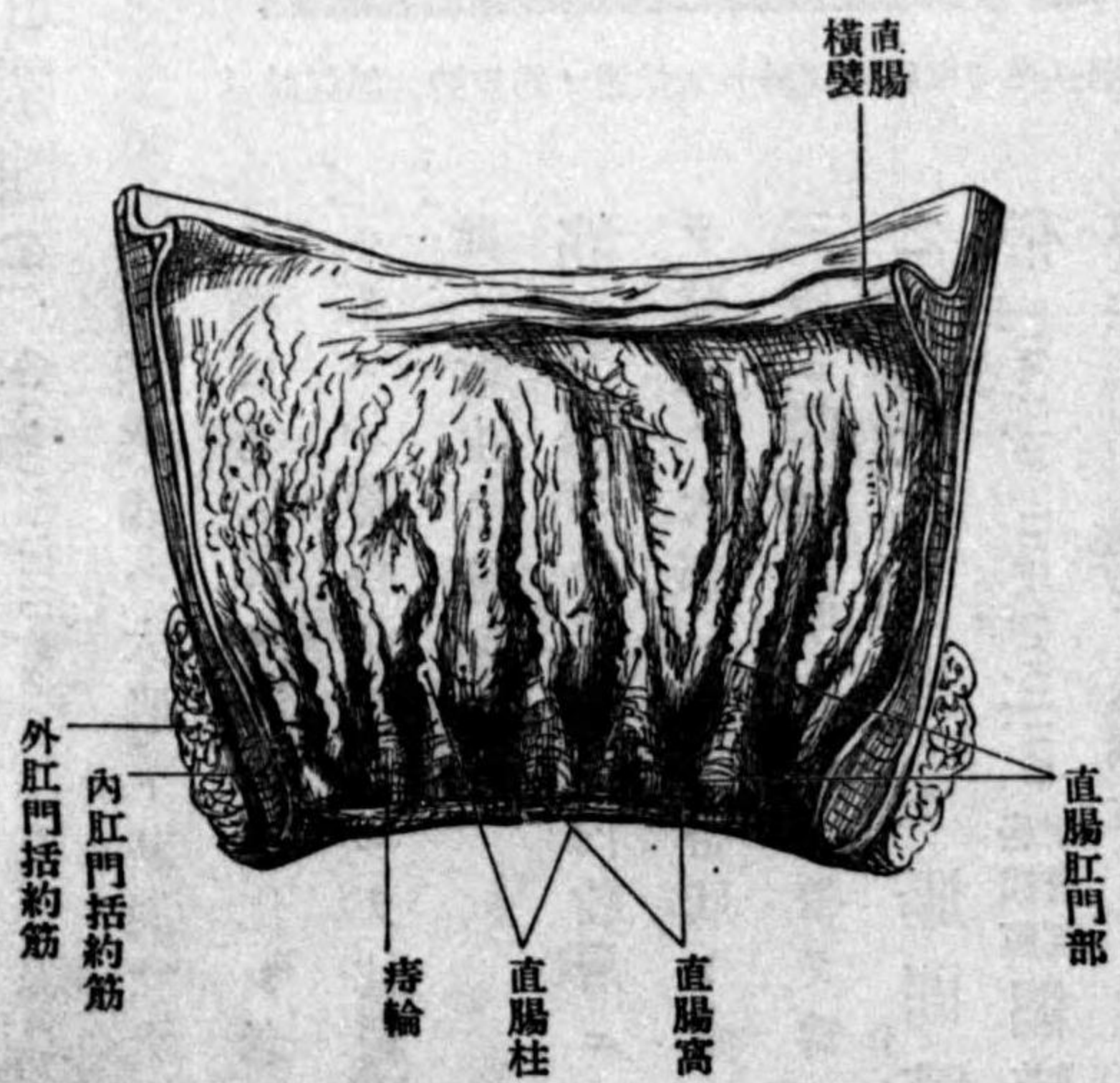
第四百九十六圖

直腸屈曲(空虚時)



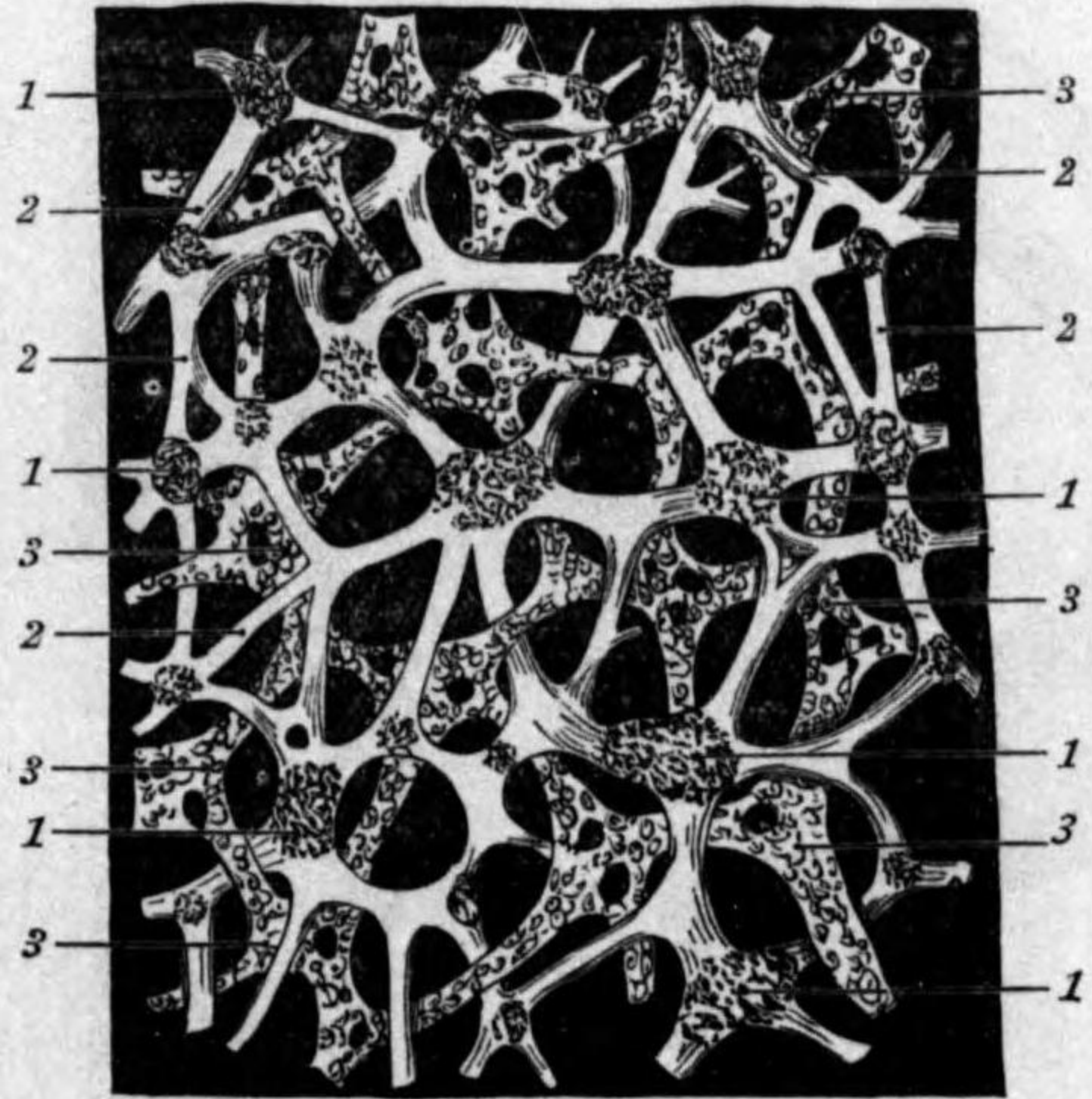
第四百九十七圖

直腸下部ノ粘膜(展開)



三) 及淋巴小節アリ、直腸下部ハ厚キ重層扁平上皮ヲ被リテ殆ド外皮ノ状態ヲ現シ固
有膜ハ乳頭ヲ有シ腸腺ヲ缺キ肛門ニハ汗腺(肛圍腺 G1. circumanales) 及毛囊腺ヲ有

圖八十九百四第
網巴淋及叢經神氏はつばるほうあ腸小兒生初
(Sappey)



網巴淋 .3束維織經神ルス接連ヲ節經神 .2節經神 .1

テハ平等ニ擴敷シテ帶條ヲ爲スコナシ、輪層ハ直腸ニ於テハ強ク發育シ、肛門上部ニ於
テハ内肛門括約筋 M. sphincter ani internus ヲ爲ス

筋質膜ハ外縱層及内輪層ニシ
テ、縱層ノ大部ハ扁平帶狀ト成リ
三所ニ集合シ所謂結腸帶ヲ爲ス
之ヲ其位置ニ由リテ腸間膜
帶 Taenia mesocolica 腸間膜
帶 T. omentalis 附著部 遊離部
E. libera ト名ク、然レモ直腸ニ於

漿液膜ハ腹膜ノ一部ニシテ上行結腸及下行結腸ニ於テ其後側ハ缺損シ、直腸上部ハ
十分ニ被ハレ、後側ニ小腸間膜ヲ生シ中部ハ前側ノミ被ハレ、下部ハ全ク漿液膜ヲ有セ
ズ

表較比腸大及腸小

小腸		大腸	
長サ	約六迷	約一・五迷	
絨毛	アリ	ナシ	
十二指腸腺	アリ	ナシ	
ばいえる集腺	下部ニアリ	ナシ	
弧節	アリ	アリ	
單管狀腺	小腸腺アリ	大腸腺アリ	
横皺襞	アリ	半月狀皺襞アリ	
結腸帶	アリ	アリ	
結腸膨出	ナシ	アリ	

腸ニ分布スル神經ハ迷走神經及交感神經ニシテ漿液膜下、縱横筋層ノ間 Plexus myenteri-
cus, Auerbach 及粘膜下 Plexus submucosus, Meissner ニ叢ヲ爲シソレヨリ小纖維ヲ粘膜ノ上
皮細胞下ニ送ル、筋叢及粘膜下叢ニハ多極筋細胞ヲ有ス又動脈ハ内臟動脈及上下腸

間膜動脈ニシテ腹部大動脈ヨリ分岐シ、靜脈ハ上下腸間膜靜脈トシテ門脈ニ歸流ス總シテ動脈管ハ腸間膜縁ニ來リ漸々分岐シツ、周圍ニ走り筋層ヲ貫キ粘膜下ニ至リ毛細管網トナリ腸腺ヲ纏絡シテ表面ニ進ミ靜脈ニ移行シ動脈ト同一ノ徑路ヲ取ル淋巴管ハ小腸ニ於テハ絨毛ノ中心ヲ縱貫シタル一個乃至數個ノ細管即チ中心乳糜腔 *Centrales Chylusraum* 内皮ノ一層ヨリ成リ絨毛ノ頂ヨリ始マリ粘膜下ニ至ルヨリ始マリ大腸ニ於テハ腸腺ノ間ニ始マリ粘膜下ニ至リ筋層ヲ穿チテ腸間膜ニ達ス然シテ腺底ノ粘膜下層筋間及漿液膜下ニ於テハ層ニ隨テ平面ノ網ヲ形成ス

肝臟 Hepar, Leber

肝臟ハ體中最大ノ腺ニシテ仙約重量千二百瓦長サ七仙迷厚サ七仙迷右季肋部ノ全部上腹部及左季肋部ヲ領シ、其分泌物(膽汁 *Galle*)ヲ十二脂腸ニ注ギ且膽囊ニ蓄フ、肝臟ハ此機能ノ外調血 *Blutbereitung*ノ機能ヲ營ミ其目的ヲ達センガ爲メ血液ヲ榮養血管ナル肝動脈ヨリ受クルノ外、作業材料トシテ門脈 *Vena portarum*ヨリ多量ノ血液ヲ接收ス、但シ門脈ハ消化管及脾臟ヨリ歸流スル靜脈ノ集合シタル大管ニシテ、肝毛細管ヲ經テ肝靜脈トナリ下大靜脈ニ注グ、而シテ門脈血中ニハ胃腸ヨリ吸收シタル新榮養物ヲ含ミ、肝毛細管ヲ通過

スル際、肝細胞ノ作用ニヨリテ一定ノ變化ヲ受ケシメ、肝靜脈ヨリ下大靜脈中ニ放流スル肝臟ハ帶藍赤褐色ニシテ質稍硬ク且ツ破壊シ易シ、形ハ扁平帶圓長方形ニシテ上面、下面、後面及前縁ヲ現ハシ、右方ハ厚クシテ

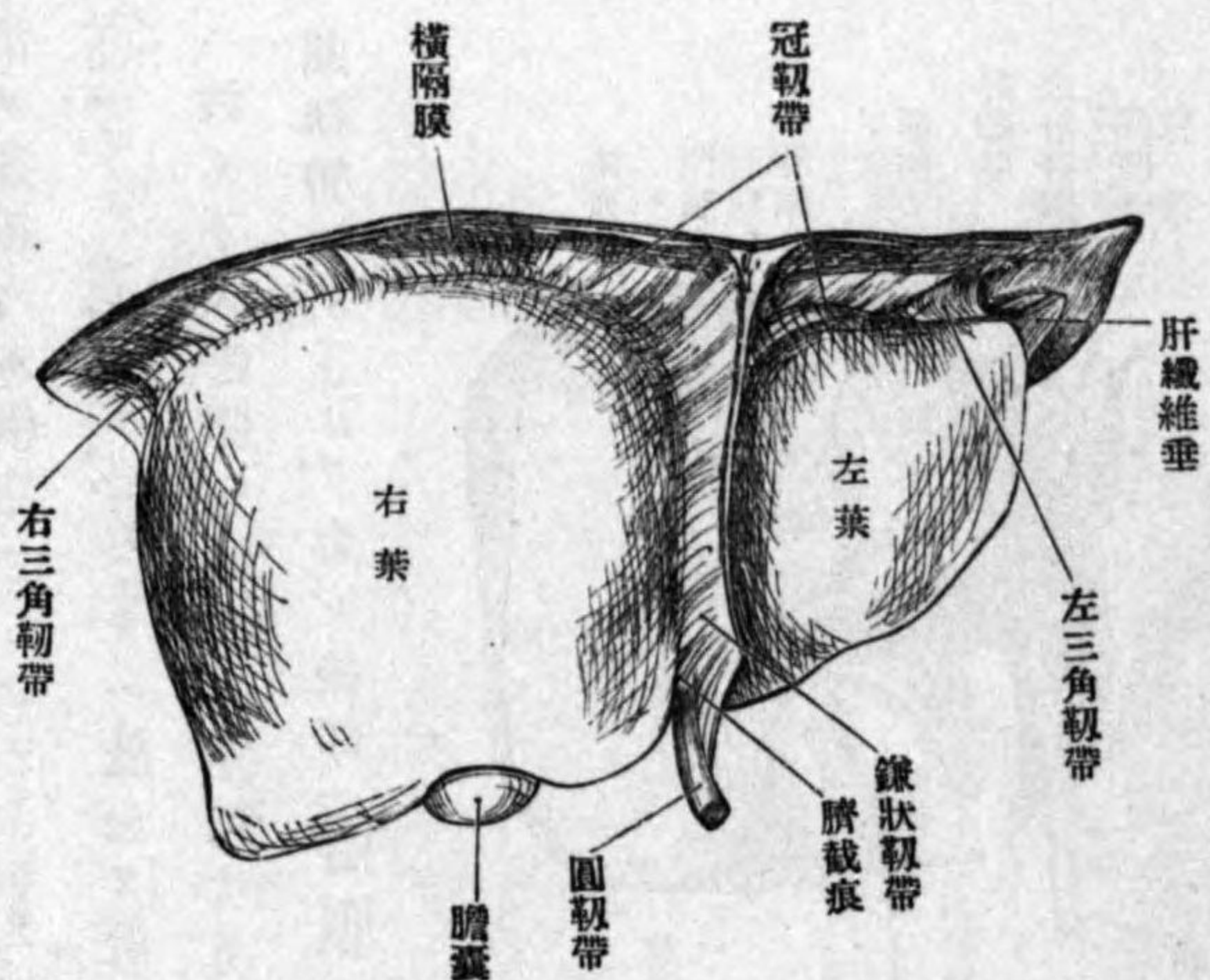
面、後面及前縁ヲ現ハシ、右方ハ厚クシテ容積多ク、左方ハ漸次減少シ、前縁ハ低ク且薄ク、下面ハ少シク、後方ニ向フ

上面 *facies superior*ハ凸隆シテ橫隔膜穹隆面ニ一致シ、左方ニ幽微ナル心壓痕 *Impressio cardiaca*ヲ現ハシ、矢狀徑ニ走ル鎌狀韌帶ニ依テ大ナル右葉 *Lobus dexter*ト小ナル左葉 *Lobus sinister*ニ別ル

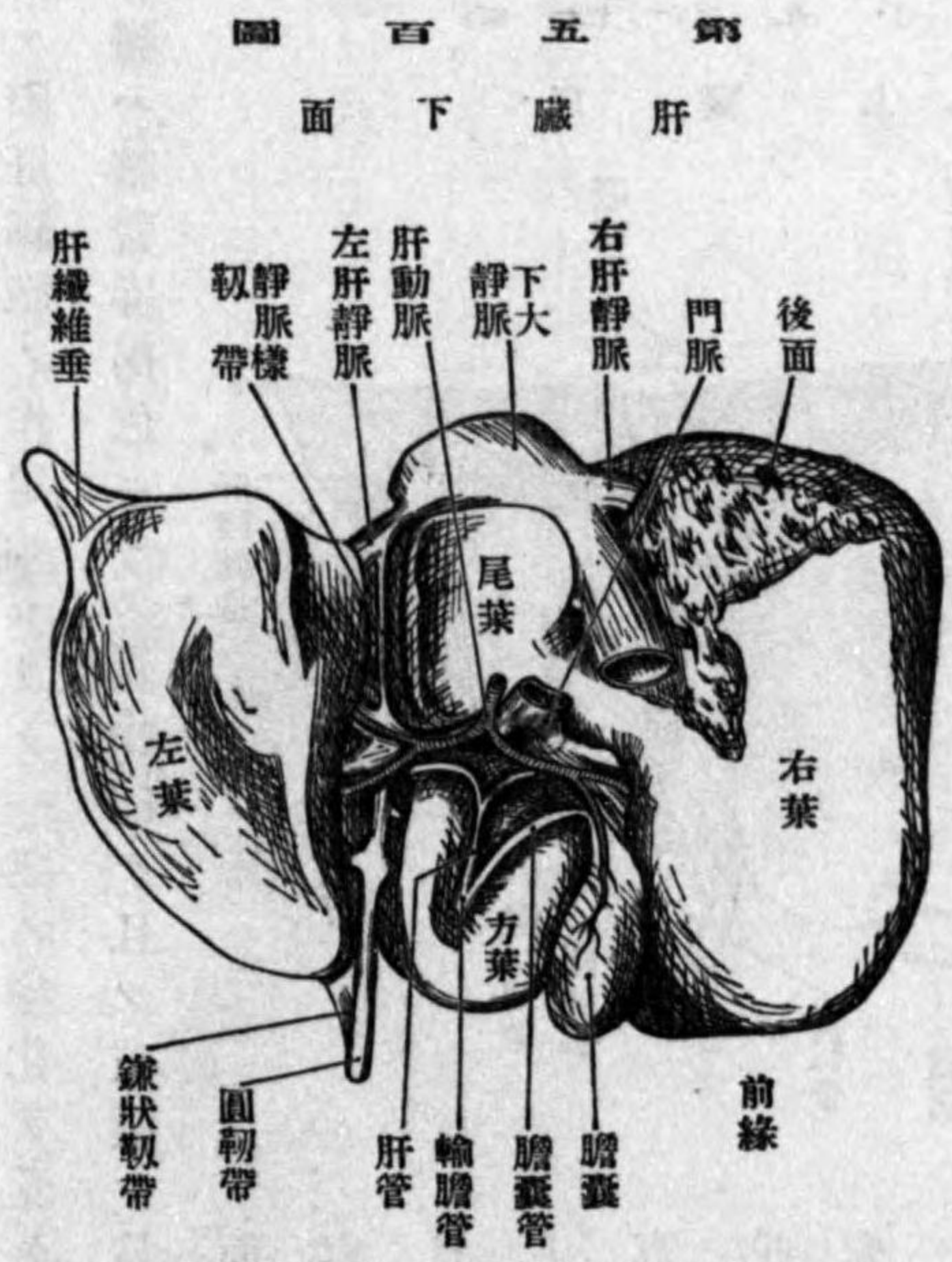
下面 *facies inferior*ハ稍、凹陷シテ不規則ナル長方形ヲ呈シ、四隅ハ圓形ヲ帶ブ此面ニH字形ノ溝アリ、其二個ノ長脚ハ

矢狀ニ走ル之ヲ左及右矢狀窩 *fossa sagittales sinistra und dextra*ト云フ、左矢狀窩、前

第 四 百 九 十 九 圖
肝 臟 上 面



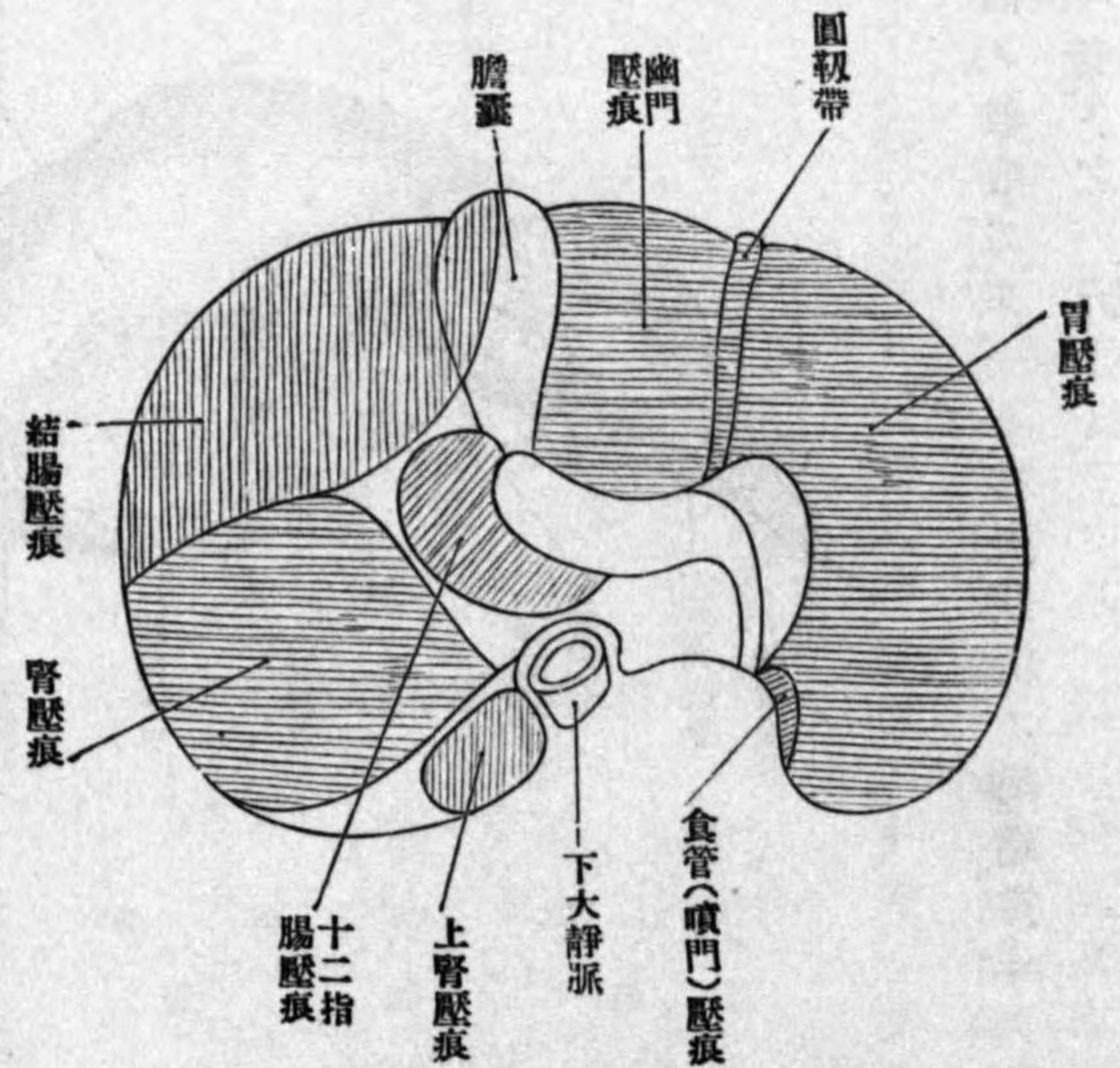
端ノ截痕ヲ臍截痕 *Incisura umbilicalis* ト名ク、稀ニ右矢狀窩ニモ同形ノ截痕ヲ存スルコトアリ、此二溝ヲ連續スル横窩 *fossa transversa* ヲ肝門 *Porta hepatis* ト稱ス、右矢狀窩ノ前部(膽囊窩 *fossa vesicae felleae*)ハ膽囊ヲ容レ、後部(大靜脈窩 *fossa venae cavae*)ハ半バ後面ニ渡リ、下大靜脈ヲ容ル、又左矢狀溝ハ狹ク、前部(臍靜脈窩 *fossa venae umbilicalis*)ニ圓韌帶 *Lig. teres* ヲ容レ、後部(靜脈樣窩 *fossa ductus venosi*)ニ靜脈樣管 *Ductus venosus (Arantii)* ヲ容ル、又下面ハ此H字溝ニヨリテ四葉 *Lappen* ニ分ル、即右葉 *Lobus dexter* 左葉 *Lobus sinister* 前葉 *Lobus anterior (quadratus)* 後葉(すびげりい) *Lobus posterior (Spigelii)* 之ナリ、就中後葉ハ小ニシテ前左方ハ乳嘴結節 *Tuberculum papillare* ヲ有シ、前右方ニ尾狀突起 *Processus caudatus* ヲ出シテ右葉ニ連ル之ニヨ



リテ右矢狀溝ヲ全然前後ニ分ツ右葉ノ後部ニハ淺キ腎壓痕 *Impressio renalis* ヲ現シ、又左葉ノ後左隅ハ薄ク纖維狀ニ變ス之ヲ纖維垂 *Appendix fibrosa hepatis* ト云フ

肝門ハ肝管 *Ductus hepaticus* 門脈 *Vena portarum* 肝動脈 *Arteria hepatica* 及神經ノ出入スル部分ニシテ、就中門脈ハ最大ニシテ最後方ニ位シ、肝管ハ最小ニシテ最前ニアリ、凡テ是等ハ肝十二指腸韌帶中ヲ昇リ肝門ニ於テ二枝ニ分レ右葉及左葉ニ向ツテ肝實質ニ入り、自後實質内ニ於テ漸次分歧ス

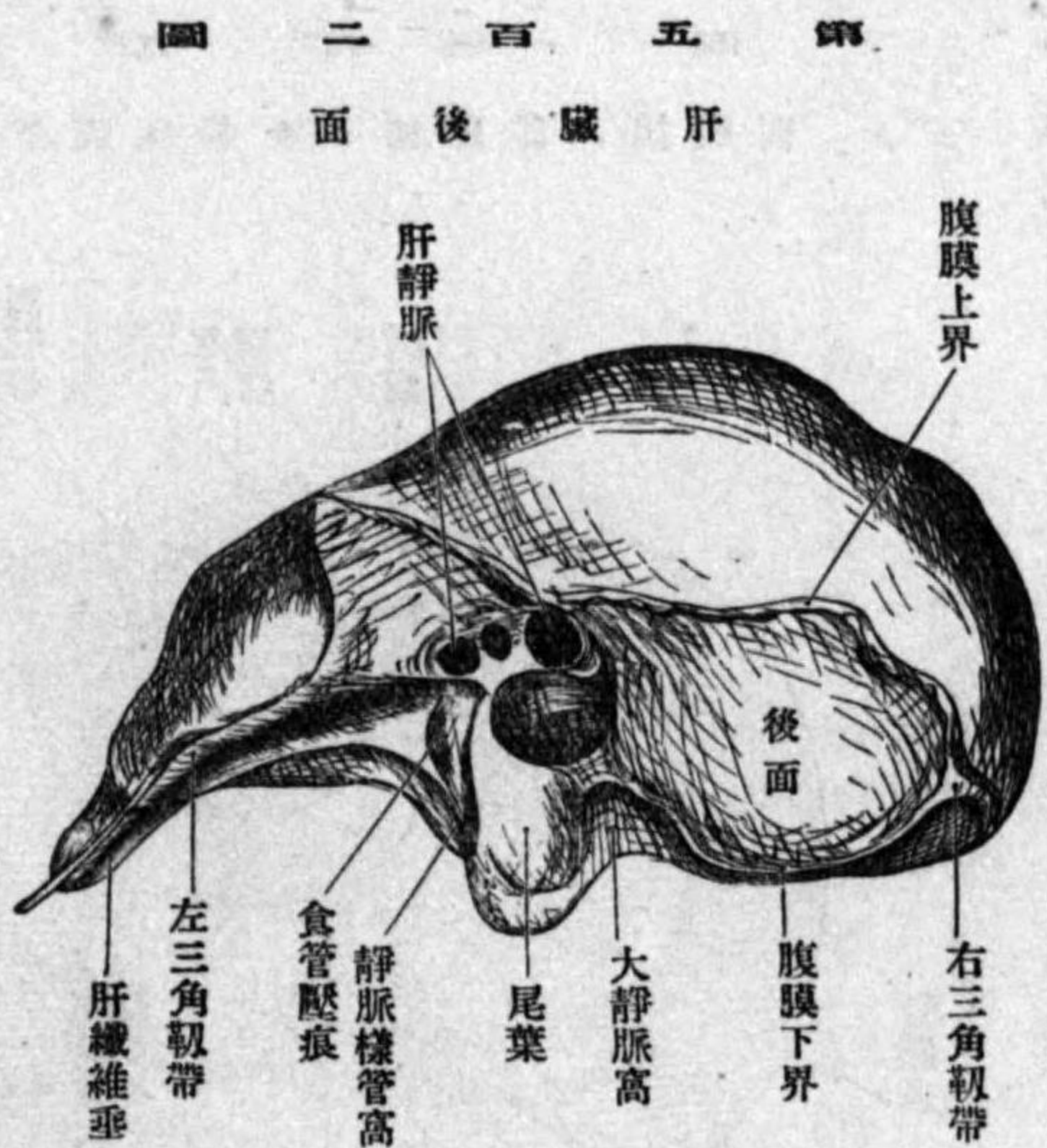
第五百五十九圖 肝臟下面ノ諸器ノ接觸面



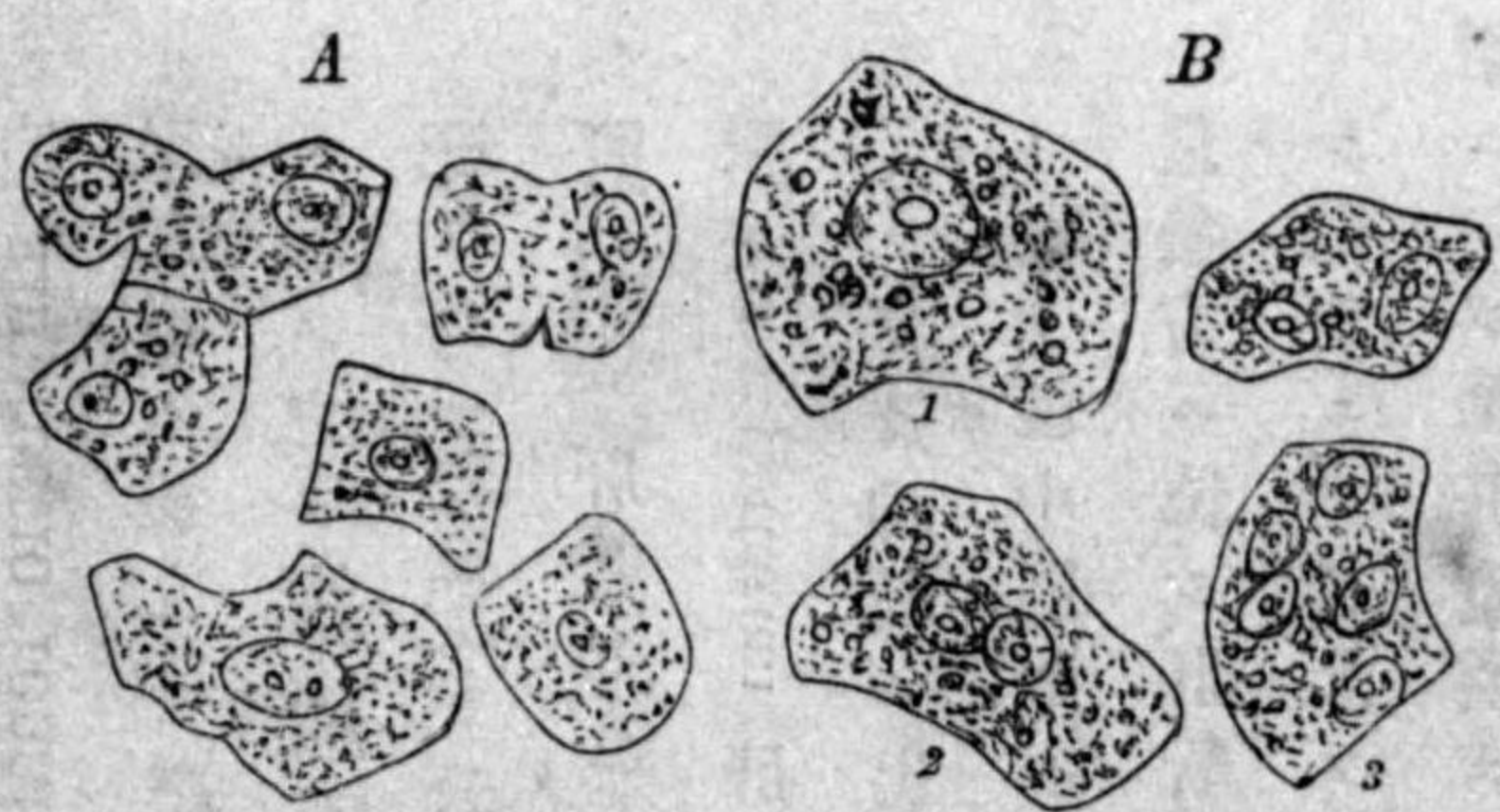
二指腸韌帶中ヲ昇リ肝門ニ於テ二枝ニ分レ右葉及左葉ニ向ツテ肝實質ニ入り、自後實質内ニ於テ漸次分歧ス

後面 *facies posterior* ハ結締組織ヲ以テ橫隔膜椎骨部ト連結シテ腹膜外ニアリ椎柱ニ

對シ深キ截痕 *Incisura vertebralis* ヲ爲シ肝靜脈ハ二三ノ大幹ヲ以テ其上部大靜脈ヨリ出デテ直チニ下大靜脈ニ連ル



圖二百五第 肝臓後面 (Hoffmann)

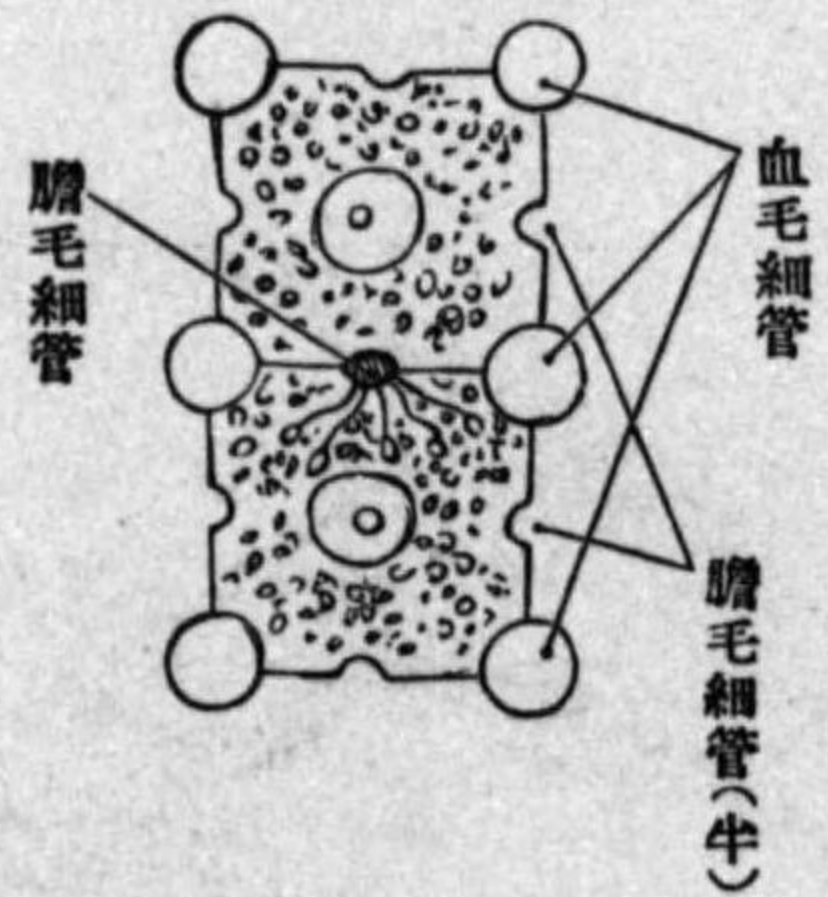


ノモルタ得リヨ肝ルナ康健 A
生再肝すふち胞細肝ルタシ大肥 B
核五 3. 核二 2. 核一 1.

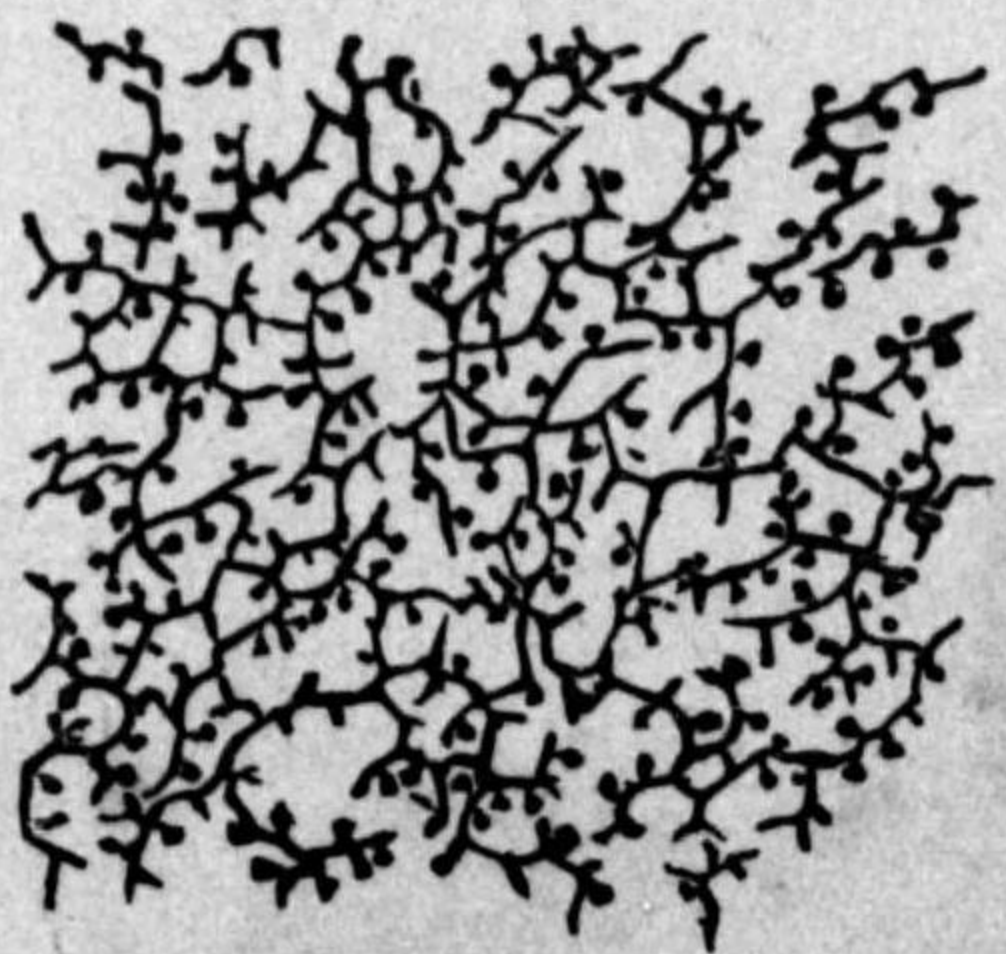
前縁ニ二個ノ截痕アリ一ハ右矢狀溝ノ前端當リ膽囊截痕 *Incisura vesicalis* ト云ヒ一ハ左矢狀溝ニ應ス之ヲ臍截痕 *Incisura umbilicalis* ト云フ

肝臓ノ位置ハ横隔膜ノ穹隆ニ一致シ、吸氣及直立時ニハ低ク、呼氣及背位ニ於テハ高ク、死體ニ於テハ通常第六肋間ノ高サニアリ、前縁ハ斜ニ右第十肋軟骨ヨリ胸骨下角 *Angulus infra-sternalis* ヲ經テ左第七肋軟骨ノ中央ニ渡リ、後側ハ第十一肋骨或ハ其下方ニ

圖四百五第 肝細胞間ノ膽管及毛細管



圖五百五第 膽毛細管(半) 480/1(銀膜管格)

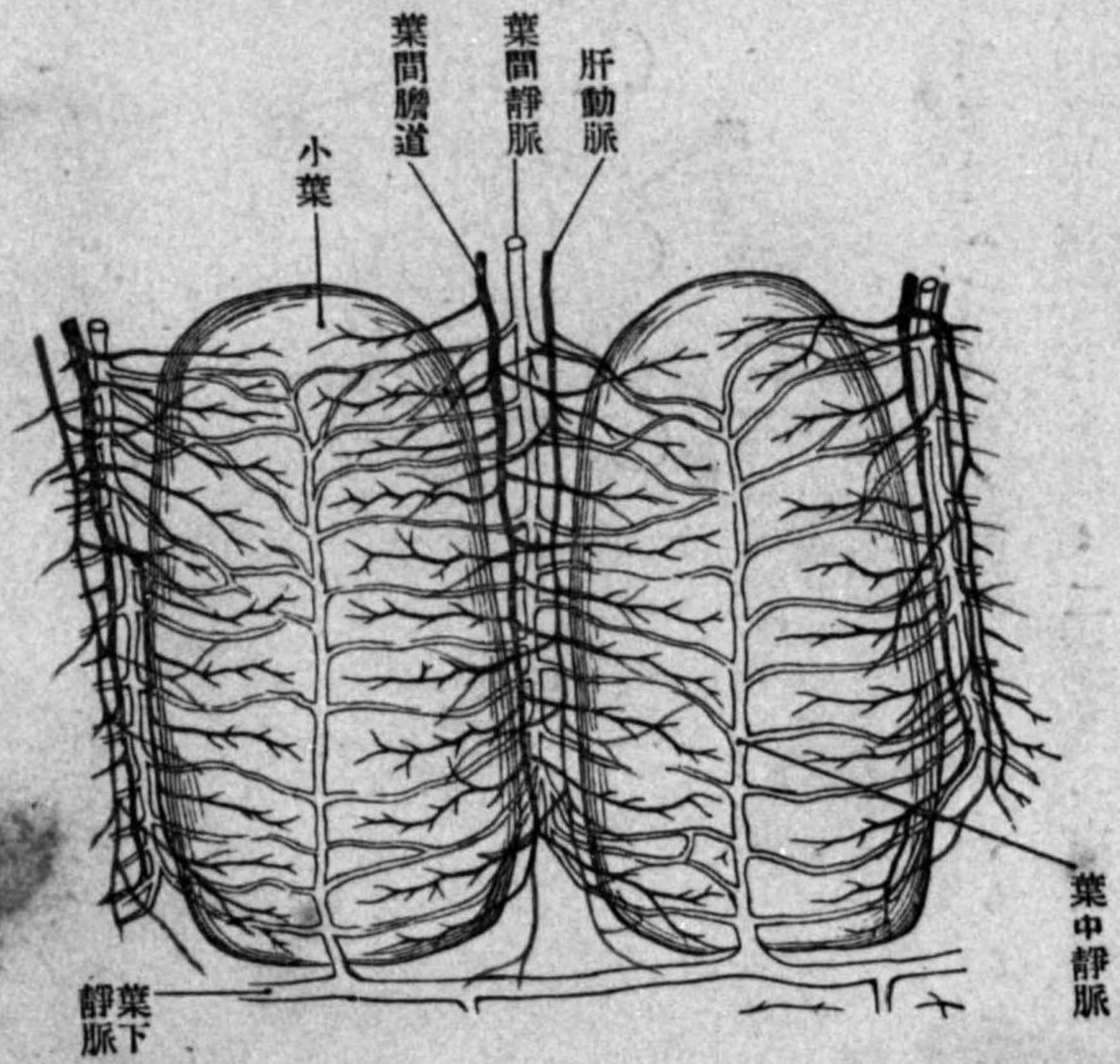


アリ、下面ハ胃、十二指腸横行部、右腎及右副腎横行結腸及其右屈曲ニ接ス
肝臓ノ構造複管狀腺ニ屬シ腺細胞ハ不正多角形ニシテ大キク、細胞膜

ヲ有セズ原形質ハ顆粒ニシテ黄色素顆粒、糖原顆粒及脂肪滴ヲ含ム核ハ圓形ニシテ染色質網及小核ヲ有シ屢ニ二核又ニ二中心體ヲ有スルモノアリ原形質内ノ顆粒狀脂肪滴ハ消化時期及食物ニヨリテ差異アリ、肝細胞ハ其二個ヲ以テ腺腔ヲ圍ミ、他ノ面ハ數個ノ毛細管ニ接ス、腺腔ヲ膽毛細管 *Gallenkapillaren* ト稱シ相吻合シテ網狀ヲ爲ス

肝臟ハ少量ノ結締組織ニヨリテ無數ノ多角錐形ノ小葉 Leberläppchen ニ分レ、其尖端ハ表層ニ於テハ表面ニ向ヒ、基底ハ中心ニ向フト雖モ深部ニ於テハ其位置一様ナラズ

デ集合シテ葉下靜脈 V. sublobulares トナリ、小葉ノ基底ヲ走り漸ク集合シテ肝靜

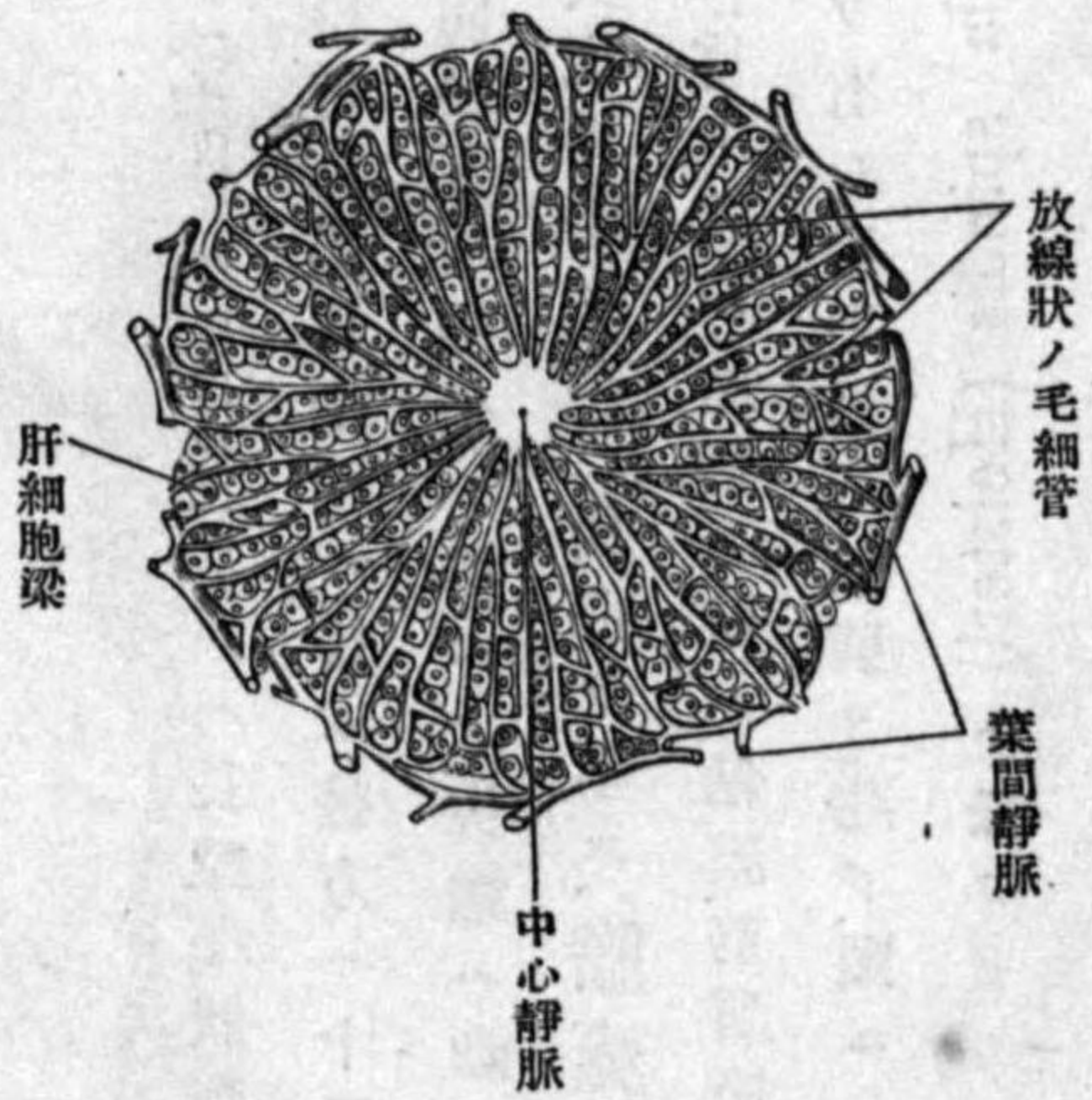


第五百六十一圖 肝小葉縱斷面模圖

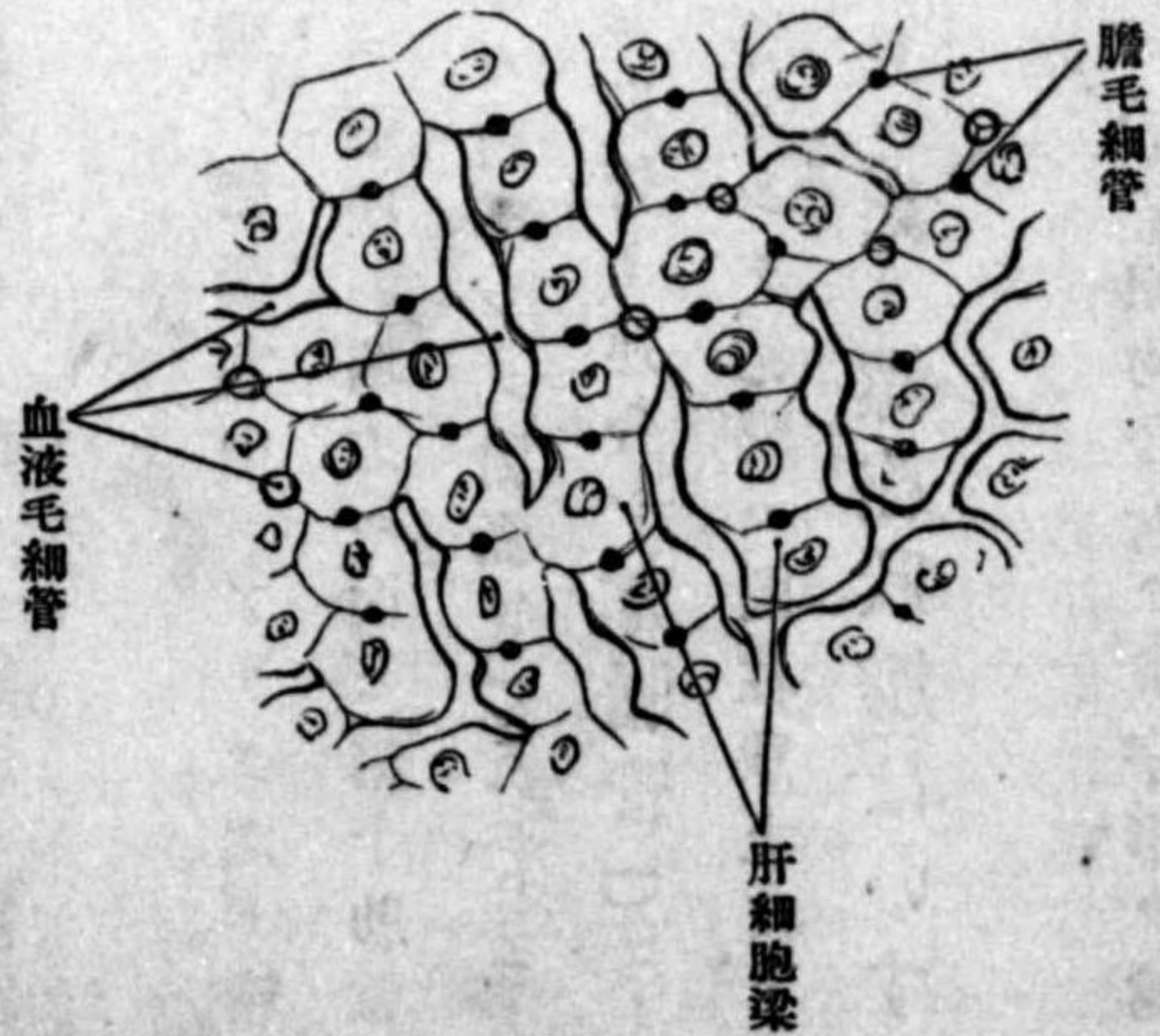
膽毛細管ハ小葉ヲ脱シテ漸ク集合シ葉間結締組織中ヲ走ル、之ヲ葉間膽道 Interlobuläre Gallengänge ト云フ、亦相集リテ肝管トナル、門脈分枝ハ葉間結締組織中ヲ走り(葉間靜脈 Venae interlobulares) 許多ノ毛細管(徑十乃至十ニ分岐吻合シテ終ニ小葉ノ中心ヲ縦貫スル一靜脈ニ集合ス之ヲ中心靜脈(葉中靜脈) V. centralis ト稱ス、此靜脈ハ小葉ヲ出

脈トナル肝動脈枝ハ門脈ニ伴行シ肝細胞ハ小葉内ノ血液毛細管ノ間隙ヲ充填シ相重疊シテ柱狀ヲ爲ス、故ニ肝細胞梁 Leberzellenbalkchen ト云フ

第五百七十一圖 肝小葉橫斷面模圖



第五百八十一圖 肝構造模圖



肝臟ノ表面ハ結締組織及彈力纖維ヨリ成リタル被膜ヲ被ル、之ヲ纖維囊(ぐりそん) Capsula fibrosa (Glissoni) ト云フ肝門ヨリ血管鞘トナリテ實質ニ入ル、葉間結締組

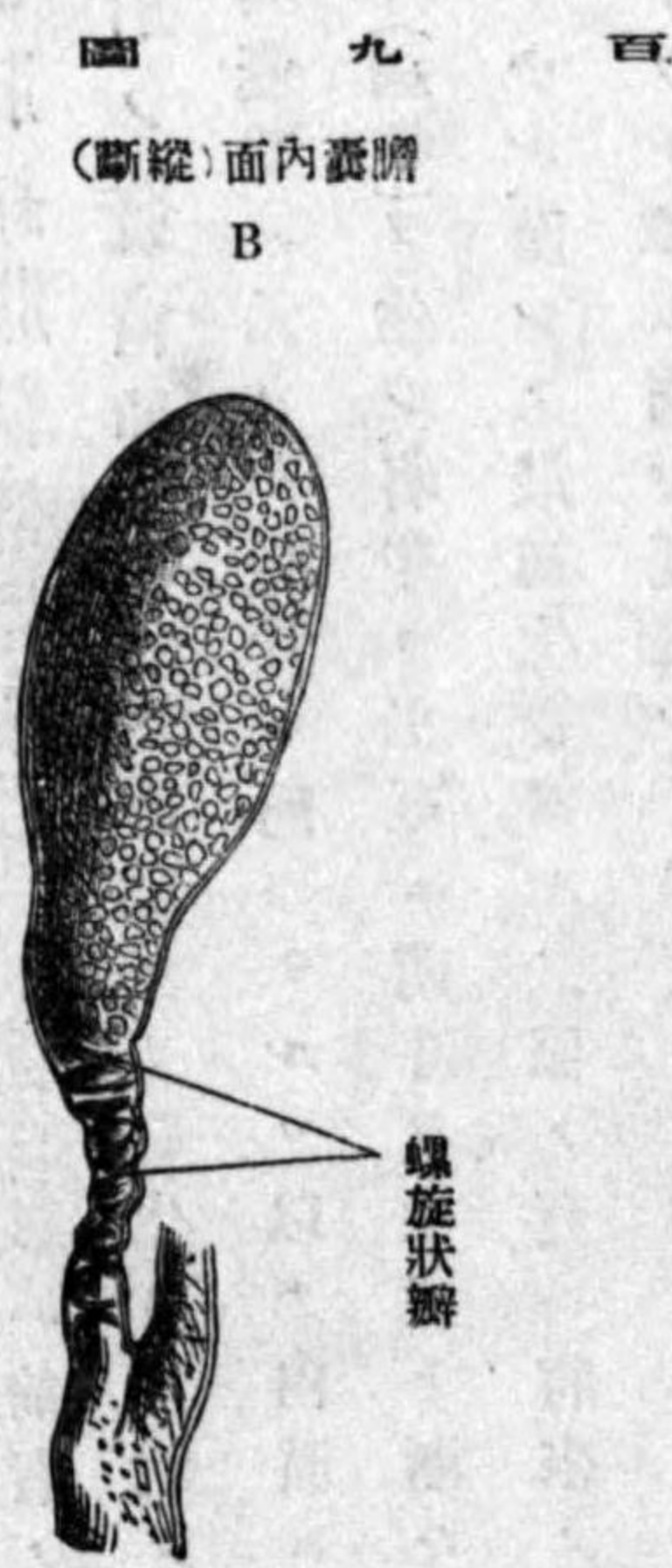
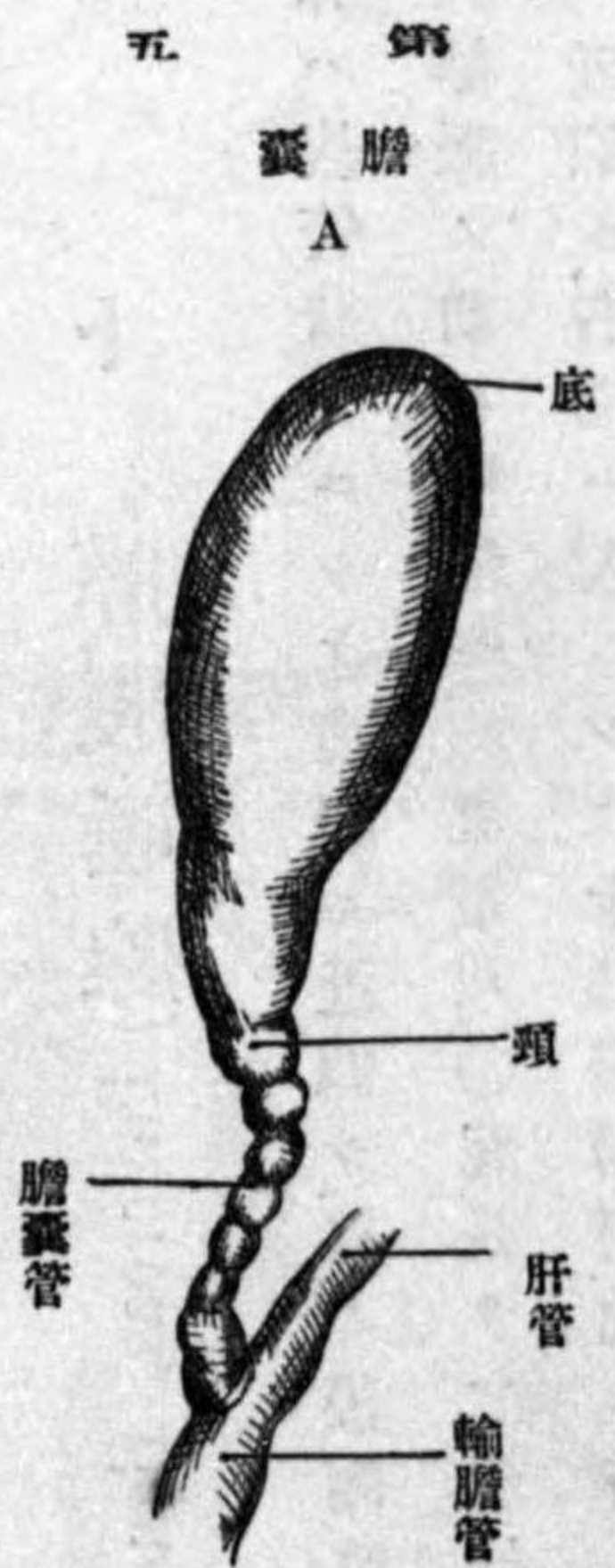
織 interlobuläres Bindegewebe 及葉内結締組織 intralobuläres Bindegewebe 其系統ナリ

淋巴管ハ血管ニ伴ヒ、神經ハ專ラ無髓神經ニシテ同ジク血管ニ伴フ、而シテ諸所ニ節細胞ヲ有ス

膽囊 vesica fellea, Gallenblase ハ長梨子狀形ヲ呈シ肝臓ノ膽囊窩中ニアリテ之ト密著シ下面ハ横行結腸胃幽門ニ接シ後方ハ十二指腸ニ接ス、囊底ハ前方ニ向ヒ第十肋軟骨下ニ於テ腹壁ヨリ觸知シ得ベク、尖端ハ幽門ニ向ヒ漸々狭小シテ膽囊管 Ductus cysticus トナリ、其境界部ニ二三屈曲ヲ呈ス、**膽囊管**ハ銳角ニ肝管ト連合シ輸膽管 Ductus choledochus ト成ル、膽囊ノ壁ハ粘膜、筋質膜及漿液膜等ニシテ、粘膜ハ圓柱狀上皮ヲ被リ粘液腺ヲ有シ格子形ノ皺襞ヲ生ジ、頸ニハ横皺襞ヲ見ル、之ヲ**螺旋狀瓣** (はいすての) *Valvula spiralis (Heisteri)* ト云フ

肝管 Ductus hepaticus 肝管ハ左葉及右葉ヨリ起リ肝門ニ於テ相吻合シテT字形ヲ爲シ肝十二指腸靱帶中ヲ下リ、膽囊管ト合シ輸膽管トナリ、肝十二指腸靱帶中ヲ後下ニ進ミ十二指腸下行部ノ内後側ヨリ斜ニ之ヲ穿貫シテ乳頭ニ開口ス、其開口部ハ通常膝管ト合ス

肝臓共ニハ表面腹膜ヲ以テ被覆セラレ、其體壁及近隣ノ臟器ニ移行スル部ヲ靱帶ト名ク、之ニ依リテ其位置ヲ固定セラ



圖九百五第
膽囊
A
(斷縱)面内囊膽
B

ニ達ス4. **圓靱帶 Lig. teres** ハ臍ヨリ前腹壁ヲ昇リ肝ノ左矢狀溝ヲ後走シ靜脈様靱帶ニ連ル、是レ胎兒臍靜脈 *Vena umbilicalis* ノ遺物ニシテ產生後退化シ索狀ニ化シタルモノ

ナリ5. 肝胃靱帶(小網) Lig. hepato-gastricum (Omentum minus)ハ疝門ト胃小彎ノ間ニ渡リ其右縁ヲ6. 肝十二指腸靱帶 Lig. hepato-duodenale ト云ヒ内ニ脈管及輸膽管ヲ包有ス、7. 肝腎靱帶 Lig. hepato-renalēハ右葉ノ下面ヨリ右腎ノ前面ニ緊張シ

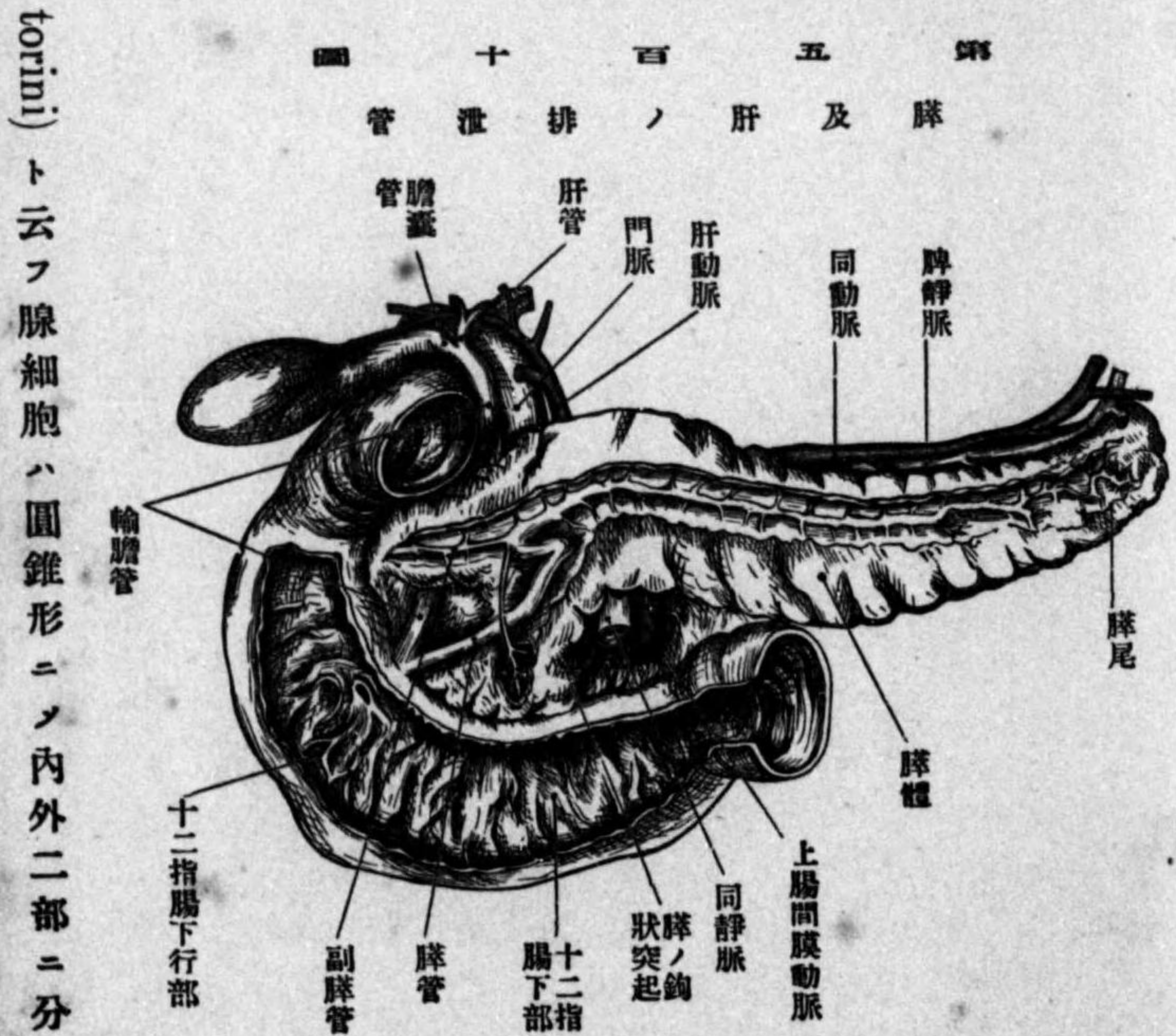
8. 肝結腸靱帶 Lig. hepato-colicumハ前者ノ連續ニシテ其下部ヲ云フ
肝ノ發育胎生ノ始メ腸壁ヨリ發生ス其始メ胃ノ下方ニ於テ腸壁ニ二個ノ囊ヲ生ジ其囊壁ハ元ヨリ腸壁ト同一ナルヲ以テ内面ニハ上皮ヲ被リ囊底ヨリ數多ノ上皮性萌芽(細管)ヲ生ジ萌芽ヨリ更ニ萌芽ヲ生ジテ漸々分岐シ細胞ハ柱狀ニ列シ複分枝管狀腺トナル而シテ最初生ジタル二個ノ囊ハ將來ノ左右細管ニシテ始メ腸壁ニ接シテ廣濶ナリト雖モ漸々延長シテ腸壁ヨリ遠ザカリ細管狀ニ變ズ膽囊ハ肝管ノ一膨張部ナリ

ト 膵(腹唾腺) Pancreas, Bauchspeicheldrüse

膵ハ複管狀腺ニシテ唾腺ニ近似シ胃ノ後側第一腰椎體ノ高サニ於テ腹部大動脈及下大靜脈ノ前ニ横位シ約重量八〇瓦長サ二〇仙迷幅四仙迷厚サ二仙迷ヲ算シ全形小槌ニ近似シ右端ハ大ニシテ十二指腸彎曲ニ箱入シ仍チ其後方ニ延展シ輸膽管及膵ヨリ穿通セラル之ヲ頭 Caput pancreatis ト云フ左方ハ漸々狭小シ尖端ヲ以テ脾ノ内面ニ

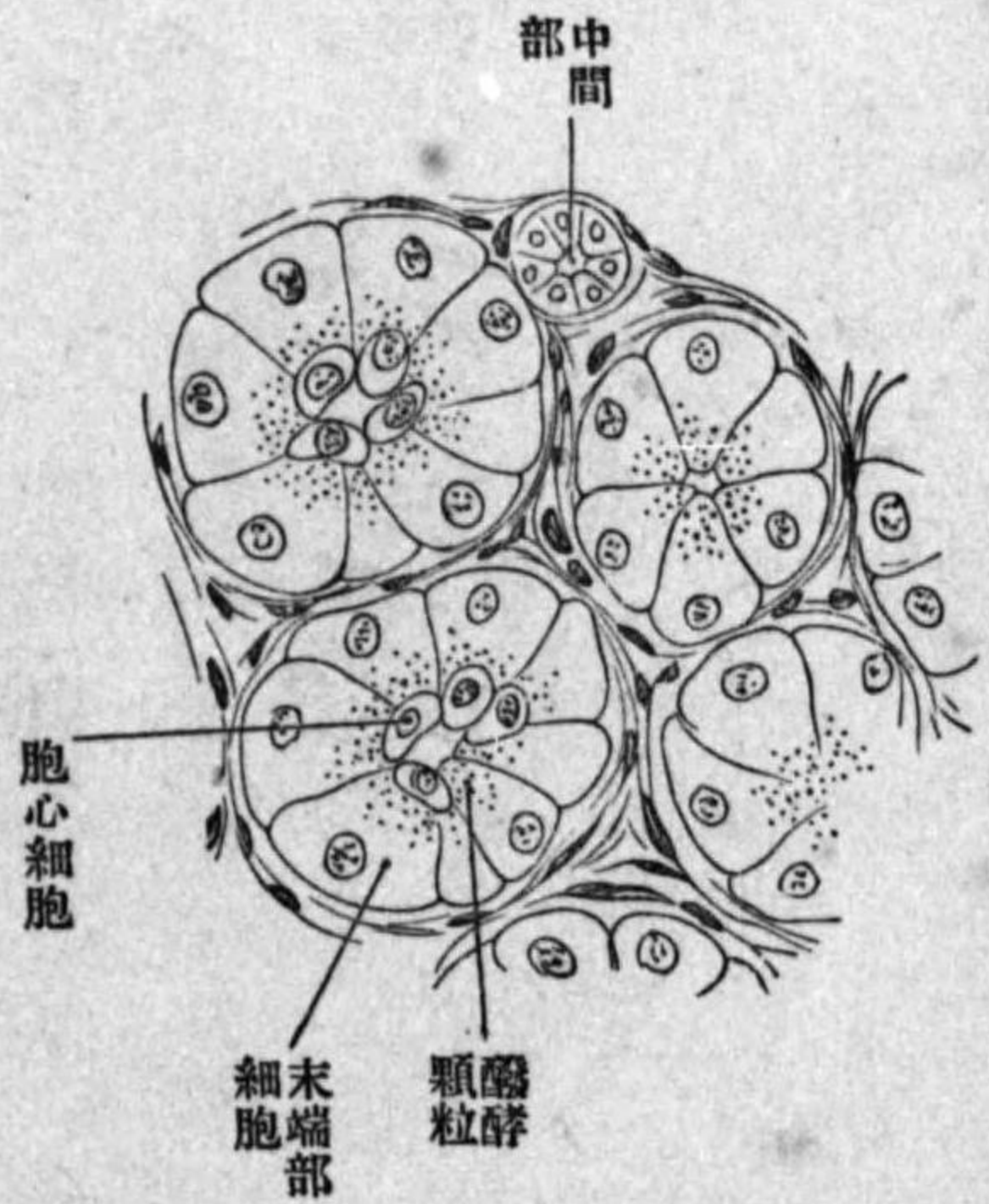
接ス之ヲ尾 Caudapancreatis ト云フ

中部ハ即體 Korpus pancreatis ナリ前面ハ腹膜ヲ以テ覆ハレ上方ニ内臟動脈下方ニ上腸間膜動脈及靜脈アリ膵頭ノ此脈管ヲ圍塞シテ屈曲シタル部ヲ鉤狀突起 Proc. uncinatus (Pancreas Winslow) ト云フ導管即膵管 Ductus pancreaticus (Wirsung) ハ實質ノ中央稍後方ヲ尾端ヨリ頭端ニ向テ走り小葉ヨリ來ル數個ノ枝管之ニ流注シ末端ハ輸膽管ノ左方ヨリ十二指腸下行部ノ後内壁ヲ斜ニ穿テ乳頭ニ開口ス又其副管ヲ副膵管 Ductus pancreaticus accessorius (San-



torini) ト云フ腺細胞ハ圓錐形ニ内外二部ニ分レ内部ニハ光線屈折力強キ顆粒醱酵

第五百一十圖
脾ノ切片ノ片(大擴)



顆粒 (Zymogenkörner) ヲ有シ外部ハ透明ナリ然レモ消化時ノ初メニ於テハ外部擴張シ内部ノ顆粒ハ消失シ次期ニハ此顆粒増生シテ細胞ノ全部ヲ占メ飢餓時ニハ内外兩部同大ナリ排泄管ハ圓柱上皮ヲ被リ其大ナルモノハ粘液腺及輪狀筋ヲ具ヘ分岐シテ細少ノ閤管ニ至レバ上皮細胞ハ扁平トナリ胞心細胞 (Centrocytäre Zellen) ハ其腺腔内ヘ進入シタ部ナリ(二十)

指腸ヲ參) 脾ノ分泌物ヲ脾液 (Succus Pancreaticus, Pankreassaft) ト云フ其作用ハ第一含水炭素ヲ可溶性考スベシ) ノ糖ニ變ジ (Pankreaspyalin) 第二蛋白質ヲ可溶性ノペプトンニ變ジ (Pankreas-trypsin) 第三脂肪ヲ細滴狀ニ分チ且之ヲ可溶性ノ脂肪酸及グリセリンニ分解セシム 脾ノ動脈ハ脾動脈、肝動脈、上腸間膜動脈ヨリ來リ、靜脈ハ脾靜脈及上腸間膜靜脈ニ注キ、神經ハ迷走神經及交換神經枝ナリ、脾ハ元ト腸壁ヨリ生ジタル小囊ヨリ發生シ囊底漸次分岐シテ終ニ複管狀腺トナル

脾 (Lien, Milz)

脾ハ血管腺 (Glandula vascularis) ニシテ其排泄管ハ血管ナリ、脾ハ胃底ノ左方ニ於テ橫隔膜ノ下面ニ接シ、約長徑一二仙、迷幅八仙、迷厚三仙、迷重量二〇〇瓦ヲ算シ、質ハ軟色ハ帶藍赤褐色、形狀コヒ豆狀ヲ呈ス、凸面ハ左方ニ向ヒテ、橫隔膜ニ接シ、(橫隔面) *facies diaphragmatica*、凹面ハ右方ニ向ヒ中央縱隆線ニ由リテ前後二面ニ分レ、前部ハ大ニシテ胃底ニ接シ、(胃面) *facies gastrica*、後部ハ小ニシテ腎及副腎ニ接シ、(腎面) *facies renalis*、其下部ハ脾尾ニ接ス、此部ヲ底面 (*facies basalis*) ト云フ、隆起ノ前方ニ於テ血管神經ノ出入部アリ、縱裂狀ヲ呈ス、脾門 (*Hilus lienis*) ト云フ、前緣 (*Margo anterior*)、稍銳ニシテ二三ノ截痕アリ、後緣 (*Margo posterior*)、少シク鈍シ、脾ノ外面ハ漿液膜 (*Tunica serosa*) 一部分ヲ被リ、尙其下ニ彈力纖維及滑平筋纖維ヲ含有シタル一層ノ結締組織膜ヲ被ル、之ヲ白膜 (*Tunica albuginea linealis*) ト云フ、白膜ハ其内面ヨリ實質ニ向ツテ多數ノ纖維束ヲ送り、夫レヨリ小纖維ヲ脾軟肉ニ分脈ス、之ヲ脾材 (*Trabeculae lienis, Milzbalken*) ト云フ、脾軟肉 (*Pulpa lienis*) ハ藍赤色ニシテ脾材ノ網眼ヲ充ス、之ヲ細檢スレバ脾材ヨリ來ル微細ナル網様結締組織ト數種ノ細胞ヨリ成ルヲ見ル、其細胞ハ白血球、多核細胞、赤血球ヲ含有スル細胞、遊離セル赤血球等ナリ、脾材ハ結締組織彈力纖維及少許ノ滑平筋纖維ヨリ成リ、其脾門ヨリ入り血管外膜ニ沿行スルモノヲ外膜性鞘 (*Adventitielle Scheiden*)

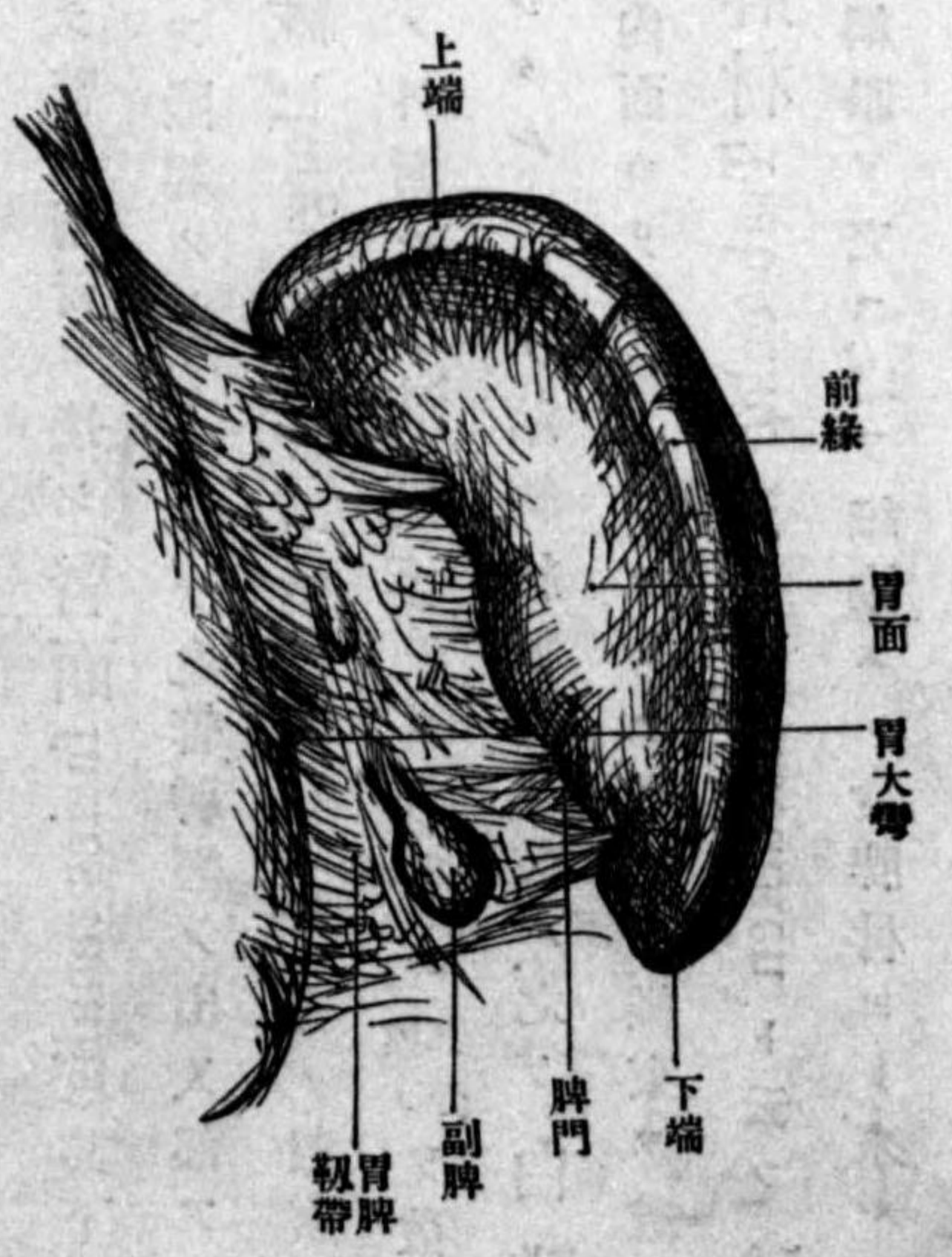
第五百十二圖

脾(胃側ヨリ見ル)



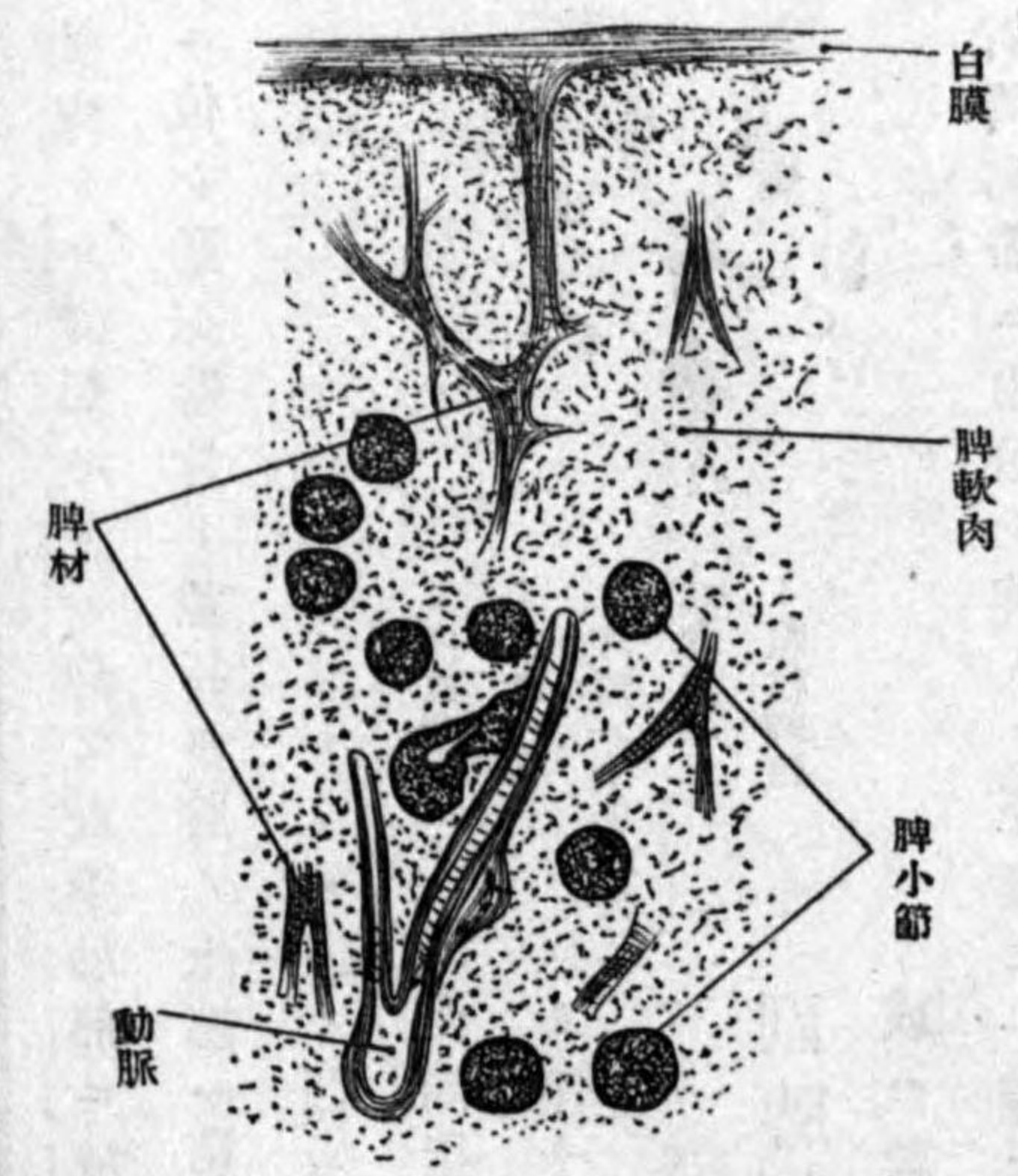
第五百十三圖

同上(胃ト連結シタルモノ)

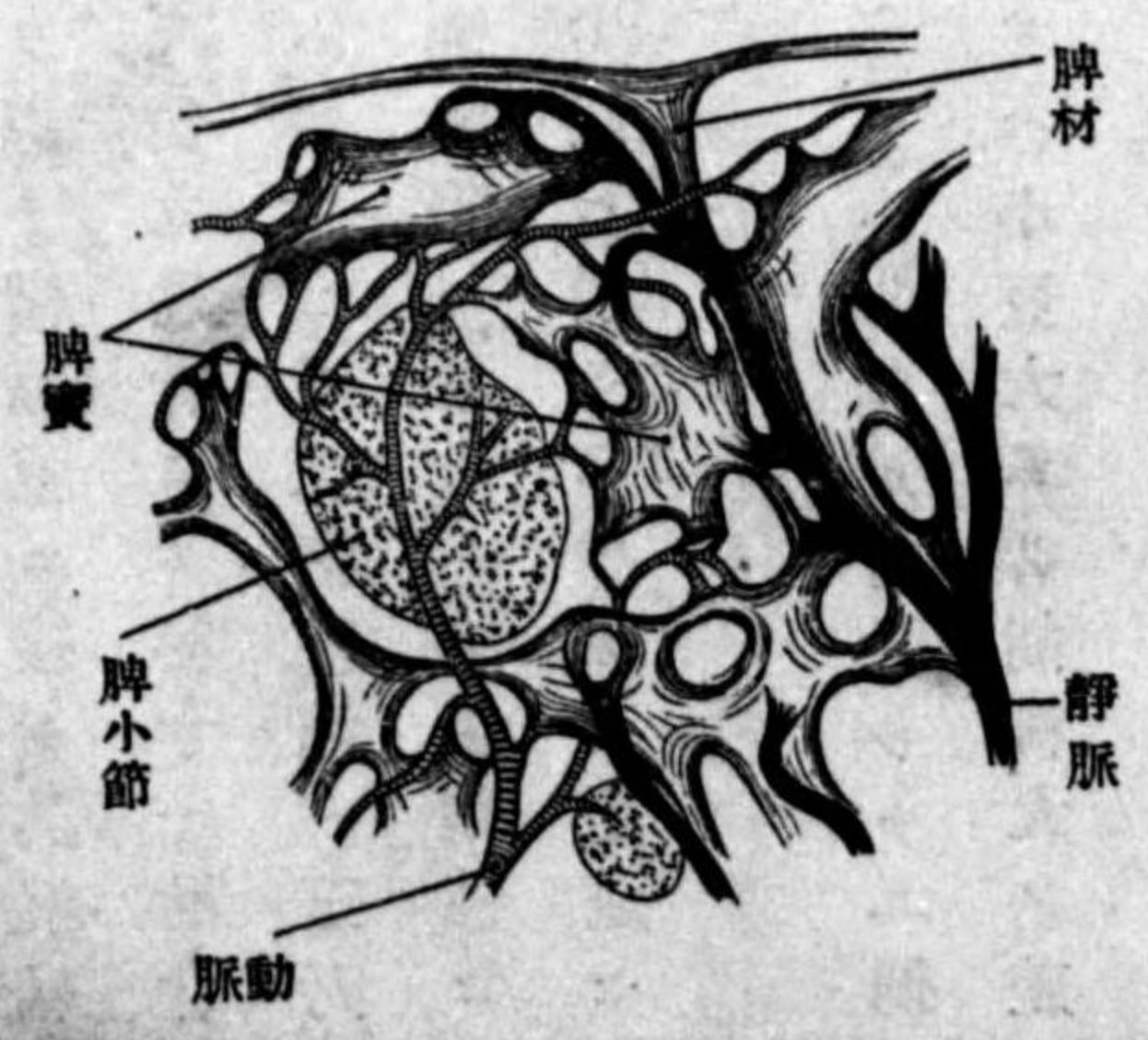


ト云フ、脾動脈分枝ト此鞘ノ間ノ所々ニ無色細胞集合シテ小節ヲ爲ス、即脾小節 *Nodus lymphatici lienales* 又まるびぎ一小體 *Margigische körperchen* ニシテ多クハ動脈ノ分岐部ニ生ス其構造ハ淋巴節ノ第二小節 *Sekundärknötchen* ニ同シ

第五百十四圖 (倍十) 脾切片



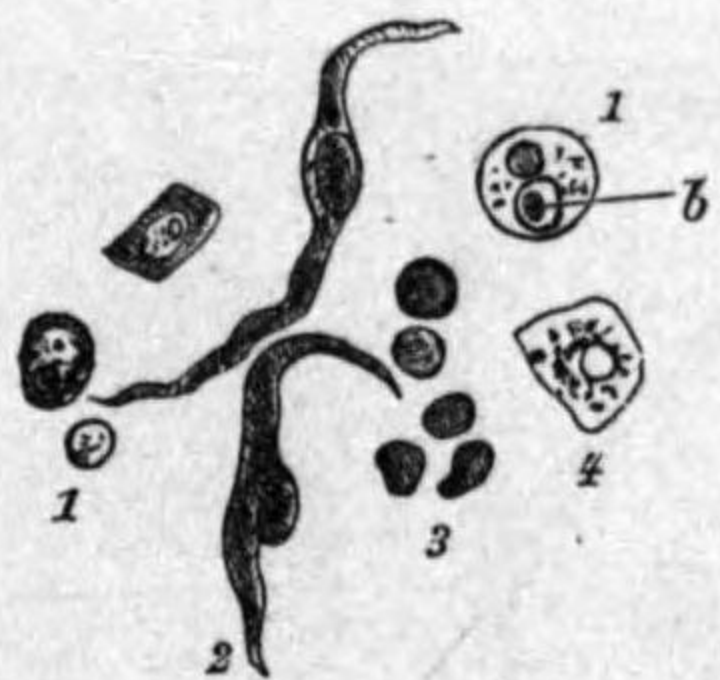
第五百十五圖 脾脈管ノ模型圖



脾動脈ハ脾門ニ於テ分岐シ實質ニ入リテ漸次細小枝ニ分レ軟肉動脈ト成リ其末端一ノ擴張部即脾竇 *Ampulle, Milzsinus* ニ終リ、脾靜脈ハ此膨大ヨリ始マル
 神經ハ少許ノ有髓纖維及裸軸索ニシテ動脈ニ伴ヒ、軟肉ニ於テハ無髓ノ神經叢ヲ見ル
 脾ハ靱帯 腹膜ノヲ以テ近隣ノ器管ト連ル、其胃底ヨリ脾門ニ渡ルモノハ胃脾靱帯 *Lig. gastro-lineale* ニシテ後縁ハ脾横隔靱帯 *Lig. phrenicolineale* ヲ以テ横隔膜ト連結ス

脾ノ位置ヲ少シク詳記スレバ、先ツ左季肋部ニ於テ突隆面ヲ以テ横隔膜ニ接シ、其縦軸長軸ハ斜ニ位シ殆ド肋骨ト並行ス、脾ノ上端ハ稍、後方ニ傾キ第九肋骨ヨリ第十一肋骨ノ間ニ渡リ、上端ハ脊柱ヨリ二指、下端ハ三乃至四指廣ヲ隔テ、健康體ニ於テハ胸鎖關節ヨリ第十肋骨ノ尖端ニ引キタル線ヲ超越セザルモノトス

圖六十百五第
560/1 胞細諸ノ内脾



- b. 赤血球
- 1. 白血球
- 2. 脾囊ノ上皮細胞
- 3. 赤血球
- 4. 顆粒細胞

副脾 *Lien accesorius* ハ屢見ル所ニシテ一個或ハ數個アリ、大サハ小豆大ヨリ胡桃大ノ差アリ、通常胃脾靱帶ニ附著シ脾トノ距離モ一様ナラズ

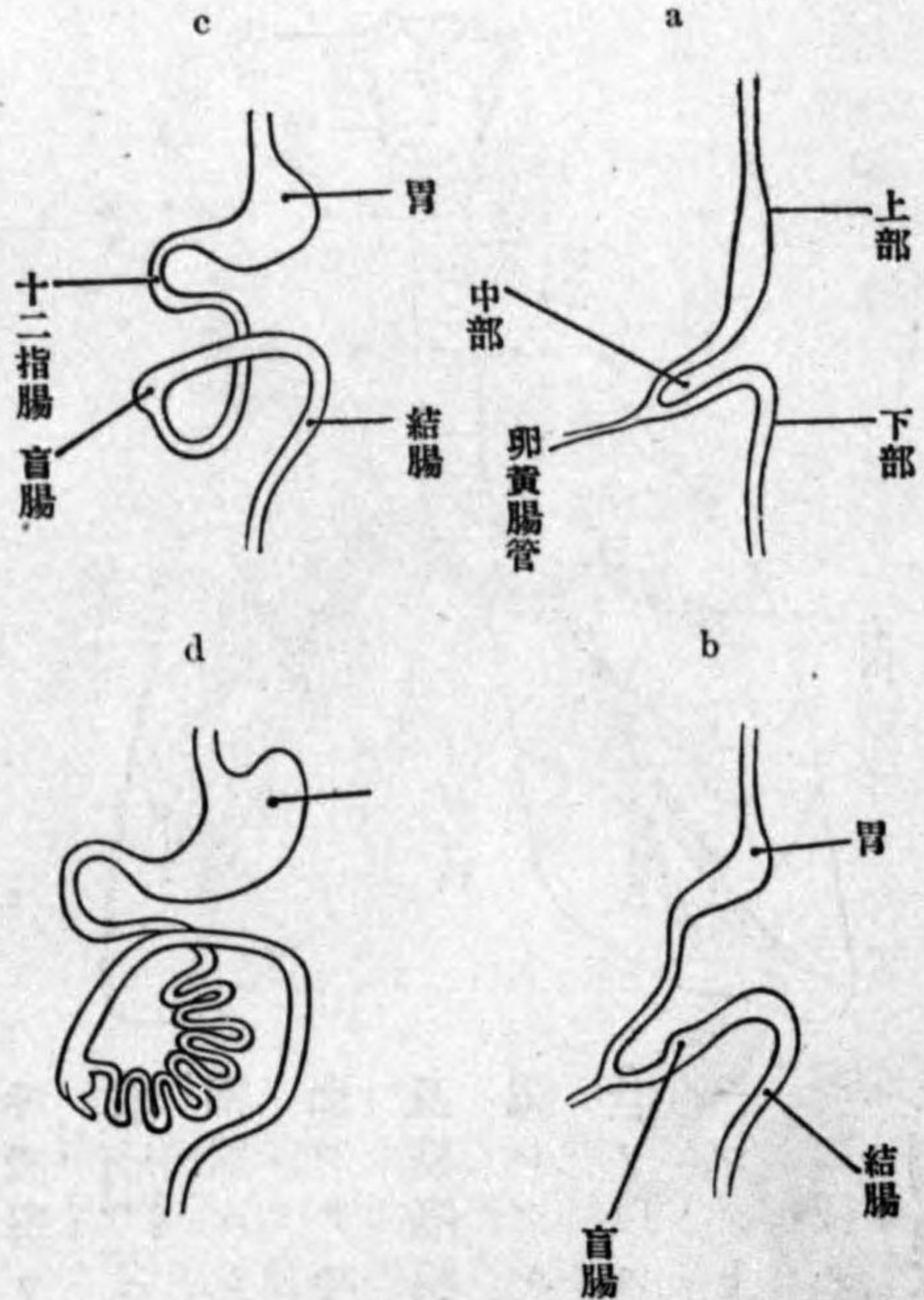
脾ノ發生ハ未ダ詳カナラズ、胎生第一月ニ於テ胃ノ腸間膜ニ一細胞群現ハレ、第三月ニ於テ其中ニ血管及纖維ヲ生ジ、五月以後ニ於テ脾小節現ハル

(腸管ノ發育 *Entwicklung des Darmrohrs*)

腸管ハ胎生ノ或時期ニ於テハ軀幹ヲ縦貫シタル單純ナル膜管ナリ、其上及下部ハ後腹壁ニ接シ中部ハ前方ニ向ヒタル蹄係ヲ爲シ、其突出部ニ卵橫囊 *Dotter sack* ヨリ來ル卵橫

腸管 *Ductus vitellointestinalis* 連ル、腸管ノ上端及下端ハ始メ盲囊狀ヲ爲シ口腔及肛門ハ外方ヨリ陥入シタル外皮ノ凹陷部ニシテ腸ノ盲端之ニ穿通ス、腸管ノ上部ハ漸次擴張シテ胃ノ始メヲ爲シ其左側膨脹シテ大彎トナリ後左方ニ向フ、然レテ後ニハ廻旋シテ左下方ニ轉ジ右側面ハ後側トナリ左側面ハ前面トナル、胃ノ次ニ位シテ體腔壁ニ固著シタル部ハ十二指腸トナリ、中部ニ於テ卵黃腸管開口部ノ下方ニ盲腸發生シ大小腸ヲ

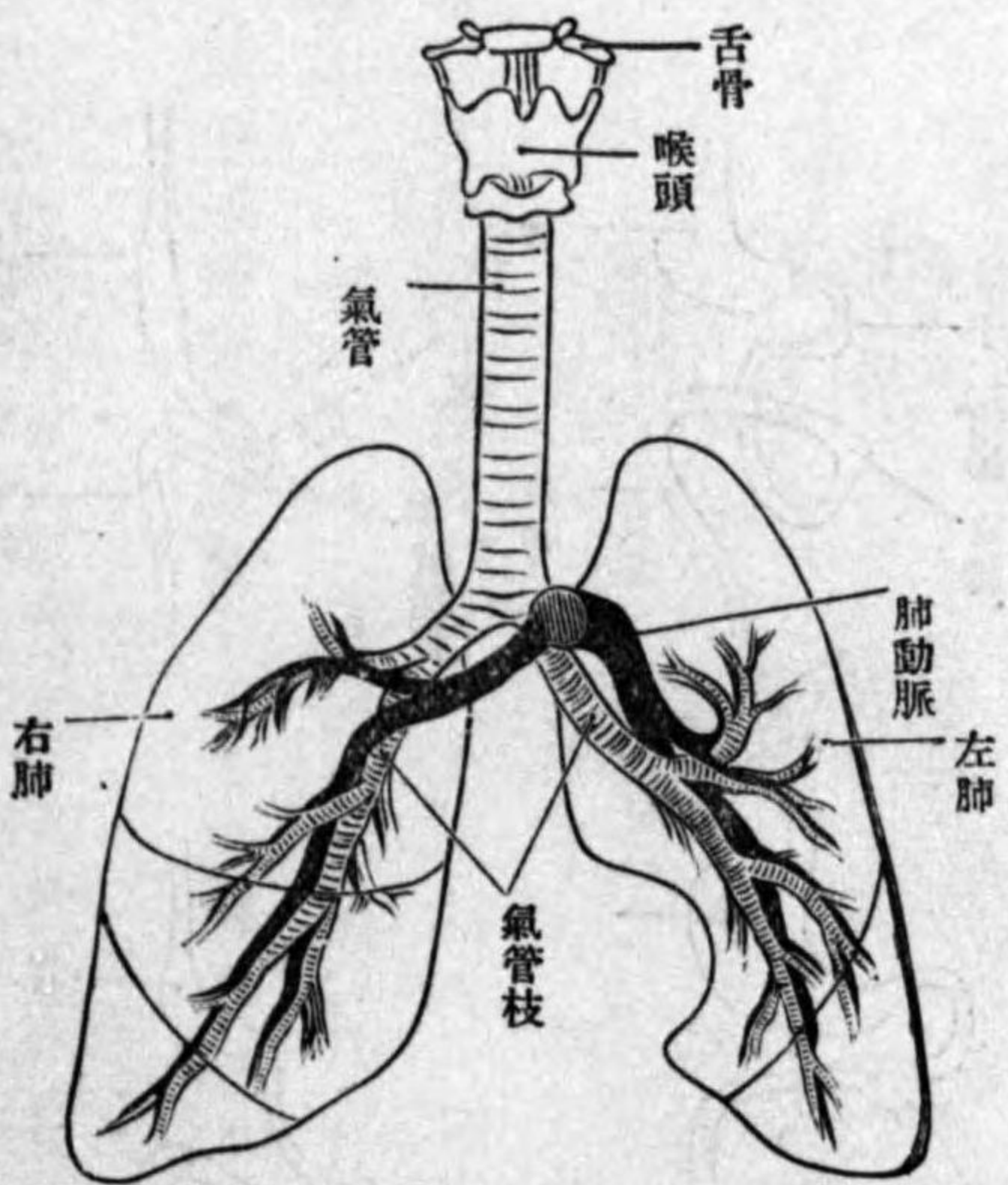
圖七十百五第
腸管發育ノ壁模



境界ス、卵黃腸管ハ始メ臍帶中ニアルモ後ニ腸管ノ蹄係腹腔内ニ退却シ卵黃腸管消滅シテ痕跡ヲ止メズ唯破格的ニ其遺物ハ廻腸擴張 *Diverticulum coli* トシテ發育ス、又腸管締係ハ早ク廻轉ヲ始メ其下部(大腸)ハ上部(小腸)ノ前方ヲ越エテ右方ニ轉ジ終ニ大ナル結

腸蹄係ヲ爲シテ強ク發育シ轉々彎曲シタル小腸ヲ環擁スルニ至ル

Z 呼吸器 Apparatus respiratorius



呼吸器ヲ肺 Lunge 氣管 Luftröhre 及
 喉頭 Kehlkopf ノ三部ニ分ツ肺ハ海
 綿狀ニシテ血液ヲ大氣ト接觸セシム
 而シテ呼吸器内ノ大氣ノ出入ハ胸廓
 及橫隔膜ノ運動ニヨル氣管ハ肺ニ附
 隨シタル管ニシテ二個ノ氣管枝 Bron-
 chiヲ以テ肺ニ連リ喉頭ハ氣管ノ上端
 ニシテ上方咽頭ニ通ズ呼吸器ノ上部
 ニ二種ノ腺アリ甲狀腺 Schilddrüse
 及胸腺 Thymusdrüse 是ナリ

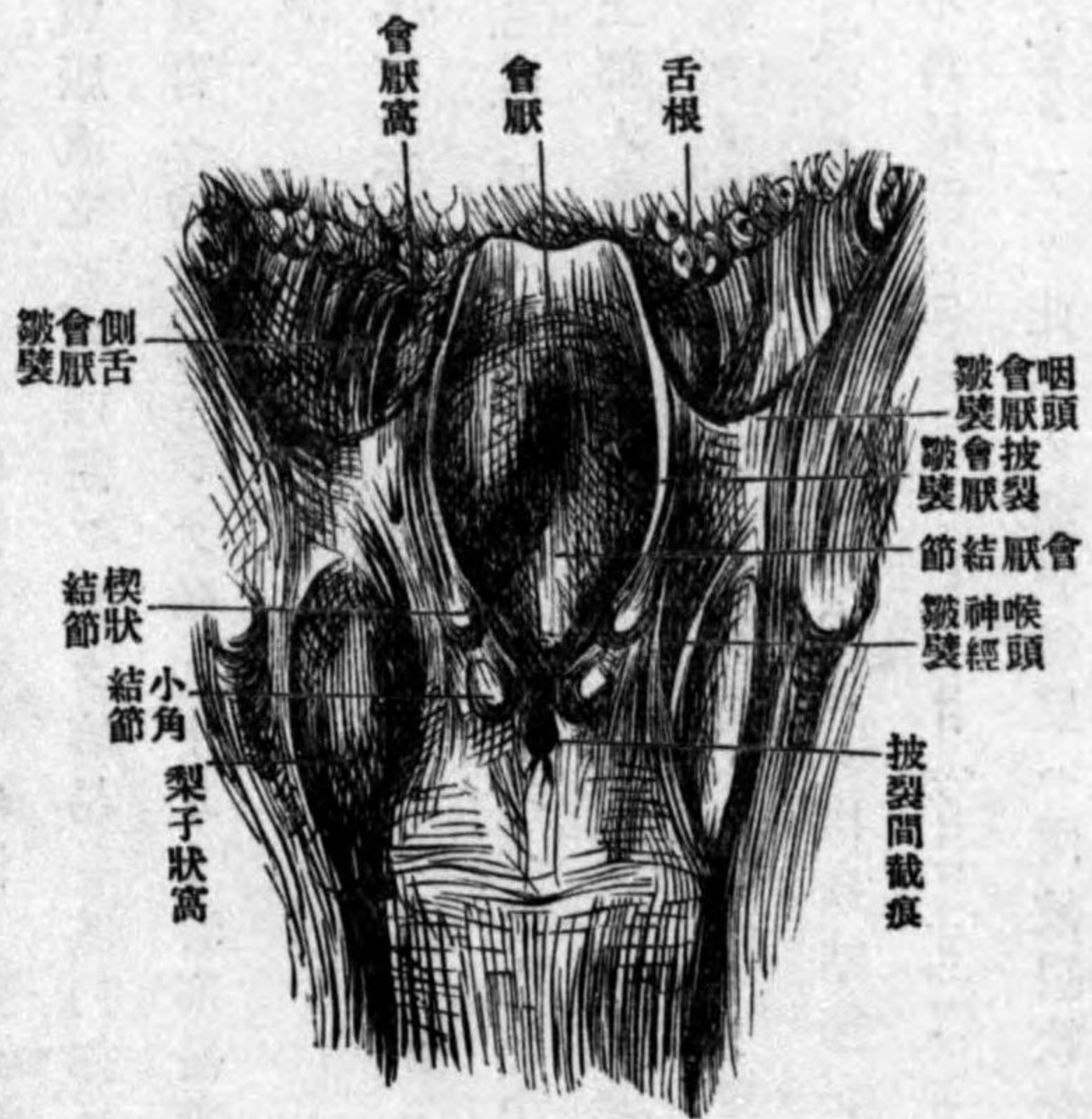
イ 喉頭 Larynx, Kehlkopf

第五百八十八圖 呼吸器一汎模圖

喉頭ハ前頸ノ中央ニ於ケル短管ニシテ上ハ咽頭ニ通シ下ハ氣管ニ連ル男ニ於テハ其大女ハ小其
 壁ハ可動性ニ連續シタル軟骨骨格ヲ有シ内部ニ所謂聲帶 Stimmbänderヲ具フ其位置ノ
 變化及弛張ハ喉頭筋ノ作用ニヨル喉頭ノ内面ハ粘液膜ヲ被リ其上方ハ咽頭下方ハ氣
 管ニ通ズ成年男子ノ喉頭ハ前方ニ

第五百九十九圖

咽頭後壁ヲ斷シ喉頭ノ後方ヲ望ム



於テ高徑七仙迷廣部ノ橫徑四仙迷
 甲狀軟骨下緣ニ於テ三仙迷ノ深サ
 ヲ有ス女子ハ高徑四・八仙迷、橫徑三・
 五仙迷深サ二・四仙迷ヲ算シ男子ニ
 於テ聲門ノ長サハ二・五、女子ハ一・五
 仙迷アリ (Luschka)
 喉頭ノ位置ハ頸椎ノ前ニシテ第四
 乃至第六頸椎ノ間ニ位シ後方ハ咽
 頭壁ニ隣リ前側ハ中央部ヲ除キ胸
 骨舌骨筋及甲狀舌骨筋ヨリ被ハル、
 側方ニ甲狀腺及頸脈管幹アリ、安靜

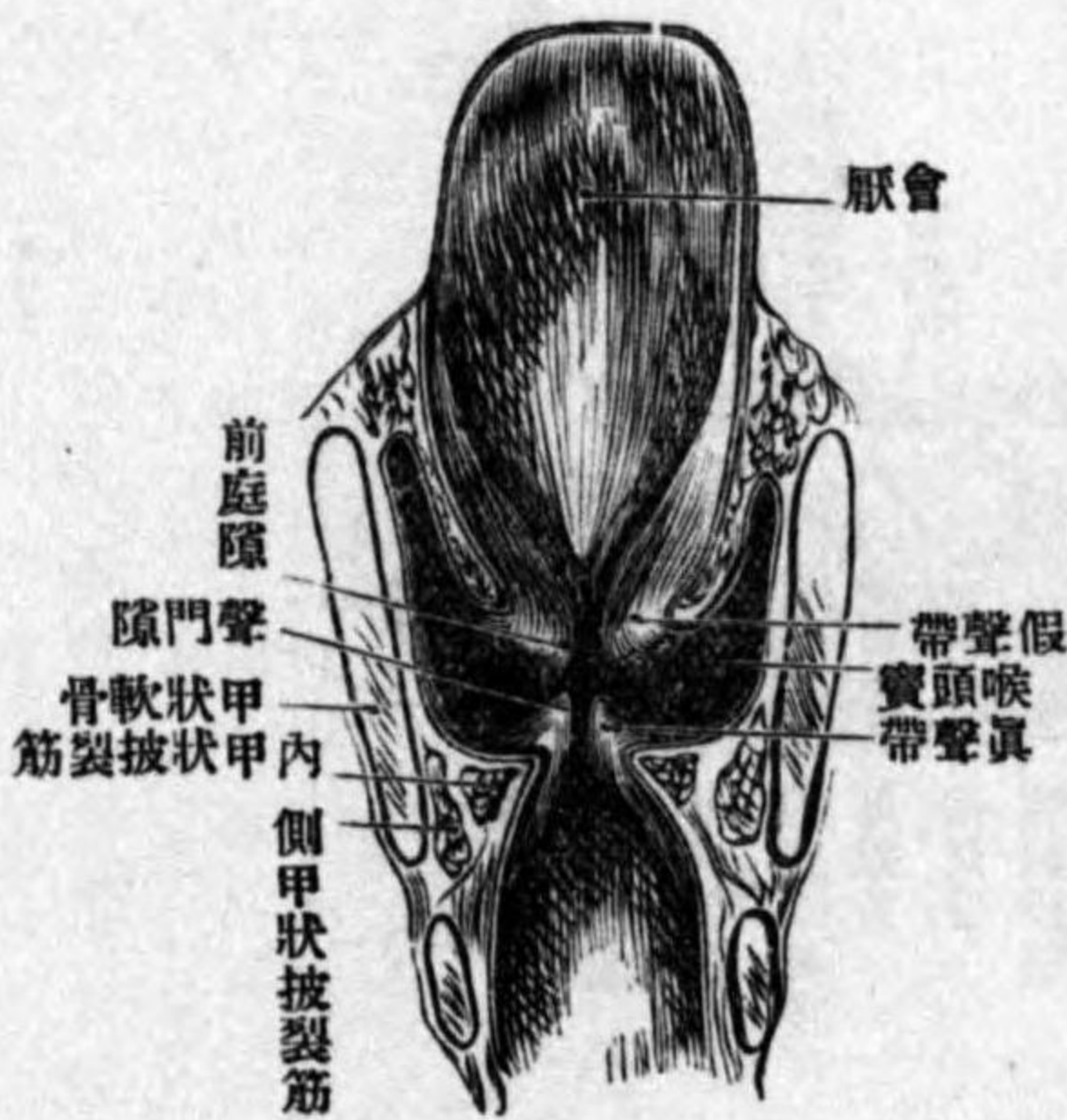
呼吸時ニ於テハ空氣ハ喉頭ノ狹キ空隙ヲ通過スト雖モ、強呼吸例之ハ演說及放歌時ニ於テハ會厭直立シ、喉頭鏡ヲ以テ容易ニ其内部ヲ窺視スベシ
 喉頭ノ發育ハ約三歳ニシテ殆ト中止シ、春期發動期ニ至リテ再ビ著明ナル發育ヲ遂ルモノトス

喉頭腔 Kehlkehle、前額斷ニ於テ見ルキハ砂漏形ヲ呈シ、漏斗狀ノ上部(前庭 Ves-tibulum laryngis)及下部(下喉頭腔)ト中央ノ狹小部(中間喉頭腔 Cavum laryngis intermedium)トヨリ成リ、上部ノ前方ハ會厭ニシテ高ク聳エ、其下方ニ會厭結節 Tuberculum epiglotticumアリ、咽頭側襞ヨリ會厭ノ側縁ニ向ツテ小皺襞アリ、莖狀咽頭筋ヲ含ム之ヲ咽頭會厭弓 Arcus pharyngo-epiglotticus ト云フ、後部ハ低ク楔狀結節 Tuberculum cuneiforme (wisberg)アリ、又其後内方ニ小角結節 Tubercula corniculata (Santorini)アリ、小角結節間ノ深キ披裂間截痕 Incisura interarytenoideaアリ、此部ノ粘膜皺襞ハ兩披裂軟骨ニ互ルヲ以テ披裂間皺襞 Plica interary-tenoidea ト云フ、側方ハ披裂會厭皺襞 Plicae aryepiglotticaeナリ、**喉頭口** Aditus laryngis, Obere öffnung、ハ前述ノ諸部ヨリ環擁セラレ、帶圓長菱形ヲナシテ鉛直ニ位シ、種々ニ變形ス

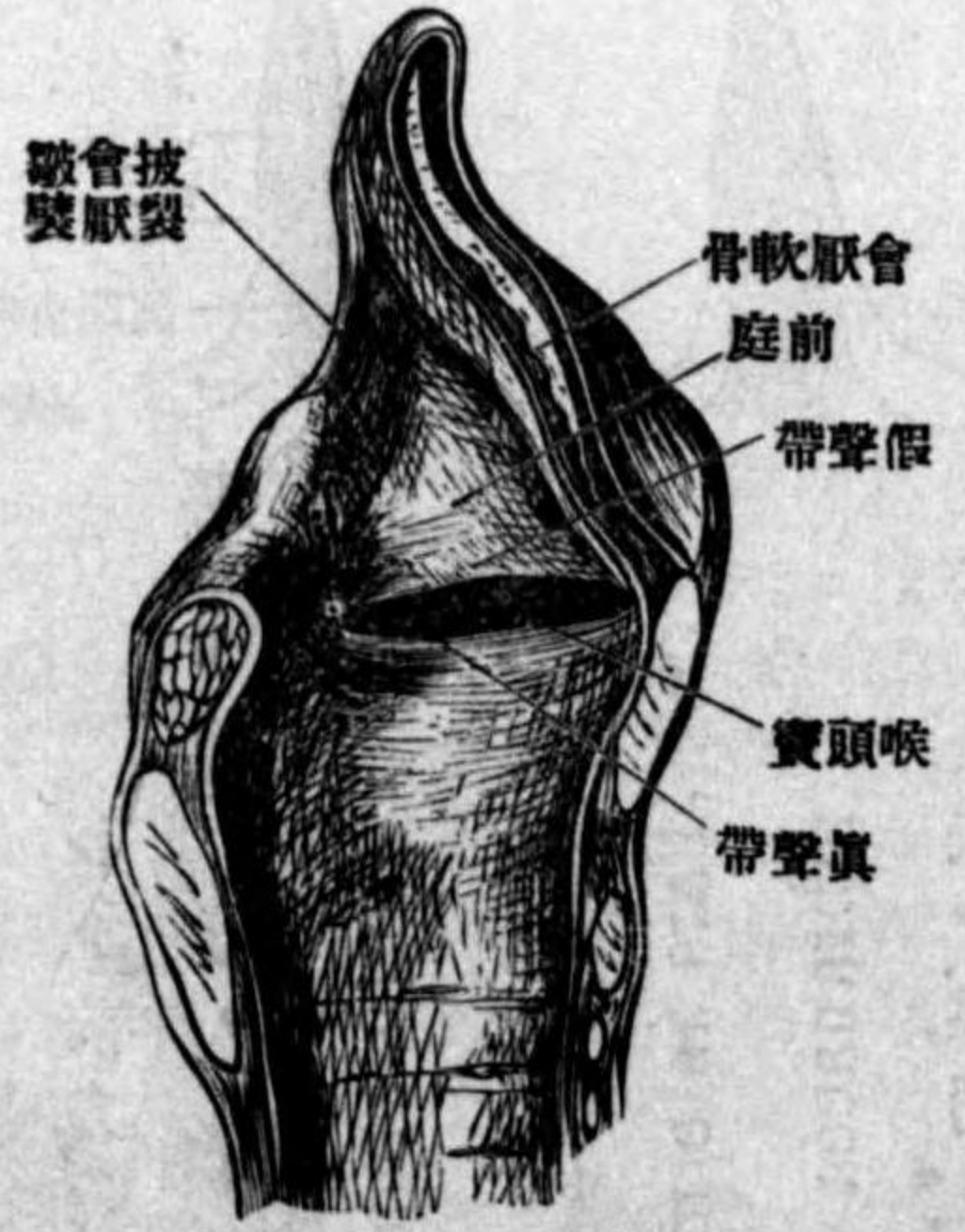
中部ハ**聲帶** Stimmblätter ニシテ兩側ニ上下二個ノ皺襞アリ、上皺襞ハ假聲帶 falschen

Stimmblätter 一名室皺襞 Plica ventricularis, Taschenfalte 又上甲狀披裂皺襞 Plica thyreo-arytaenoi-dea superior ニシテ下皺襞ハ**眞聲帶** Wahren Stimmblätter 一名聲皺襞 Plica vocalis, Labium vocale, Stimmlippe 又下甲狀披裂皺襞 Plica thyreo-arytaenoidea inferior ナリ、而シテ兩上皺襞間ノ間隙ヲ**前庭隙**假聲門 Rima vestibuli, Glottis spuria ト云ヒ、兩側下皺襞ノ間隙ヲ**聲門**

第五百二十圖
喉頭前額斷(半前)



第五百二十一圖
喉頭矢狀斷(半左)



隙(聲門) Rima glottidis, Rima vocalis ト云フ、上下皺襞ノ間ヨリ側方ニ擴張シタル深窩ヲ**喉頭室** ventriculus laryngis (Morgagni) ト名ツケ、入口ヲ室門 Rima ventriculi ト云フ、室底ハ甲狀軟骨ノ内面ニ達シ、上方ニ彎曲シテ甲狀軟骨ト室皺襞ノ間ニ延展シ、甲狀軟骨ノ上

線ノ高サニ達シ或ハ其上ヲ越ユルコトアリ、前庭隙ハ廣ク其間隙ヨリ眞聲帶ヲ檢シ得
 ベシ、聲門ハ即眞聲門 (Glottis vera) ニシテ眞聲帶ノ銳縁ヲ以テ境シ後方盃狀軟骨ノ
 間ニ延長ス、此部ヲ呼吸門 (Glottis respiratoria) 或ハ軟骨間部 (Pars intercartilaginea
 ト名ク之ニ對
 シテ前方聲帶
 ノ間ヲ聲門
 Glottis vocalis
 又ハ膜間部
 Pars interme-
 mbranacea ト
 云フ、聲門ノ形
 狀ハ柳葉形或
 ハ長菱形ニシ
 テ、前端ハ銳ク
 後端ハ鈍シ、而

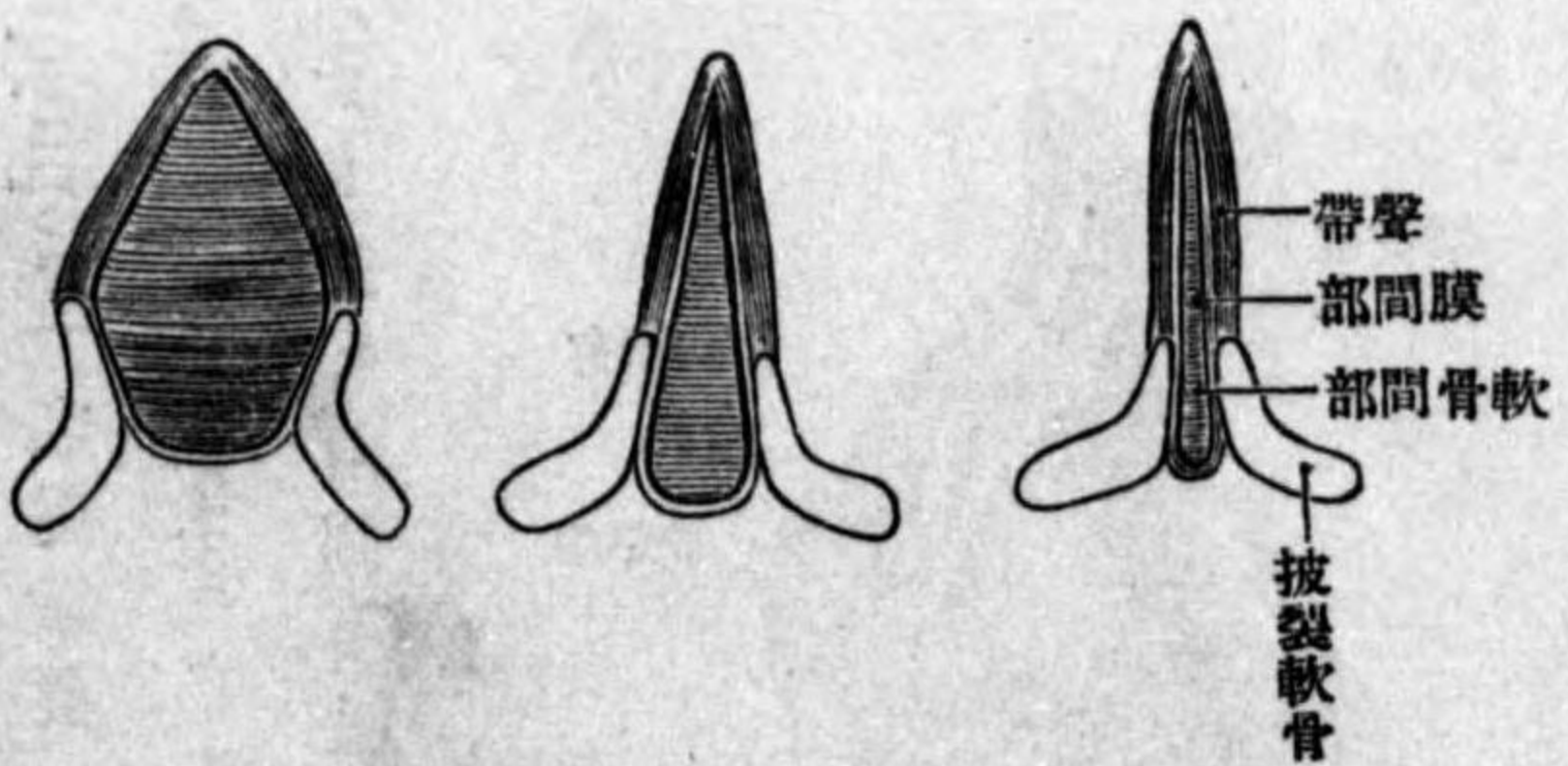
第五百二十二圖

喉頭上ノ上方ヨリ見ル



第五百二十三圖

聲門開閉ノ模範圖



ト名ク之ニ對
 シテ前方聲帶
 ノ間ヲ聲門
 Glottis vocalis
 又ハ膜間部
 Pars interme-
 mbranacea ト
 云フ、聲門ノ形
 狀ハ柳葉形或
 ハ長菱形ニシ
 テ、前端ハ銳ク
 後端ハ鈍シ、而

ノ安靜呼吸時ニ於テハ開大シテ三角形ヲ呈シ、發聲時ハ狹小ナル裂隙ニ變ズ
 下部ハ單筋ニシテ氣管ノ上部少シク擴張シタルガ如キ狀ヲ呈シ、上方ハ兩壁漸々接近
 シテ聲帶ノ遊離縁ニ終ル

い 喉頭ノ軟骨 Cartilagineae laryngis

喉頭ノ軟骨ハ 1.環狀軟骨 2.甲狀軟骨 3.會厭軟骨 4.披裂軟骨 5.小角軟骨 6.楔狀軟骨 7.
 種子軟骨 8.麥粒軟骨等ヨリ成リ、韌帶ヲ以テ相連續シ、筋肉ノ作用ニヨリテ其位置ヲ變
 ズ 1. 2. 4. ハ硝子樣軟骨 3. 5. 6. 7. 披裂軟骨ノ聲帶
 突起及尖端ハ彈力性軟骨 8. ハ結締織軟骨ナリ

1. 環狀軟骨 (Cartilago-cricoides, Ringknorpel) ハ全形印章ヲ具シタル指環ノ如ク、前部
 (弓 Arcus) ハ細ク甲狀軟骨ノ下ニアリ、後方(板 Lamina) ハ廣ク甲狀軟骨板ノ間ニ位シ
 側面ノ下方ニ甲狀軟骨下角ト接スル圓形ノ關節面 (facies articularis thyroidea) ヲ有シ、又板
 ノ上縁兩隅ニ於テ披裂軟骨トノ關節面 (facies articularis arytaenoidea) ヲ現ハス、板ノ後面ニ
 後環狀盃狀筋ノ起ル小窩 (fovea lamina) アリ、其中央ニ縱隆起 (Eminentia marginalis) ヲ見
 中楯 (Crista mediana) 下縁ノ兩側ニ小突起アリ、縁隆起 (Eminentia marginalis) ヲ見

2. 甲狀軟骨 (Cartilago thyroidea, Schildknorpel) ハ前側ノ中央ニ於テ或ハ角度 (Angu-

Lus anteriorヲ以テ互ニ癒著シタル二枚ノ方形板 Laminae thyreoideae laterales ヨリ成ル其癒合

部ヲ正中板 Lamina mediana ト云ヒ其前方ニ突出シ

タル部ヲ喉頭結節 Prominentia laryngea Pomum

Adami ト云フ男子ニ於テ著明ナリ其上方ノ深キ

截痕ヲ上甲狀截痕 Incisura thyreoidea superior

ト名ク板ノ外面ニ筋肉ノ附著スル粗糙線(斜線

Linea obliqua)アリ其上下端ハ結節ヲ爲ス之ヲ

上甲狀結節 Tuberculum thyloideum superius 及下甲狀

結節 Tuberculum thyloideum inferius ト云フ上結節ノ近

ナ有シ上喉頭動脈ヲ通ス之ヲ後縁ハ鈍圓ニシテ上

甲狀孔 foramen thyloideum ト云フ後縁ハ鈍圓ニシテ上

下ニ延長シ上角 Cornu superius 及下角 Cornu

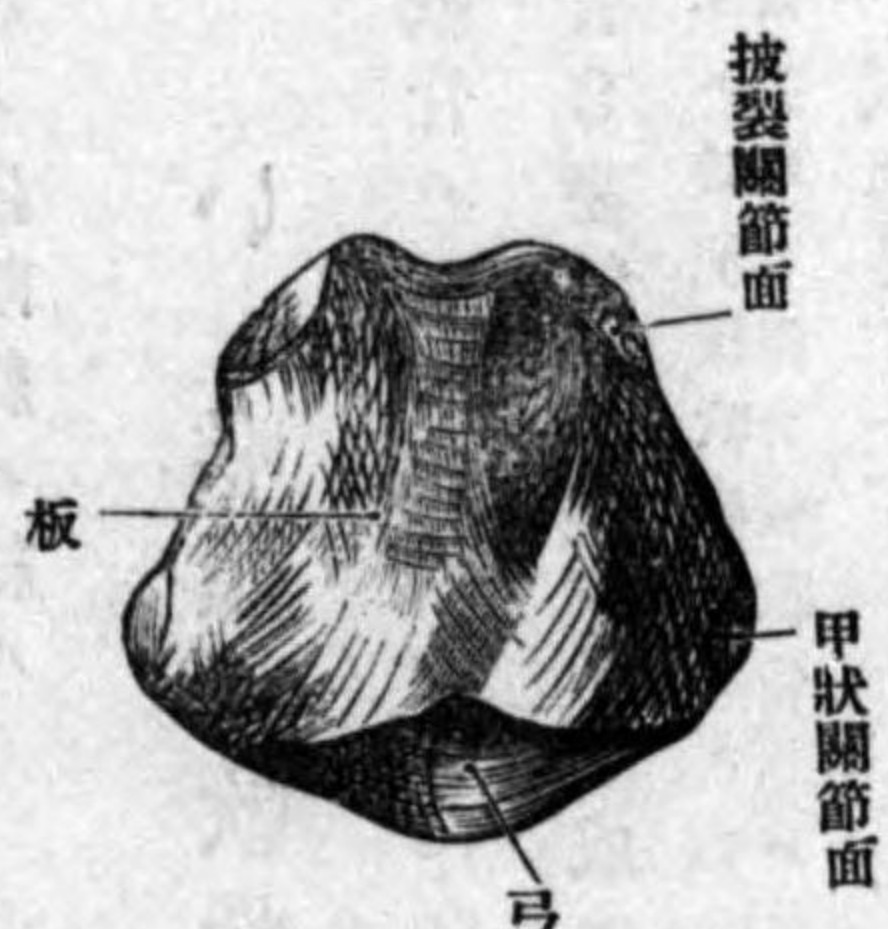
inferius ヲ爲ス就中下角ハ短ク末端環狀軟骨關

節面 facies articularis cricoidea ヲ有ス

圖四十二百五第
面側骨軟狀環

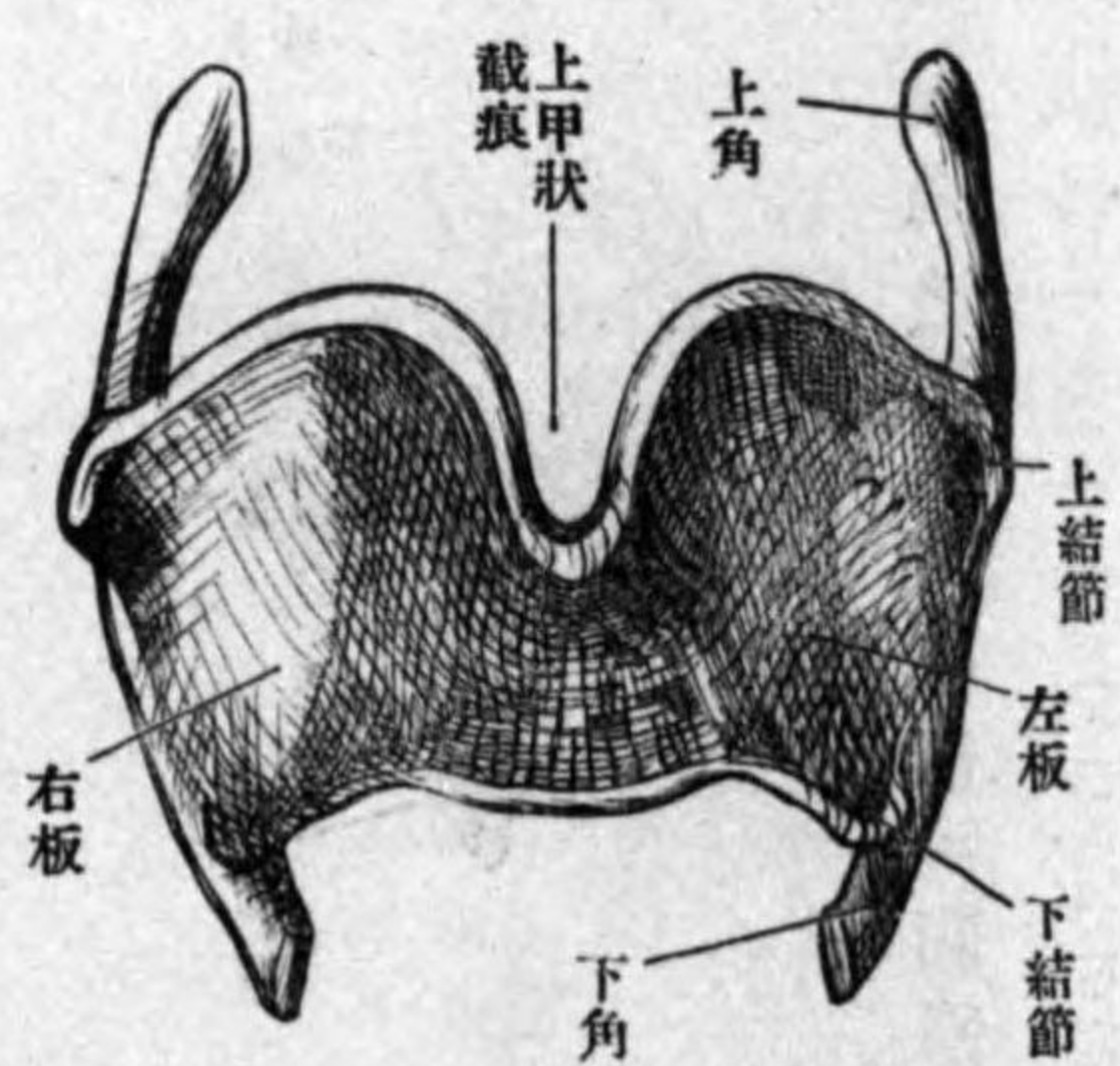


圖五十二百五第
面後骨軟狀環

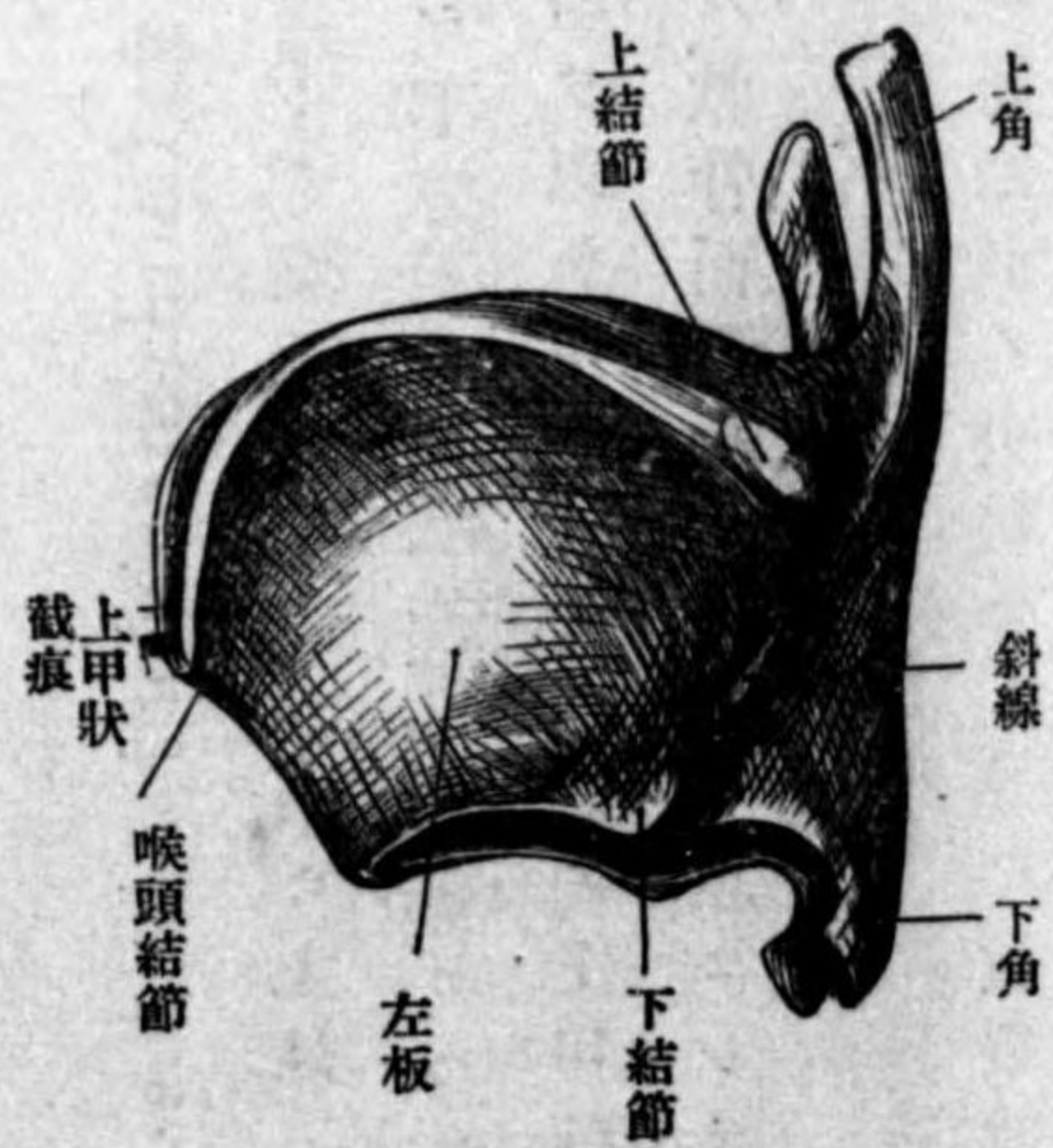


3. 披裂軟骨(盃狀軟骨) Cartilago arytaenoidea, Giessbeckenknorpel ハ一對ノ三面錐體形ノ小軟骨ニシテ基底ヲ以テ環狀軟骨板上ニ座シ後外方ニ彎曲シ尖端 Apex carti-

圖六十二百五第
面前骨軟狀甲



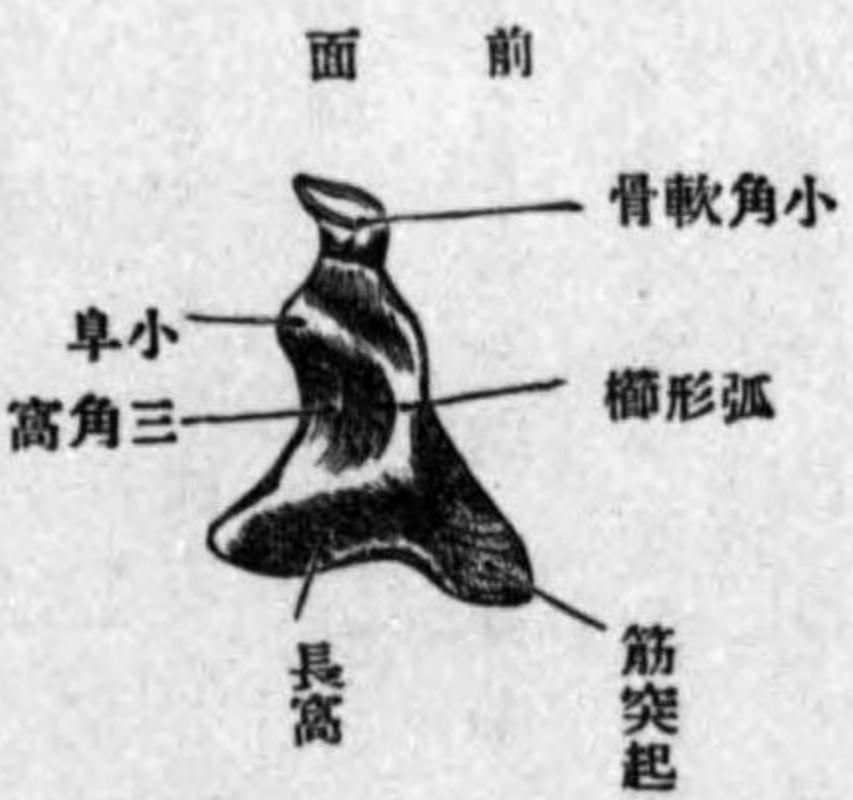
圖七十二百五第
面側骨軟狀甲



laginis arytaenoideae ハ後方ニ向ヒ四面ヲ現ハス後面ハ上方ヨリ下方ニ向テ凹陷シ前面即チ外面ハ上行スル弓形ノ稜ヲ現ハス之ヲ弧形櫛 Crista arcuata ト名ク其上端ハ小阜 Colliculus ニ終ル此櫛ニヨリテ全面ヲ三區ニ別ツ下區即長窩 fovea oblonga ハ内甲盃筋ノ附著部タリ内區即深凹窩ヲ三角窩 fovea triangularis ト稱シ上區ハ三角形ニシテ平滑ナリ内面ハ最少ニシテ平坦三角形ヲ呈シ對側ノモノト并行走以上諸面ハ不規則ナル前外及内ノ三稜ヲ以テ境セラル下面即基底 Basis ハ少シク凹陥シ環狀關節面 Superficies articularis cricoidea ヲ具ヘ又基底ノ外端ハ強ク鈍キ筋突起 Processus

muscularisヲ爲ス、諸筋ノ附著點ナリ、前端ハ鋭ク聲帶突起 *Processus vocalis* トナリ聲帶ヲ附著ス

圖八十二百五第
骨軟裂披左



圖九十二百五第
面後骨軟厭會



4. 會厭軟骨 *Cartilago epiglottica, Kehledeckelknorpel* ハ薄クシテ葉狀ヲ呈シ其廣キ上縁ハ咽頭腔内ニ遊離シ下方ハ會厭莖 *Petiolus epiglottidis* トナリ靱帶ヲ以テ甲狀軟骨内面ノ上甲狀截痕ノ下方ニ連ル軟骨面ハ少シク不平坦ニシテ縁ハ薄

ク後面ハ横徑ニ前面ハ縦徑ニ凹陷ス
5. 小角軟骨 *Cartilago corniculata (Santorini)* ハ圓錐形ノ小軟骨ニシテ披裂軟骨ノ上

ニアリ尖端ハ下方ニ向フ

6. 楔狀軟骨 *Cartilago cuneiformis (Wisbergi)* ハ杆狀ノ小軟骨ニシテ披裂會厭皺襞中ニ於テ小角軟骨ノ前方ニアリ

7. 麥粒軟骨 *Cartilago triticea* ハ大小不定ノ小軟骨片ニシテ側甲狀舌骨靱帶中ニアリ其他前種子軟骨 *Cartilagine sesam. anteriores* 及後種子軟骨 *Cartilagine sesam. posteriores* ナル小軟骨アリ前者ハ聲帶ノ前端ニアリ後者ハ披裂軟骨ト小角軟骨連續部ノ外側ニ位シテ稀ニ存在ス又披裂間截痕ノ粘膜中ニ小軟骨片ノ存スルキハ披裂間軟骨 *Cartilaginea interarytenoidea* ト云フ 喉頭ノ軟骨ノ主ナルモノハ老人ニ於テハ化骨ス

ろ 喉頭ノ靱帶 *Bänder des Kehlkopfes*

喉頭ノ靱帶ハ喉頭ノ軟骨相互ノ連續ヲ保持シ或ハ喉頭ト舌骨或ハ喉頭ト氣管ヲ連續セシムルモノニシテ軟骨ハ或ハ關節或ハ軟骨接合ヲ以テ相關聯シ或ハ唯靱帶ヲ以テ互ニ連續ス

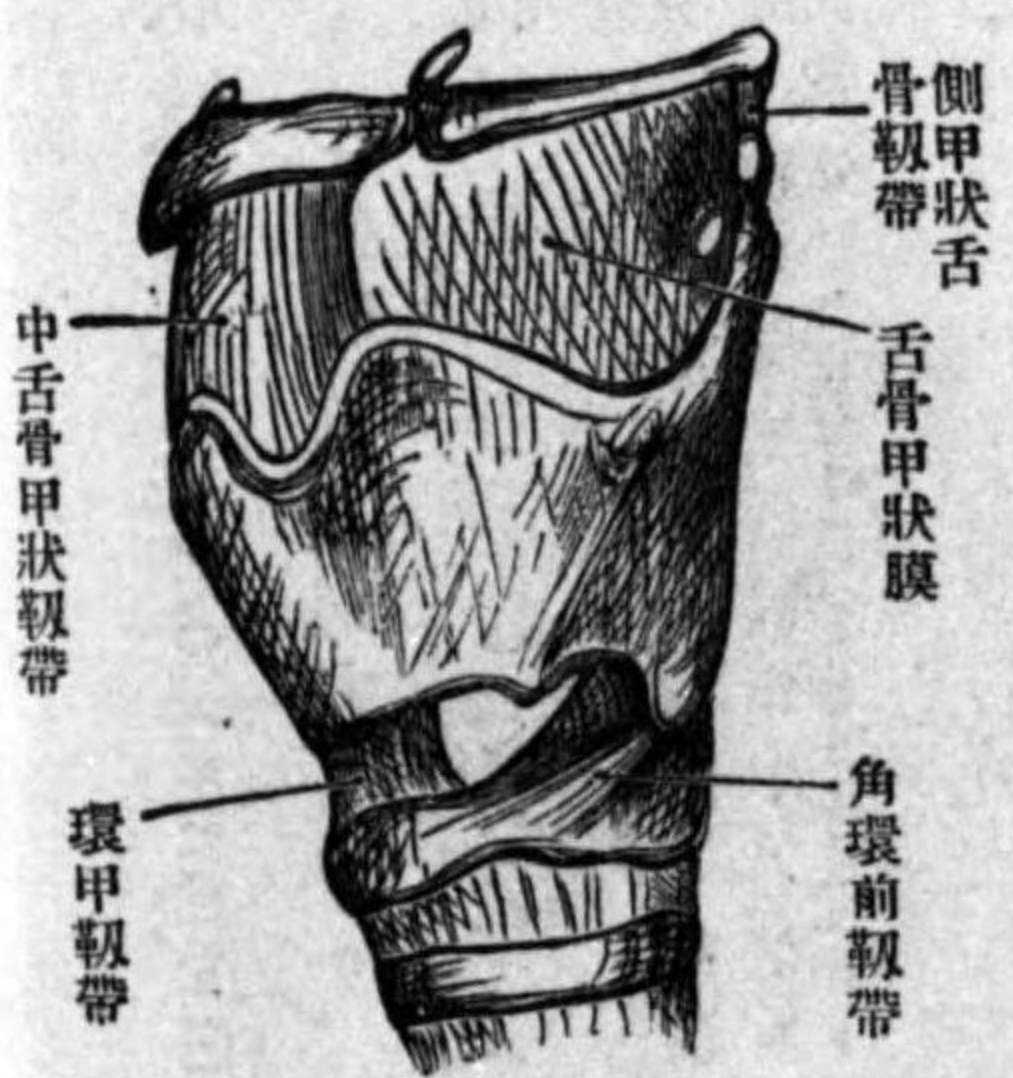
1. 環甲關節囊 *Capsula articularis crico-thyreidea* ハ甲狀軟骨下角ト環狀軟骨トノ連接ヲ包ミ其前後及外側ニ副靱帶ヲ具フ之ヲ角環前靱帶、角環後靱帶、角環側

靱帶 *Ligg. ceratocricoides anterior, posteriora und lateralia* 名ク環甲二軟骨間ノ運動ハ兩側環甲關節ヲ貫キタル横軸ニヨリ之ヲ營ミ以テ聲帶ヲ弛緩シ或ハ緊張セシム

2. 環甲靱帶 *Lig. crico-thyreoideum (medium)* ハ甲狀軟骨下縁ト環狀軟骨弓ノ間ニ渡リ二軟骨間ノ間隙ヲ鎖シ側縁ハ喉頭粘膜下ノ彈力膜ニ移行ス

3. 環狀披裂關節囊 *Capsula arlic. crico-arytaenoideae* ハ環狀軟骨板ト披裂軟骨基底ノ連接ヲ包擁シタルモノニシテ圓柱形關節ヲ爲シ關節囊ノ後側強固ナル部ヲ *Lig. crico-arytaenoideum posterius* ト云ヒ運動軸ハ鉛直ナラズ假ニ之ヲ延長スレバ後上方ニ於テ交叉ス

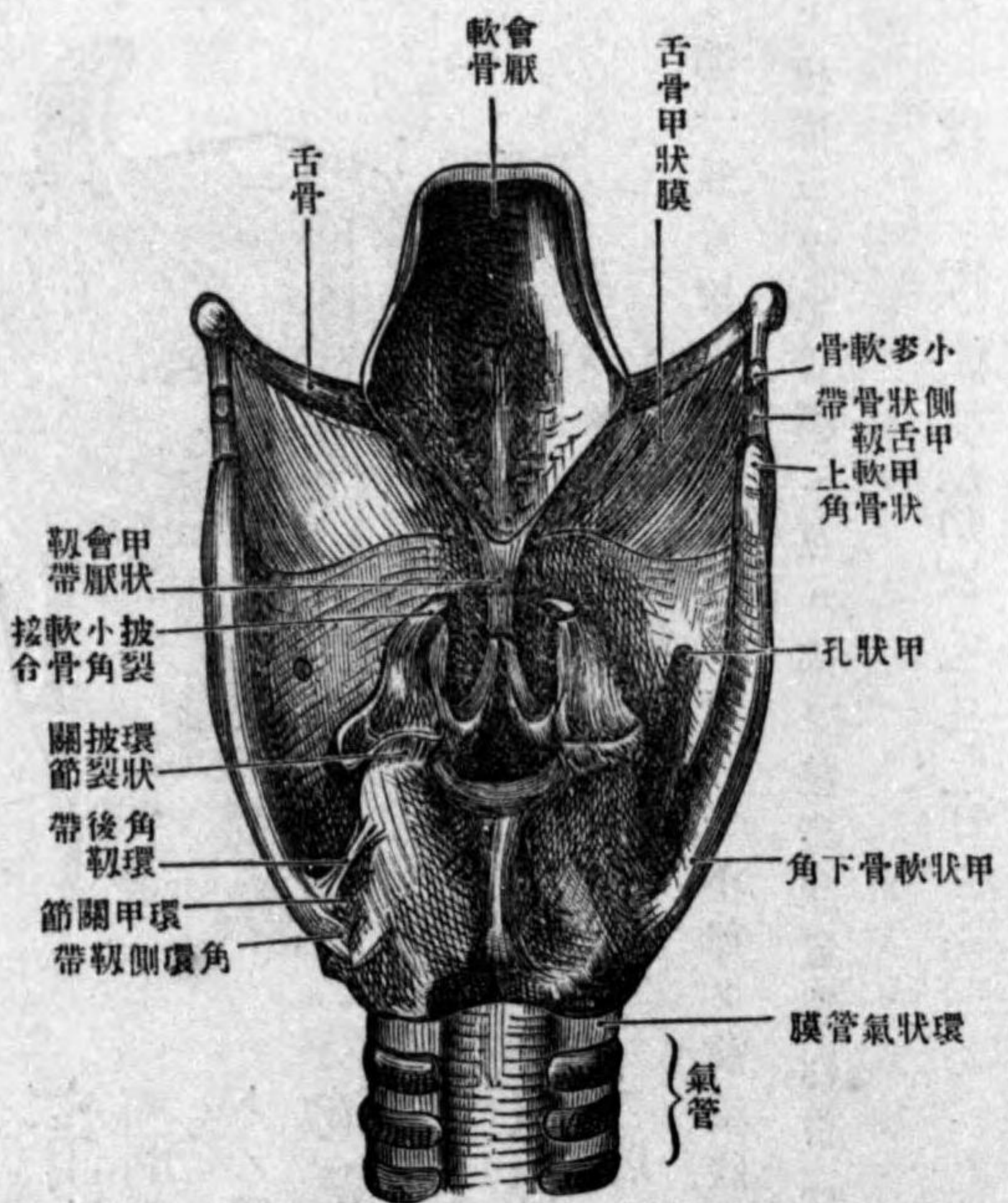
第五百三十三圖
喉頭靱帶(前左側)



4. 披裂軟骨ト小角軟骨トハ披裂小角靱帶 *Lig. ary-corniculata* 以テ連續シ小角軟骨ヨリ環狀軟骨板上縁ニ向テ小索走リ下半ハ左右癒合ス之ヲ環狀小角靱帶 *Lig. crico-corniculatum* ト云フ

5. 會厭軟骨ハ彈力纖維ヲ含ミタル靱帶ヲ以テ甲狀軟骨及舌骨ト連絡ス即甲狀會厭靱帶 *Lig. thyreo-epiglotticum* ハ會厭軟骨莖ト上甲狀軟骨痕後

第五百三十一圖
喉頭軟骨(後面)



側トノ間ヲ連結シ、舌骨會厭靱帶 *Lig. hyo-epiglotticum* ハ舌骨體及大角ト會厭軟骨前面下部ノ間ニ渡ル廣キ水平ノ靱帶ナリ、自他舌會厭靱帶 *Lig. glosso-epiglotticum* トハ中舌會厭軟骨中ニアル彈力性纖維束ヲ云フ

6. 竇靱帶 *Lig. ventricularis*, *Lig. thyreo-arytaenoidea superiora* ハ假聲帶中ニアリテ披裂軟骨ノ小阜ト甲狀軟骨隔トノ間ニ渡リ突起ト甲狀軟骨隔トノ間ニ緊張ス

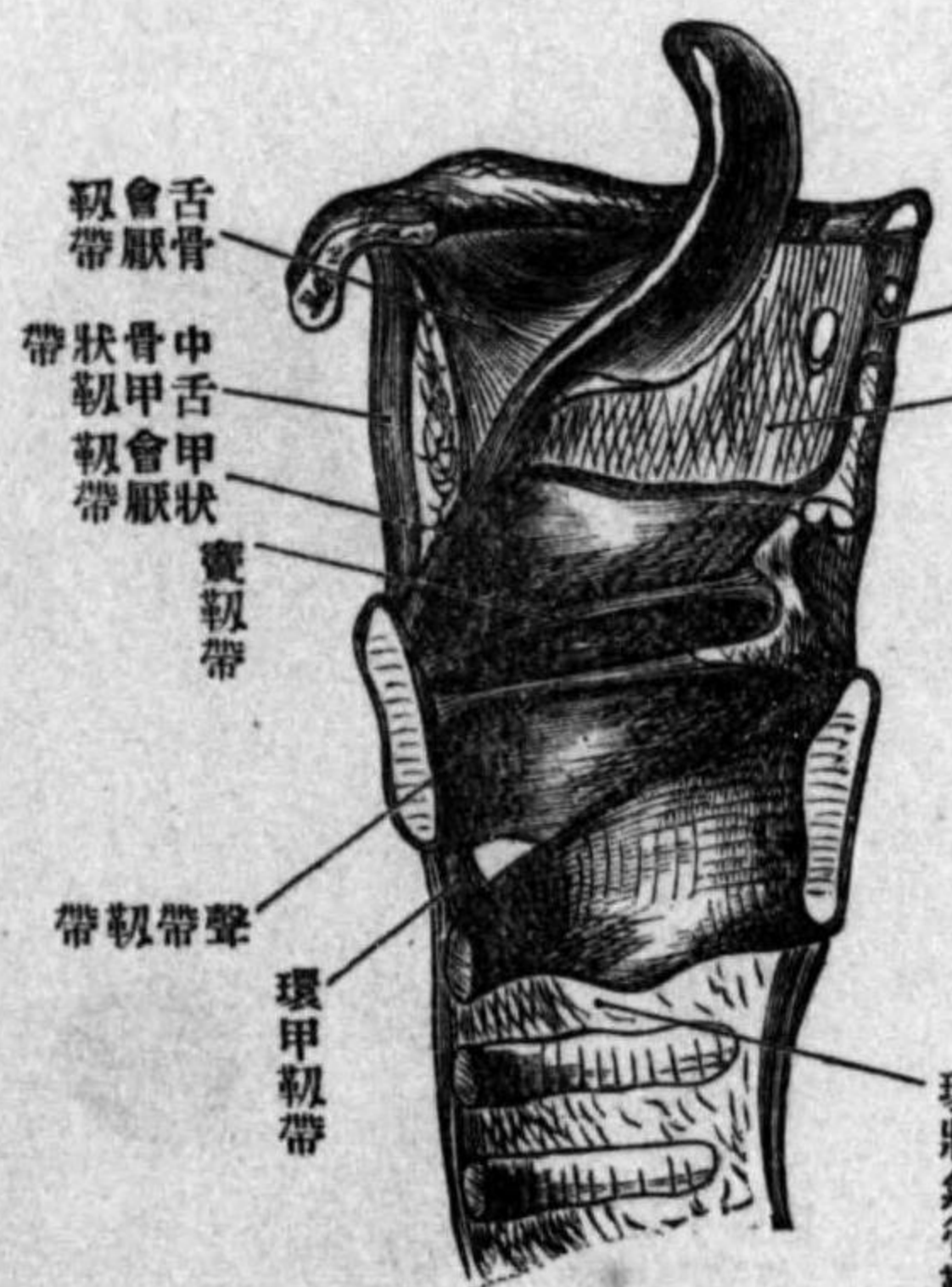
7. 聲帶靱帶 *Lig. vocale*, *Lig. thyreo-arytaenoidea* ハ真聲帶中ニアリテ披裂軟骨ノ聲帶

8. 喉頭ト舌骨ノ間ハ甲狀舌骨膜 Membrana thyreoidea ヲ以テ連続ス、上縁ハ舌骨ノ後縁ニ附シ、其中央稍、厚キ部分ヲ中舌骨甲狀靱帶 Lig. thyreoideum medium ト云ヒ舌骨大角ノ末端ト甲狀軟骨上角間ニ波

側舌骨甲狀靱帶 舌骨甲狀膜

環狀氣管靱帶

第五百三十二圖 喉頭ノ靱帶(正中斷右中)



ル索状ノ部ヲ側甲狀舌骨靱帶 Lig. thyreoidea lateralis ト云フ中舌骨甲狀靱帶前面ト舌骨下面トノ間ニ粘液囊アリ、之ヲ舌骨粘液囊 Bursa mucosa hyoidea ト云フ

9. 喉頭ト氣管ノ間ハ總環狀氣管靱帶 Lig. cricotracheale commune ヲ以テ連續ス其前側環狀軟骨弓ノ

中央ヨリ第一氣管輪内面ニ放射シタル一小部ヲ前環狀氣管靱帶 Lig. crico-tracheale anterioris ト云ヒ板部ヨリ氣管膜ニ互ル部ヲ後環狀氣管靱帶 Lig. crico-tracheale posterioris ト云フ

は 喉頭ノ筋 Musculi laryngis

喉頭筋ハ喉頭ト隣接器管トノ間ニアリテ喉頭全部ニ作用スルモノト喉頭軟骨ノ間ニ渡リテ軟骨互ノ位置ヲ變ズルモノトノ二種アリ、前者ハ舌筋及咽頭筋等ニシテ、後者ハ即固有ノ喉頭筋ナリ

1. 環甲筋 M. crico-thyreoidens ハ方形ニシテ喉頭ノ前側ニアリ、環狀軟骨ノ弓ヨリ起リ上外方ニ分散シ甲狀軟骨ノ下縁及内面ニ附著ス、其内半部ヲ直部 Pars recta 外半ヲ斜部 Pars obliqua ト名ク、此二部ハ下甲狀結節ヲ以テ分界ス

2. 後環狀披裂筋 M. crico-arytaenoidene posterior ハ三角形ニシテ、環狀軟骨ノ後面ヨリ起リ外上方ニ集合シテ披裂軟骨ノ筋突起ニ停止ス

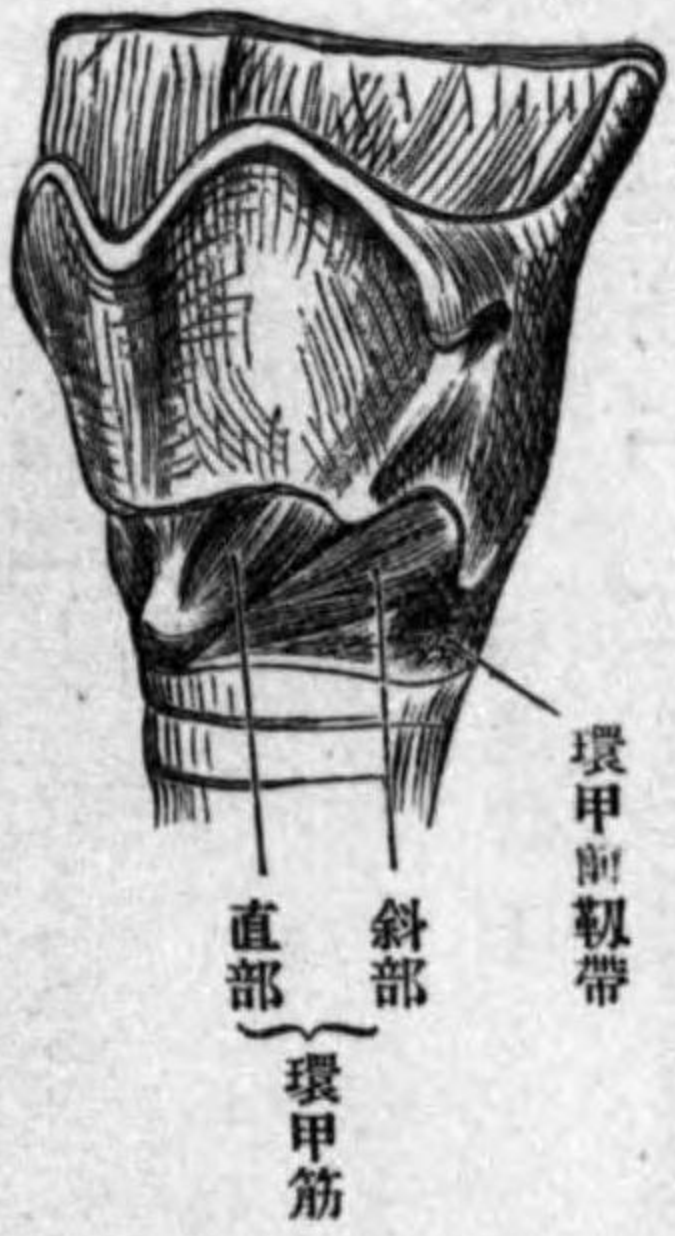
3. 側環狀披裂筋 M. crico-arytaenoidens lateralis ハ三角形ニシテ、側方ヨリ甲狀軟骨ヲ以テ覆ハレ環狀軟骨ノ側面ヨリ起リ後上方ニ走リ披裂軟骨ノ筋突起ニ停止ス

4. 横披裂筋 M. arytaenoidens transversus ハ方形ニシテ、披裂軟骨ノ後面ニ於テ横走シ披裂軟骨外縁ヲ兩々相連結ス

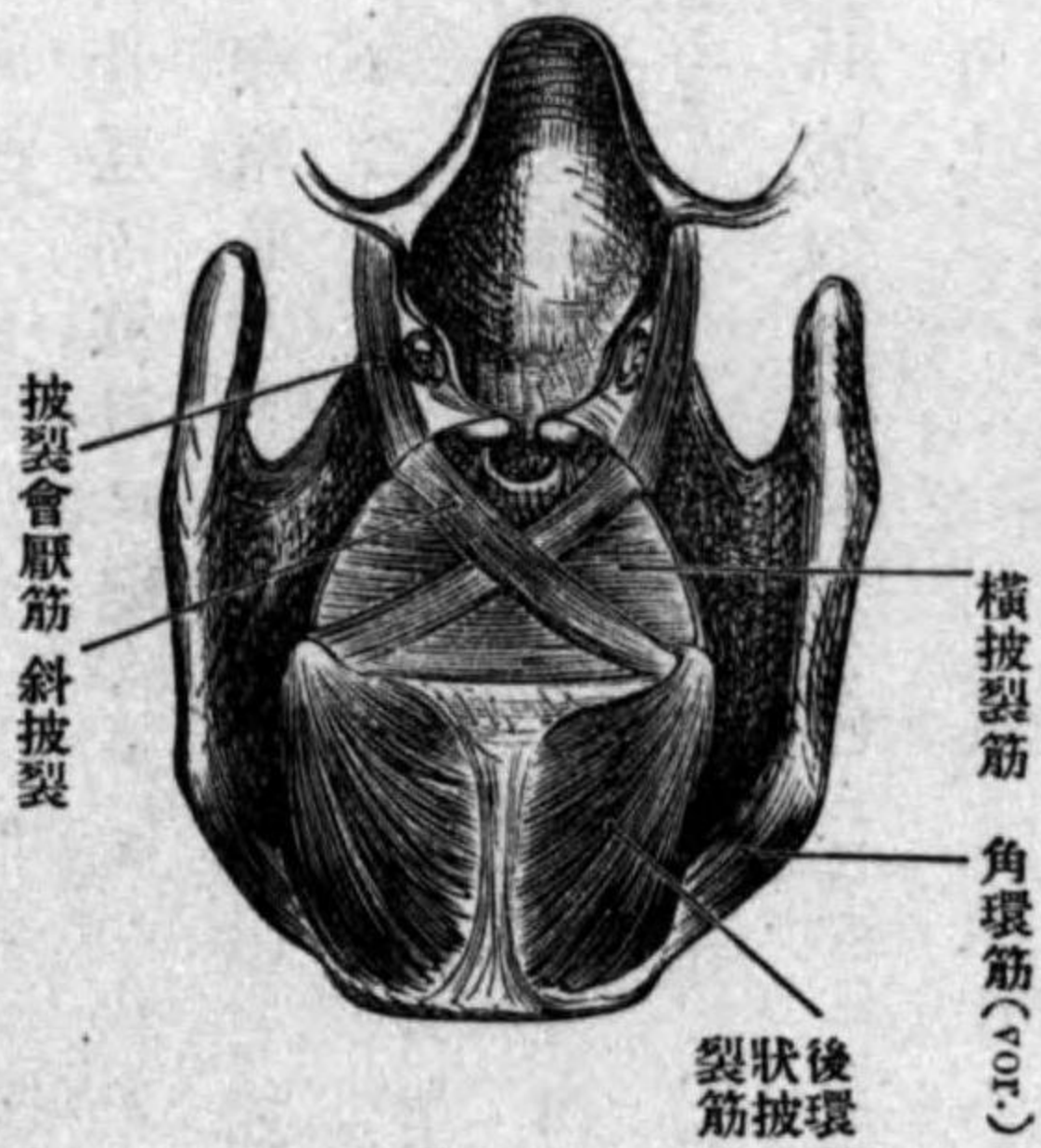
5. 甲狀披裂筋 M. thyreo-arytaenoidens ハ廣キ方形ノ筋ニシテ、斜ニ位シ側環狀披裂筋ノ上縁ニ接ス、此筋ハ甲狀軟骨内面ヨリ起リ後方ニ走リ、披裂軟骨ノ外縁及前面ニ停止ス、此筋ノ下部ハ厚ク内外二部ニ分レ内部ハ細ク横断面ハ三角形ヲ呈シ一縁ハ聲帶ノ

遊離縁ニ向フ此部ヲ内甲状披裂筋 *M. thyreo-arytaenoides internus* 又聲帶筋 *M. vocalis* ト云ヒ、外部ヲ外甲状披裂筋 *M. thyreo-arytaenoides externus* 又單ニ甲状披

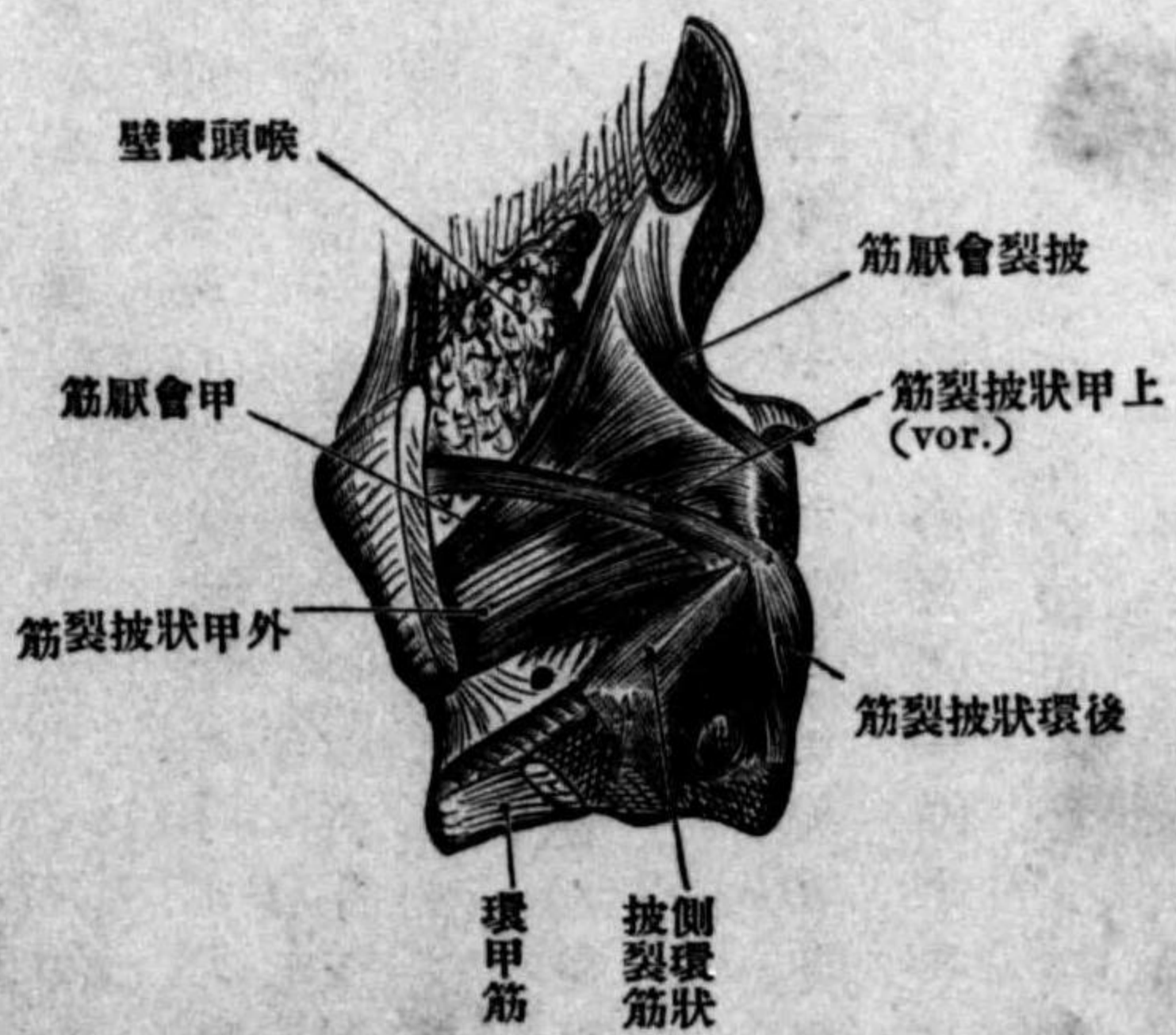
圖三十三百五第 筋甲環



圖四十三百五第 (側後)筋頭喉

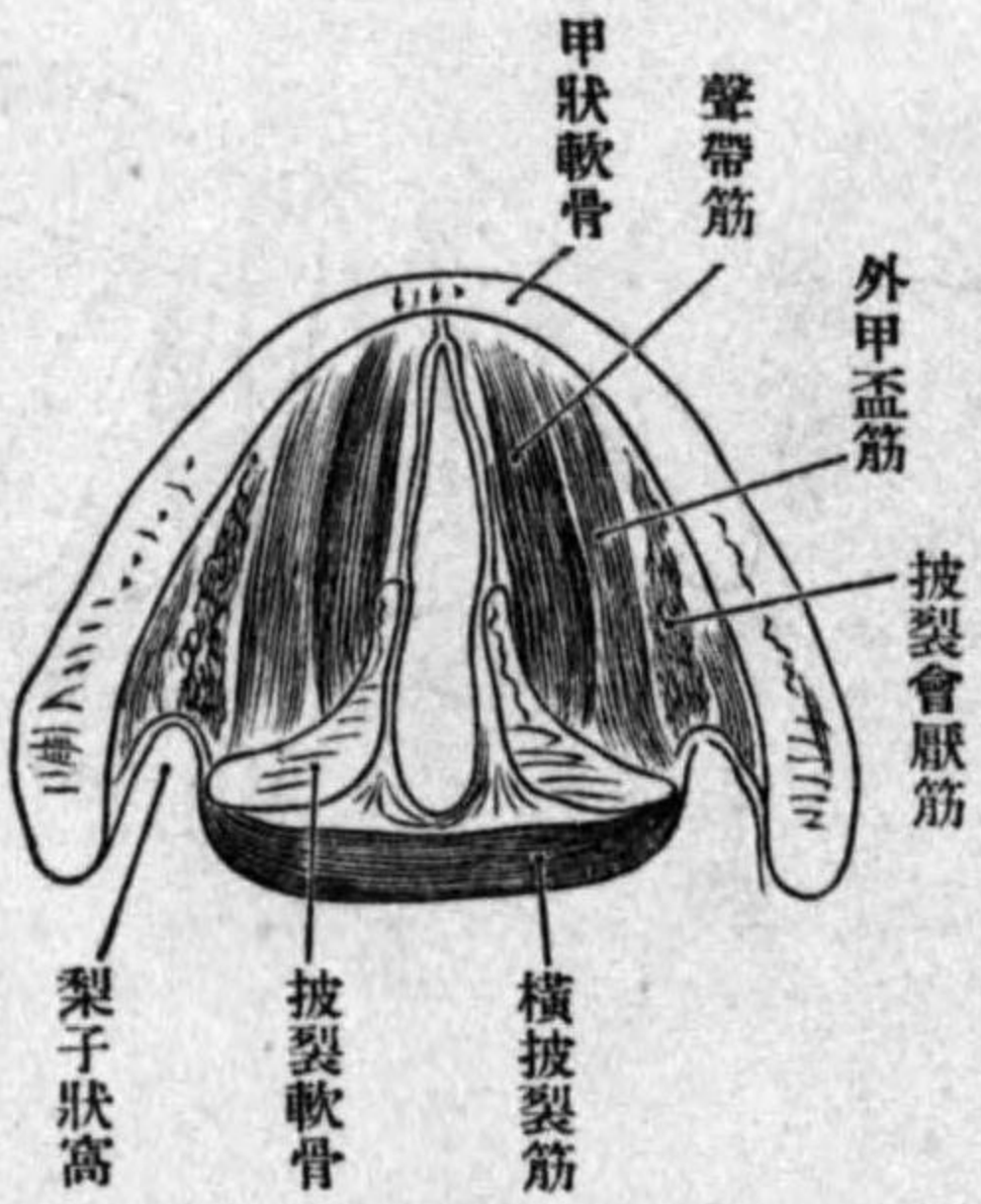


圖五十三百五第 (除切半右骨軟狀甲)筋頭喉



裂筋トモ云フ、聲帶筋ノ起始ハ甲状軟骨内面ニシテ、停止ハ披裂軟骨ノ長窩ナリ外甲状披裂筋ノ上部、薄弱且稀粗ナル纖維ヨリ成ル部分ヲ竇筋 *M. ventricularis* ト云フ
6. 甲状會厭筋 *M. thyreo-epiglotticus* ハ薄ク甲状軟骨隅ノ内面ヨリ起リ昇リテ會厭軟骨ニ附著ス

圖六十三百五第 喉頭水平斷

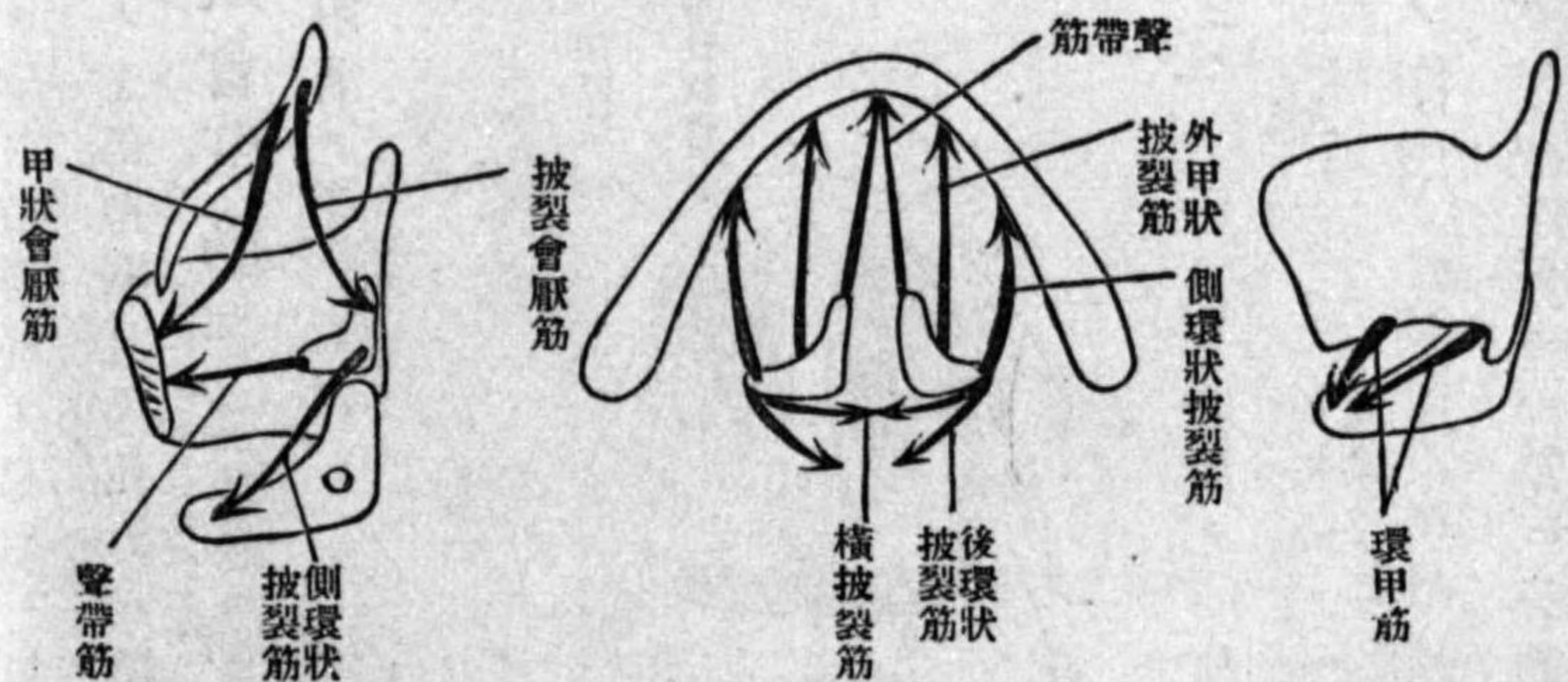


7. 披裂會厭筋 *M. ary-epiglotticus* ハ縱徑ニ走ル扁平筋ニシテ、一側ノ披裂軟骨外縁下部及環狀軟骨ノ接近部ヨリ起リ、橫披裂筋ノ後側ヲ斜ニ對側披裂筋ニ向ツテ走リ、其尖端ヲ越エテ披裂會厭皺襞中ヲ昇リ會厭軟骨縁ニ達ス、此筋ハ橫披裂筋ノ後側ニ於テ兩側相交又スルヲ以テ又斜披裂筋 *M. arytaenoi-*

dei obliqui ト云フ、又此筋ノ一部甲状軟骨隅ニ附著スルヲアリ故ニ又甲状披裂會厭筋 *M. thyreoary-epiglotticus* トモ云フ

喉頭筋ノ作用ハ聲門ノ開閉竝ニ聲帶ノ弛張ヲ營ム、而シテ諸筋共同ノ作用ハ生理學ニ屬スルヲ以テ茲ニハ單ニ各筋單獨ノ作用ヲ述ブベシ、即環甲筋ハ甲状軟骨ヲ前方ニ

第五百三十七圖 喉頭筋作用之模型圖



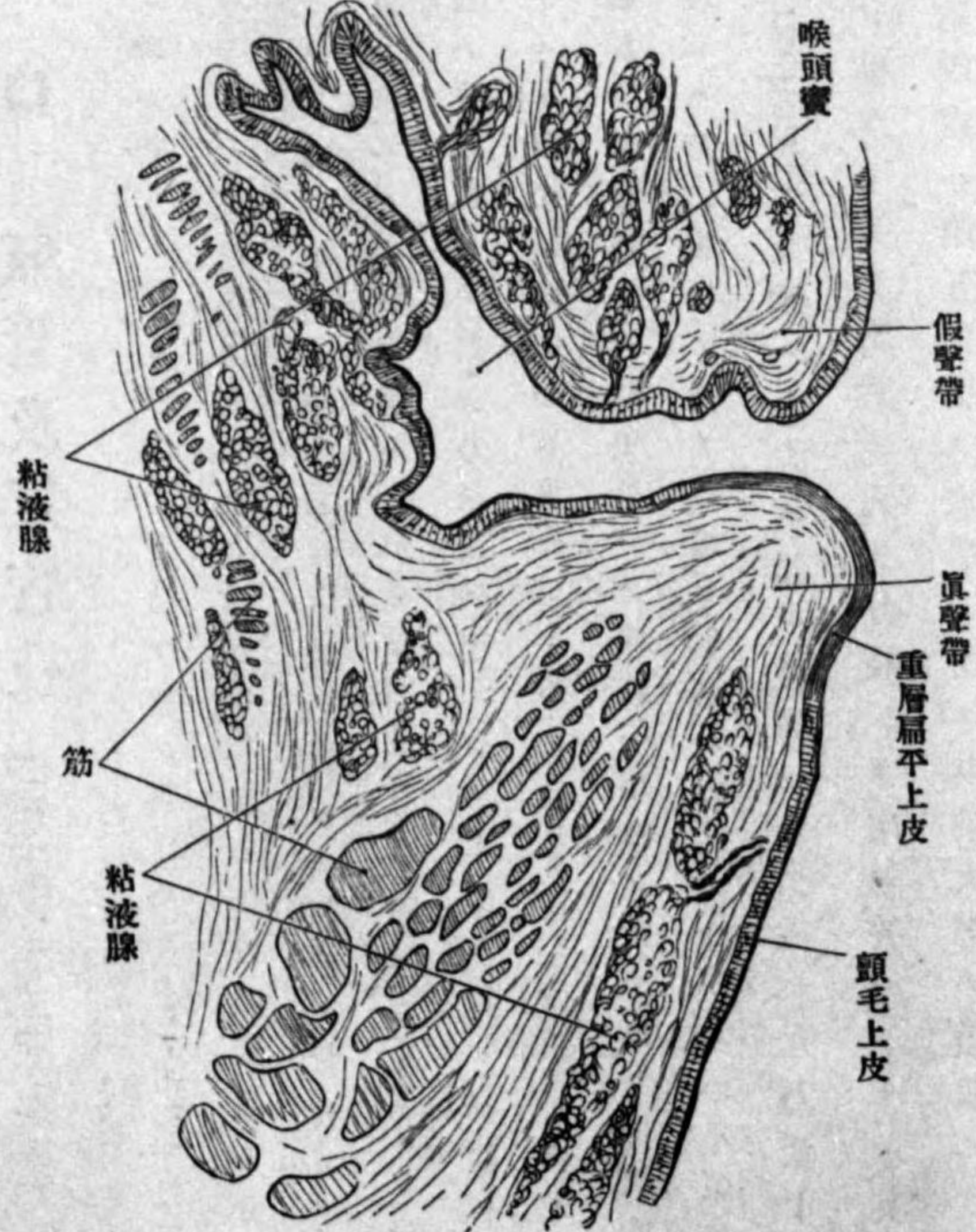
傾ケ聲帶ヲ緊張セシメ、後環狀披裂筋ハ聲門ヲ開大シ、側環狀披裂筋ハ聲門ヲ閉塞シ、外甲狀披裂筋ハ聲門ヲ狹小シ、内甲狀披裂筋ハ聲帶ヲ緊張シテ高調ノ音ヲ發セシメ、橫披裂筋及斜披裂筋ハ呼吸門ヲ閉塞シ且會厭ヲ挈下ス
喉頭筋ニ分布スル神經ハ迷走神經ノ上喉頭神經及下喉頭神經ニシテ、前者ハ環甲筋ニ行キ、後者ハ其他ノ諸筋ニ分布ス

に 喉頭ノ粘膜 *Tunica mucosa*

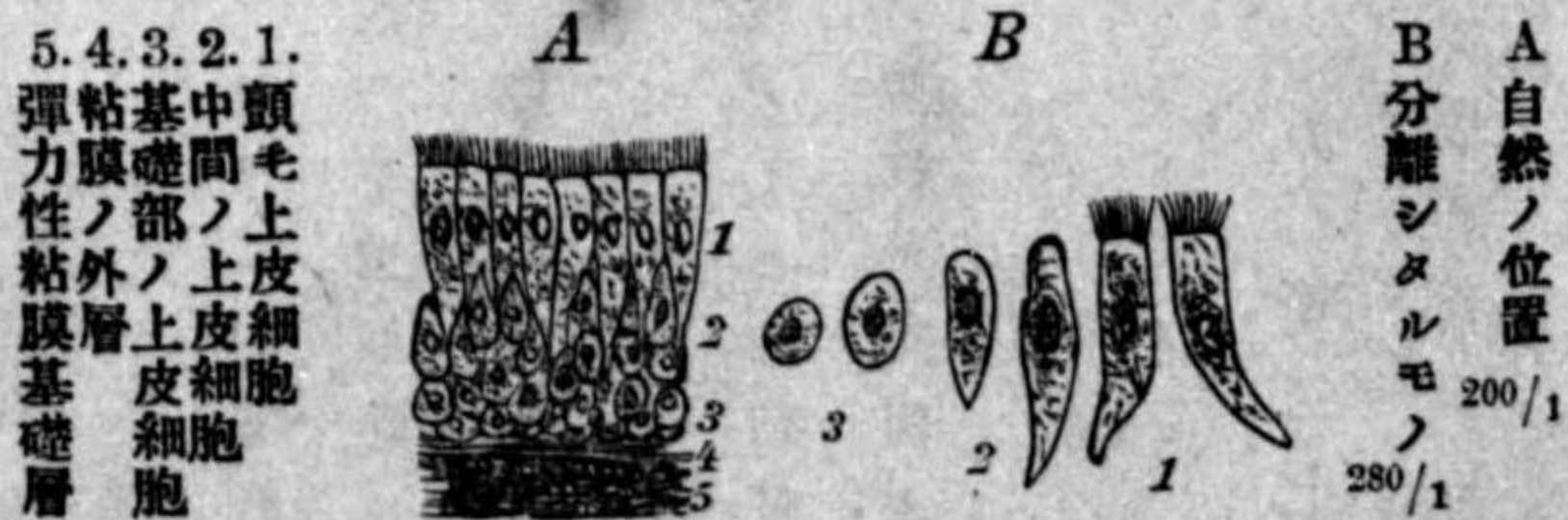
laryngis

喉頭粘膜ハ咽頭及氣管ノ粘膜ト連續シ、上皮固有膜及粘膜下結締組織ヨリ成ル、固有膜ハ結締組織膜ニシテ多量ノ彈力纖維ヲ含ミ、喉頭彈力膜 *Membrana elastica laryngis* ヲ爲シ、殊ニ聲帶下ニ於テハ

第五百三十八圖 喉頭前額斷



第五百三十九圖 喉頭ノ上皮



彈力性圓錐 *Conus elasticus* ト云フ、質内ニ多少ノ無色細胞ヲ含ミ、喉頭實ニ於テハ淋巴小節ヲ爲ス、上皮ハ重層ノ頸毛上皮ニシテ、其運動ハ喉頭ニ向ヒ、其間ニ杯狀細胞ヲ混シ、聲帶、會厭軟骨ノ喉頭面等ハ重層磚狀上皮ヲ被ル、粘膜下組織ハ粘膜ト筋或ハ軟骨トノ連

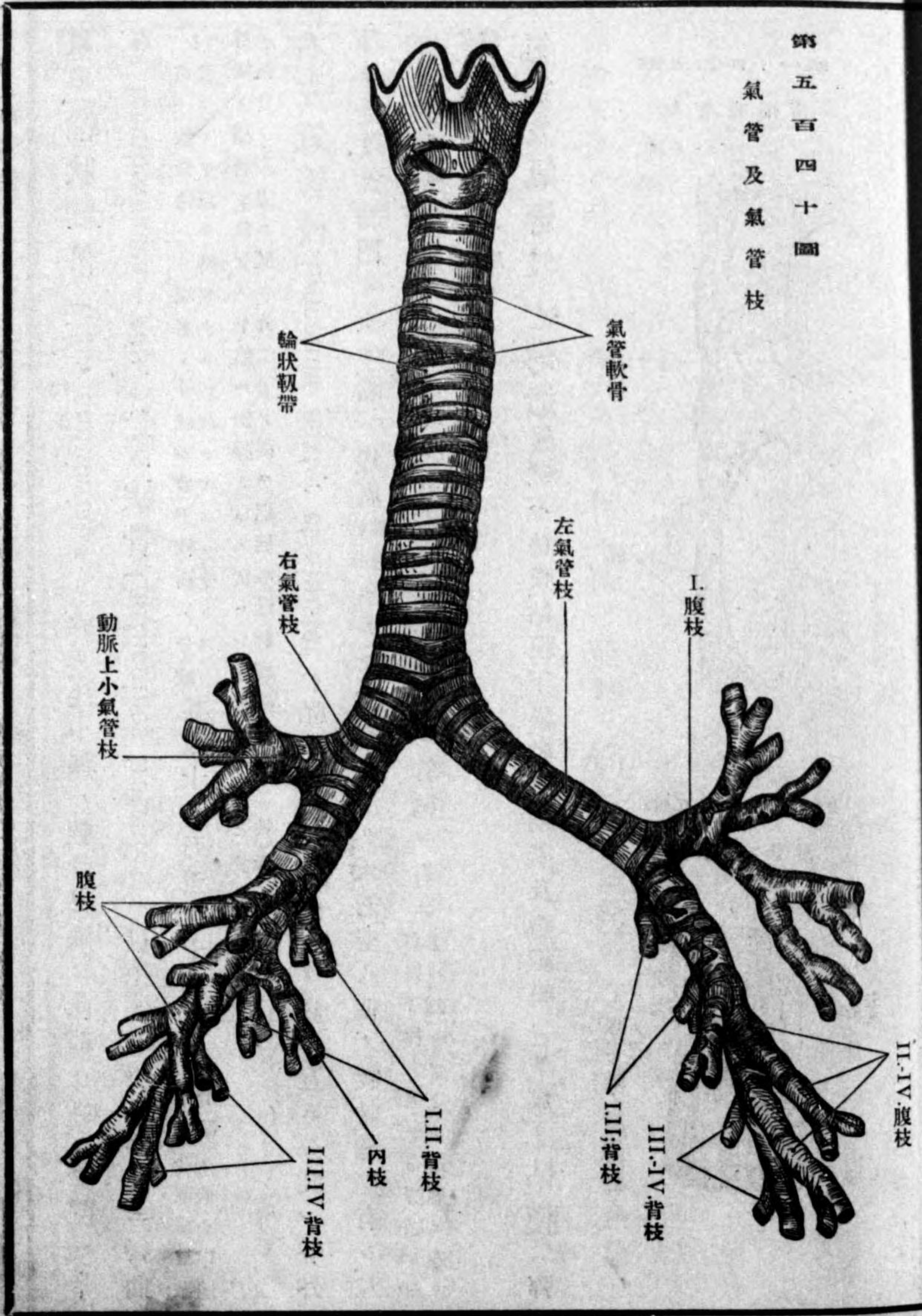
續ヲ營ム所ノ鬆粗結締組織ニシテ分岐管狀腺喉頭腺 Glandulae laryngeae ヲ有ス
 喉頭ノ血管神經動脈ハ上及下甲狀腺動脈、靜脈ハ上中及下甲狀腺靜脈、神經ハ迷走
 神經ノ枝ナル上及下喉頭神經ナリ

□ 氣管及氣管枝 Trachea (Luftröhre) et Bronchi

氣管枝ノ幹ハ各々背腹ニ四條ノ分枝ヲ放ツ腹枝 Ventrale Seitenbronchi ハ大ニシテ外前ニ向ヒ背枝
 Dorsale Seitenbronchi ハ後走ス其分岐ノ狀左右相異ナリ左氣管枝ハ分岐部ヨリ四乃至五仙迷ニシ
 テ上葉ニ入ル第一腹枝ヲ發シ以下三個ノ腹枝及四個ノ背枝ハ下葉ニ行ク之等ハ一般ニ肺動
 脈ノ下方ニ存スルヲ以テ動脈下氣管枝 Rami bronchiales hyparteriales ト云フ
 右氣管枝ハ分岐部ヨリ二・五乃至三仙迷ニシテ上葉ニ行ク強枝ヲ發ス此分枝ノミハ肺動脈ノ
 上方ニアルヲ以テ動脈上小氣管枝 Rami bronchiales eparteriales ト云フ以下三個ノ腹枝ト四個ノ背
 枝トハ動脈下氣管枝ニ就中第一ノ腹枝ハ中葉ニ入リ他ハ皆下葉ニ入ル
 右氣管枝ニハ第二腹枝ノ高サニ起リ下葉ニ行ク内枝アリ心小氣管枝 Herzbronchus ト云フ
 氣管 Trachea ハ喉頭ノ下方ニ連ル長管ニシテ長サ九乃至十五仙迷、幅一・五乃至二・七仙
 迷、食管ノ前ヲ下リテ胸廓ニ入り分岐シテ兩氣管枝トナル其上端ハ第六頸椎部ニシテ
 下端ハ第四或ハ第五胸椎ノ水準ニ達ス其前大部ハ數個ノ軟骨輪ト之ヲ連續スル結締

第五百四十圖

氣管及氣管枝



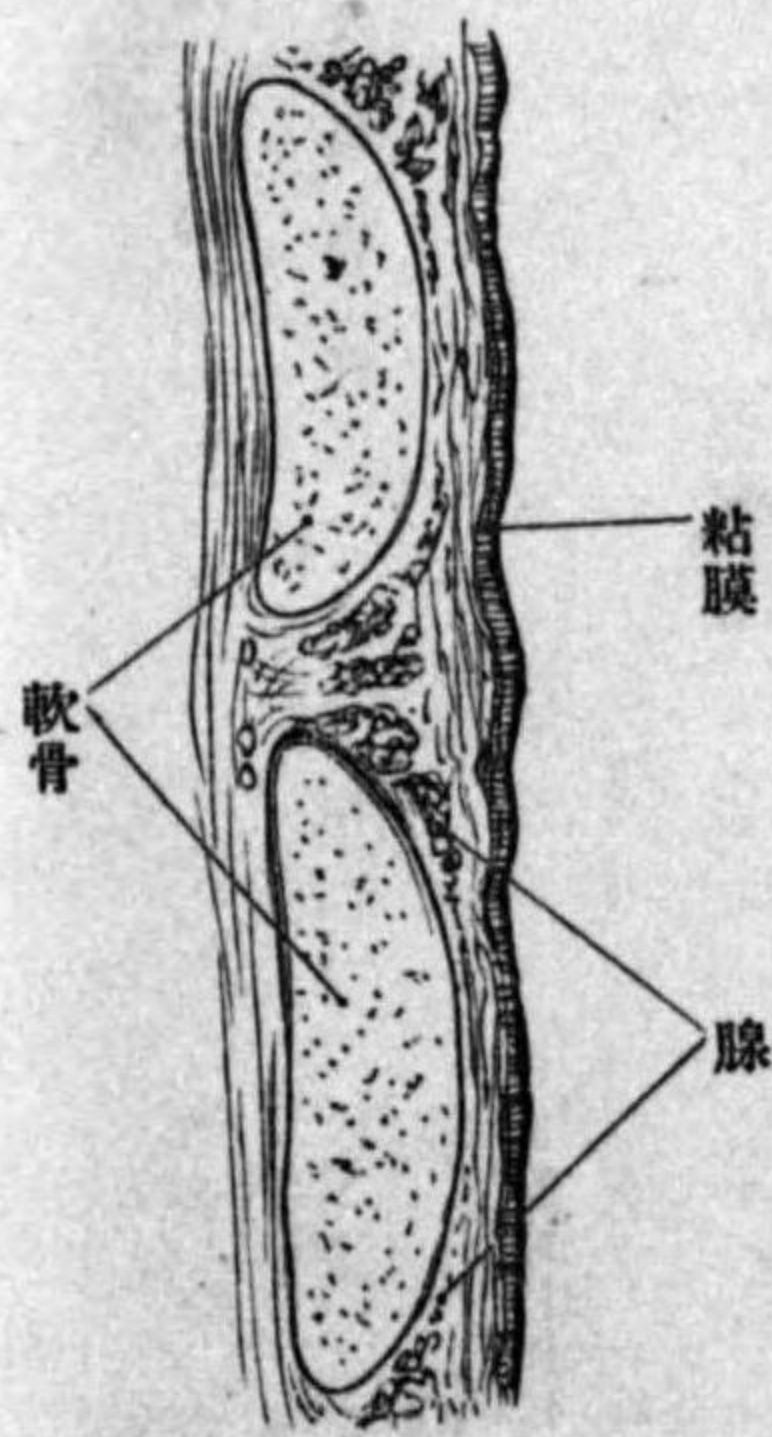
氣管及氣管枝

組織(輪狀韌帶 Lig. annularia)ヨリ成リ、後小部ハ軟骨ヲ缺ク此部ヲ膜樣部 *Partes membranaceae*ト名ク、氣管軟骨 *Cartilagineae tracheales*ハ扁平ニシテC字形ニ彎曲シ、第一軟骨輪ハ一端腰ノ分岐シ、最下軟骨ハ分岐其數十六乃至二十個アリ、第二乃至第五軟骨輪ノ前チ、第五軟骨輪ガ横過シ、氣管ノ下部ハ胸腺ヲ以テ覆ハレ、食管ハ下部ニ於テハ氣管ノ左方ニ傾キ、此二管ノ間チ返廻喉頭神經迷走神經枝ヲ走ル

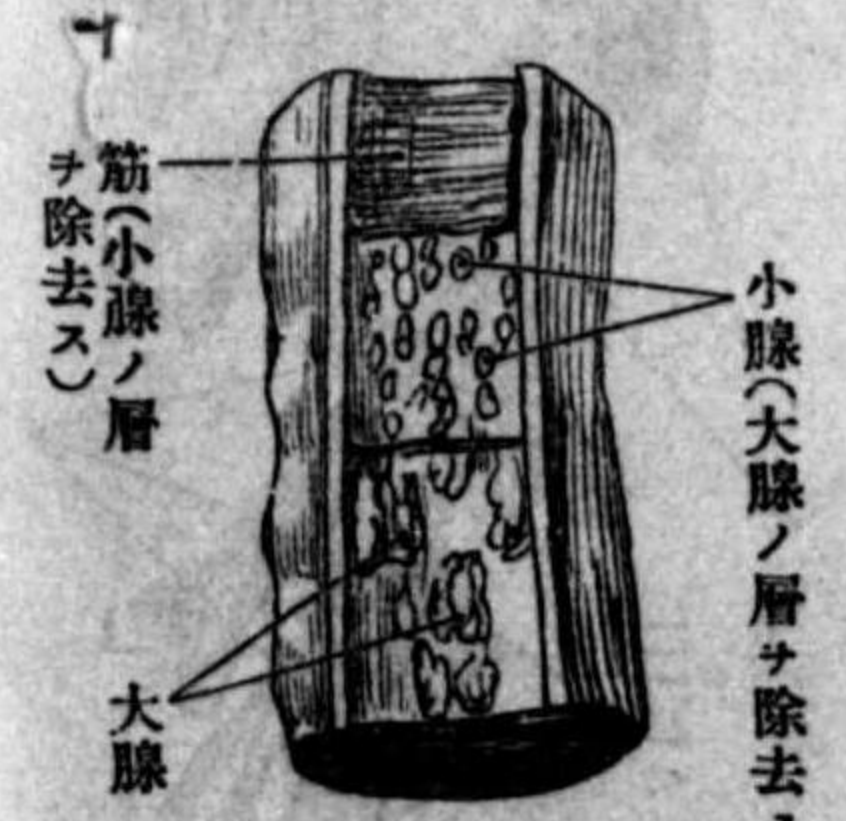
右、左氣管枝 *Bronchus dexter et sinister*ハ殆ド直角五十六乃至九十度ヲ以テ互ニ分岐シ、各外下ニ走リテ肺門ニ至リ、右ハ短廣仙迷ニシテ、嶮シク下リ六乃至八個ノ軟骨輪ヲ有シ、左ハ長狹五仙迷ニシテ斜ニ下リ九乃至十二個ノ軟骨輪ヲ有ス、右氣管枝ノ上チ奇靜脈ガ前ハ長狹五仙迷ニシテ斜ニ下リ九乃至十二個ノ軟骨輪ヲ有ス、方ヘ越エテ上大靜脈ニ連リ、左氣動脈管枝ノ上チ大動脈弓ガ後方ヘ越ユ

氣管及氣管枝ノ構造管壁ハ粘膜炎、軟骨、筋層及纖維膜ヨリ成リ、粘膜炎ハ彈

圖一十四百五第
面斷縱管氣



圖二十四百五第
面後ノ管氣



力纖維及淋巴細胞ニ富ミタル纖維性結締組織ニシテ喉頭ト同ジク重層ノ顫毛上皮ヲ被リ、彈力纖維ハ深層ニ於テハ縱走ノ密網ヲ爲シ、淋巴細胞ハ處々ニ節ヲ作ル、粘膜炎下膜ハ鬆粗結締組織ニシテ脂肪、腺、血管及神經ヲ含ミ、腺ハ分岐管狀腺(混合腺)ニシテ大小一ナラズ大ナルモノハ專ラ氣管ノ後壁ニ於テ筋層間或ハ其後方ニアリ、小ナルモノハ前方ニ於テ軟骨輪部ニ存在スト、雖軟骨間ニアルモノハ大ナリ、腺排泄管ハ粘膜炎ニ開口シ、彈力層下ニ於テ往々膨大ス、軟骨ハ硝子樣軟骨、筋層ハ膜樣部ニ於テ稍々厚キ、內横走ト薄キ、外縱層平滑筋層ナリ、纖維膜ハ彈力纖維ヲ含ミタル結締組織層ニシテ軟骨並ニ筋層ノ外面ヲ被フ

血管神經氣管ノ動脈ハ下甲狀腺動脈、靜脈ハ甲狀腺靜脈ノ近傍ニ於ケル叢ニ走リ、淋巴管ハ氣管ノ後壁及食管ニ散在セル淋巴節ニ入り、神經ハ迷走神經其枝別及交感神經ナリ

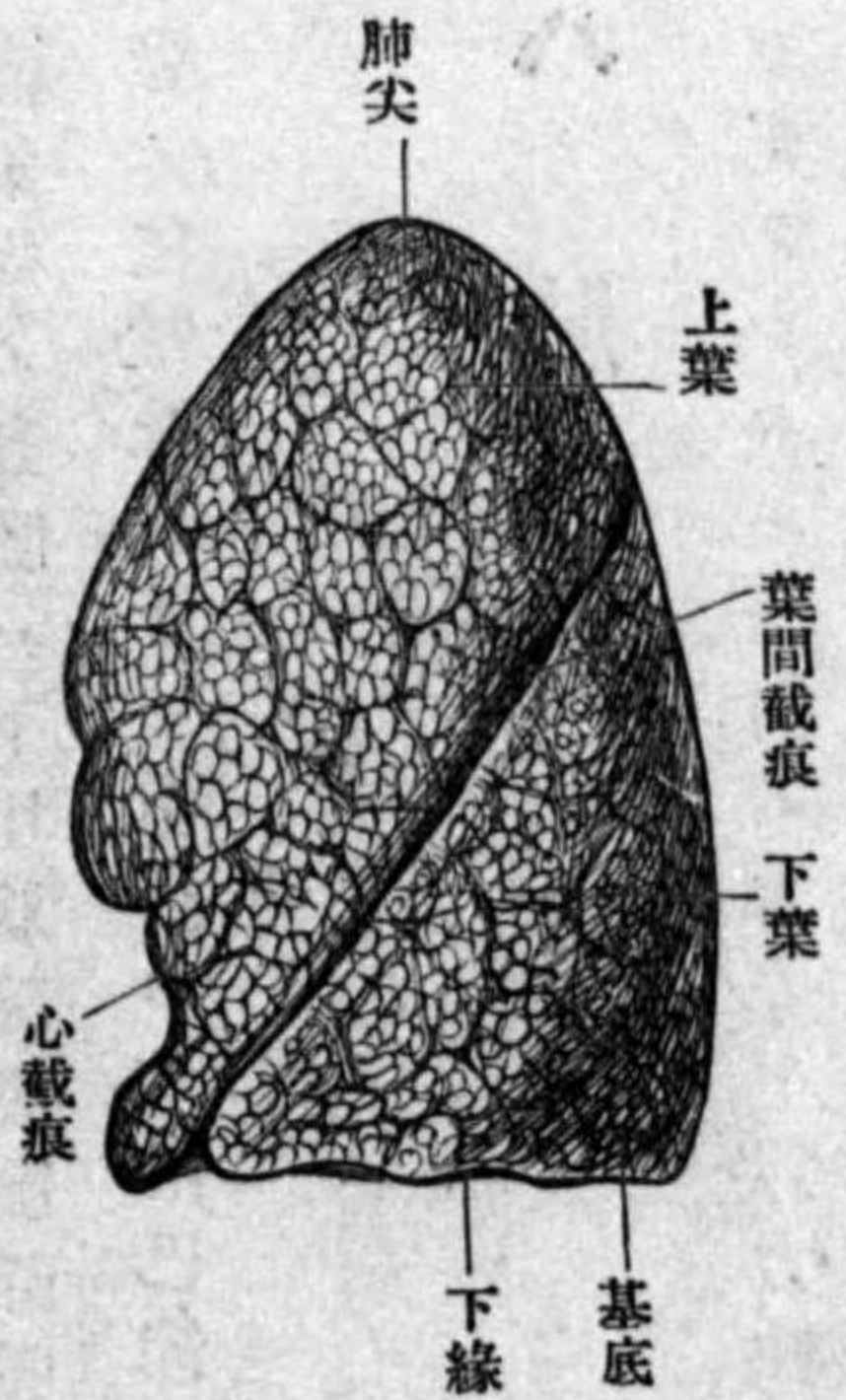
ハ 肺 *Pulmones, Lunge*

肺ハ胸腔ヲ充タシタル一對ノ大ナル彈力性器官ニシテ心ノ兩側ニ位シ、所謂呼吸ニヨリテ吸酸除炭ノ機能ヲ營ミ、以テ炭酸ヘもぐろびん *Carbohaemoglobin*ヲ變ジテ酸化ヘも

ぐらびん Oxhaemoglobin ト爲サシム、形狀ハ縱截シタル圓錐ニ類似シ、尖端 Apex Pulmonis

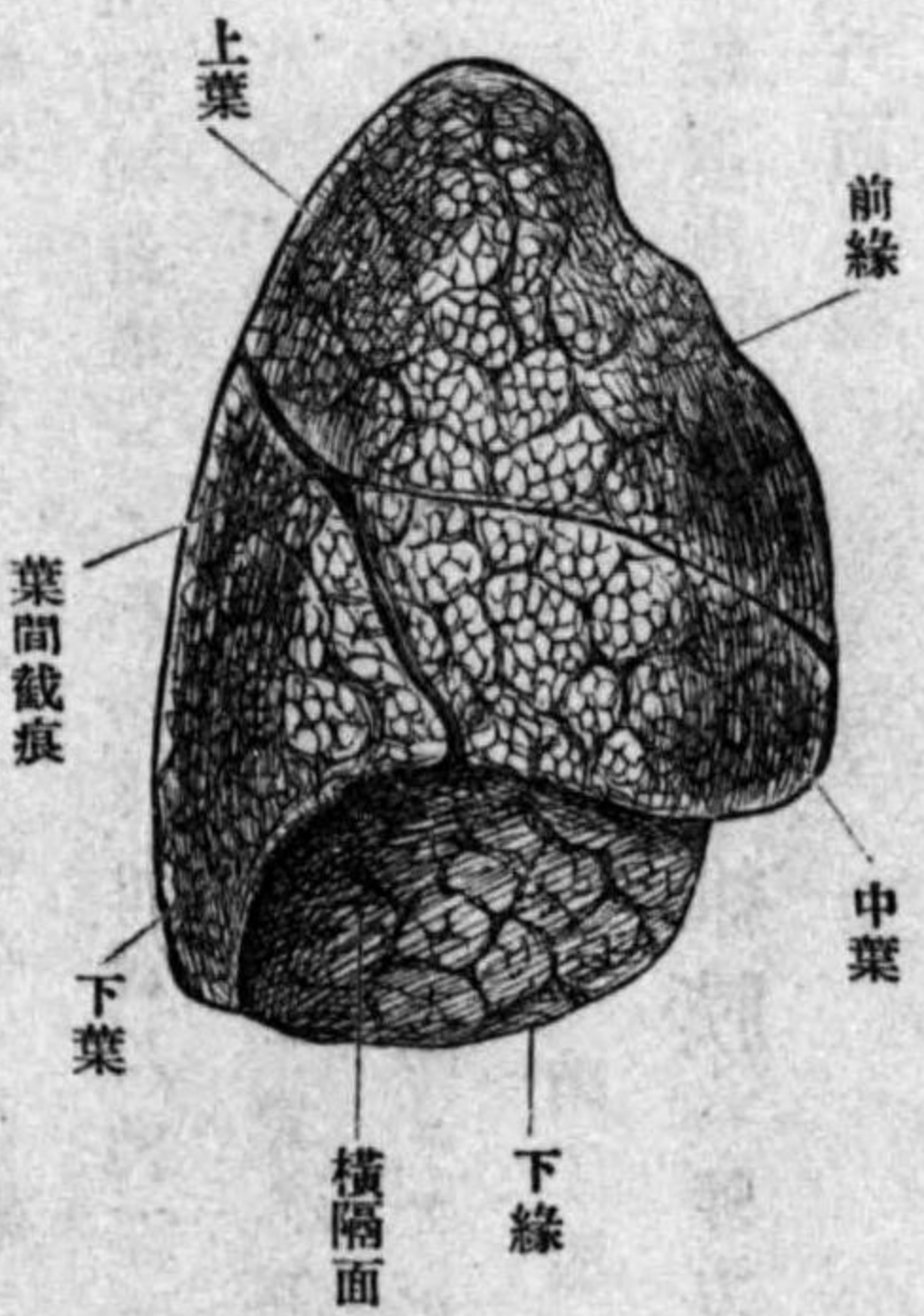
圖三十四百五第

面外肺左

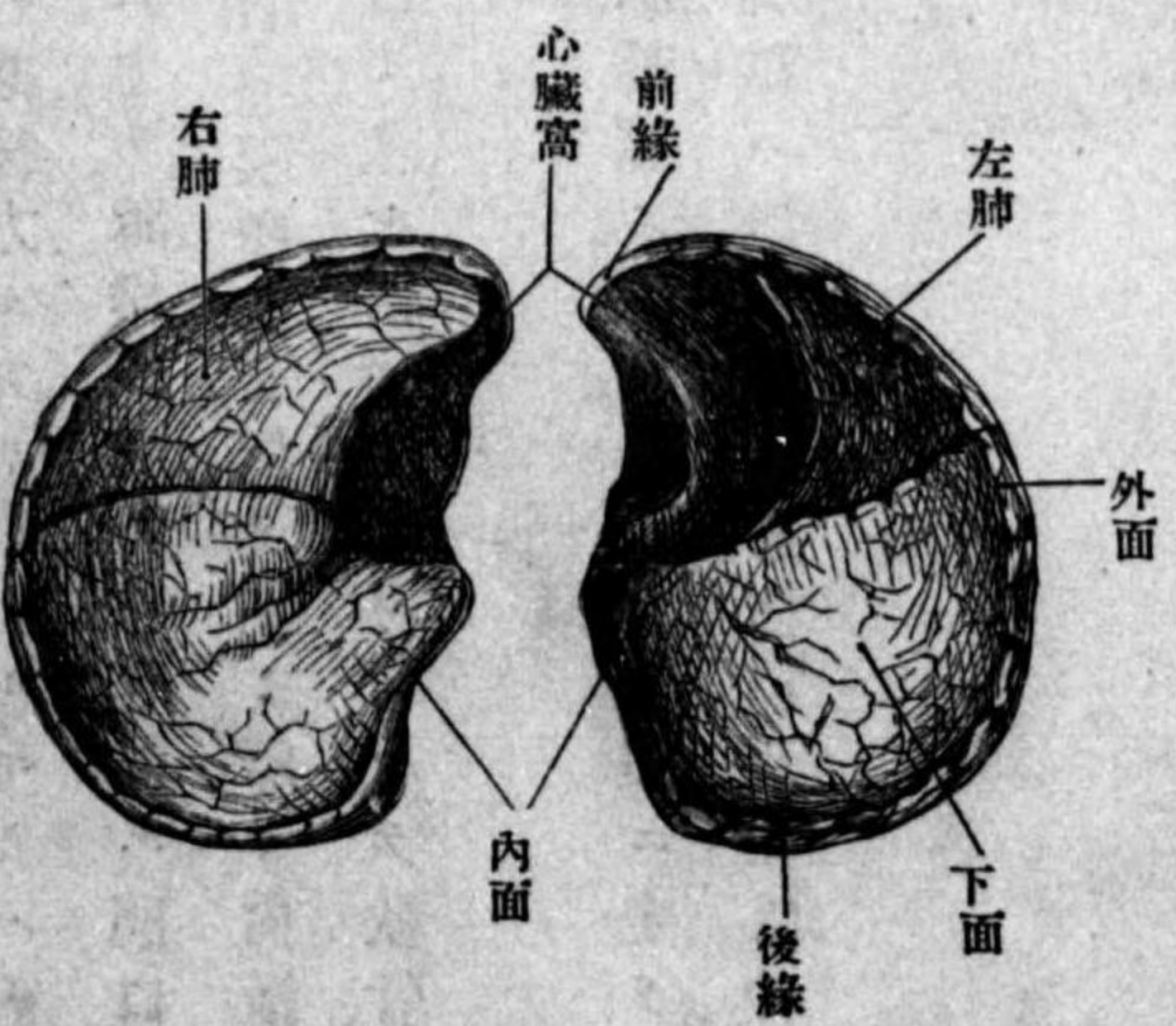


圖四十四百五第

面外肺右



圖五十四百五第
面下ノ肺

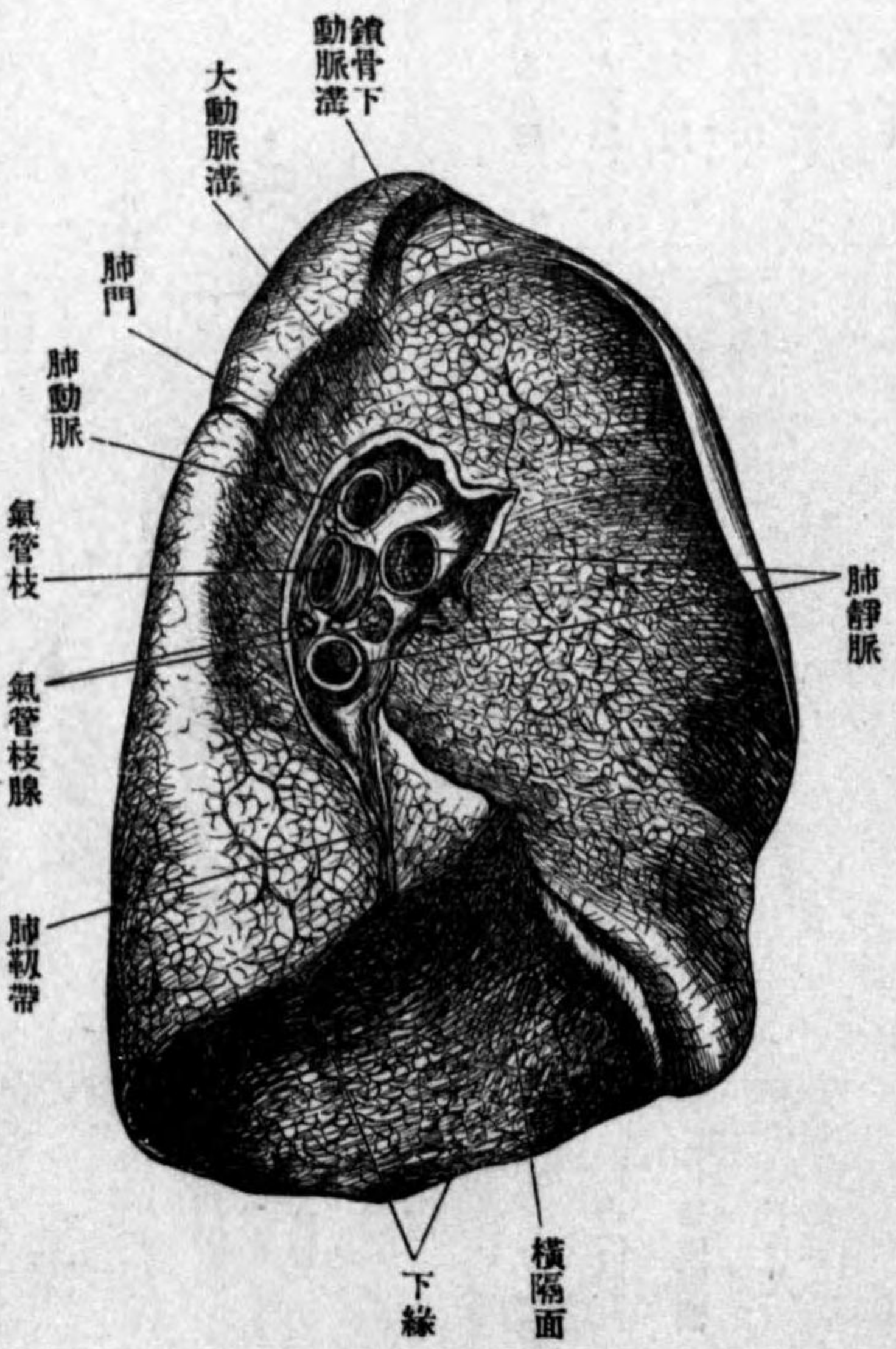


nis, Spitze ハ圓形ヲ帶ビ第一肋ヲ越エテ胸廓ノ上口ニ出テ鎖骨下動脈ノ横過ニヨリ

テ前側ニ淺溝ヲ生ヌ之ヲ鎖骨下動脈溝 Sulcus subclavius pulmonis ト云フ内面 mediale Fläche (縱隔面 facies mediastinalis) ハ凹陷シ、外面 laterale Fläche (肋骨面 facies costalis) ハ凸隆シテ胸壁ニ應ジ、下面 untere Fläche (横隔面 facies diaphragmatica, 基底 Basis Pulmonis) ハ横隔膜ノ彎曲面ニ應ジテ少シク凹陷シ且外方ニ傾ク其銳キ外縁ヲ下縁 Margo inferior pulmonis ト云ヒ横隔膜周縁ニ應ス前縁ハ薄ク内方ニ向ヒ、後縁ハ鈍圓

圖六十四百五第

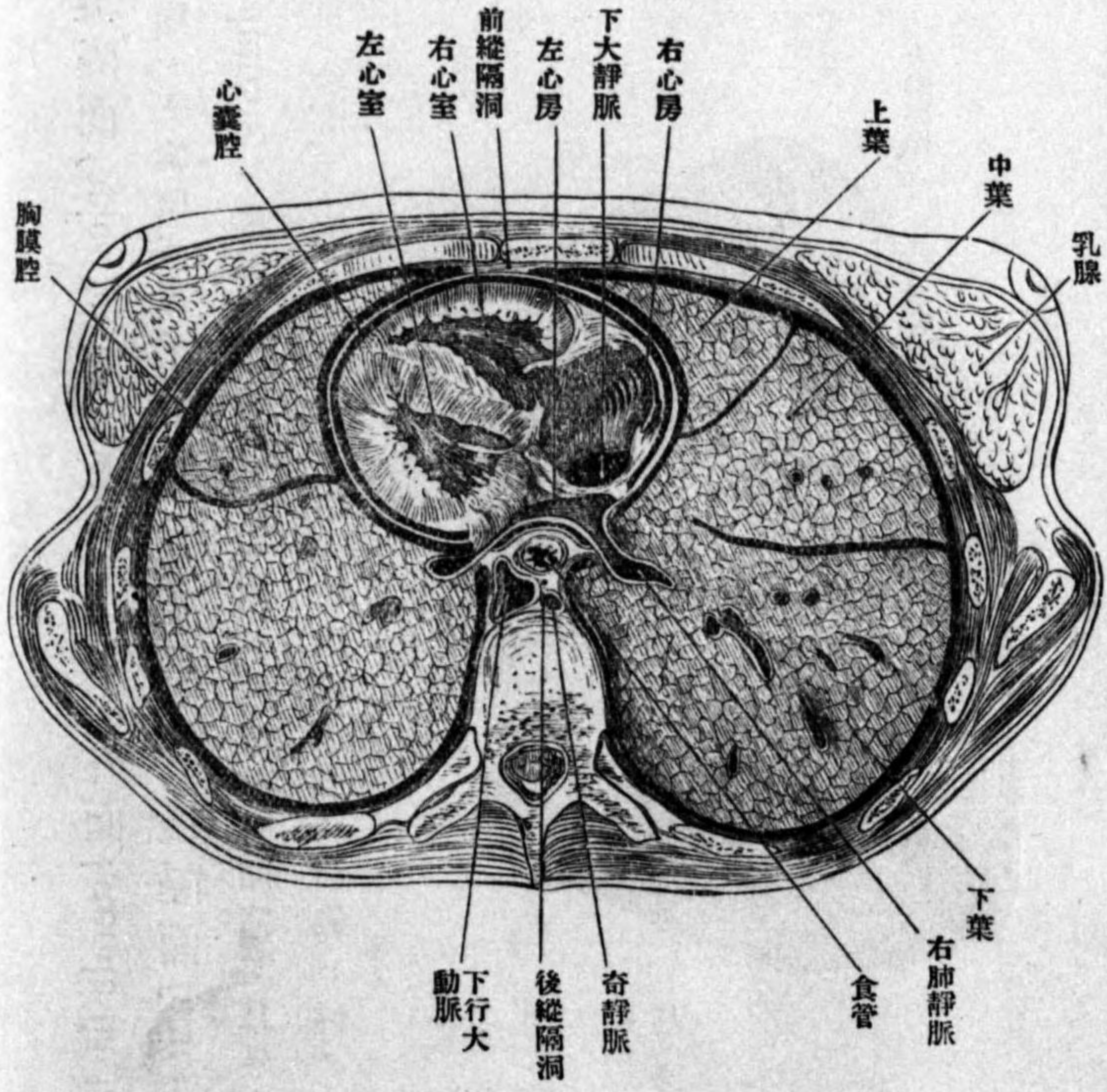
面内肺左



ニシテ脊柱ノ側方ニ於ケル所謂肺溝 Sulci pulmonales ニアリ内面ノ心臟ニ應ジテ生ジタル淺窩ヲ心臟窩 fossa cardiaca ト名ケ、其後方ニ於テ氣管枝、肺動靜脈等(總括シテ肺根 Radix pulmonis ト云フ)ノ出

圖七十四百五第

斷平水ノ幹驅ヲ於ニ間椎胸八第七第



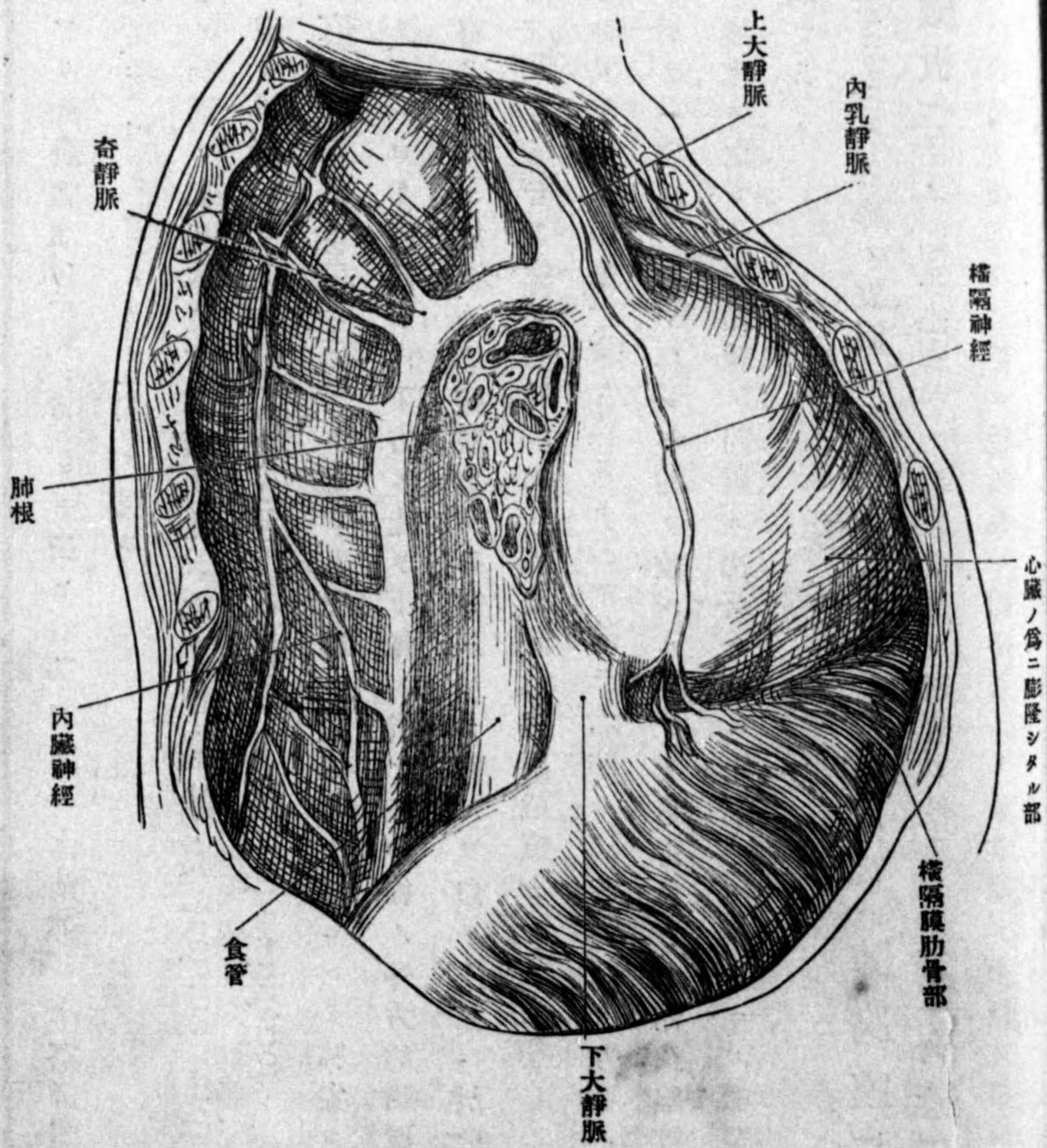
四九六

入部アリ、即肺門 *Hilus pulmonis, Lungenpforte* ナリ、其下方ハ狹小トナリ肺韌帶 *Lig. pulmonis* 附著ス、肺門ニ於テ氣管枝ハ最後方ニ位シ、肺靜脈ハ前方及下方ニ位シ、肺動脈ハ前二者ノ中間ニ於テ稍、上方ニアリ (*V. A. B.*) 又肺門ニハ數個ノ淋巴腺 *Lymphoglandula pulmonalis*. 至三〇乃アリ、屢、炭末ヲ含ミテ黑色ヲ帶ブ又左肺内

圖八十四百五第

側右ノ隔縱

ス除裁ヲ肺右ヲ於ニ根肺シ開裁ヲ壁胸右



面ノ後部ニ縱溝アリ大動脈溝 Sulcus aorticus ト云ヒ右肺内面ノ上前部ニ上空靜脈ニ應
スル上空靜脈溝 Sulcus venae caevae superioris ヲ現ス

左肺ノ前縁ハ心ノ前面ニ向テ大ナル截痕ヲ生ズ之ヲ心臟截痕 Incisura cardiaca ト
云フ肺ノ表面ハ深キ斜溝ニヨリテ上葉 Lobus superior 下葉 Lobus inferior トニ分ル

此溝ヲ葉間截痕 Incisura interlobaris ト名ク其上端ハ後縁ノ上部ニシテ肺尖ヨリ約
三指許下方ニアリソレヨリ外面ヲ内下方ニ走リ下縁ニ於テ正中線ノ外方約四指ヲ距

リタル部ニ於テ終リ左肺ニ於テハ心臟截痕ノ外方ニ於テ終ルヲ以テ上葉ニ於テ截痕
トノ間ニ舌狀部 Pars lingualis ヲ生ジ右肺ハ尙一ノ葉間截痕(副截痕 Incisura accessaria) ニヨ

リテ上葉ヲ二分ス其下半ヲ中葉 Lob. medius ト云フ故ニ右肺ハ三葉ニシテ左肺ハ二葉
ナリ肺ハ幼者ニ於テハ帶紅白色ヲ呈シ年齢ヲ重ルニ從ツテ暗青色ノ斑點及線紋増加

シ次第ニ暗黒ニ變化ス之レ色素顆粒ノ間質ニ沈著スルニ由來スルモノニノ職業ニヨ
リ差異アル所以ナリ

胸膜 Pleura, Brustfell 各肺ノ表面ハ重複ノ漿液膜ヲ被ル其内葉ハ肺胸膜 Pleura
pulmonalis (内臟板 Pleura vesicalis) ニシテ肺實質ニ密著シ外葉ハ體壁胸膜 Pleura
parietalis ニ胸腔内面ヲ被裡シ二葉ノ遊離面ハ相接著スト雖其間ニ少量ノ漿液ヲ含

ミ自ラ腔洞ヲ爲ス之ヲ胸膜腔 Cavum pleurae ト云フ外葉ヲ更ニ區別シテ肋胸膜 Pleura
costalis ト横隔胸膜 Pleura diaphragmatica トシ又肺ノ内面ニ向ヒタル部ヲ縱隔胸

膜 Pleura mediastinalis ト云ヒ其心囊ト癒著シタル部分ヲ心囊胸膜 Pleura pericardi-
aca ト稱ス兩側ノ縱隔胸膜ノ間ニ心囊占居シ其前後及上方ニ空隙ヲ殘ス之ヲ前後

上ノ縱隔洞 Cavum mediastinale anterius, posterius, superioris ト云フ前縦隔洞ハ胸骨
テ後ニ胸腺アリ後縦隔洞ハ心囊ト脊柱ノ間ニアリ食管下行大動脈奇靜脈胸管迷走神經等ヲ

藏シ上縦隔洞ハ心囊ノ上方ニアリ前方ハ胸骨後方ハ脊柱ヲ以テ境トス其最前方ニ大靜脈及
其枝アリ其後ニ肺動脈及大動脈交叉シ其後方ニ氣管及氣管枝アリ最後方ニ食管アリ其他此

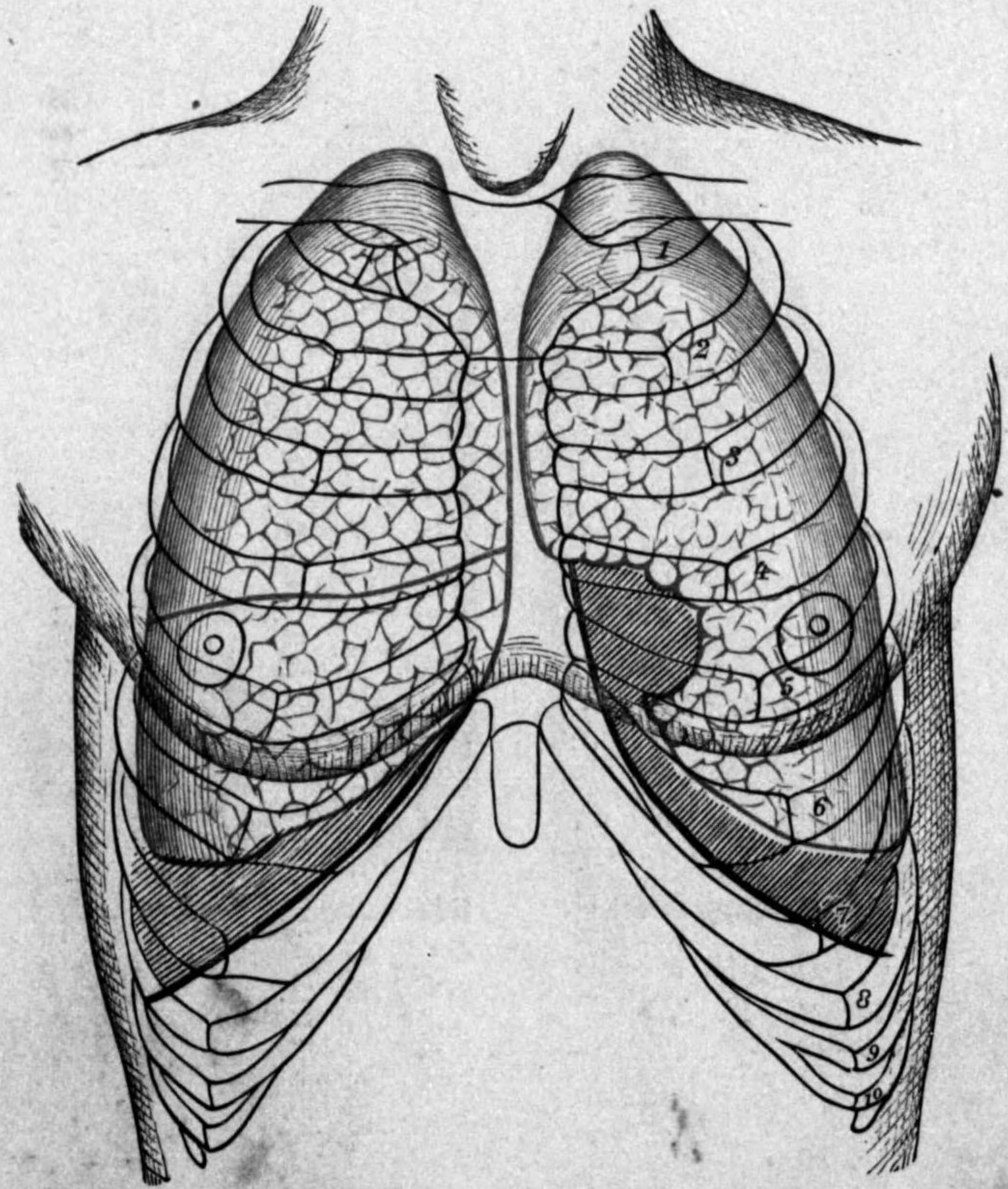
高ニ三對ノ神經アリ即迷走神經食管ニ伴フ横隔神經(肺根ノ前心囊ノ側方ヲ下ル)交感神經節
狀索(脊柱ニ伴
フ)之ナリ

内外二板ノ移行部ハ肺根ニシテ下方ハ肺靱帶 Lig. pulmonale トナリ前額位ヲ取リ
肺ト縦隔膜ノ間ヲ下リ横隔胸膜ニ連ル胸膜腔ノ上端(胸膜穹隆 Cupula pleurae) ハ胸

廓上口ノ上ニ出デ鎖骨下動脈其上ヲ横過シ爲ニ淺溝ヲ生ズ下界ハ弓形線ヲ爲ス此線ハ
第六肋軟骨ノ胸骨端ヨリ始マリ下七個肋骨ト肋軟骨ノ境界ヲ經テ第十二肋骨ノ頸ニ

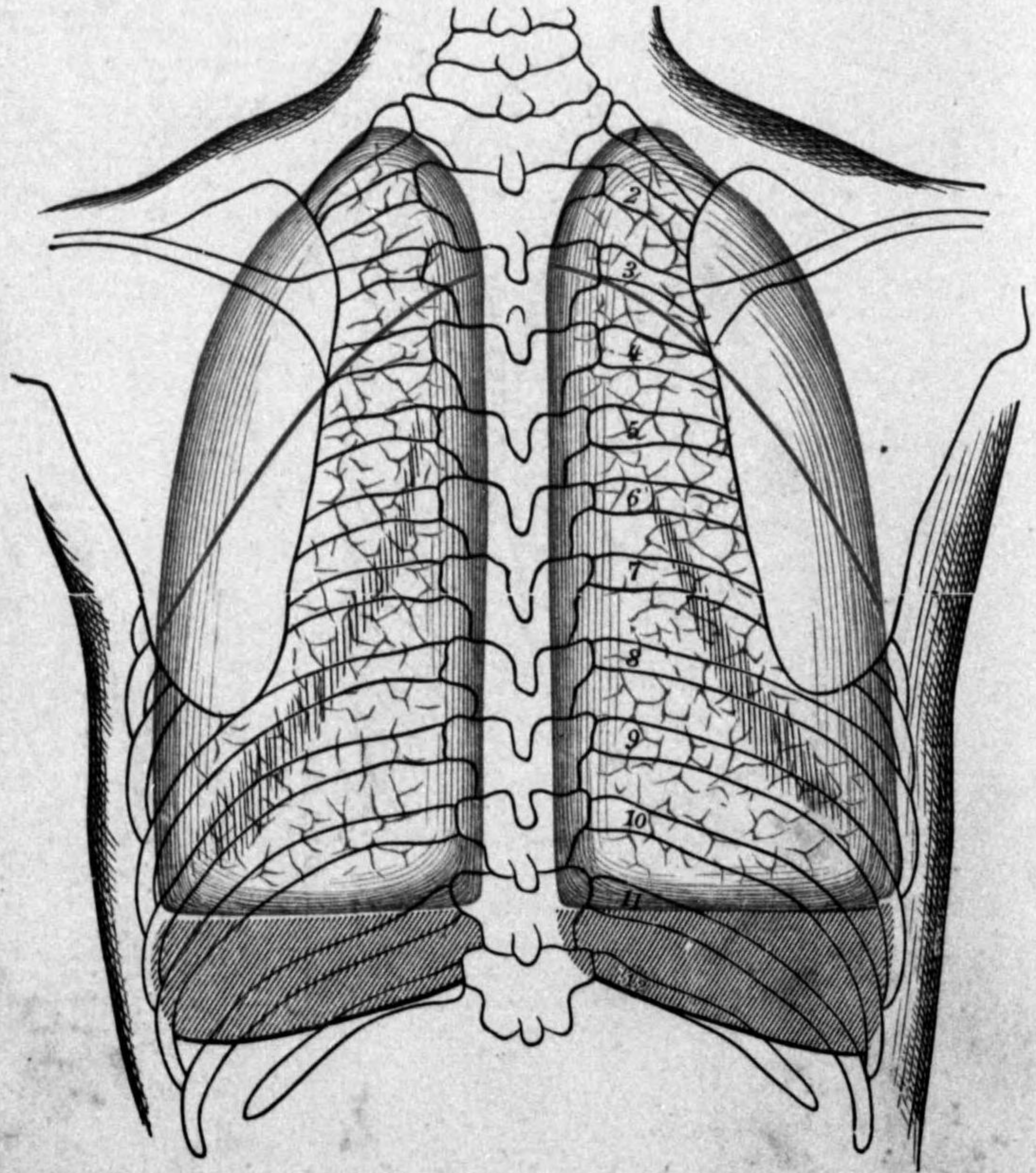
達ス前界ハ胸骨ノ後面ニ於テ左右相接近シテ縦線ヲ爲シ方ニ屈ス上方ハ胸骨柄
ノ後側ニ於テ互ニ隔離(上胸膜間翼 Area interpleurica superior) シ右側ハ第六
肋軟骨附著部迄鉛直ニ下ルト雖モ左方ハ第四肋軟骨内端ヨリ外方ニ彎曲(下胸膜

第五百四十九圖
肺ノ位置ノ前側



間翼 Area
interpleuri-
ca inferior)
シテ下リ第
六肋軟骨ニ
達スレバ右
側ト同一ト
ナル、後界ハ
脊柱ノ側面
ニシテ確然
タル境界ナ
ク縦隔胸膜
ニ移行ス、其
際右側ニ於
テハ食管ノ

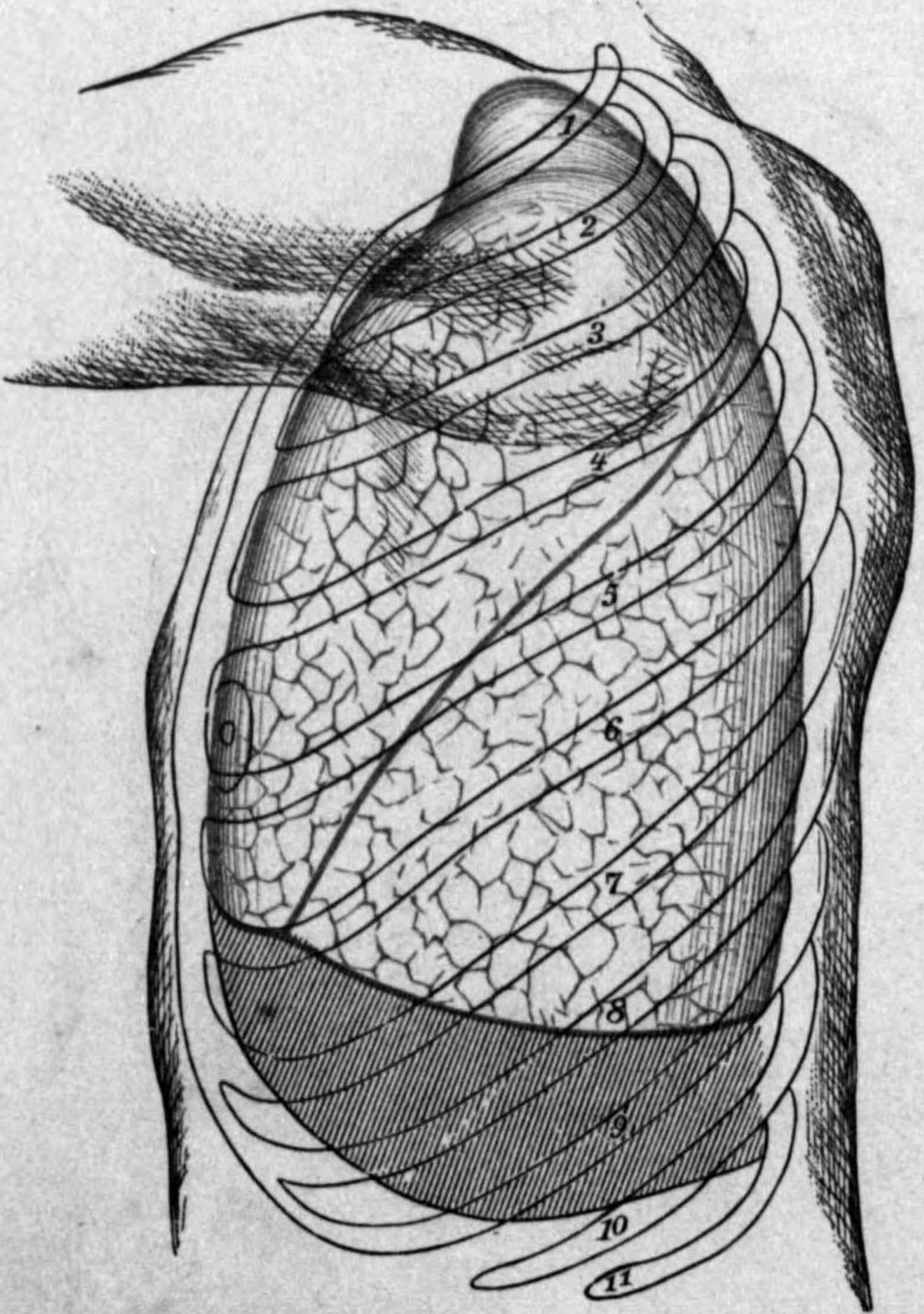
第五百五十圖
肺ノ位置ノ後側



一部、左側ニ
於テハ下行
大動脈ヲ掩
フ、兩胸膜腔
ハ肺ヲ以テ
充填シ、毫モ
空隙ヲ殘サ
ズ、蓋シ深吸
氣ヲ營ミテ
著シク肺ノ
擴張シタル
際ハ其表面
殆ド全胸壁
ニ接スベシ
ト雖モ安靜

呼吸ニ於テハ胸膜腔ノ前縁或ハ下縁ノ如キ狭小部ニ達スルコトナシ斯ノ如キ狭小部ハ其壁相接觸シテ深吸氣ノ際ノミ肺ヲ受容スルヲ以テ胸膜竇 Sinus pleurae 或ハ補充竇 *komplementäre Räume* ト云フ其著明ナルモノニアリ 1. 横隔肋竇 Sinus phrenicocostalis ハ肺

第五百一十五圖 (側左) 肺ノ位置



ノ下縁ニ相當シ
 2. 横隔縦隔竇 Sinus phrenicomedastinalis ハ横隔胸膜ト縦隔胸膜ノ間ニシテ心嚢ノ膨出ニヨリテ生ズ 3. 縦隔肋竇 Sinus mediastinocostalis ハ胸骨下部ノ後

方ニアリ右側ハ淺ク左側ハ深ク肺縁彎曲シテ常ニ此部ヲ充タサバハルヲ以テ心嚢ノ大部ハ前胸壁ニ接觸シ心嚢縦隔竇 Sinus pericardiacomediastinalis ハ肺ノ心痕部ニ應シ前縁ト縦隔膜トノ間ニアリ、肋胸膜下ノ結締織層ハ脊柱ノ近傍ニ於テ少シク肥厚ス之

ヲ内胸筋膜

fascia endothor-

cica ト云フ肺胸

膜ハ膜葉ノ表面

ヲ被覆シ或ハ深

ク葉間溝ニ入ル

然レモ或ハ淺ク

葉間ニ渡ルコト

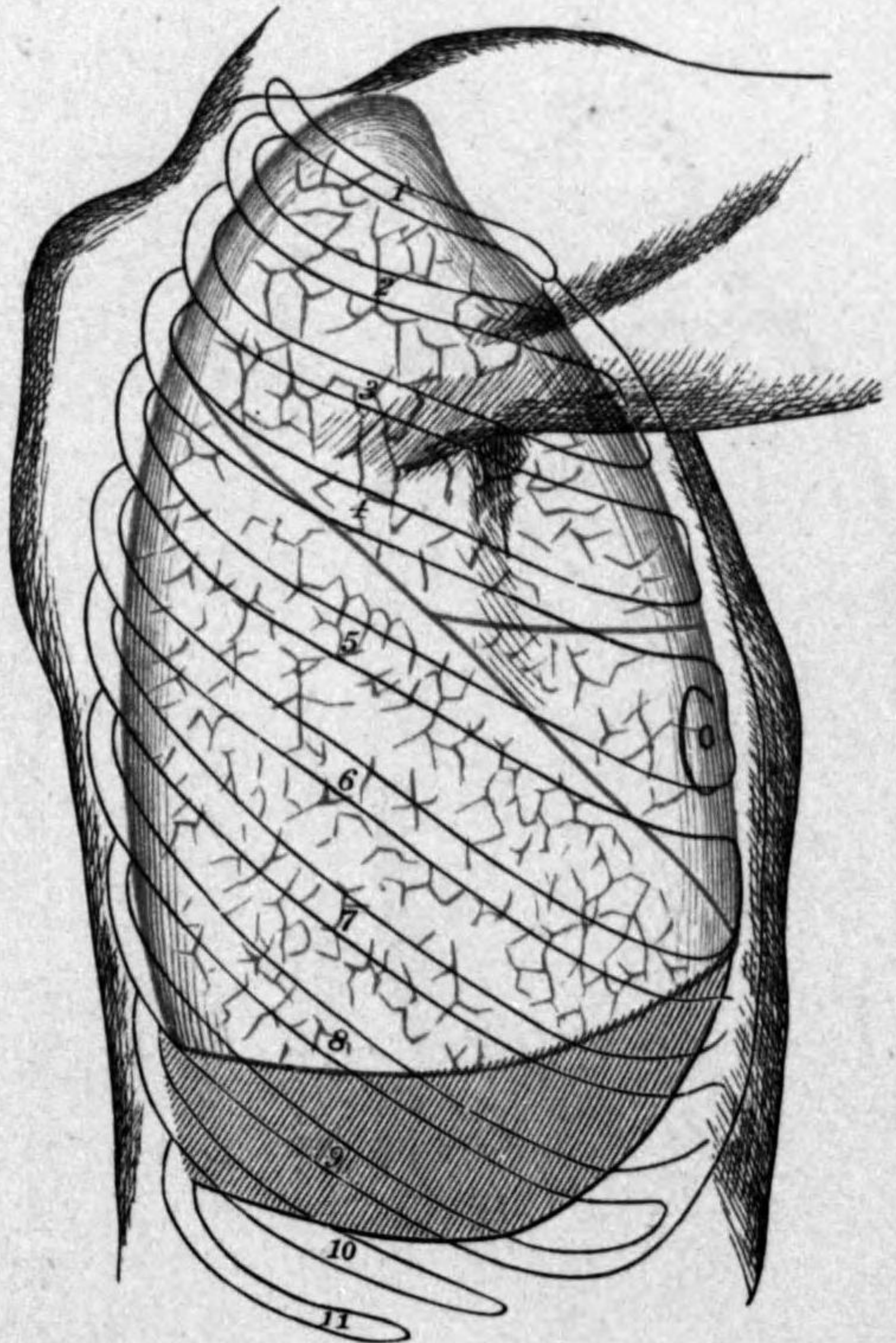
アリ(葉間靱帶

Lig. interlobula-

ria)

肺ノ限界 *Gren-*

第五百二十五圖 (側右) 肺ノ位置



肺

五〇一

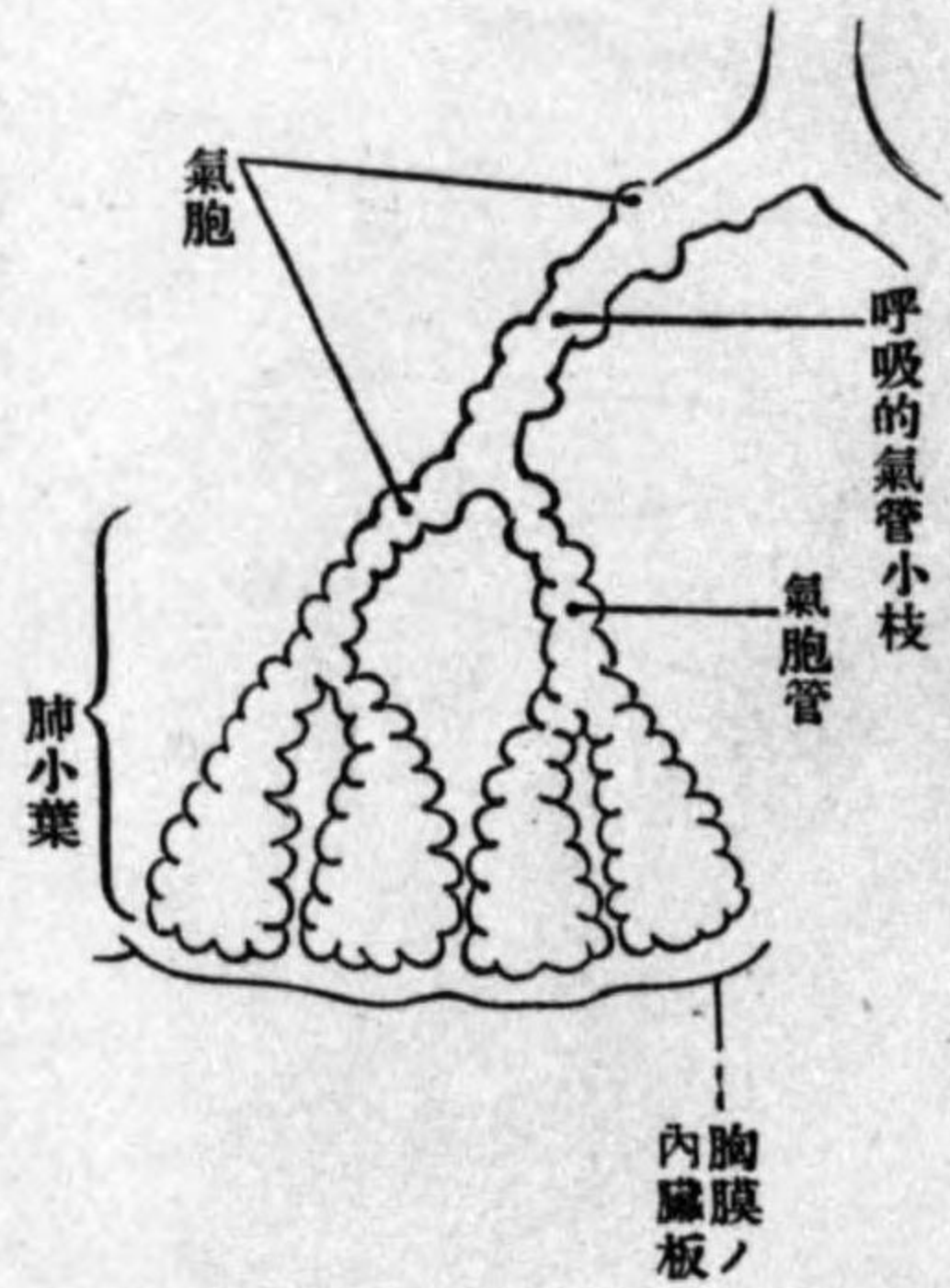
zen der Lungen ハ前述胸膜腔ノ限界ニ一致スベシト雖モ之ヨリ稍狹シ、即チ下縁ハ下方ニ向ツテ少ク弓形ヲ爲シタル線ニシテ、前縁ハ第六肋軟骨ノ胸骨端、後縁ハ第十一肋骨ノ後端ニ一致シ、左側ハ右側ヨリ少シク低シ、右肺ノ前縁ハ略、胸膜ノ限界ニ從ヒ、左肺ハ心囊截痕ヲ以テ第四肋軟骨附著部ヨリ外方ニ彎曲シテ弓形ヲ作り第六肋軟骨ノ後側ニ於テ胸膜ノ限界ニ達ス、肺尖ハ胸廓上口ニ於テ胸膜限界ニ達ス、葉間溝ノ位置ハ、後方ハ第三肋骨頭及其下方ニアリ、下端ハ第六肋骨ト同肋軟骨限界ニ達シ、右肺ニ於テ、上葉及中葉間ノ溝ハ約第四肋ニ一致シ、或ハ之ヨリ少シク高シ

肺及小氣管枝ノ構造肺ハ一種ノ複胞狀腺ニシテ表面ニ無數ノ多角形小區畫ヲ現ハス、是レ實質區分ノ表面ニ現ハレタル部ニシテ之ヲ肺小葉 Lobuli pulmonis ト云フ、肺ハ氣管枝、血管、淋巴管、神經及是等ヲ連結スル結締組織ヨリ成ル、小氣管枝ハ銳角或ハ直角ヲ以テ漸次分岐スト雖モ互ニ吻合スルコトナク細少部ニ至レバ少數ノ氣胞其壁ニ現ハル、此部ヲ呼吸的氣管小枝 Bronchioli respiratorii ト云フ、氣胞 Alveolen ハ半球形ノ小胞ニシテ廣キ基底(口)ヲ以テ氣管枝ニ連ル、其壁ハ薄ク内面ハ大氣、外面ハ毛細管ノ血液ニ接シ大サ〇・三七乃至〇・二二乃至〇・一六密迷ニシテ吸氣ニ際シテハ擴張シテ二倍乃至三倍ニ達シ隣接ノモノト交通スル者ハ不規則形ヲ呈ス、氣管枝ハ尙分岐スルニ

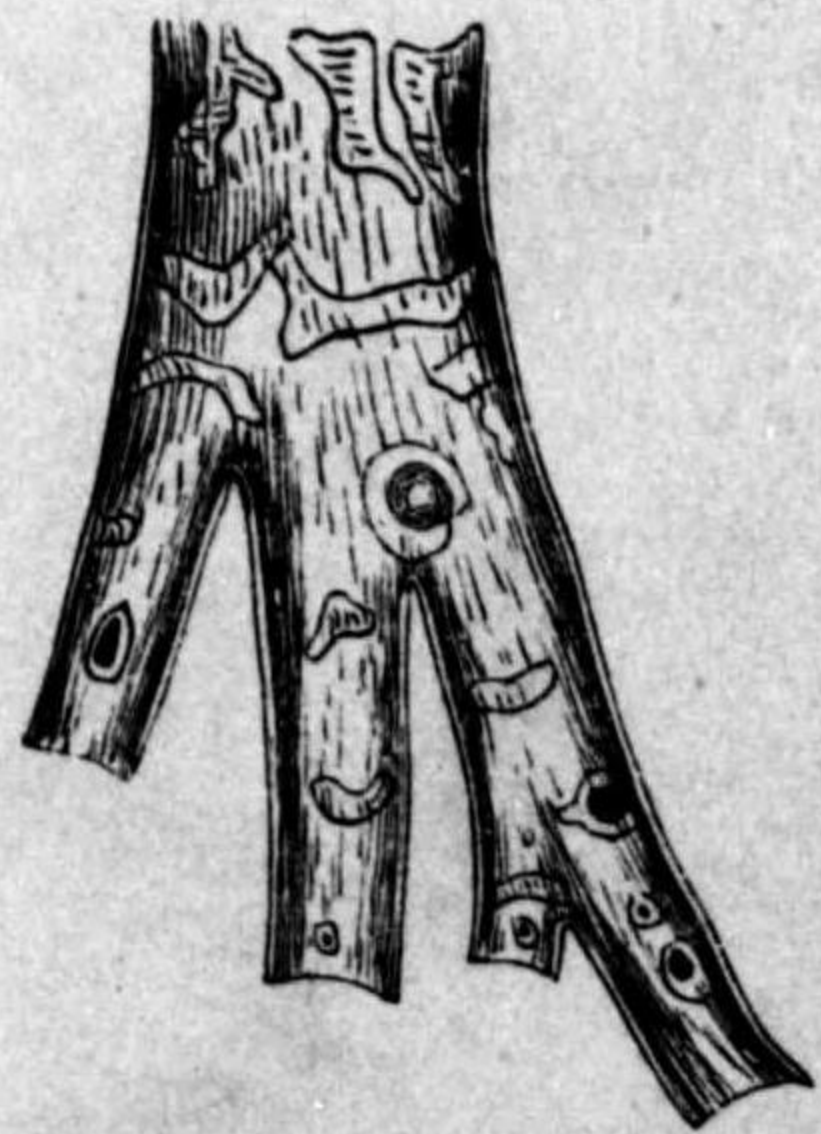
隨ヒ氣胞モ隨ツテ増加ス名ケテ氣胞道 Ductus alveolares ト云フ、末端ハ周壁悉ク氣胞ヲ以テ包圍シタル一腔ニ終ル之ヲ漏斗 infundibuli ト云フ

細氣管枝ハ管狀ニシテ、其構造氣管枝ニ同ジト雖モ、軟骨ハ輪狀ヲ爲サズシテ種々不規則ナル板トナリ漸次大サヲ減シ一密迷以下ノ細管ニハ全ク之ヲ缺ク、筋層ノ厚クモ

圖三十五百五第
圖型模ノ葉小及胞氣肺



圖四十五百五第
骨軟ノ枝管氣
(之シ出載リヨ實實肺
ノモルタシ開展ヲ)

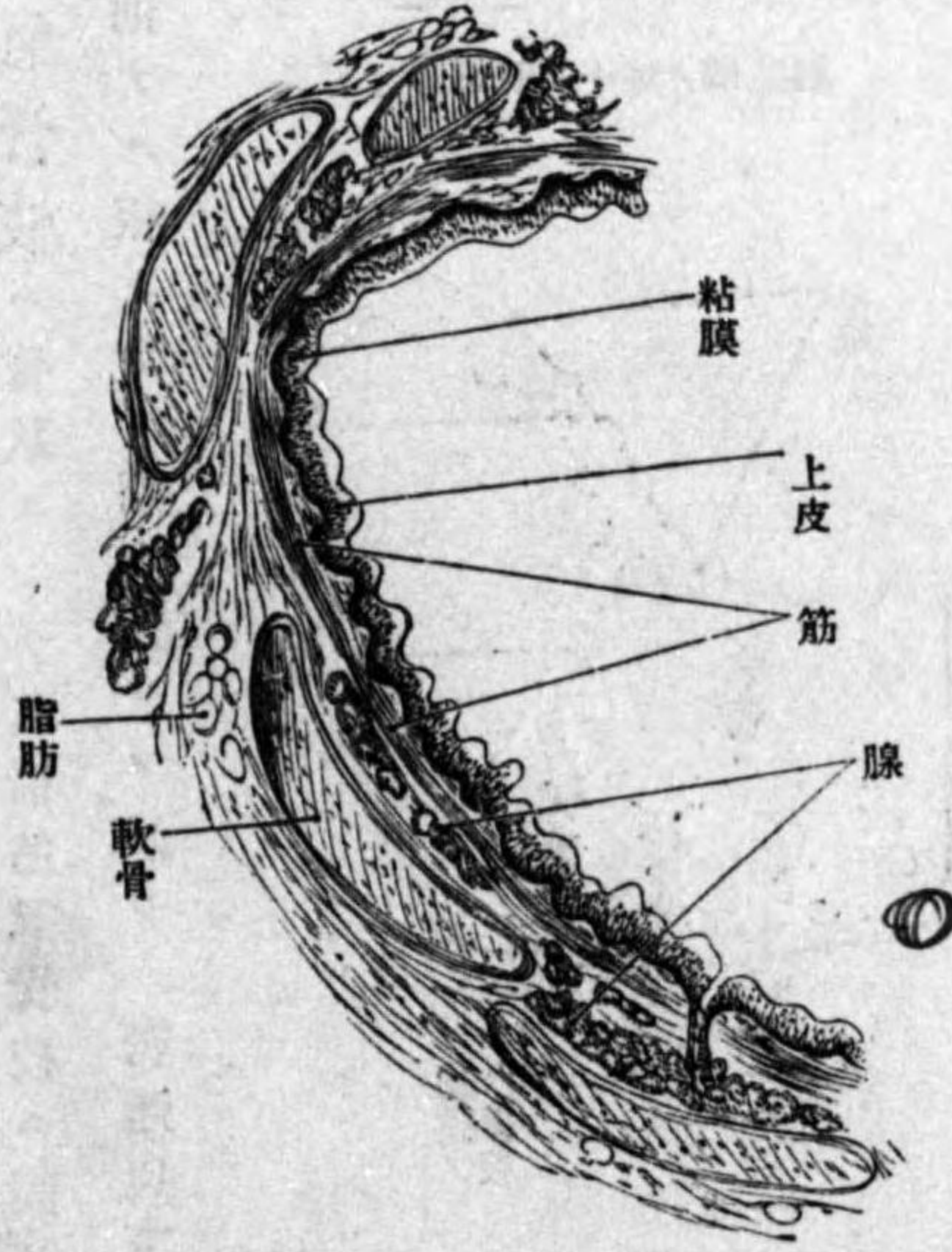


氣管枝ノ太サニ準ジ、氣胞道ニ於テモ尙存スルヲ見ル、粘膜ノ顫毛上皮ハ次第ニ其層ヲ減ジ呼吸氣管小枝ニ至レバ單層トナリ終ニハ顫毛ヲ失ヒ骰子形ニ變ジ其間ニ無核ノ扁平上皮ヲ混ズ、以下氣胞ニ至ルモ之ト同一ノ上皮ヲ被ル、之ヲ呼吸上皮 Respiratori-

ses Epithel ト云フ基礎膜ハ縱走彈力纖維ニ富ミ白血球ヲ含ミ稀ニ弧節(氣管枝
淋巴節 Noduli Lymphat. bronchiales)ヲ見ル其他軟骨ノ存在スル部分ニ於テハ筋層ノ

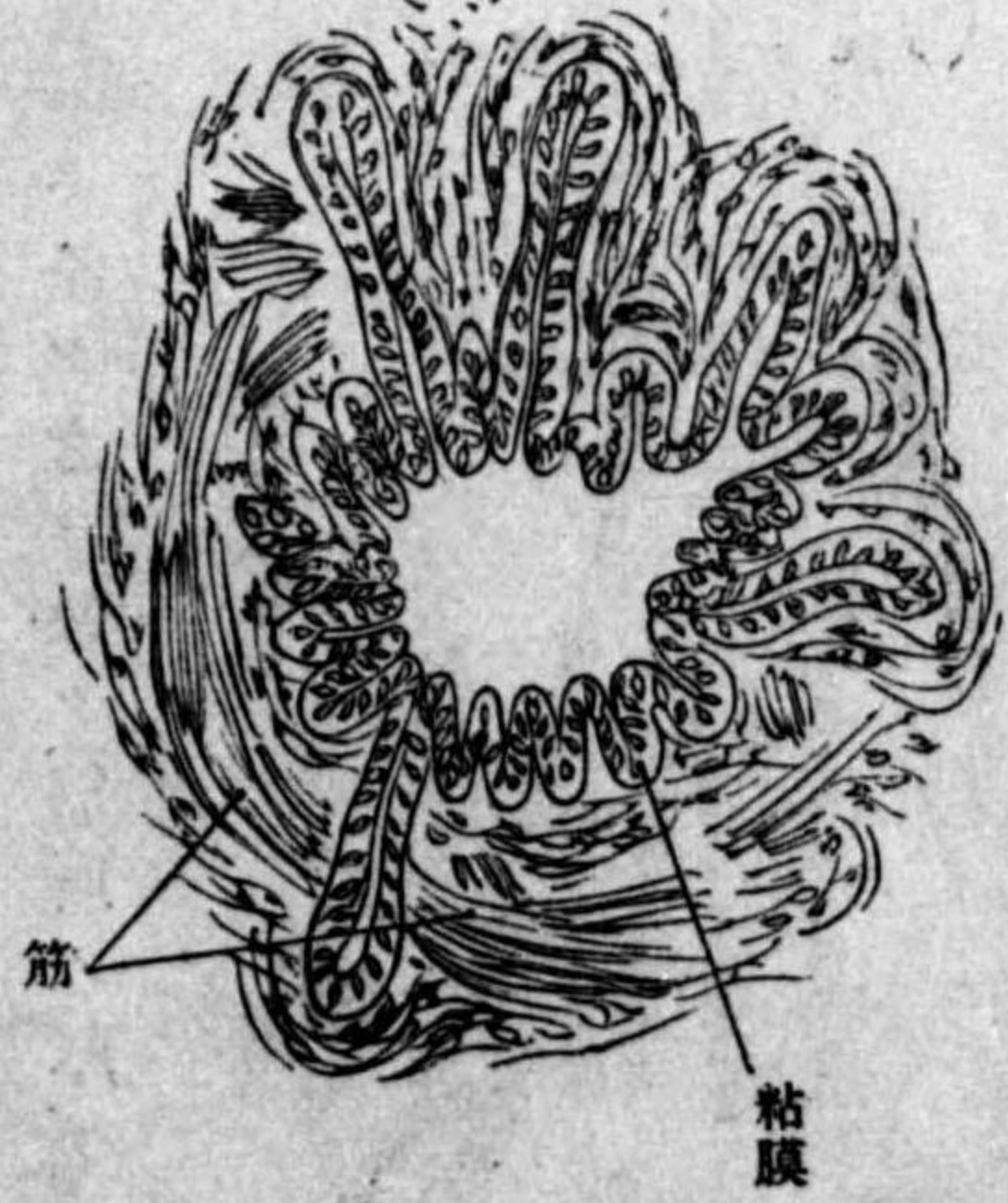
第五百五十五圖

大氣管枝(弱擴大)



第五百五十六圖

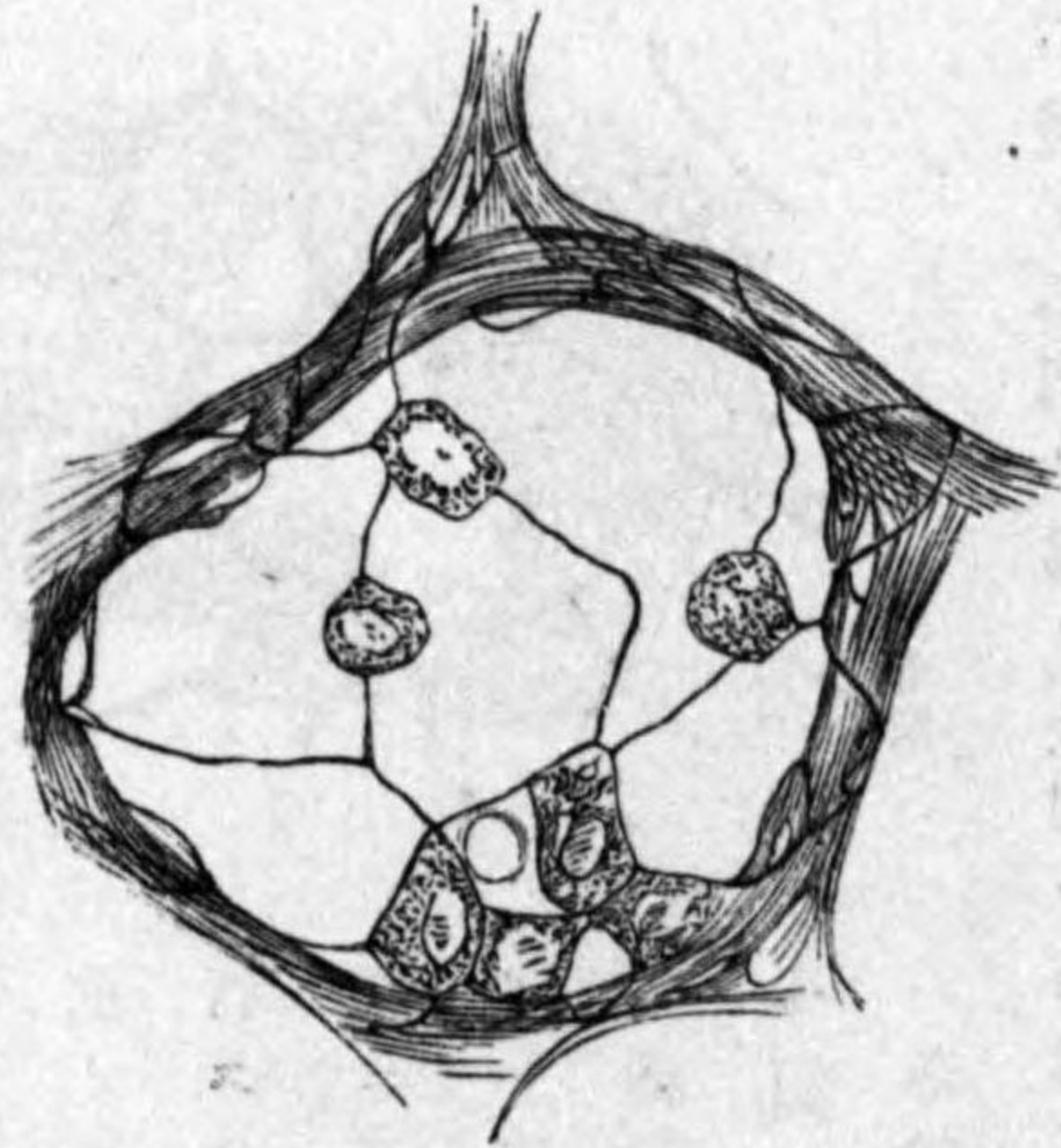
細氣管枝橫斷(弱擴大)



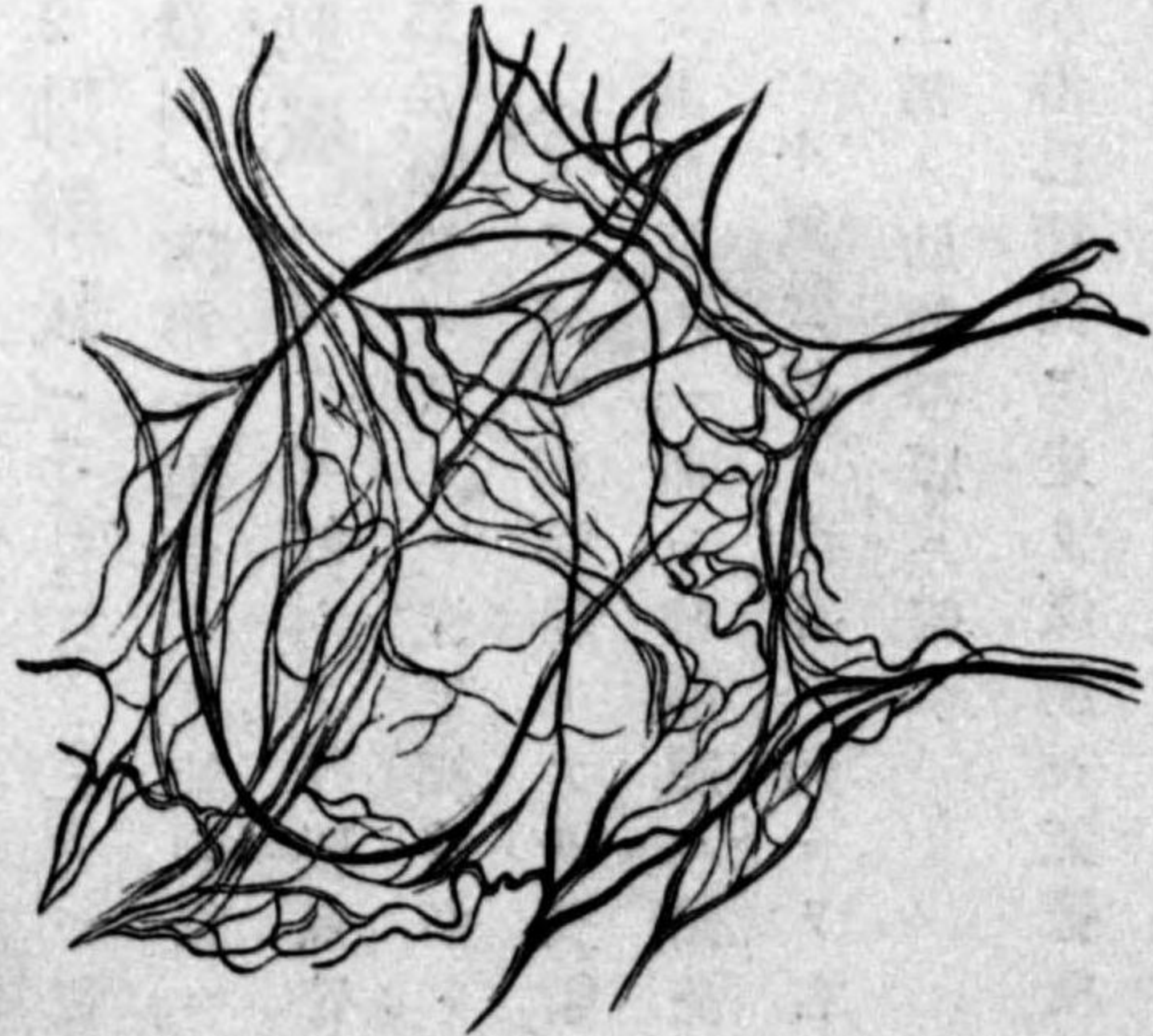
下ニ多數ノ分枝管狀線(氣管枝腺 Glandulae bronchiales)ヲ有ス
氣胞道及氣胞壁ハ上皮彈力纖維及結締組織ヨリ成リ彈力纖維ハ管壁ニ於テハ輪

狀ニ走り氣胞口ノ周圍ニ於テハ肥厚シテ之ヲ圍擁シ隣在ノモノト合シテ氣胞中
隔 Alveolensepta ヲ爲シ氣胞壁ニ於テハ縱横ニ走り網狀ヲ呈ス

第五百五十七圖
幼犬ノ一氣胞



第五百五十八圖
氣胞ノ彈力纖維



肺ノ表面ヲ被フ肋膜ハ結締組織膜ニシテ多數ノ彈力纖維ヲ含ミ遊離面ハ單層
ノ扁平上皮ヲ被ル

血管ハ呼吸ニ供スルモノト榮養ヲ司ドルモノトノ二種アリ甲ハ肺動靜脈ニシテ乙ハ氣管枝動靜脈ナリ。1. 肺動脈 Aa. pulmonales ハ氣管ニ伴フテ漸次分岐シ終ニ緻密ナル毛細管網トナリ氣胞氣胞道及呼吸的氣管小枝

ノ上皮下ニ達ス2. 肺靜脈 Vv. pulmonalis ハ氣胞底ノ毛細管ヨリ發起シ次第ニ集合シテ肺動脈ニ沿行ス3. 氣管枝動脈 ハ漸々分岐シテ呼吸氣管小枝ニ至リ一部ハ筋及腺質ニ入りテ深毛細管網トナリ一部ハ基礎膜ニ入りテ淺毛細管網トナリ又頻リニ肺動脈ト吻合シ其血液ノ一部ハ肺靜脈ニ歸流ス4. 氣管枝靜脈 ハ小氣管枝ノ部分ニ始マリ右側ハ奇靜脈左側ハ上部ノ肋間靜脈ニ歸ス

圖九十五百五第

胞氣肺ルヲシ施テ射注脈動



毛細管網

淋巴管ハ淺深二網ヲ爲ス淺網ハ肺胸膜下ニ於テ小淋巴節間ヲ走り深網ハ氣管枝及血管壁ヨリ起始シ葉間結締組織内ヲ走り各肺門ニ向ツテ肺淋巴腺ニ集合ス肺ノ神經ハ迷走神經竝ニ交感神經ナリ

(呼吸器ノ發生)呼吸器ハ其始メ咽頭前壁ノ一膨隆(喉頭)ヲ以テ始マリ漸々延長シテ

(氣管)二脚ニ分レ(氣管枝)其末端ニ數多ノ囊狀小管ヲ生ジ其端再三分裂シテ遂ニ小胞ニ終リ(氣胞)六ヶ月ニ至レバ略各部分ノ形態ヲ具備ス而シテ其始メ頸部ニ存スト雖モ發育スルニ隨ヒ次第ニ胸腔ニ下リテ胸膜ニ被覆セラル氣胞ノ上皮ハ胎兒ニ於テハ骰子形ニシテ著明ナル胞腔ヲ現ハサズ然レモ産後肺ノ擴張ニ隨ヒテ扁平上皮ニ變ズ喉頭及

圖十六百五第

圖型模生發ノ肺

(日 十 二)



圖一十六百五第

圖型模生發ノ肺

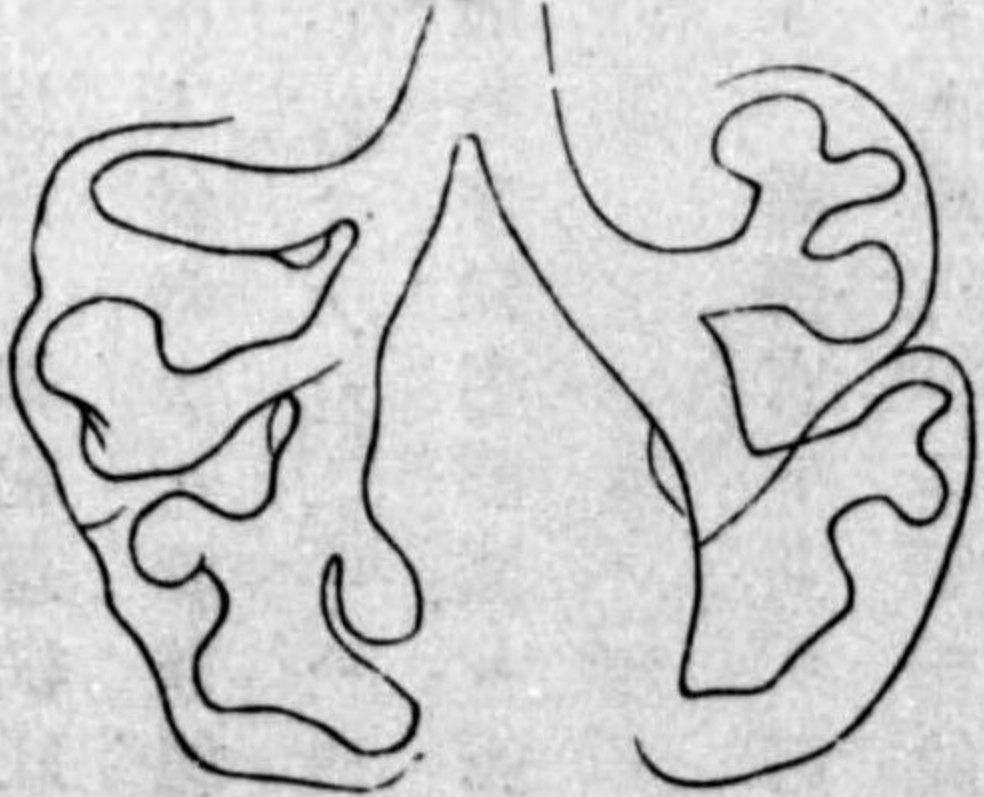
(週 四)



圖二十六百五第

圖型模生發ノ肺

(メ 始ノ週五)



氣管ノ軟骨ハ粘膜ヨリ生ズト雖モ獨リ甲狀軟骨ノミ最下鰓弓ヨリ來ル

二 ちいむす(胸腺) Thymus

ちいむすハ胸骨上部ノ後側ニ於テ大血管ノ前ニアリ此腺ハ小兒期ノ機官ニシテ初生

ちいむす(胸腺)

五九

兒ニ於テハ扁平圓形ヲ呈シ長橢圓形ノ不一様ナル兩葉ヨリ成ル其下端ハ廣ク上端ハ尖銳ニシテ一葉ハ高ク上方ニ延長シ角 Cornu トナル

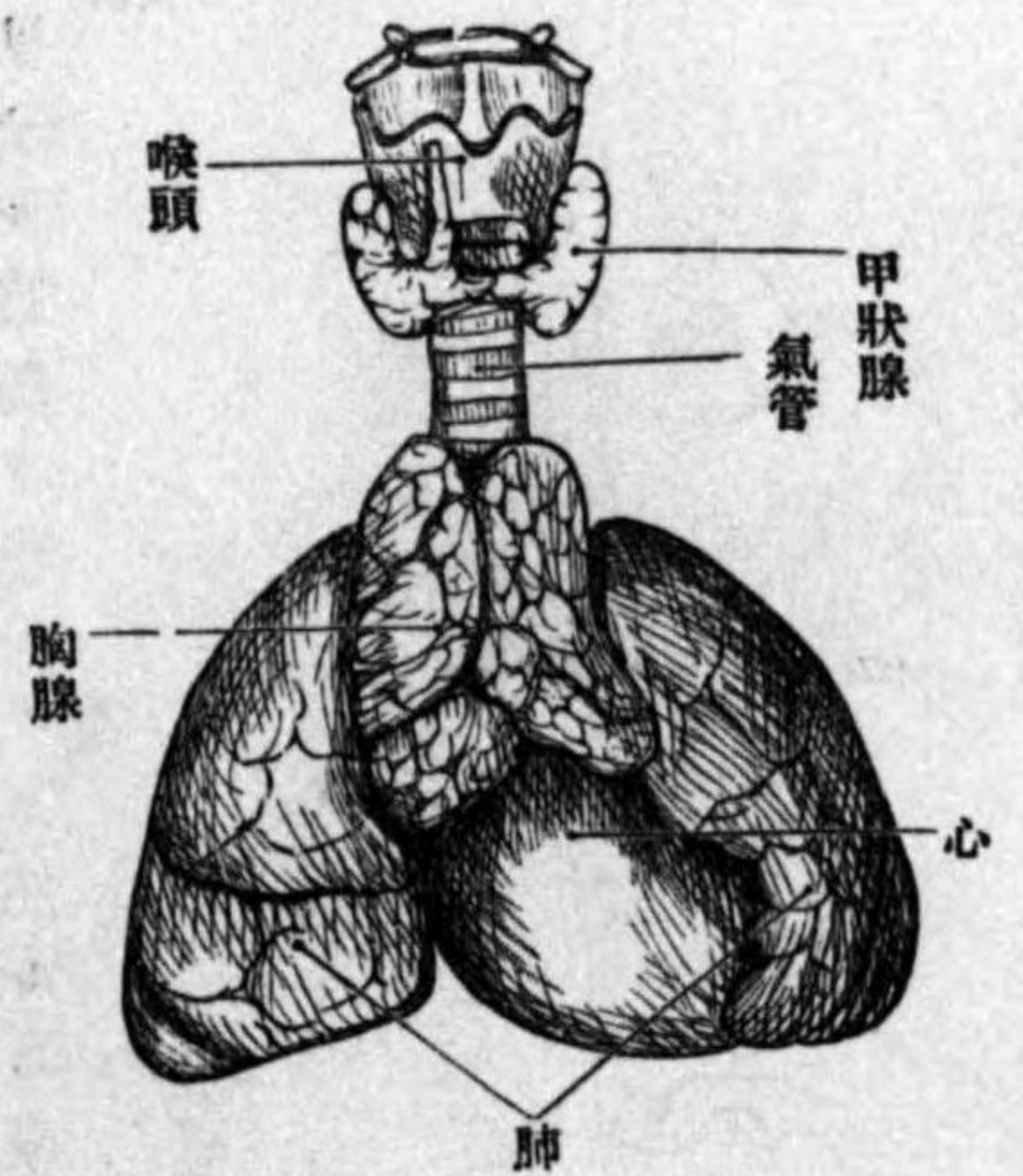
ちいむすハ葉 Lappen 及小葉 Läppchen ノ區畫ヲ表面ニ現ハシ腺様ノ外觀ヲ呈ス小葉ハ腺狀組織 adenoide Gewebe ニシテ中ニはつさる小體 Hassalschen Körperchen

ヲ有ス此小體ハ上皮性ノ細胞葱根狀ニ排列シテ成リ鏡檢上鈍暗ナル腺狀組織中光輝ヲ放ツちいむすノ動脈ハ内乳動脈ヨリ來リ靜脈ハ左無名靜脈ニ歸ス作用ハ不明ニ屬ス

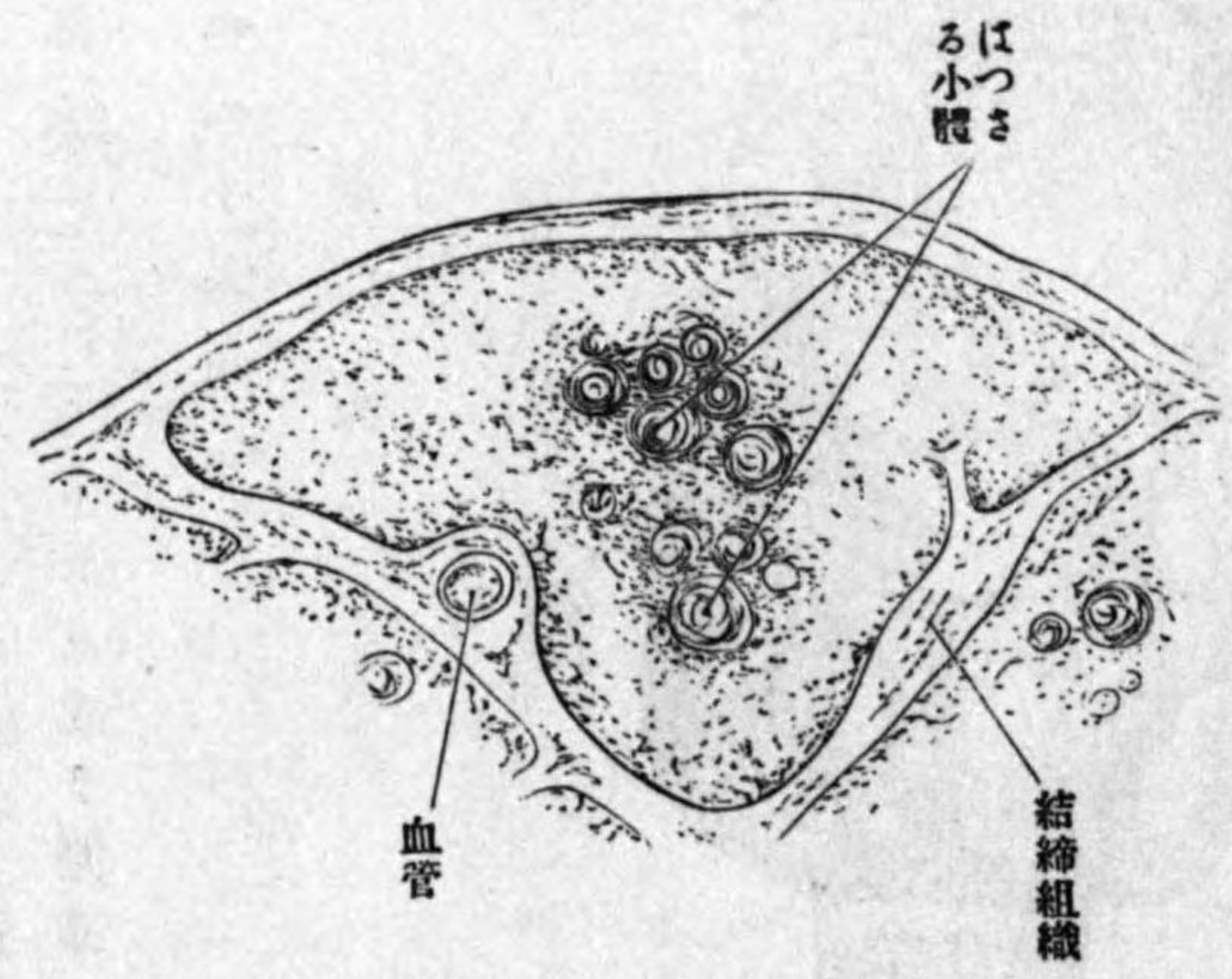
初生兒ノちいむすハ諸機官ト共ニ第一年ノ終リ迄發育スト雖モ第二年ニ於テハ發育止ミテ殆ド靜止ノ態ヲ取り第三

年ヨリ第八年若クハ九年迄漸々退化シテ脂肪組織之ニ代リ第十二年ニ至レバ全ク消滅ス然レモ尙大人ニ於テモ前縱隔ニ於ケル心前ノ脂肪組織中ニ其痕跡ヲ檢出シ得ベシ

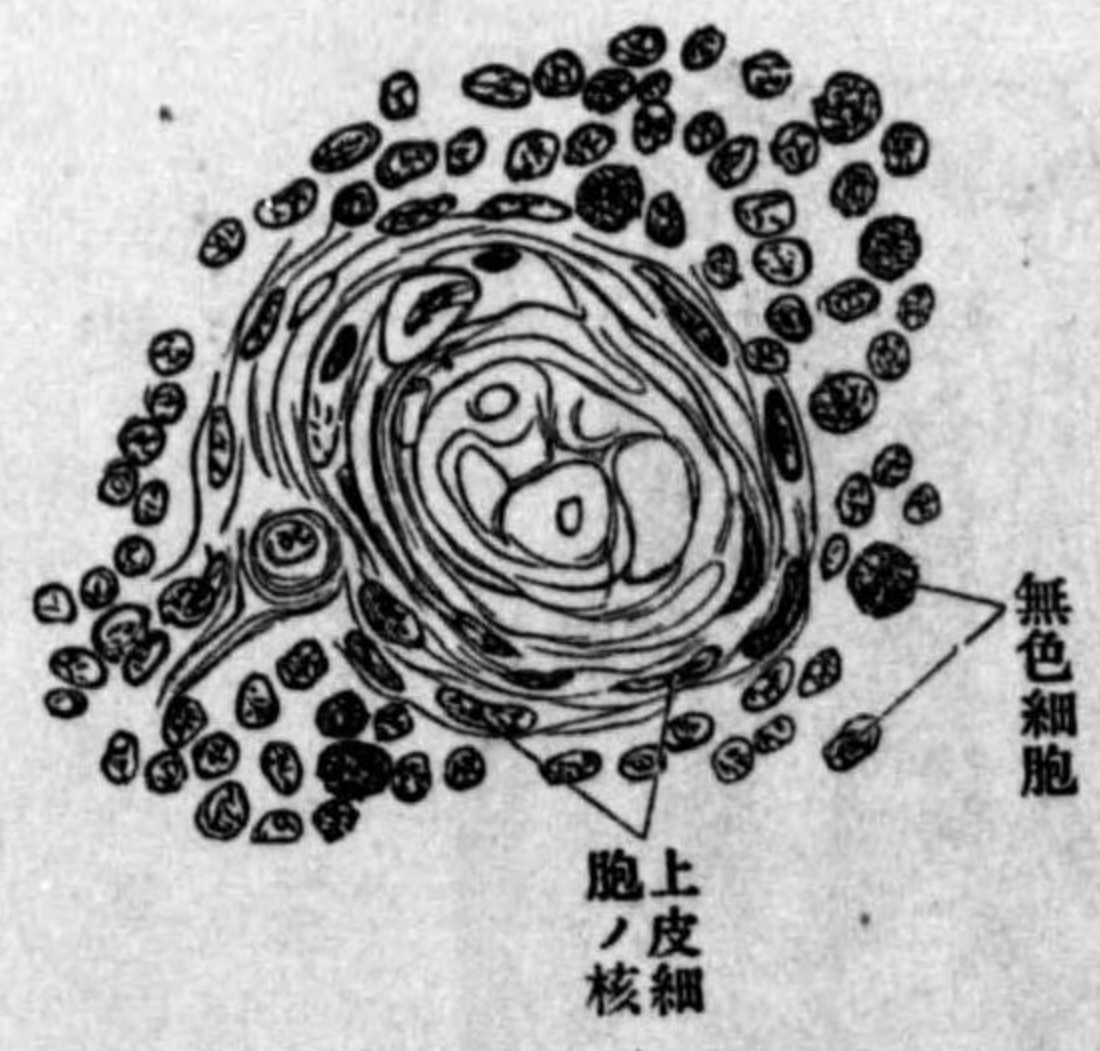
圖三 十 六 百 五 第 (吸呼未) 汎一器吸呼ノ兒胎



圖四 十 六 百 五 第 (大擴倍十五約面斷) 葉小一ノ腺胸



圖五 十 六 百 五 第 (大擴倍百五約) 體小るさつは



ちいむすハ第三總裂後端ノ上皮ヨリ生ズル管狀ノ突出部ヨリ發育ス其管壁ハ厚ク漸漸延長シテ數多ノ圓形突起ヲ生ジ之ト同時ニ其周圍ヲ包ム結締組織ヨリ盛ニ淋巴細胞ヲ生ジテ前述ノ如ク上皮性ノ部分ヲ退縮セシメ遂ニハ僅ニはつさる小體トナリテ殘存スルノミ

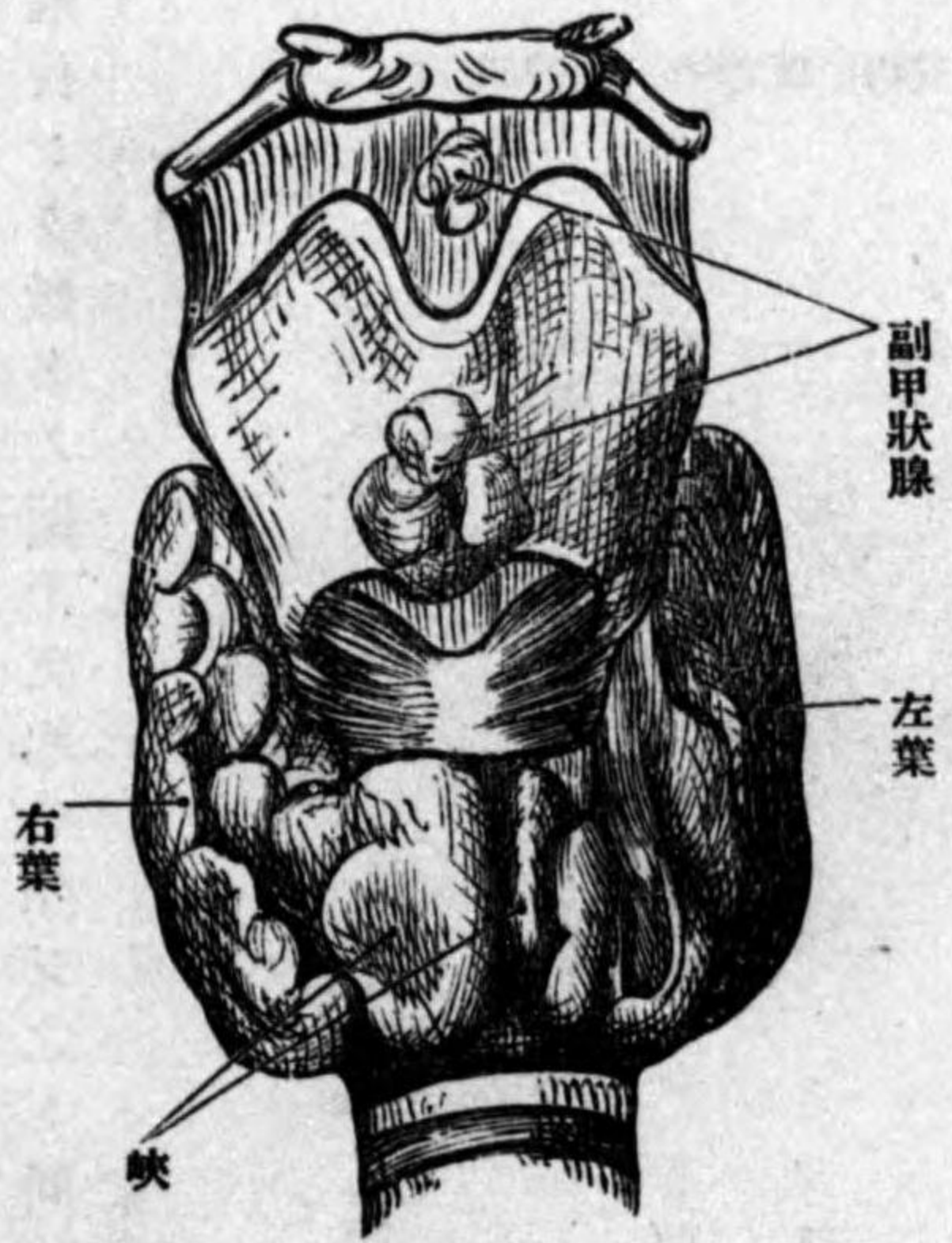
木 甲状腺 Glandula thyreidea, Schilddrüse

甲状腺

甲狀腺ハ氣管上部ノ前側ニ於ケル排泄管ヲ有セザル腺ニシテ表面小顆粒狀ヲ呈シ全形馬蹄形ニシテ長圓形ノ兩側部**右葉及左葉** (Lobus dexter und sinister) ト廣狹不同ノ中央部**峽** (Isthmus) トヨリ成リ、側部ハ長サ五乃至八仙、幅三乃至四仙、迷ニシテ通常左葉ハ稍大ナリ上

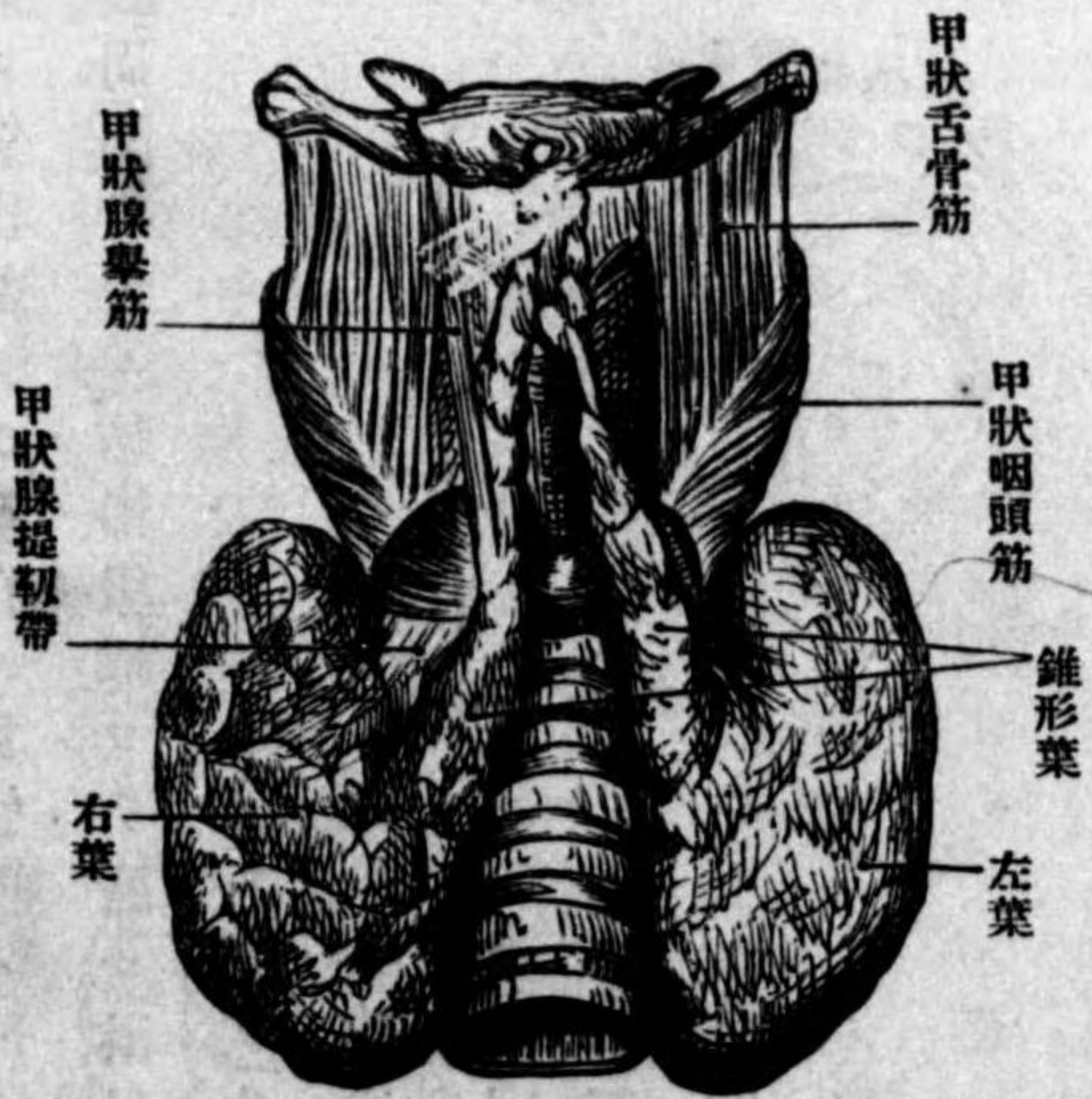
第五百六十六圖

甲狀腺



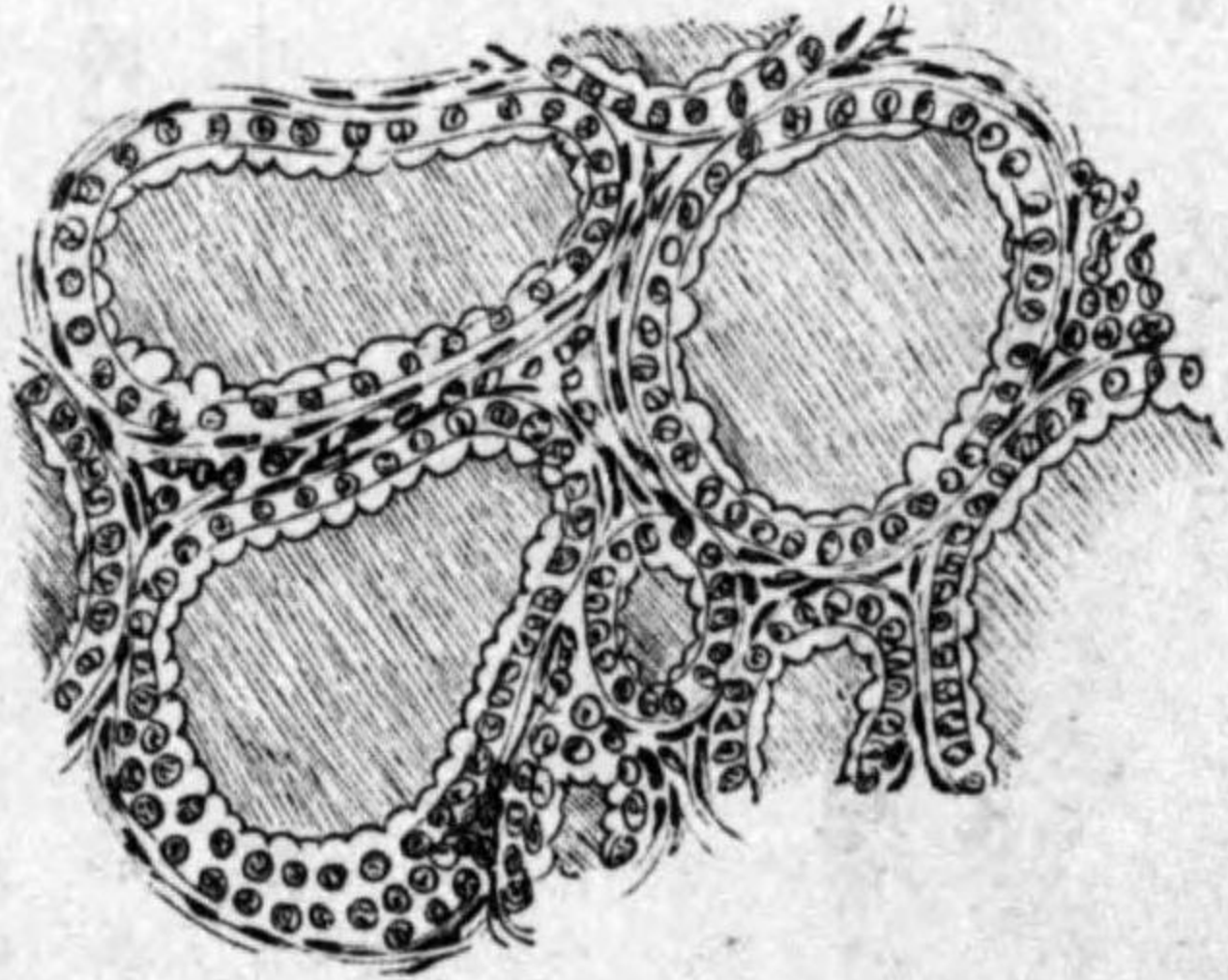
第五百六十七圖

甲狀腺



腺ノ血管ハ上甲狀腺動脈 A. thyroidea sup. 外頭動竝ニ下甲狀腺動脈 A. thyroidea inf. 下鎖骨

第五百六十八圖 (大擴倍八百約面斷) 腺狀甲



方ニ延長(角 Cornua) シ結締組織ヲ以テ甲狀軟骨板、環狀軟骨及氣管ニ附着シ峽ハ大小不定ニシテ往々缺クルヲアリ通常第二第三氣管軟骨輪ノ前ヲ橫走ス、幅約一・五乃至二仙、迷五仙、其左半部ヨリ屢長三角ノ突起ヲ生ジテ舌骨ニ達ス(錐形葉 Lobus impar, Pyramidalis) 稀ニ大小不同ノ副甲狀腺 Glandulae thyreoidae accessoriae ヲ見ル之レ錐形葉ノ峽ヨリ分離シタル者ノ如シ又屢々甲狀腺舉筋 M. levator gl. thyreoidiae ト稱スル小筋ノ舌骨ト甲狀腺間ニ互ルヲ見ル甲狀腺ハ肉眼ヲ以テ見得ベキ長圓形小胞 Folliculi thyreoidae ノ集合ニシテ胞ノ内面ハ單層骰子形ノ上皮ヲ被リ、胞内ニハ粘稠液(膠樣質 Colloiden substanz) ヲ含ム、病的ニハ屢々著シク肥大スト雖モ(甲狀腺肥大 Kropf, Struma) 曾テ其構造ヲ變ズルヲナシ甲狀腺ハ表面菲薄ナル膜囊ヲ以テ被ハル之レ即白膜 Albuginea ニシテ血管ト共ニ腺質ニ入り腺ヲ大小ノ數葉 Lobuli ニ分ツ、甲狀

甲狀腺

枝脈ノニシテ、後者ハ稀ニ大動脈弓ヨリ無對甲狀腺動脈 A. thyroidea impar トシテ來ルヲア
 リ靜脈ハ上中下三個ノ甲狀腺靜脈トナリ内頸靜脈及左無名靜脈ニ入り淋巴管ハ深頸
 腺ニ入ル神經ハ血管ト共ニ來ル交叉神經枝ナリ
 甲狀腺ハ中部ト兩側部トノ三所ヨリ發育シ、中部ハ舌ノ後方第二總弓ニ當リ咽頭前壁
 ヨリ發生シ、兩側部ハ第四總裂ノ上皮ヨリ梨子狀囊ヲ以テ發生シ漸々接近シテ中部ト
 癒合シ、始メハ其排泄管(甲狀舌管 Ductus thyroglossus)ヲ以テ舌盲孔ニ通ズト雖モ、此管既
 ニ胎生期中ニ退化シテ唯盲孔ヲ殘スノミ遺物ナリ、其腺網モ始メハ腺腔ヲ有セザレモ
 後ニハ網ハ斷裂シテ胞狀ニ變ジ腺腔ヲモ生ズルニ至ルレハ血液ニ變調ヲ起シ惡液質ニ
 陷ルト又之ニ甲狀腺ヲ與フレ
 ハ生活ヲ維持スルヲ得ト

丙 泌尿器 Organa uropoetica, Harnapparat

泌尿器ハ腎、輸尿管、膀胱、尿道ノ四部ヨリ成リ、之ニ副腎ヲ附屬セシム、尿ハ腎ヲ以テ血液ヨ
 リ濾出シ、輸尿管ヲ以テ膀胱ニ輸送シ、之ヨリ尿道ニヨリテ時々體外ニ排泄セラル、二十
 四時間ノ尿量ハ、男ニ於テ一〇〇〇乃至一五〇〇、女ニ於テ九〇〇乃至一二〇〇立方仙
 迷ヲ算ス

第五百六十九圖 (位然自) 汎一器尿泌



イ 腎 Renes, Nieren.

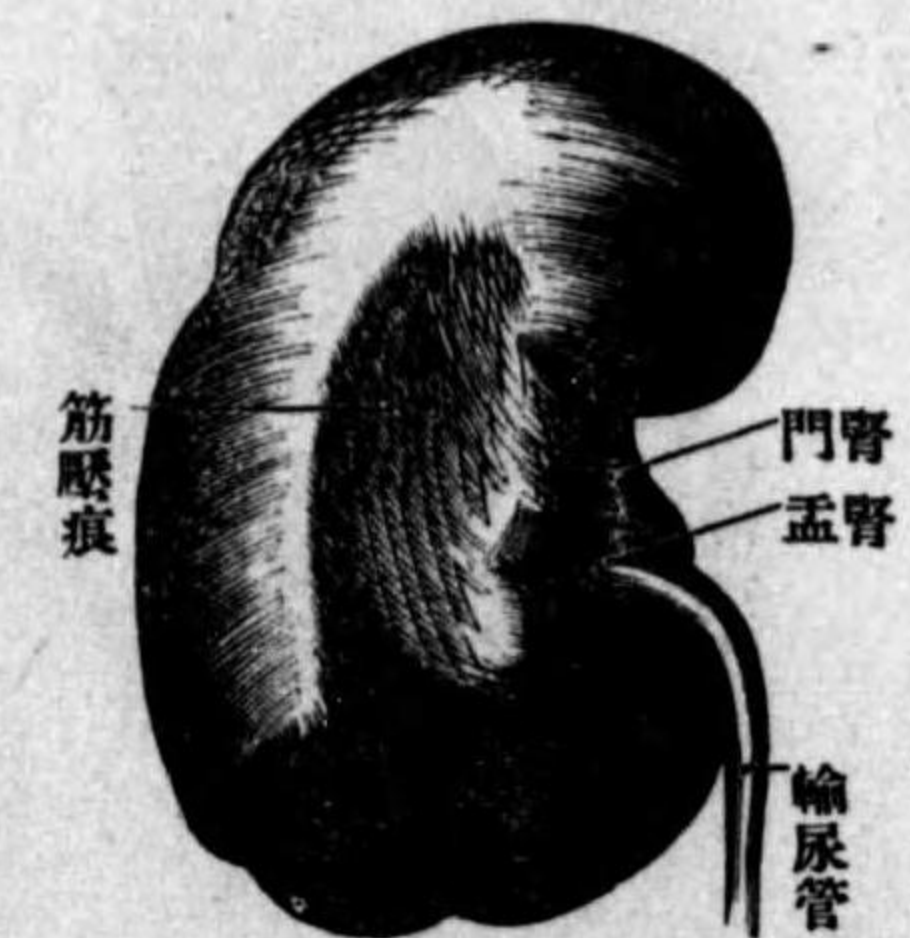
腎ハ後腹壁ノ上部ニ於テ左右同形ニ脊柱ノ兩側ニ位シ、其形ヲ蠶豆狀ヲ呈シテ外凸隆
 緣、内凹陷緣、前面、後面、上端、下端等ヲ現ハス、後面ハ横隔膜椎骨部方形腰筋横腹筋膜内方

ハ大腰筋ニ接シ方形腰筋ノ外縁ニ應スル淺キ筋壓痕 *Impressio muscularis* アリ前面ハ稍突隆シテ少シク外方ニ向ヒ左腎前面ハ上半胃ノ後面ニ接シ淺キ胃壓痕 *Impressio gastrica* ヲ現シ下半ハ脾及左結腸彎曲ト接シ又外側ハ脾ニ被ル右腎前面ノ内部ハ十二指腸ノ下部下部ハ右結腸彎曲ニ接シ上部ハ肝ニ被ハレ肝壓痕 *Impressio hepatica* ヲ現ハシ上端ハ副

第五百七十一圖
左腎前面



第五百七十一圖
左腎後面



腎ニ接シ少シク内方ニ傾キ右腎長サ迷幅五・六仙迷厚サ三・八仙迷左腎長サ一・四八仙迷副五・四五仙迷厚サ三・五仙迷重量一

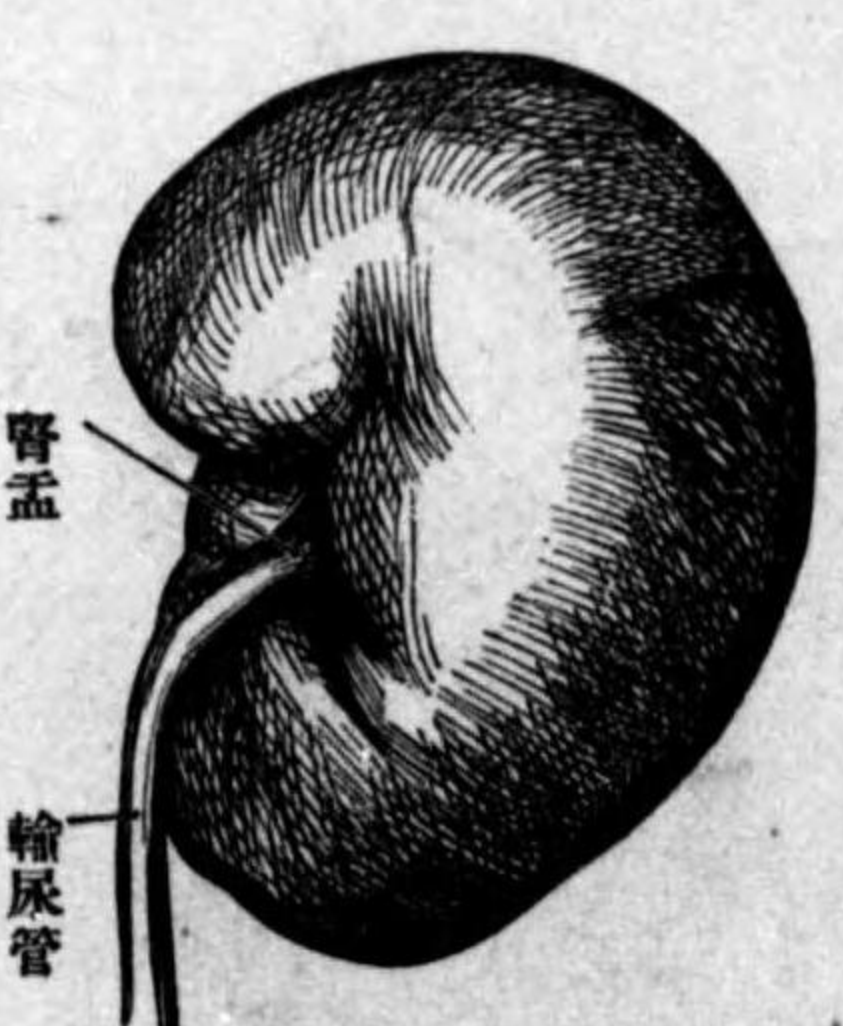
二〇〇乃至色ハ帶藍赤色質ハ稍硬シ内縁ニ深キ腎門 *Hilus* アリ其深部ヲ腎竇 *Sinus renes* ト云フ腎門ノ前後界ヲ唇 *Lippe* ト名ク後唇ハ前唇ヨリ稍長シ腎ハ三個ノ膨隆ニヨリテ表面ニ三葉狀ヲ呈シ稀ニハ胎兒腎ノ遺跡トシテ分葉狀ノ外觀ヲ具フルコアリ表面ハ結締織性ノ被膜(固有膜 *Tunica fibrosa*) ヲ有ス此膜ハ薄ク強ク剝離シ易ク腎

竇ニ於テ血管ノ鞘ニ移行ス此膜ノ下層ニ滑平筋ヲ含ミタル一膜アリ腎質ニ密著シ腎竇ニ於テ腎蓋ニ接ス之ヲ内膜 *Tunica intima* ト云フ固有膜ノ外圍ハ脂肪組織(脂肪囊 *Capsula adiposa*) ヲ以テ覆ハル贏瘦者ニ於テ往々缺乏ス脂肪囊ノ外圍ハ腹膜下結締組織ノ變形部(腹膜下筋膜 *fascia subperitonealis*) ヲ以テ周圍部ニ附著ス其前方ニアル部ヲ腎臟前筋膜 *fascia praerenalis*

第五百七十三圖
右腎前面



第五百七十三圖
右腎前面

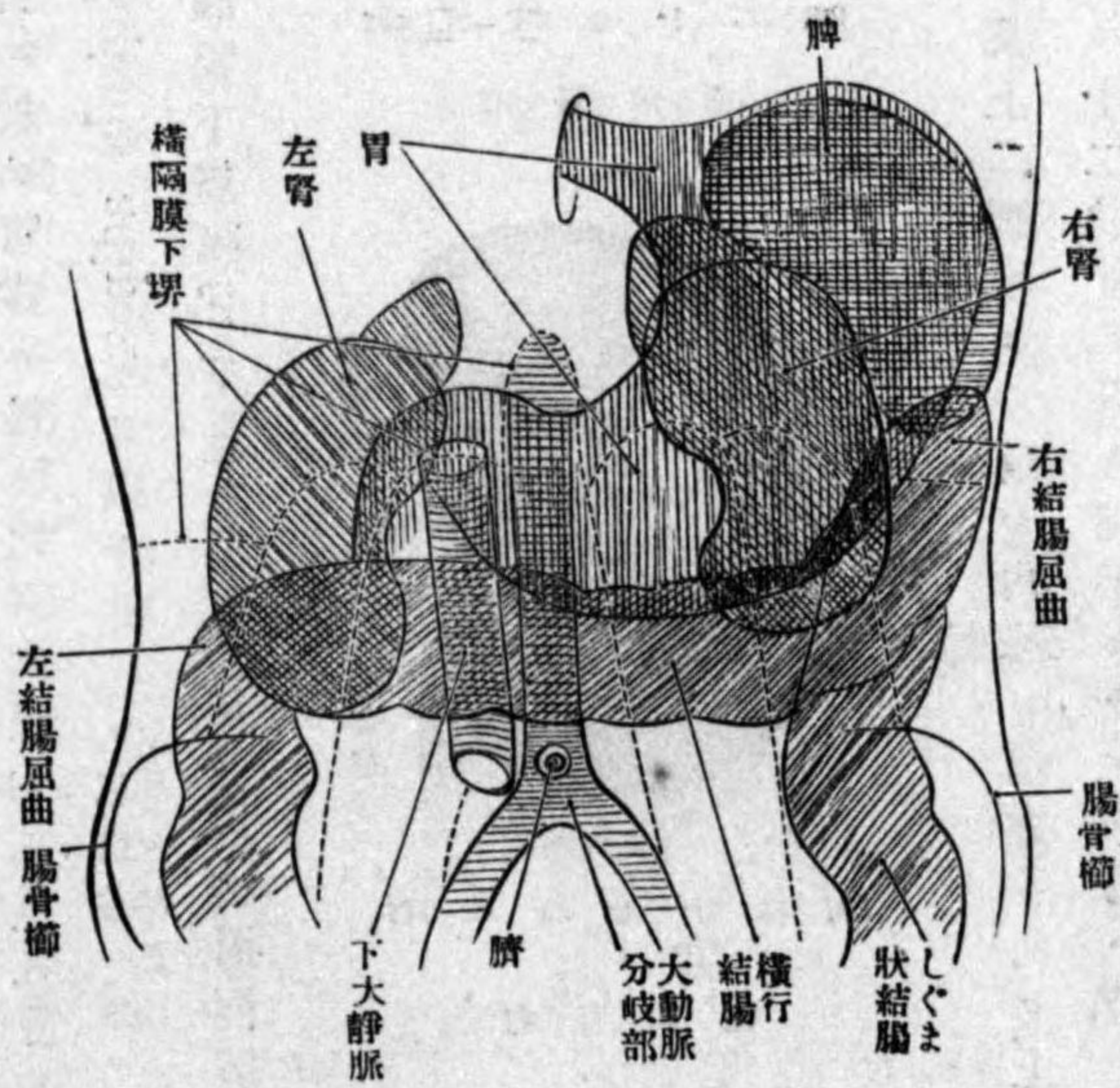


後方ニアルヲ腎臟後筋膜 *fascia posterioralis* ト云フ腎ノ位置ハ第十二胸

椎及上二腰椎ニ一致シ内縁ハ前方ニ向ヒ上端ハ内方ニ傾キテ第十一肋ニ達シ中部ハ恰モ十二肋骨ヲ以テ切半セラル下端ハ腸骨楯ヲ離ル、約二乃至三指ノ部ニアリ右ハ左ヨリ少シク低シ腎ノ截斷面ヲ檢スルキハ皮質及髓質ノ二部分ニ別ル、ヲ見ル、髓質 *Substantia*

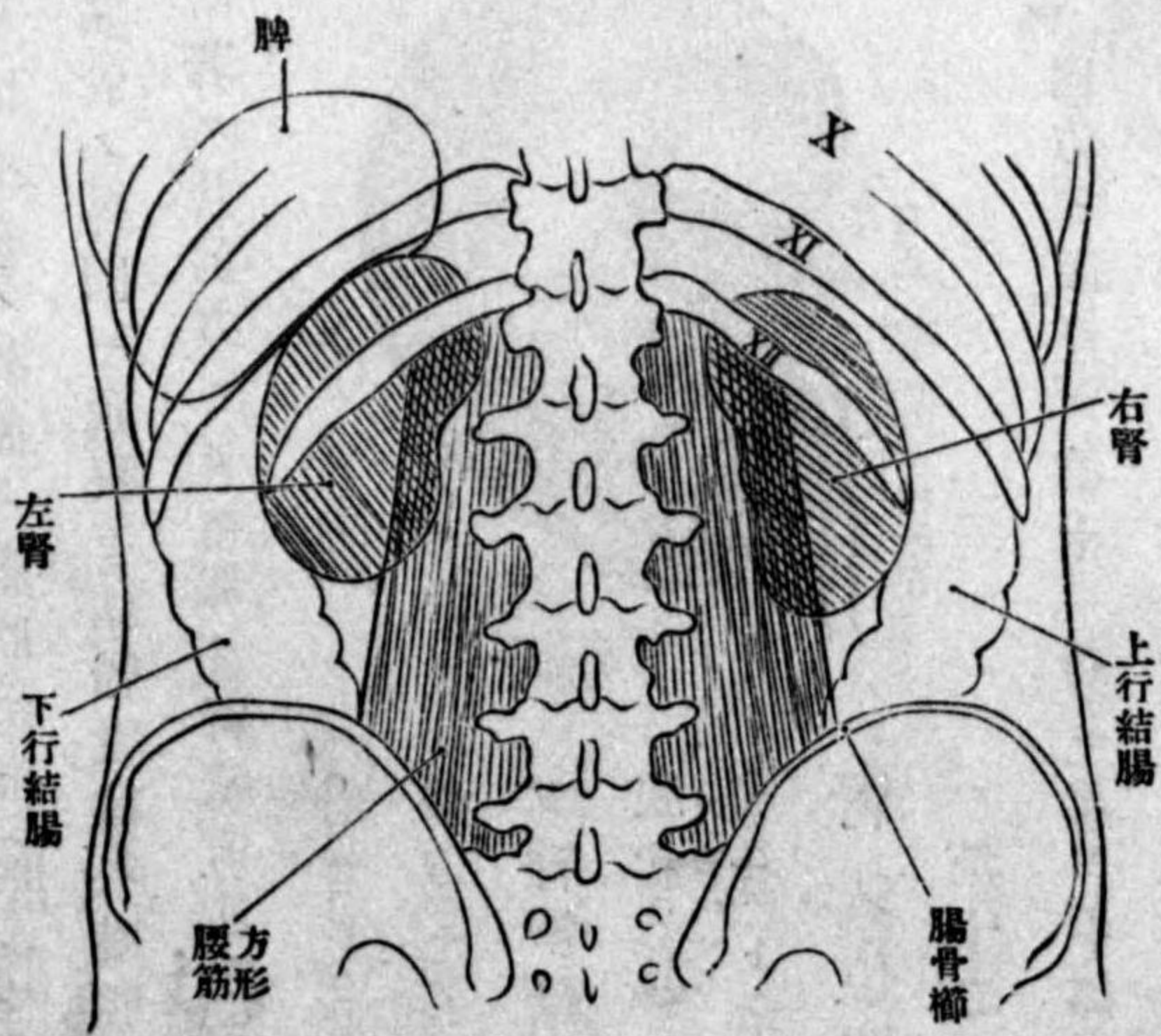
第五百七十四圖

腎及之ニ關係ヲ有スル諸臟器ノ位置(前側)



第五百七十五圖

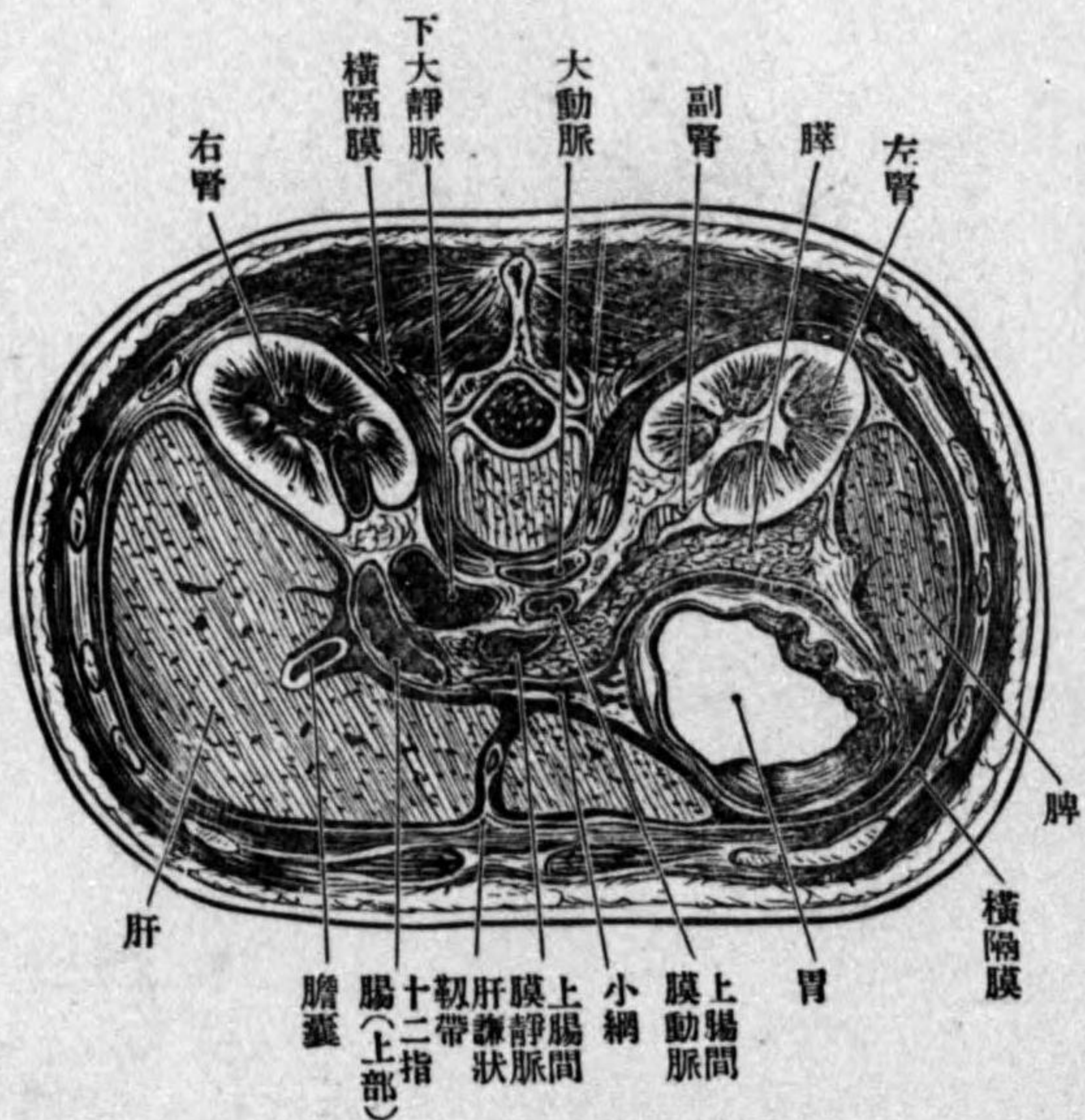
腎及之ニ關係ヲ有スル諸臟器ノ位置(後側)



medullaris ハ二〇乃至二八個ノ圓錐形部(錐體 Pyramiden) ニシテ、橫斷面ニヨレバ三

第五百七十六圖
腎ノ位置

第四腰椎ニ於ケル腹部水平斷

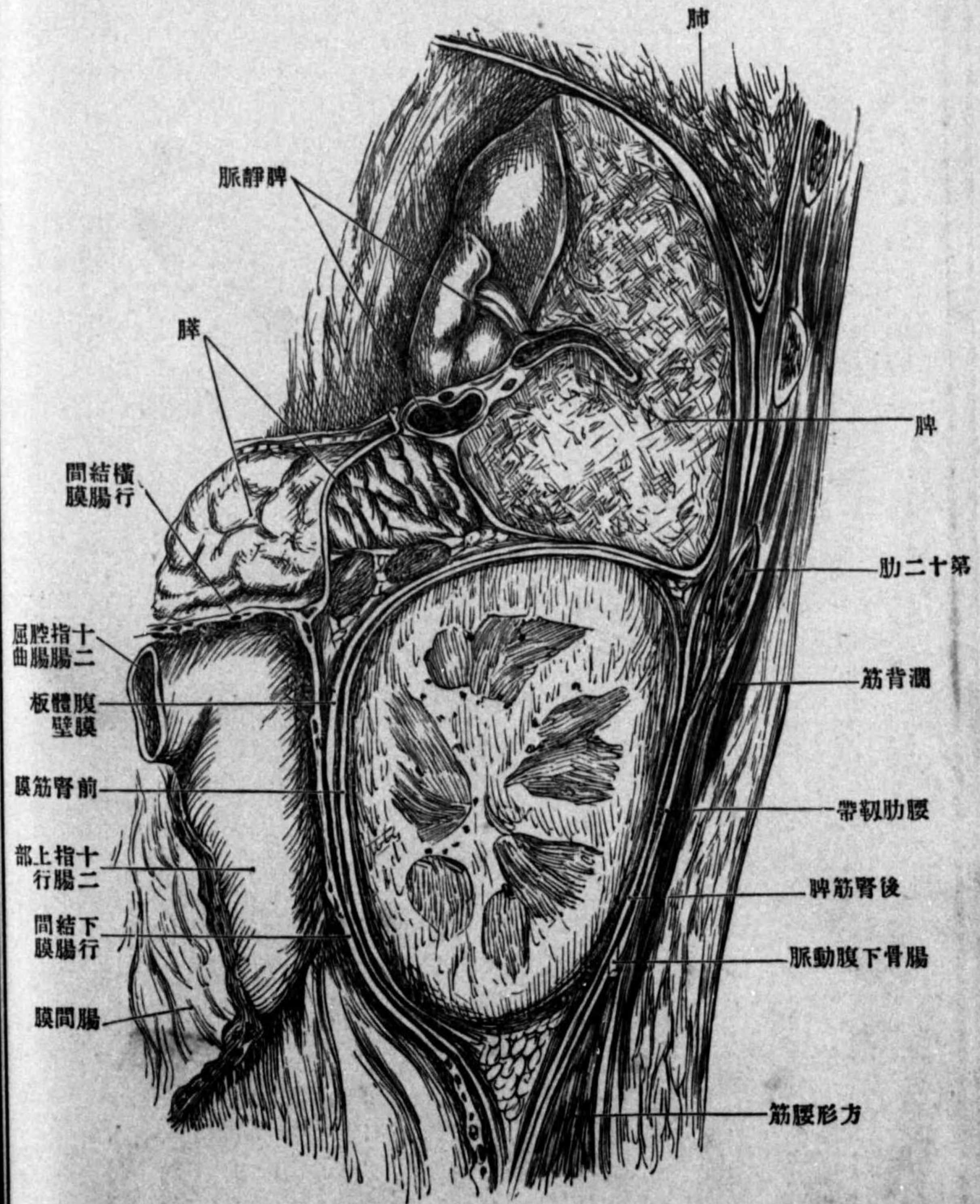


乃至四個、縱斷面ニヨレバ七乃至九個ヲ現ハス、其基底ハ皮質ニ接シ尖端ハ腎竇ニ向ヒテ輸尿管ノ始端腎盂中ニ遊離的ニ突出ス、此部ヲ腎乳頭 *Papilla renalis* ト云フ腎盂ノ乳頭周圍ニ附著スル部分ハ輪狀ノ絞窄即チ乳頭頸 *Hals der Papille* ヲ爲ヌ、屢ニ個ノ錐體合シテ一乳頭ヲ爲ス、アリ、皮質 *Substantia corticalis* ハ腎ノ表層ニ於テ錐體ノ基底ヲ抱擁シ一部錐體間ニ延長ス、之ヲ腎柱 *Columnae renales Bertini* ト云フ、皮質ハ一般ニ顆粒狀部ト線紋狀部ト互ニ交代シ放線狀ニ位ス、其線狀部ヲ髓放線 *Markstrahlen* 圓錐體突起 *Pro-*

cessus Pyramidales, *Ferreini* 又總稱シテ放線部 *Pars radiata* ト云フ其他ノ顆粒狀部ヲ彎曲部

第五百七十七圖

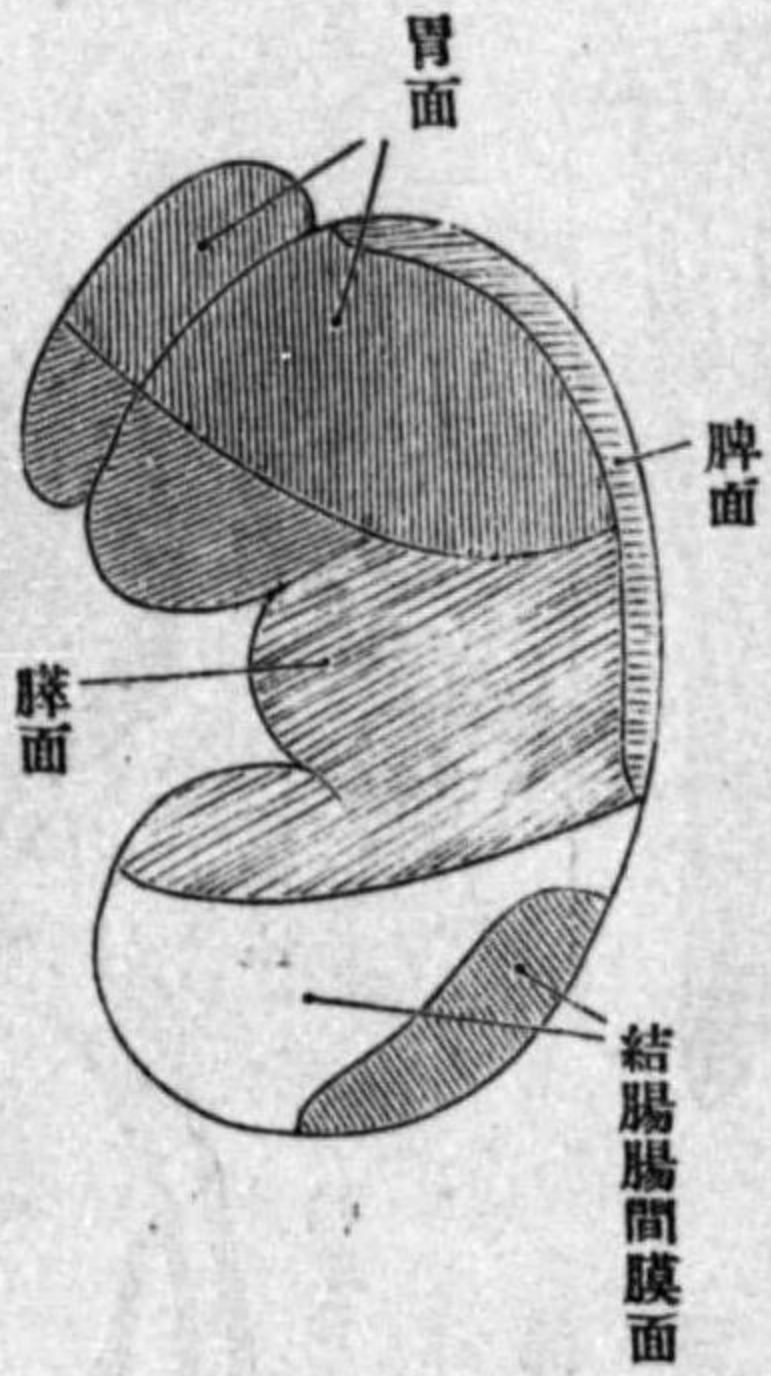
左腎ト脾及膵ノ局部關係



Pars convoluta ト云ヒ顆粒(腎小體 *Corpuscula renis*, *Malpighii*)ハ赤色ナリ
 腎ノ構造腎ハ複管狀腺ニシテ專ラ細尿管 *Harnkanälchen* ト血管トヨリ成リ皮質及髓質ノ區別ハ是等ノ細管其走行ノ状態ヲ異ニスルヨリ起ルモノトス細尿管ハ腎小體ヨリ狹小ナル頸 *Hals* ヲ以テ起リ始メ轉々迂廻(曲細尿管 *Tubuli contorti*)シ次デ

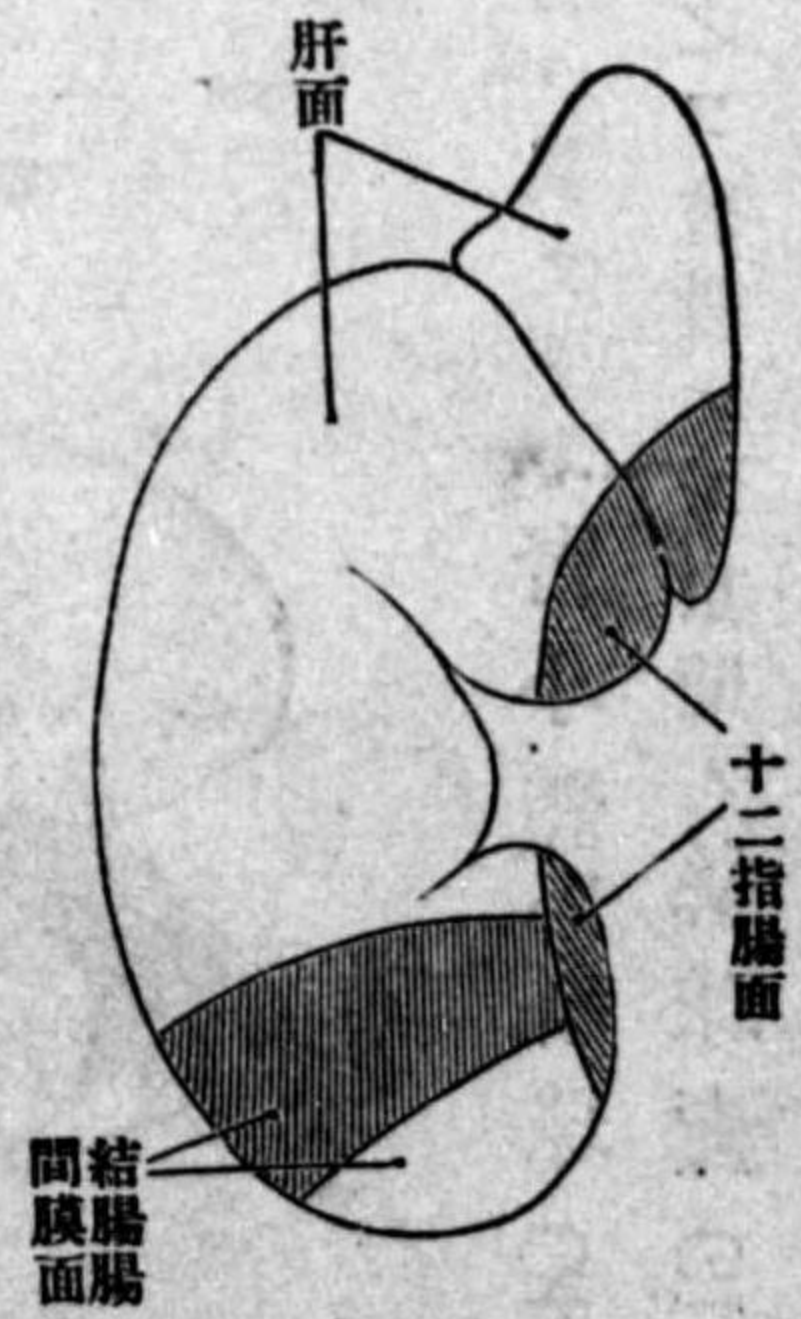
第五百七十八圖

左腎前側ノ接觸面

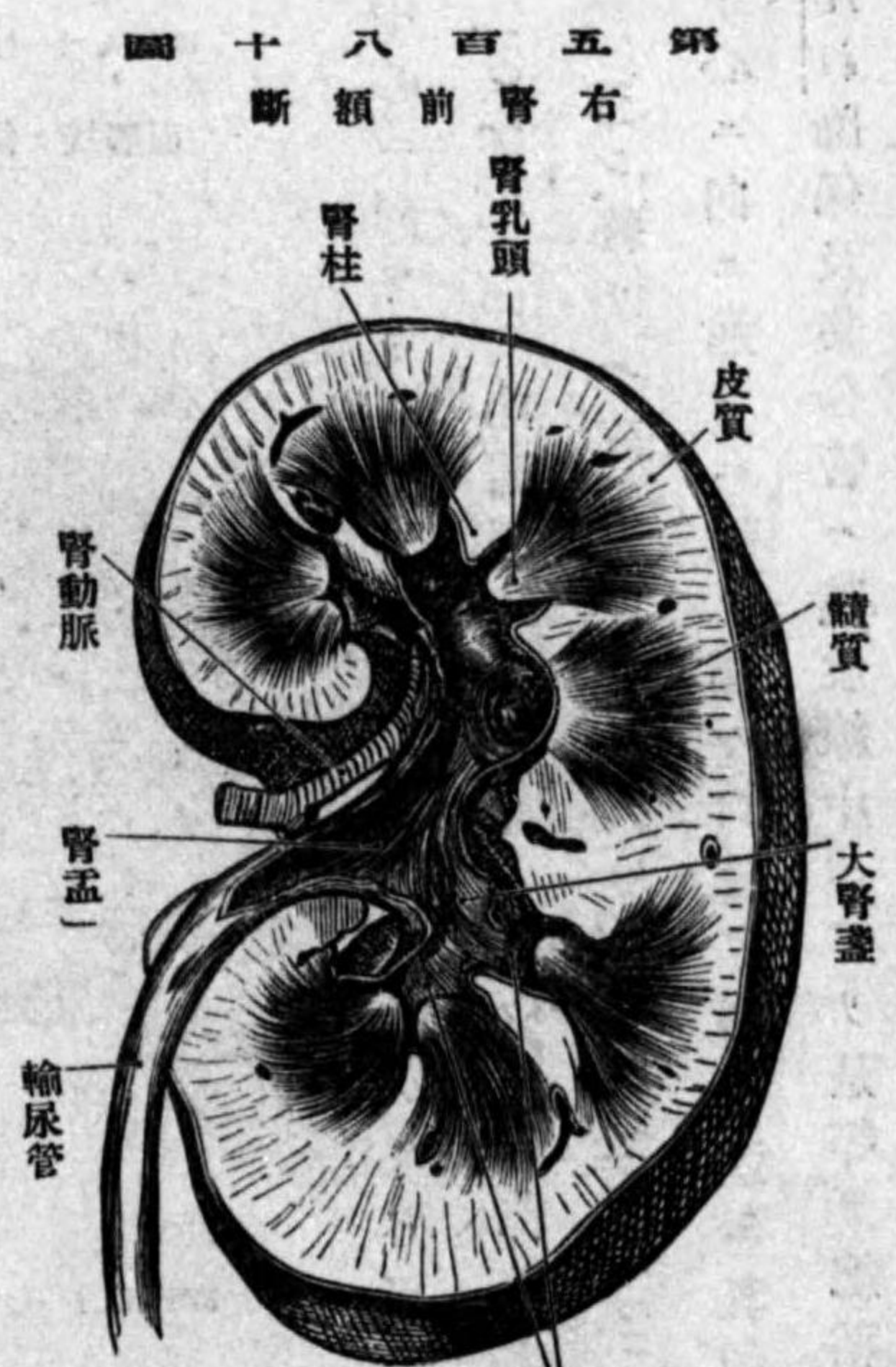


第五百七十九圖

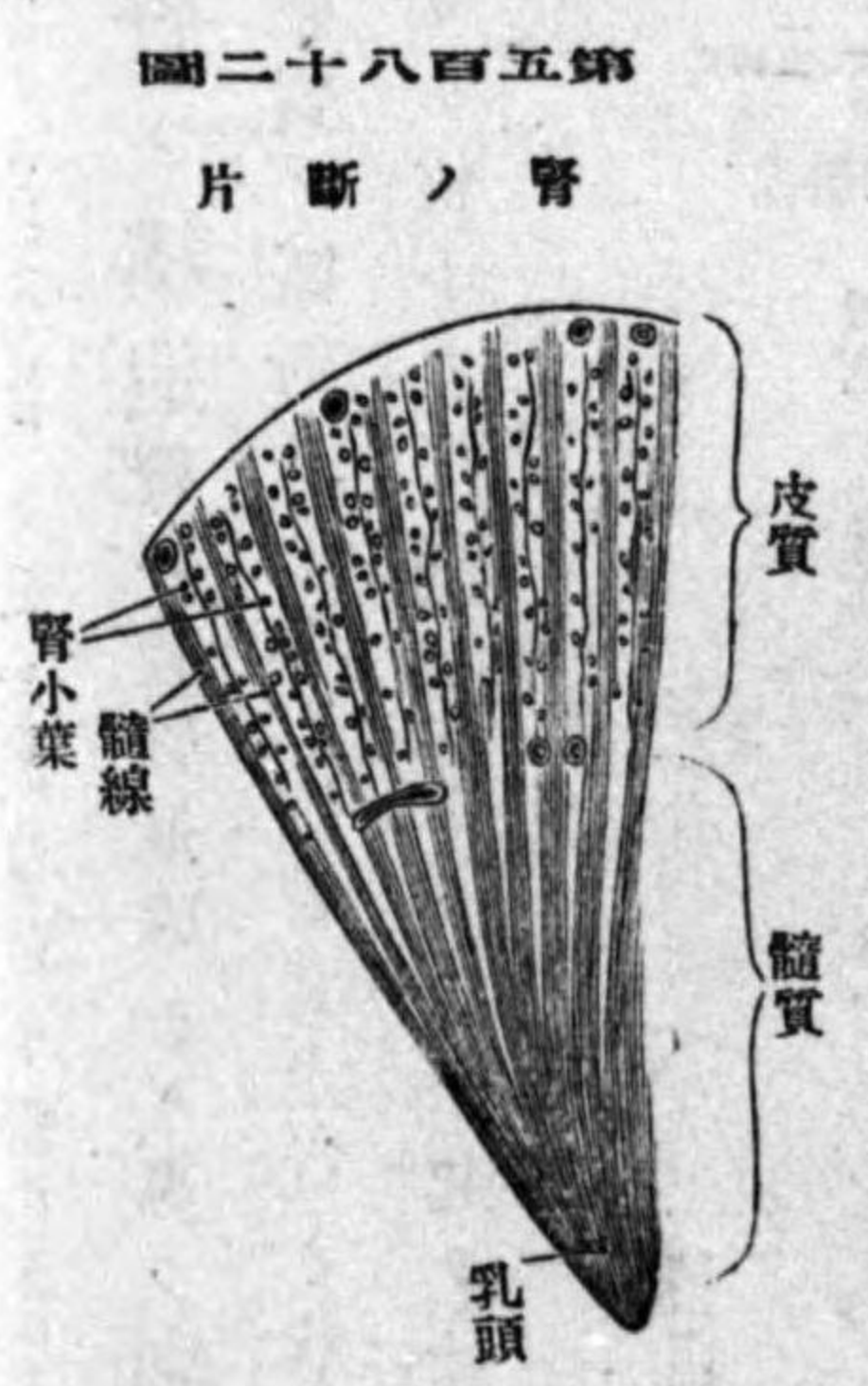
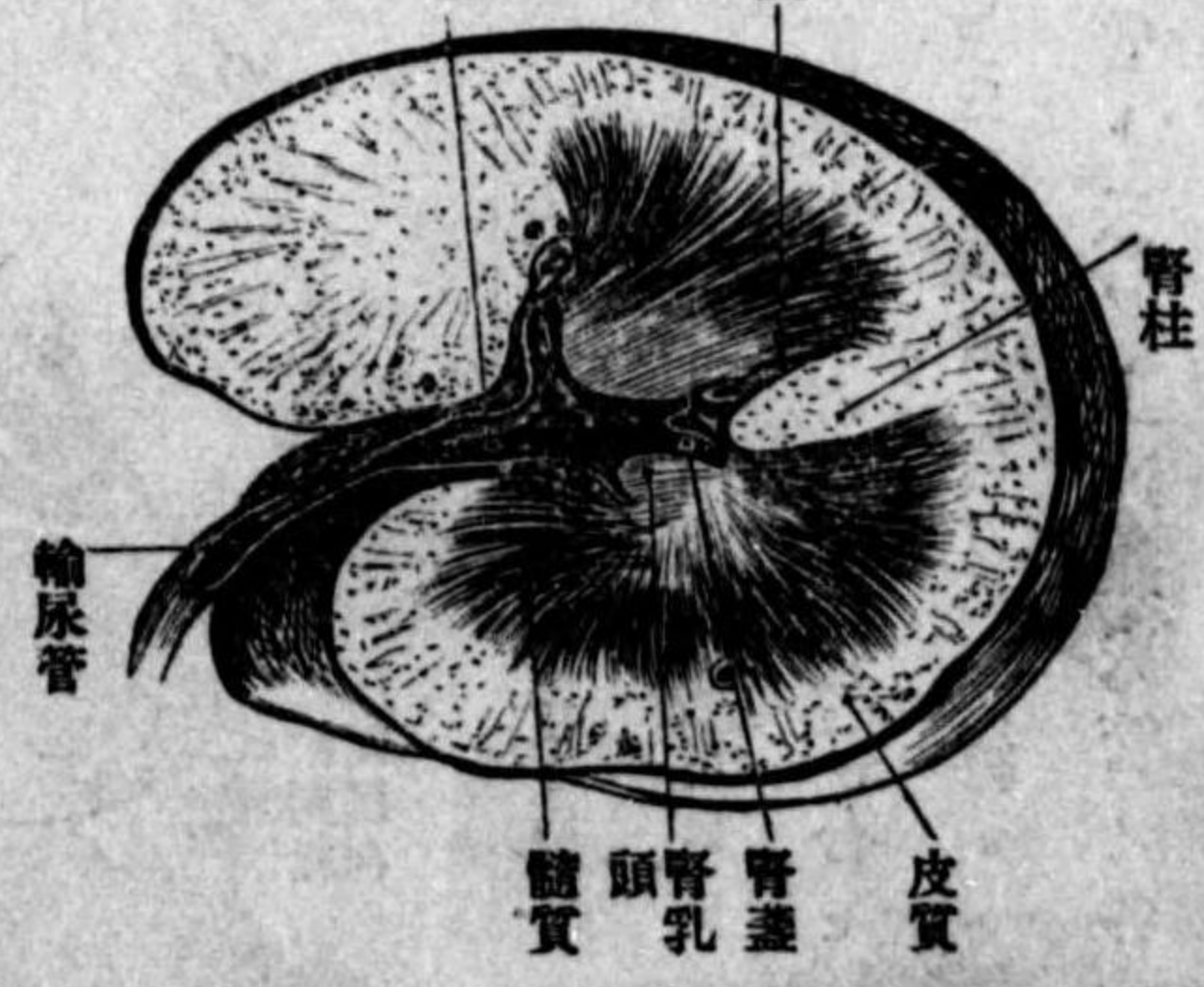
右腎前側ノ接觸面



中心ニ向ツテ直走スト雖モ早晚屈曲シテ再ビ周圍部ニ向フ(へんれ蹄係 *Henle'sche Schleife*) 此蹄係ノ下行部ハ細ク上行部ハ太シ次部ハ再ビ迂廻(中間部 *Schaltstück*)シ終リハ直走(集合小管 *Sammelröhren*)シ他ノ中間部及數多ノ集合管ヲ合セ中心ニ向ヒ進ムニ随テ漸々口徑ヲ増シ遂ニ乳頭(乳頭管 *Ductus papillares*)ニ終ル(へんれ蹄係及集合管ハ髓放線中ニアリ是等ヲ總稱シテ直細尿管ト云フ上述細尿管ノ各



第五百八十一圖 右腎水平斷

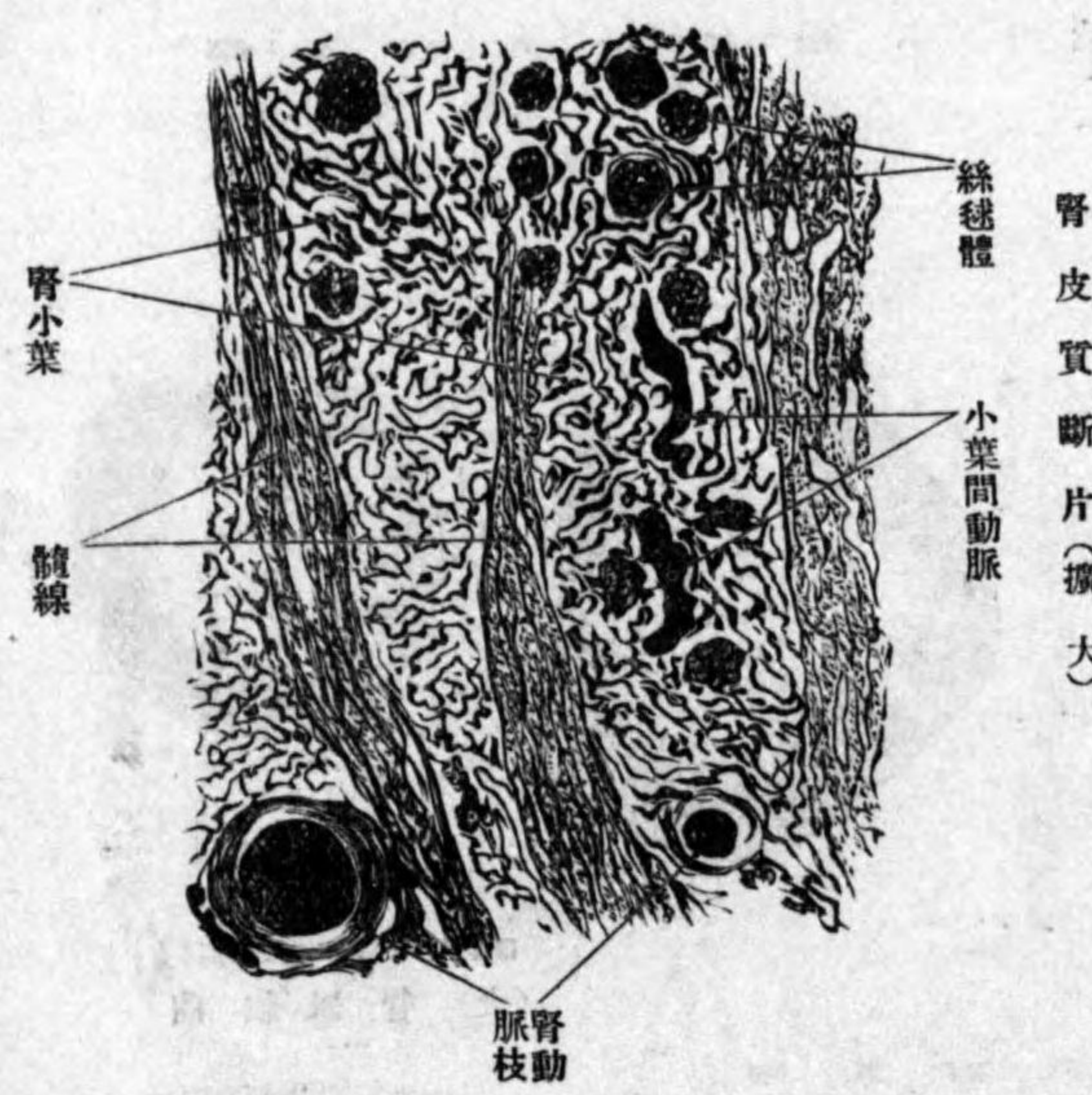


第五百八十二圖 腎ノ斷片

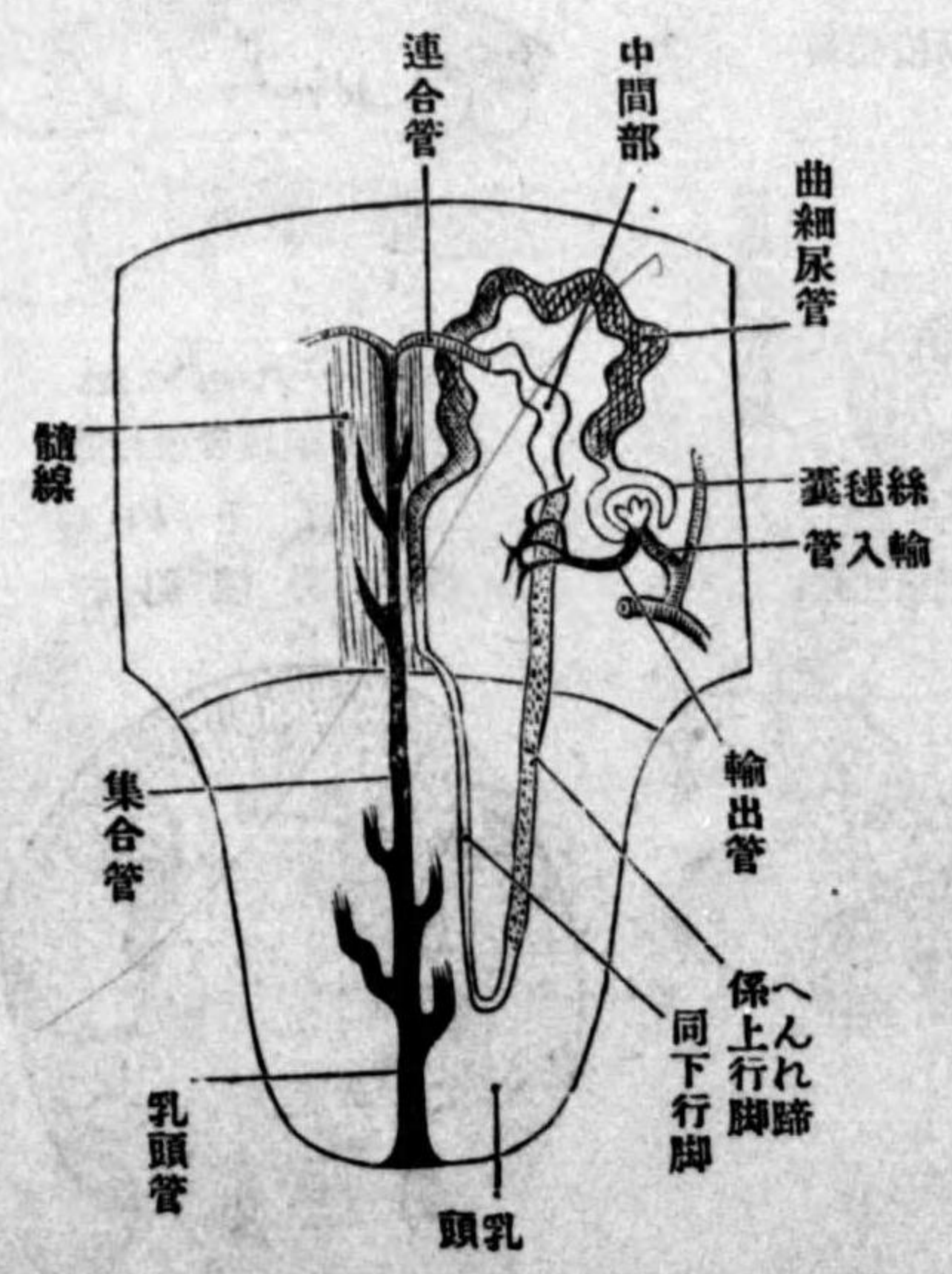
部ハ構造自ラ異ナリ1.腎小體ハ絲球 Glomerulus ト之ヲ被覆スル重壁ノ絲球囊 Glomeruluskapsel (Bowman) トヨリ成ル、囊壁ハ扁平多角形ノ細胞ニシテ、内壁ハ絲球ヲ直接ニ覆ヒ、外壁ハ曲細尿管ニ移行ス、2.曲細尿管ノ上皮ハ柱狀ニシテ原形質ノ纖維ヲ以テ放線

狀ニ相連ネタル多數ノ顆粒ヲ有シ、遊離面ニハ刷毛線 Bürstendessatz ヲ有シ、胞核ハ基部ニアリ、3.へんれ蹄係下行脚ハ腔廣ク上皮細胞ハ扁平ニシテ核ノ部分ハ突出ス

第五百八十三圖 腎皮質斷片(擴大)



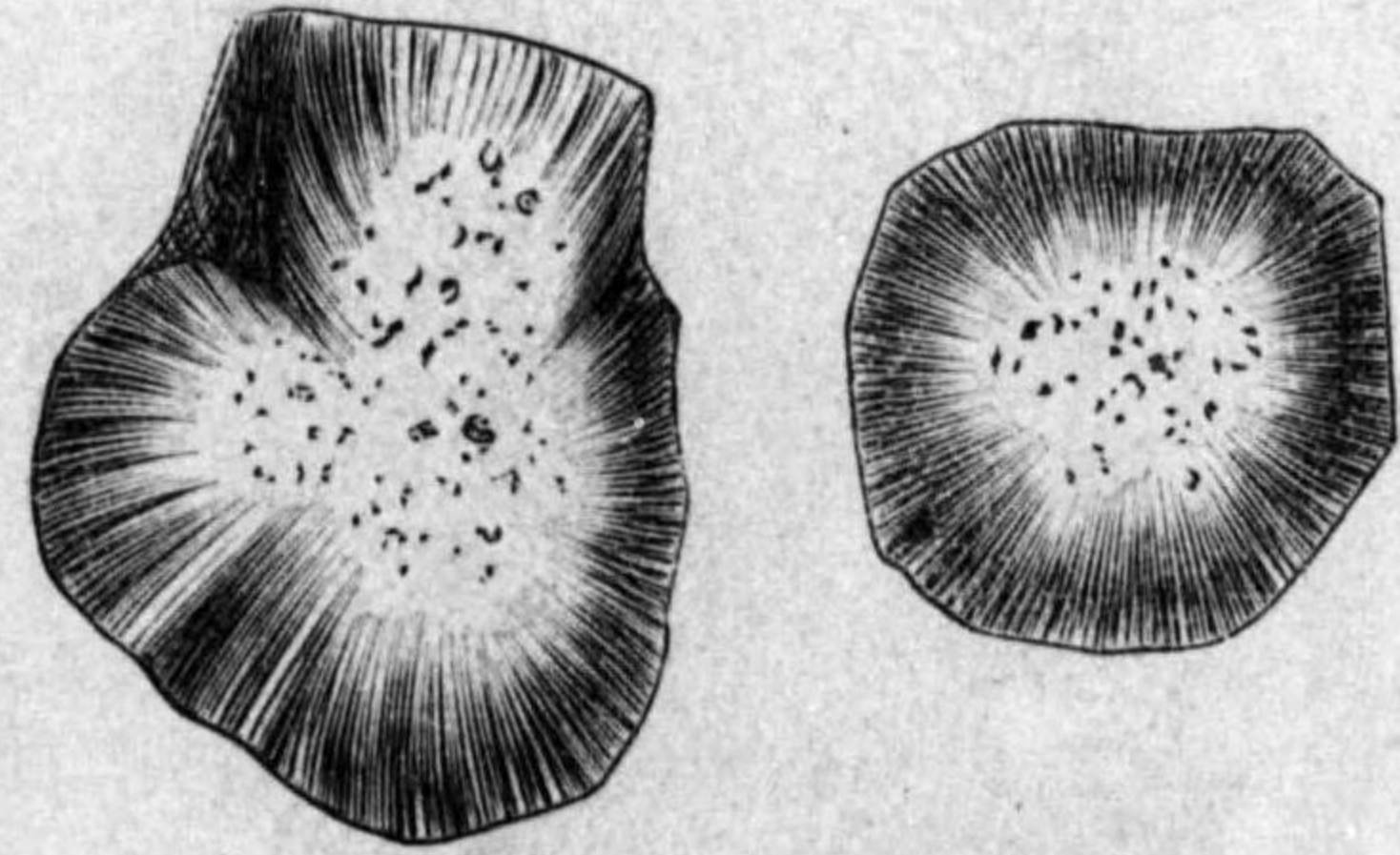
第五百八十四圖 細尿管ノ模型圖



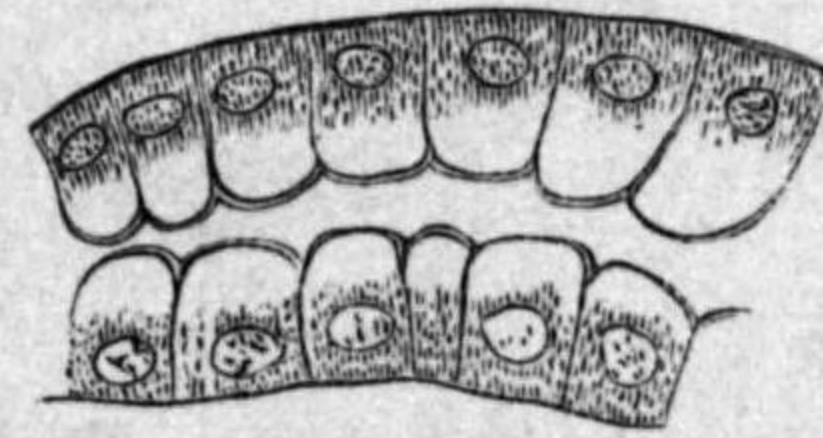
圖八十八百五第 (兔家)脚行下れんへ



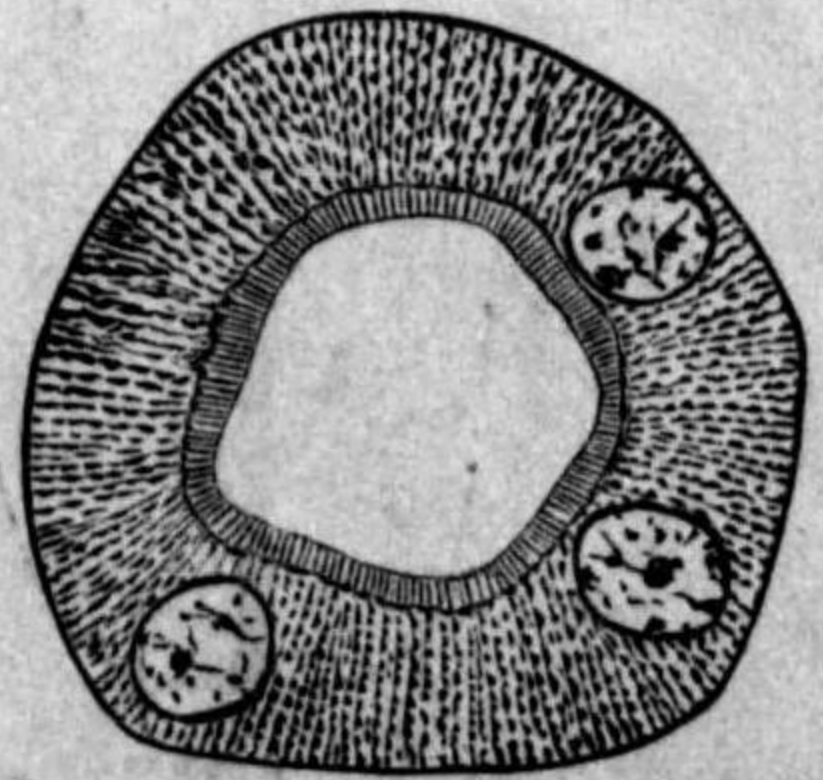
圖五十八百五第 頭乳腎)モルタシ合連個三b.)モルナ獨單a. b a



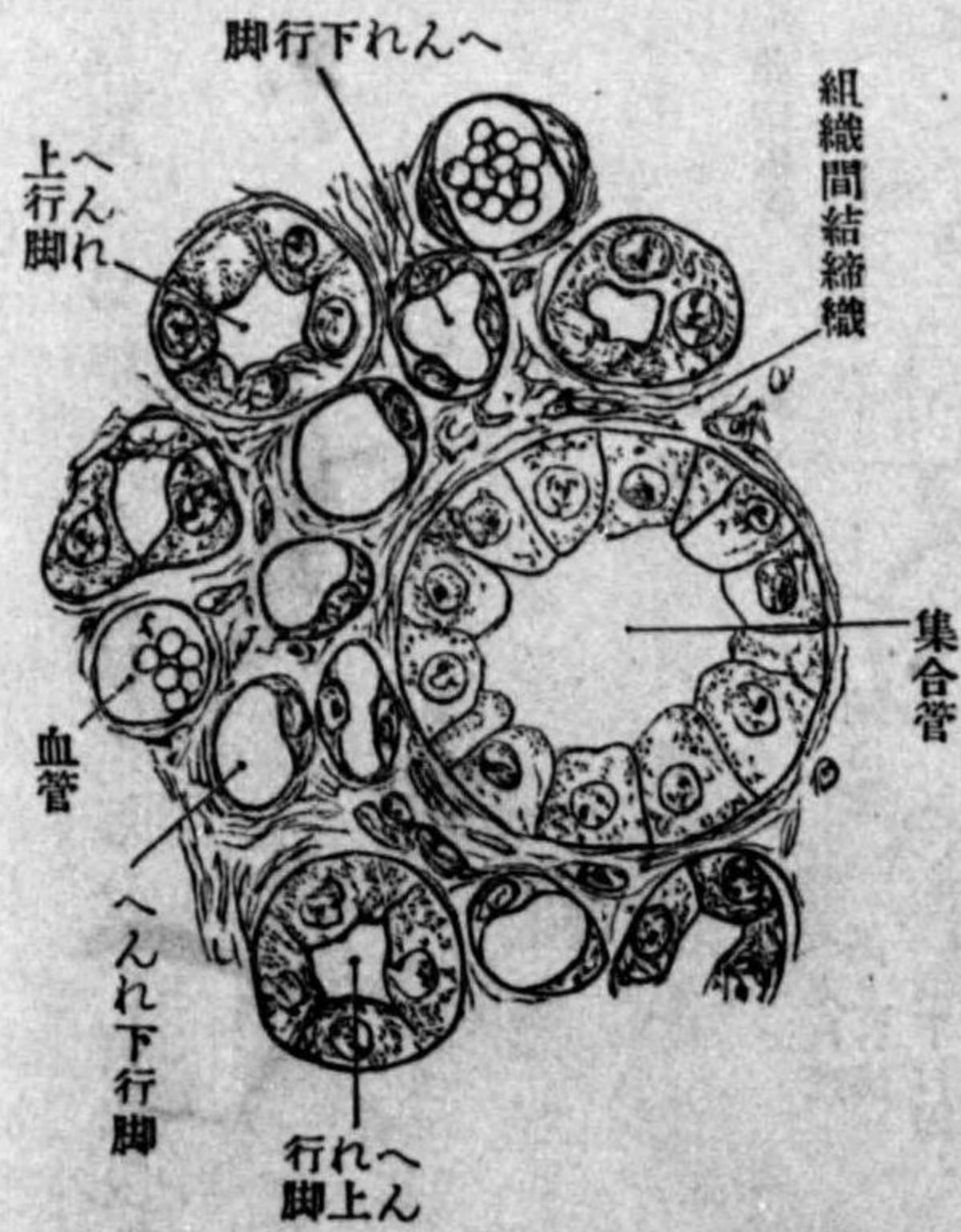
圖六十八百五第 (犬)管尿細曲



圖七十八百五第 (兔家)斷横管尿細曲 (倍百千約) 明不界境胞細

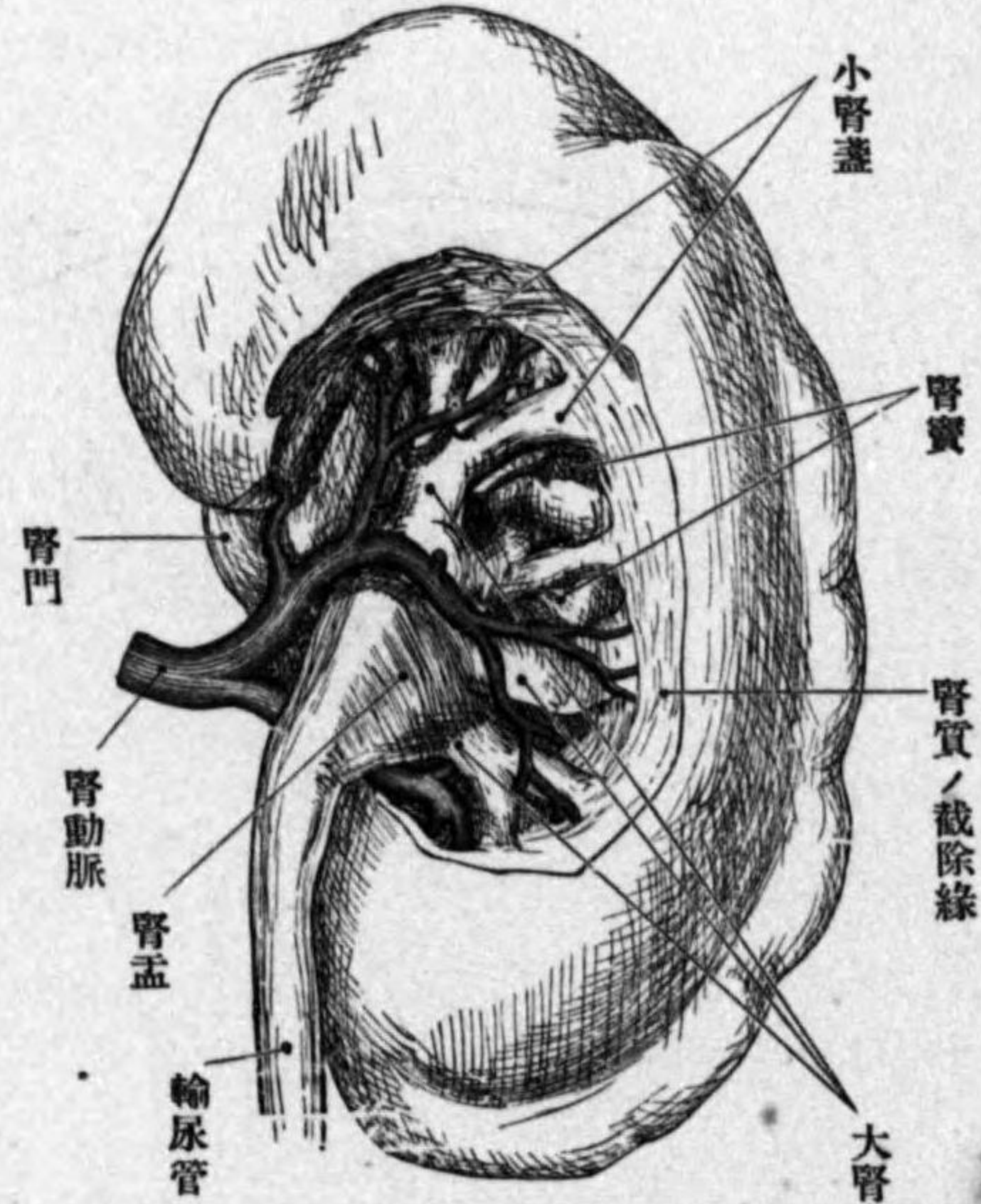


圖九十八百五第 (倍百五約) (猿) 斷横體錐



ルアアリ、4.へんれ蹄係上行脚ノ内腔ハ狭ク上皮細胞ハ曲細尿管ト略、同ジ、5.中間部ノ上皮細胞ハ圓柱形ニシテ光輝ヲ放ツ、6.集合管ノ上皮細胞ハ圓柱形ナリ、凡テ細尿管上皮ノ下層ニハ無構造ノ固有膜ヲ有シ、其外方ハ僅小ノ結締組織ヨリ圍擁セラル、腎ノ血管腎動脈ハ先ヅ腎竇ニ於テ小枝ヲ纖維膜及脂肪囊ニ與ヘ、葉間動脈 Arteria interlobares トシテ錐體ノ間ヨリ實質ニ入り屈曲シテ皮質ト髓質ノ間ヲ腎表面ト並行ニ走ル此部ヲ弓形動脈 Arteriae arciformes. s. arcuatae ト云フ、其突隆側ヨリ同距離ヲ隔テ、數條ノ小葉間動脈 Arteriae interlobulares ヲ生ズ、此動脈ハ皮質内ヲ腎表面ニ向ツテ進ミ數多ノ側枝ヲ放チ腎小體ニ血液ヲ輸送ス、即輸入管 vas afferens ナリ、輸入管ハばふまん囊ニ入りテ數枝

圖十九百五第 脈動腎、孟腎



腎小體ニ血液ヲ輸送ス、即輸入管 vas afferens ナリ、輸入管ハばふまん囊ニ入りテ數枝

ニ分レ血管蹄係ヲ爲シ又集合シテ囊ヲ出ツ之ヲ輸出管 *vas efferens* ト云フ其口徑前者ヨリモ狭シ斯ノ如ク絲球ハ兩極ヲ有スル怪網 *Wundernetz* ニシテ輸出管ハ髓放線

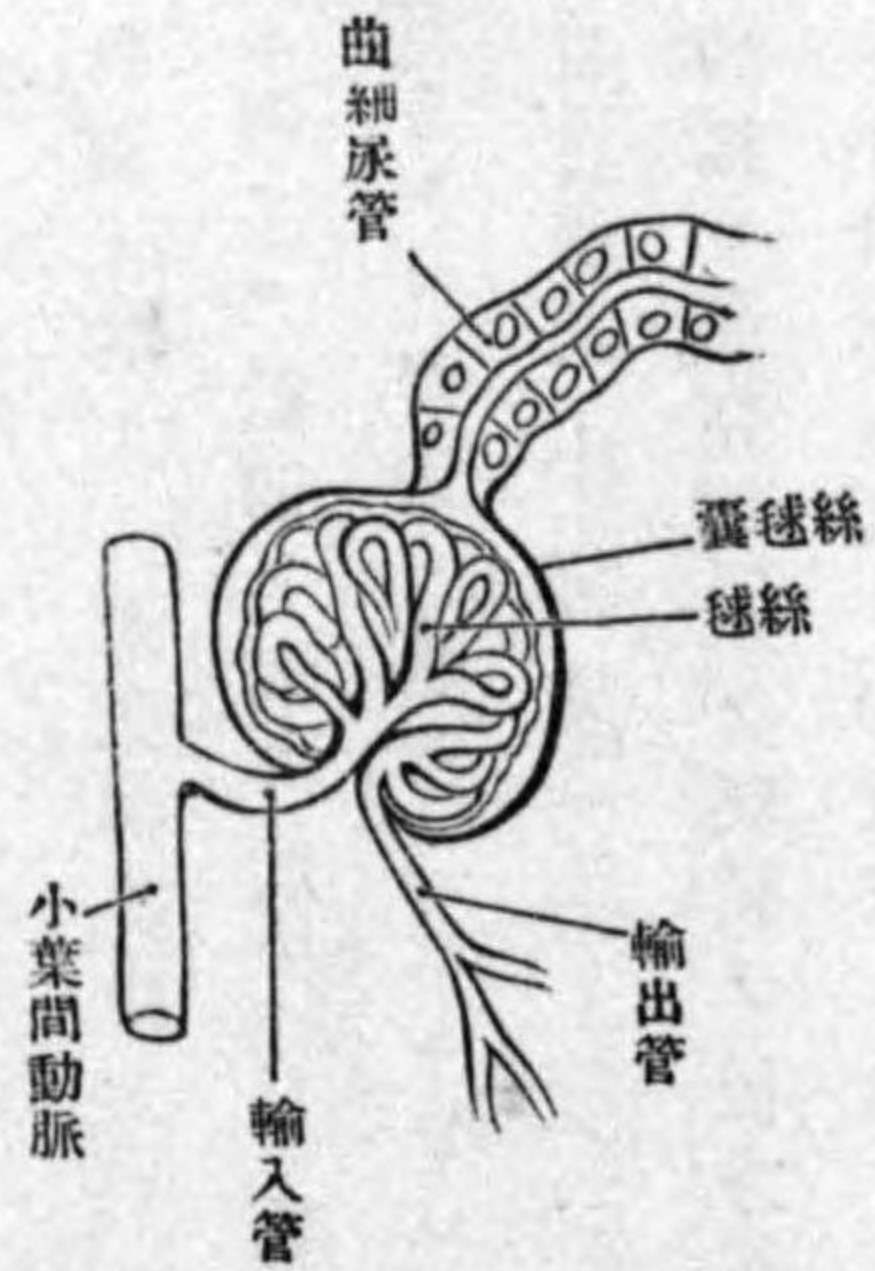
圖一十九百五第
圖型模環循液血ノ腎



ニ入り毛細管ト成リ縱徑ニ延長シタル毛細管網ヲ形成シ次第ニ集合管ノ間ニ移リ網眼ハ圓形ニ變ジ小靜脈ノ起根トナリ小葉間靜脈 *venae interlobulae*

latae ニ集ル小葉間靜脈ハ同名神經ト竝行シ皮髓兩質間ノ弓形靜脈 *venae arcuatae* ニ歸ス皮質外層ノ靜脈ハ小葉間靜脈ノ外端ニ集合シ所謂ふえるはいん星彩 *Stellares*

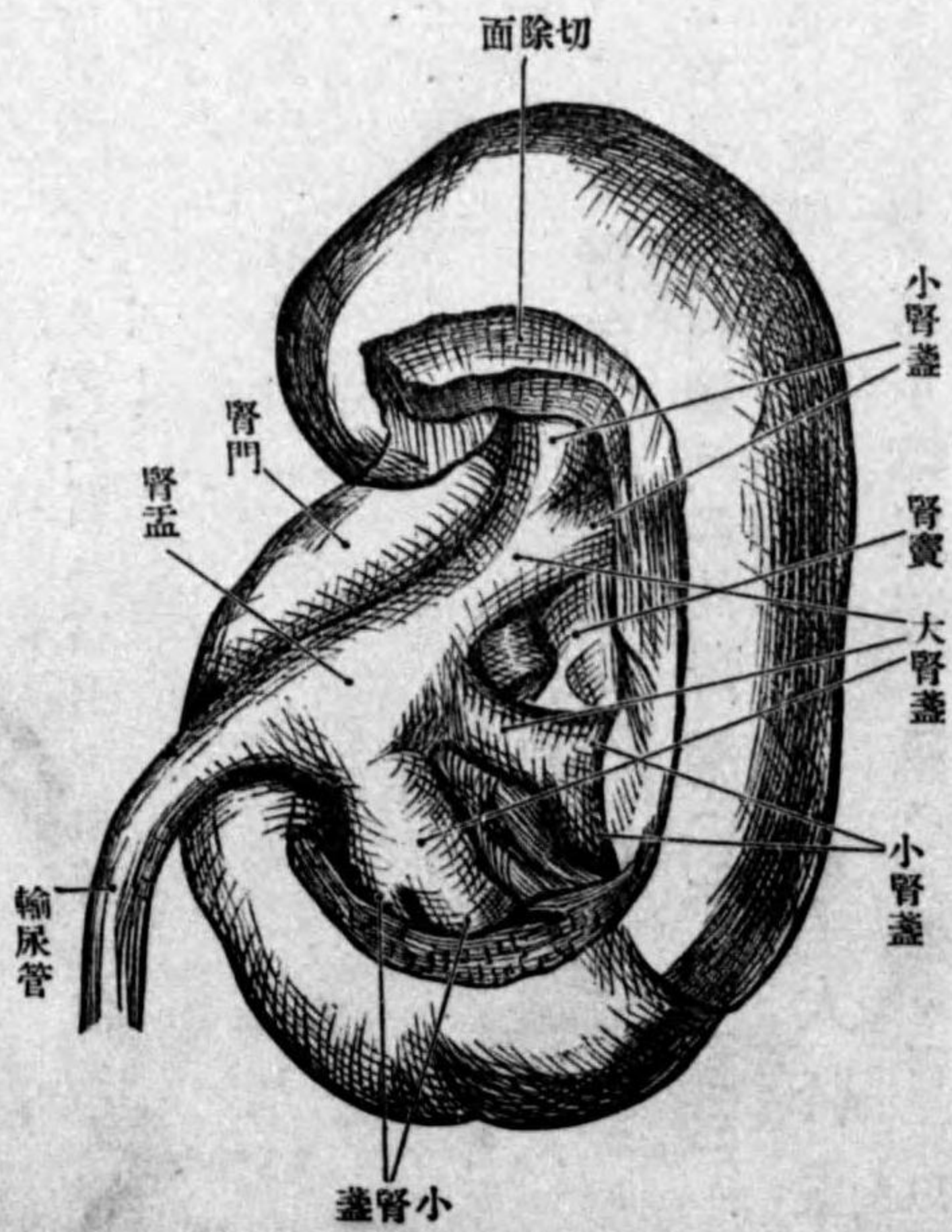
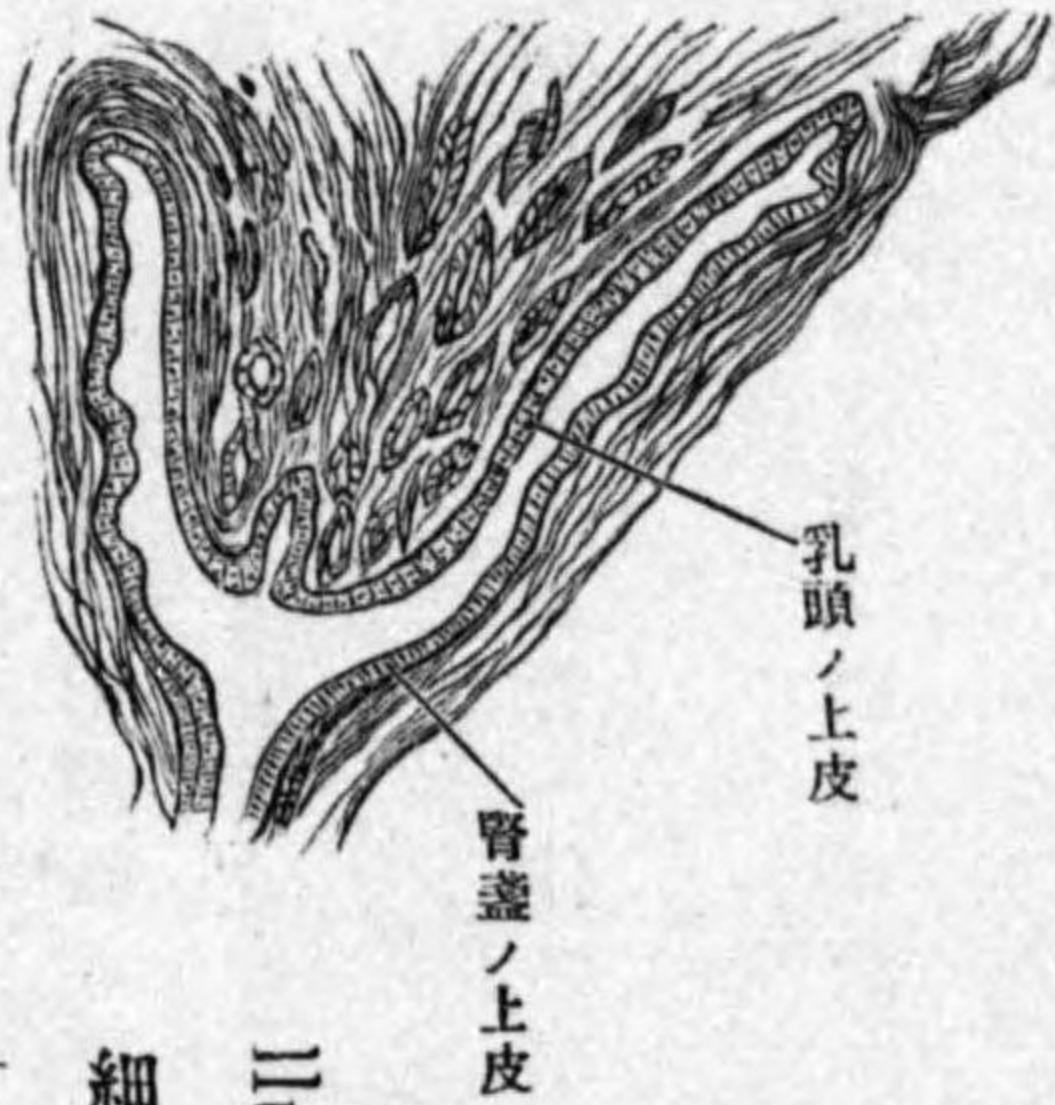
圖二十九百五第
圖型模體小きびるま



第五百九十三圖

腎 孟、腎 盞

圖四十九百五第
斷縱蓋腎小及頭乳



Infrae Verheyinii ヲ成ス髓質ノ動脈ハ一部ハ皮質毛細管ノ延長部ニシテ一部ハ直動脈 *Arteriolae rectae* ヲ受ク此動脈ハ深部ノ輸出管小葉間動脈弓形

動脈等ヨリ來ル、其毛細管ハ細尿管ノ位置ニ隨ヒテ、延長シタル網ヲ爲ス、此網ヨリ直靜脈 *Venulae rectae* 起リ弓形靜脈ニ終ル、腎實質ノ血管ハ纖維膜ノ媒介ヲ以テ脂肪囊ノ血管ト連續シ副血行 *Kollateralkreislauf* ニ便ス、自他腎動脈ト腎靜脈ノ直接吻合ヲ説クモノアリ

淋巴管ハ淺淋巴管網ト血管ニ伴フ深淋巴管網トアリテ皮質ニ富有シ血管ニ伴ウテ腎ヲ出ツ

神經ハ腎神經叢ヨリ來リ動脈ニ沿フテ腎質中ニ散蔓ス

□ 輸尿管 *Ureter, Harnleiter*

輸尿管ハ腎竇ニ於テ一擴張部ヲ以テ始マル、之ヲ腎盂 *Pelvis renalis, Nierenbecken* ト云フ、腎質ニ向ツテ數個ノ漏斗狀小枝ヲ放チ腎乳頭ヲ抱擁ス、之ヲ腎蓋 *Calices renales, Nierenkelche* トス、腎盂ハ通常二三ニ分レ更ニ數個ノ盃狀部ニ分ル、ヲ以テ大腎蓋 *Calices majores* 及小腎蓋 *Calices minores* ト名ク、通常輸尿管ト稱スル部ハ腎盂以下ノ比較的細キ部分ニシテ腹膜ノ後方ニ於テ大腰筋ノ前側ヲ下リ外腸骨動靜脈ノ根部ヲ越エテ小骨盤ニ入り、膀胱底ニ向ツテ下リ兩側互ニ接近シテ斜ニ膀胱壁ヲ穿チ、男

ニ於テハ輸精管其前側ヲ横過シ、女ニ於テハ腔壁ニ接ス、之ヲ其ノ部位ニ從ヒテ腹部 *Pars abdominalis* 骨盤部 *Pars pelvina* ニ別ツ、腎盂、腎蓋竝ニ輸尿管壁ハ粘膜炎質膜及纖維膜ノ三層ヨリ成ル、1. 粘膜炎 *Schleimhaut* ハ多形上皮 *Übergangsepithel*

圖 五 十 九 百 五 第
(端下部腹)斷橫管尿輸

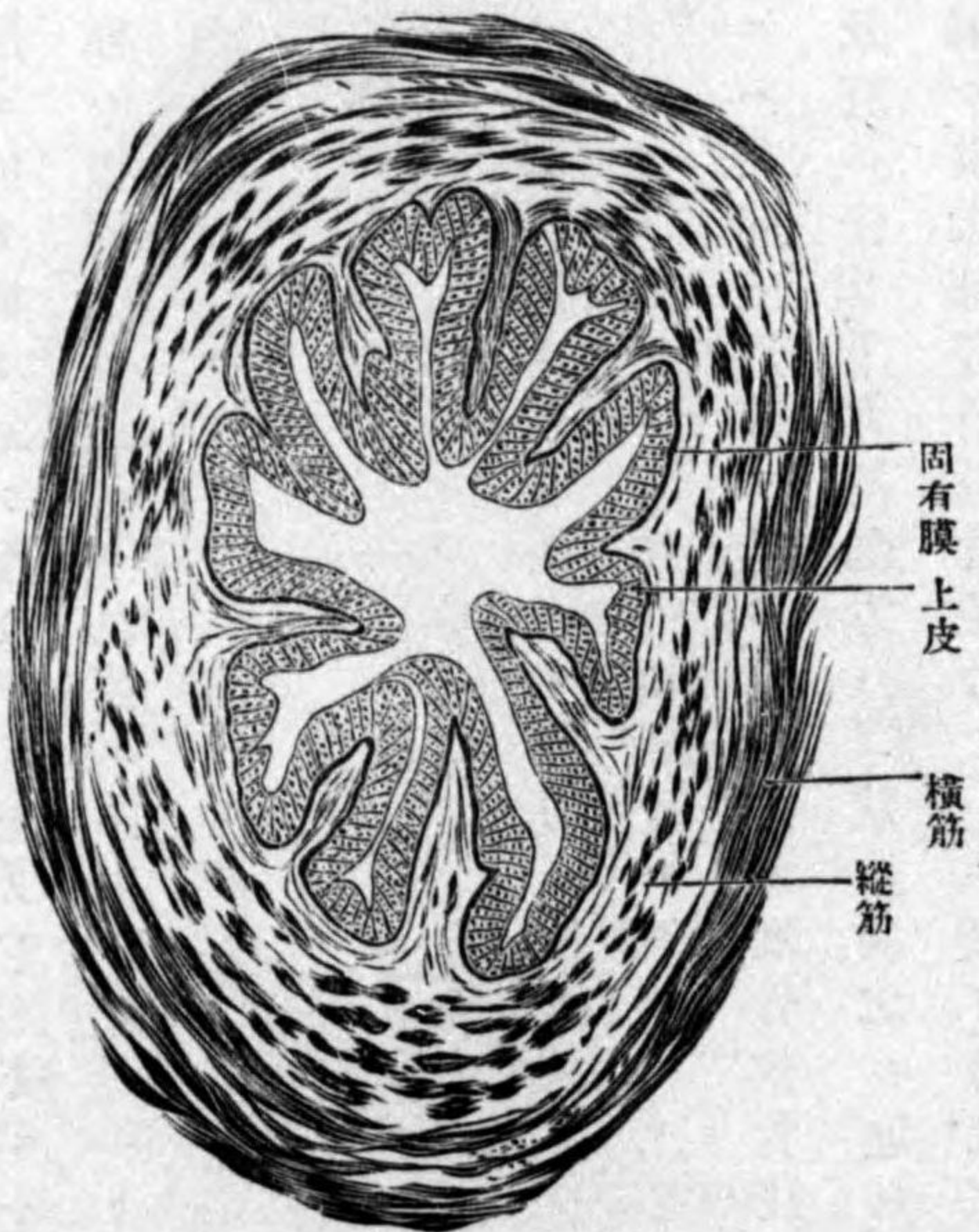
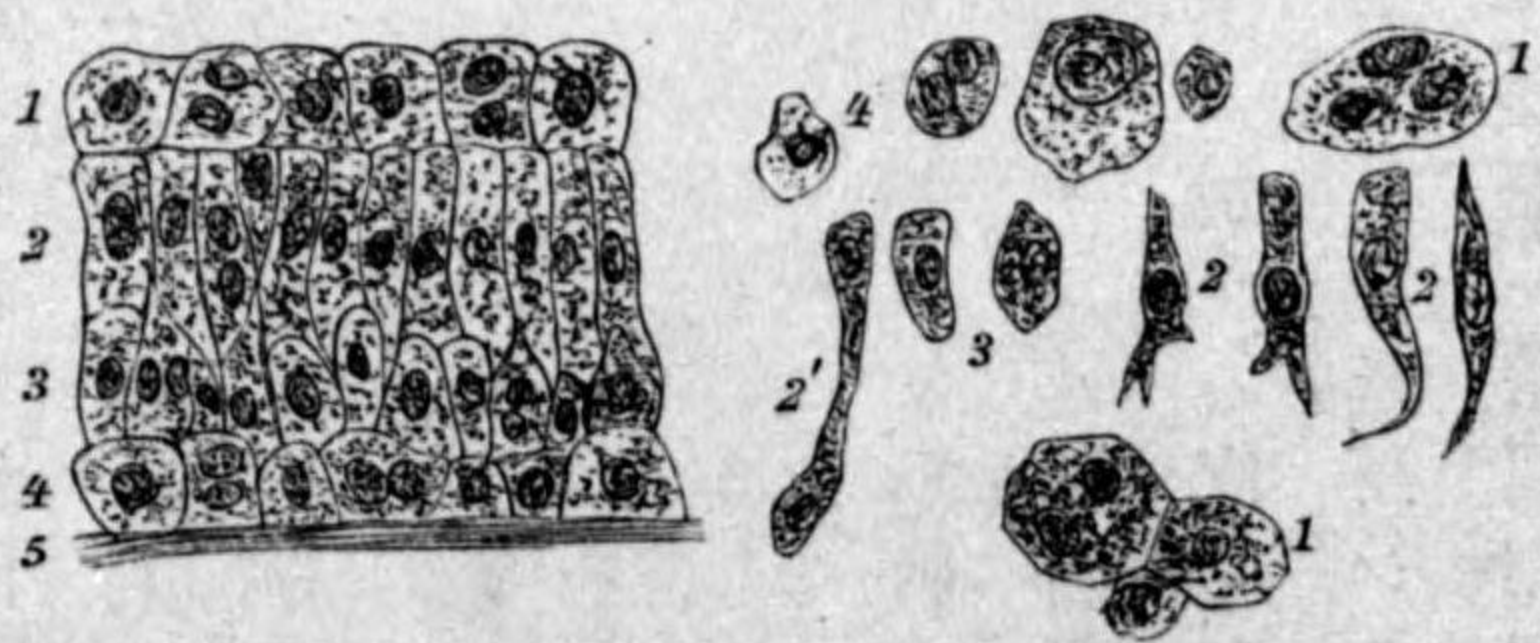


圖 六 十 九 百 五 第
皮 上 ノ 管 尿 輸



A 分離シタルモノ
B 自然位置
1. 上部ノ扁平上皮細胞
2. 中層ノ形狀種々ナル尖リタル細胞
2' 同狹窄ヲ有スルモノ
3. 4. 深層ニ於ケル大小ノ不規則細胞
5. 粘膜炎纖維層

thel

數層ノ扁平或ハ大ナル多核細胞ヲ混ズ、ヲ被ル、又此上皮ハ乳頭ノ上ヲ被ヒ、固有膜ハ許多ノ

腎

細胞竝ニ白血球ヲ含ム2.筋質膜 Muskelhautハ内縦外輪狀ノ滑平筋纖維ニシテ輸尿管ノ下部ニ於テハ更ニ外縦層ヲ加フ、3.纖維膜 Tunica adventitiaハ結組織膜ナリ、動脈ハ筋層ニ於テ網ヲ爲シ上皮下ニ至リ毛細管ニ分ル、淋巴管ハ粘膜下及ヒ上皮下網ヲ爲シ神經ハ無髓及有髓ニノ血管ニ伴ヒ處々ニ節細胞ヲ有シ筋層及粘膜ニ分布シ上皮層ニ入ル

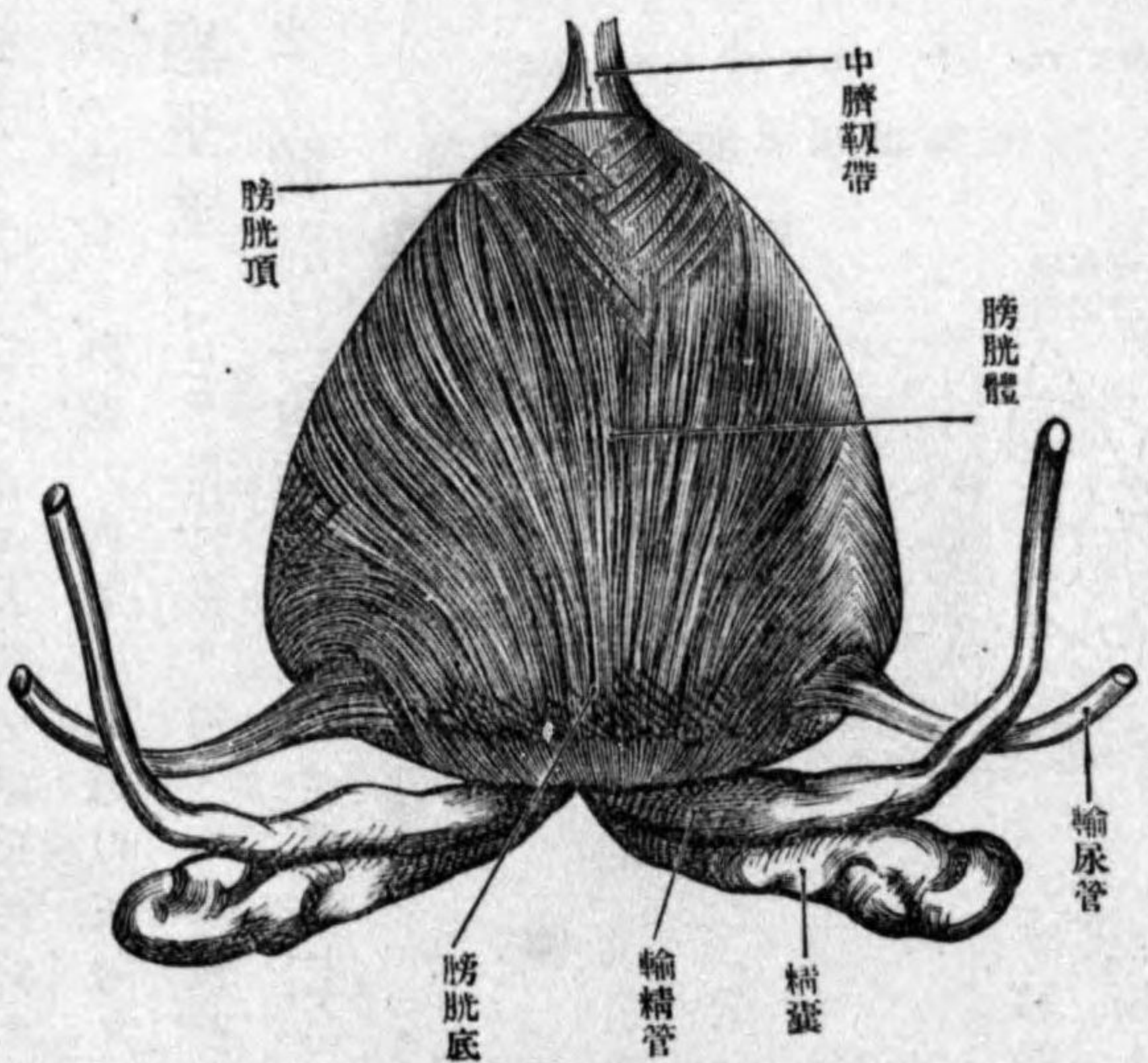
ハ 膀胱 Vesicae urinaria, Harnblase, Urocystis

膀胱ハ小骨盤ニ於テ軟骨接合ノ後方ニ位シ、大サハ盈虚ニヨリ差等アリ、形狀ハ男女竝ニ人々ニヨリテ異ナリト雖、一核ニ盈チタルキハ尖端ヲ上方ニ向ケタル卵圓形ヲ呈シ、空虚時ニハ帶圓三角形ヲ呈ス、其前方ハ恥骨軟骨接合、後方ハ男ニ於テハ直腸、女ニ於テハ子宮及膈ニ接シ、上方及側方ハS狀結腸之ニ迫ル、又初生兒ニ於テハ延長シタル梨子狀形ヲ爲シ、其大部分ハ軟骨接合ノ上ニ出ヅ、膀胱ノ前面ハ扁平、後面ハ帶圓、側部ハ女ニ於テ著シク擴張ス 膀胱ノ側部特ニ著シク擴張シタル部分ヲ側窩 Recessus lateralisト云フ 膀胱ヲ別テ體 *Corpus vesicae* 頂 *vertex vesicae*、尖端 *Spitze* 底 *Fundus vesicae*、Grund等ト名ク、底ノ前方ヨリ尿道起ル、此部ヲ *膀胱頸* *Collum vesicae* ト云フ、内面ニ於テ尿道口ノ後方少シク隔リテ輸尿管口 *Orifici-*

um ureteris アリ、互ニ三仙迷ヲ隔ツル斜ノ裂口ナリ、裂口ノ上界ヲ輸尿管皺襞 *Plica*

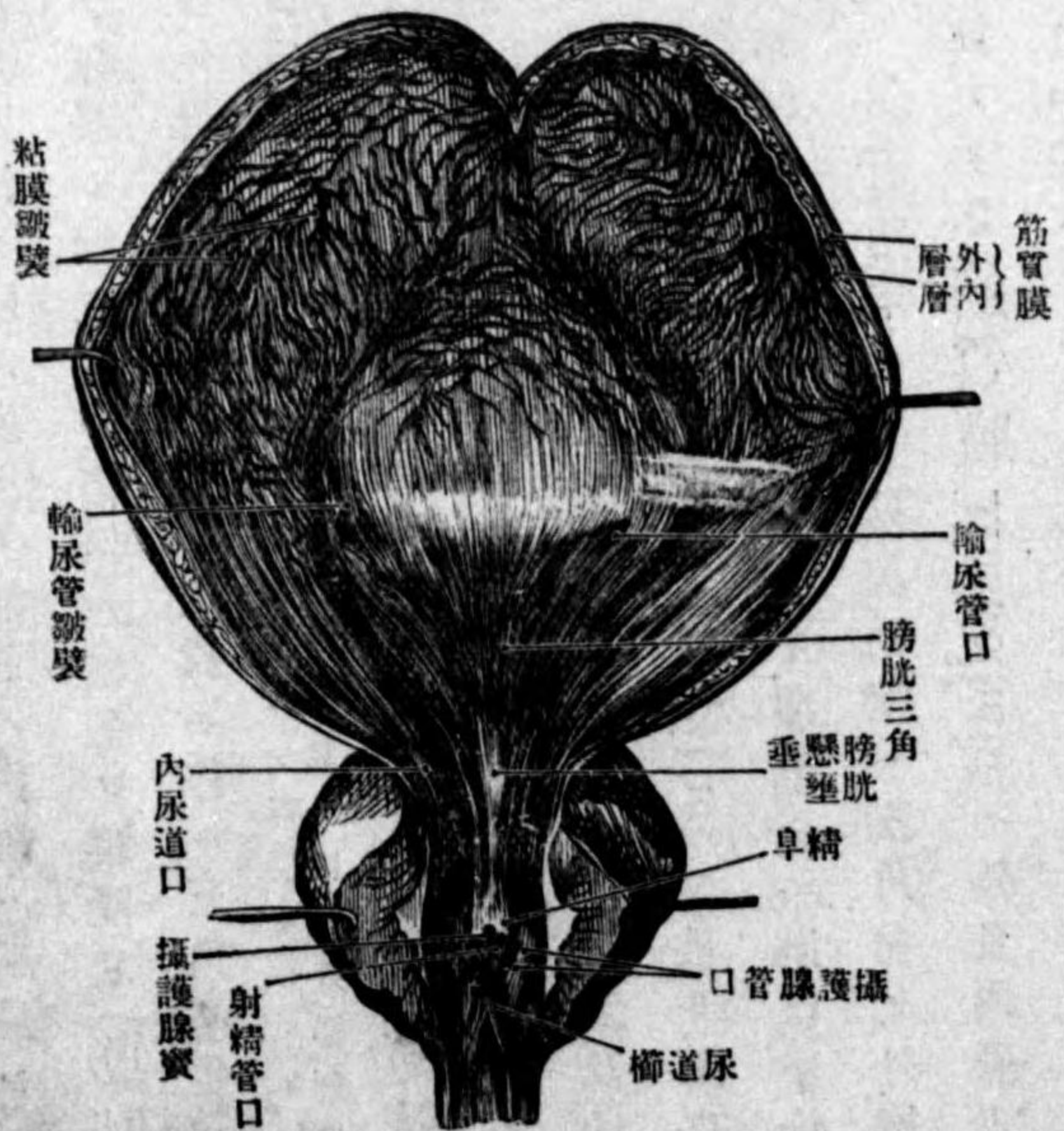
第五百九十七圖

膀胱(收縮)後面、筋質膜外層



第五百九十八圖

男膀胱及攝護腺ノ前側截開



ureterica ト云フ、是レ粘膜ノ皺襞ニシテ尿ノ逆流ヲ防グ所トス、皺襞ノ内端ハ延長シテ互ニ融合シ、外端ハ内下方尿道口ニ向ツテ延長シ精阜ニ連続スル無對ノ縱隆起(膀胱懸壅垂 Uvula vesicae)ヲ爲ス、此皺襞ノ間ニ上部ハ廣ク、下部ハ尖銳ニ終ル三角ヲ生ズ之ヲ膀胱三角 Trigonum vesicae (Lientaudin) ト云フ

膀胱ハホテ注入シ膨脹セシメタルキハ(男子)高サ中算一四仙迷、横徑同男一〇・五仙迷(女子)高サ一・五仙迷、横徑九仙迷、内容膀胱

壁ハ約半仙迷(縮小時ニハ)ノ厚サヲ有シ、粘膜筋質膜及漿液膜ヨリ成ル1. 粘膜 Schleimhaut、腎盂及輸尿管ノ如ク多形上皮 Übergangsepithel ヲ被リ、上皮

下ニハ結締組織性ノ固有膜アリ、屢、其内ニ淋巴小節 Noduli lymphatici vesicales ヲ見ル、粘膜ハ三角部ノ外總

テ移動性ナリ2. 筋質膜 Muskelhaut ハ外及内層ノ

縱筋ト其中間ニ存スル輪狀層ノ三層ヨリ成ル、凡テ

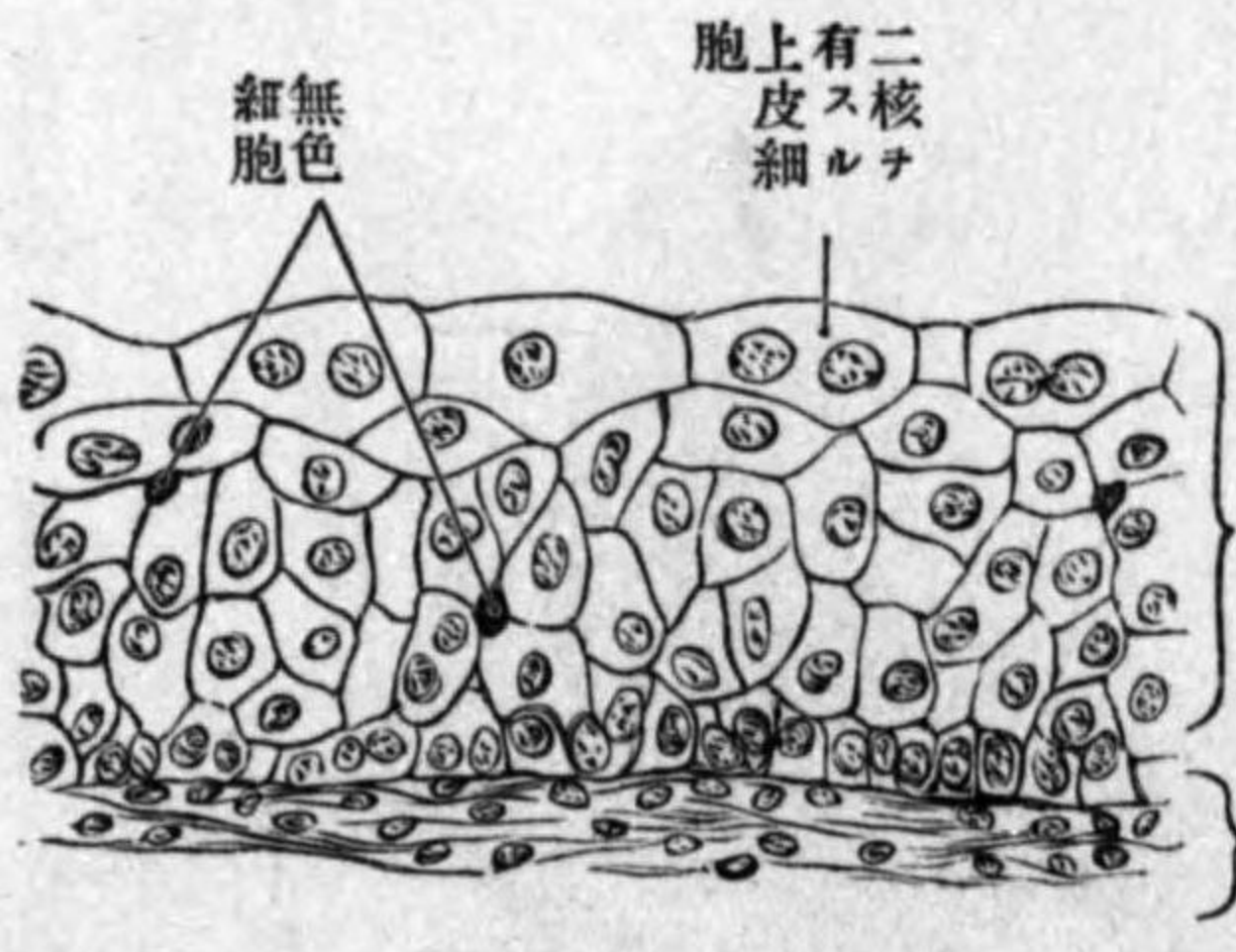
此等ノ層ハ相互ニ固ク連結ス、外縱層ハ膀胱頂ニ於

テ最モ緻密ニシテ、輪狀層ハ尿道起始部ニ於テ稍、發達

シ、膀胱括約筋 M. sphincter vesicae トナル、3. 筋層ノ外面ハ結締組織性ノ被膜

第五百九十九圖

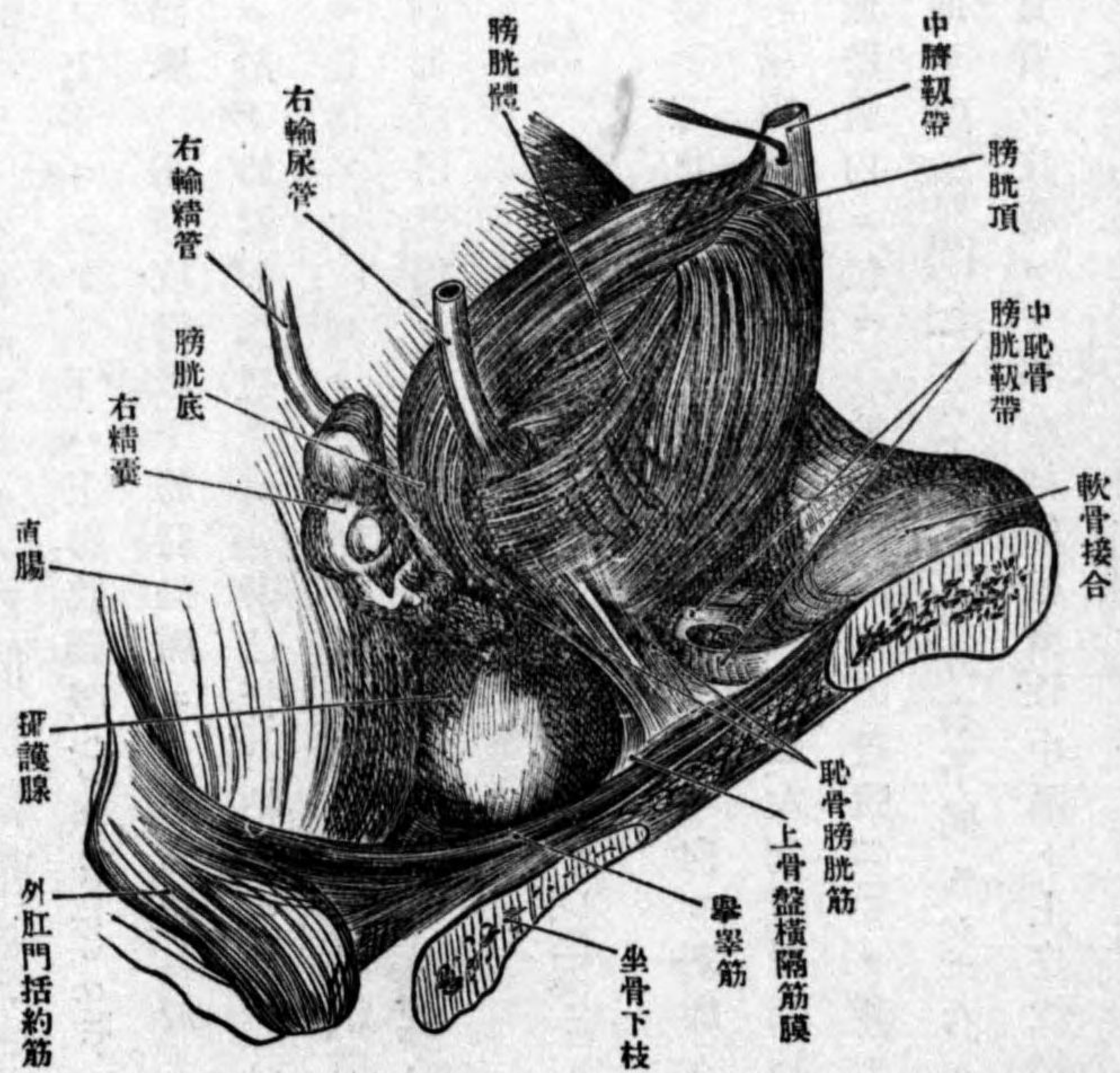
膀胱粘膜縱斷(猿)



シ、膀胱括約筋 M. sphincter vesicae トナル、3. 筋層ノ外面ハ結締組織性ノ被膜

第六百圖

膀胱(縮收)竝ニ盆骨内諸臟器ノ右側



ヲ有ス、4. 漿液膜ハ腹膜ノ一部分ニシテ後面ノ上部及頂ヲ被フノミ

膀胱ハ其底ヲ以テ骨盤筋膜

ニ密著シ且結締組織及一對

ノ滑平筋ヲ以テ直腸或ハ子

宮ノ下部及腔ニ附著シ其前

方ハ攝護腺ニ連リ、前面ハ筋

膜ノ一部ナル中恥骨攝護

腺韌帶 Lig. puboprostaticum

medium 恥骨膀胱韌

帶 Lig. pubovesicalis ヲ以テ

恥骨ノ後面ニ連リ、膀胱頂ハ

三條ノ索條ヲ以テ臍ニ連ル

其中央ニアルモノハ中臍

韌帶 Lig. umbilicalis med-

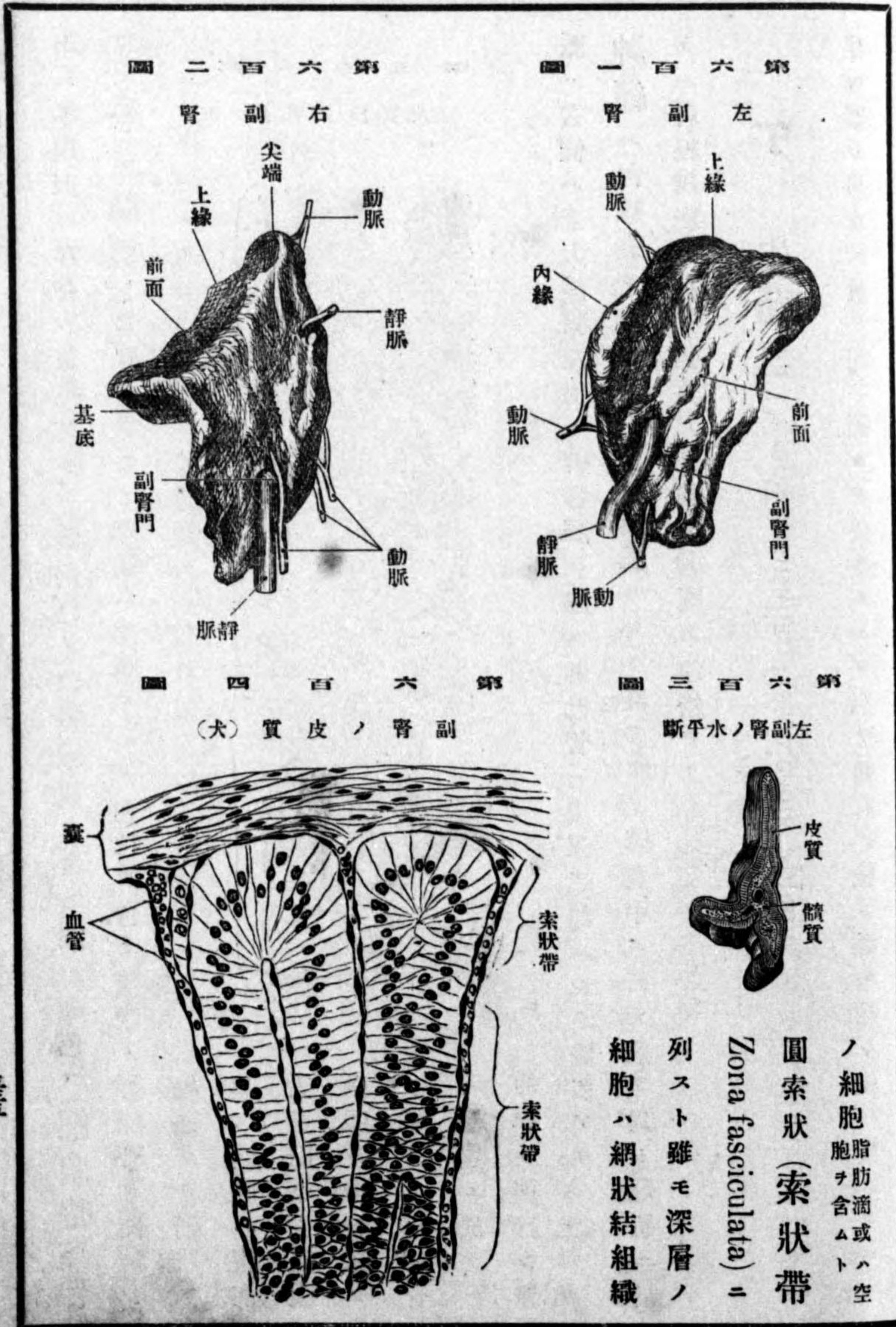
ialis ニシテ閉塞シタル尿管

Urachus 胎生時ノナリ、又其兩側ノモノ即側臍韌帶 Lig. umbilicale lateraliae ハ閉塞シタル臍動脈ノ上半ニシテ、下半ハ上膀胱動脈 Aa. vesicales Sup. トシテ殘存ス

膀胱ノ動脈ハ上膀胱動脈、下膀胱動脈ニシテ女子ニ於テハ子宮動脈モ分枝ヲ與フ、靜脈ハ下部ニ於テ膀胱靜脈叢ヲ爲シ、淋巴管ハ粘膜ニ於テハ少許ニシテ一部ハ筋層ノ淋巴管ト通シ、筋層ニアルモノハ著明ニシテ内面ニ於テ細網ヲ爲シ、側面ニ出デテ側膀胱淋巴節及前膀胱淋巴節ニ連ル

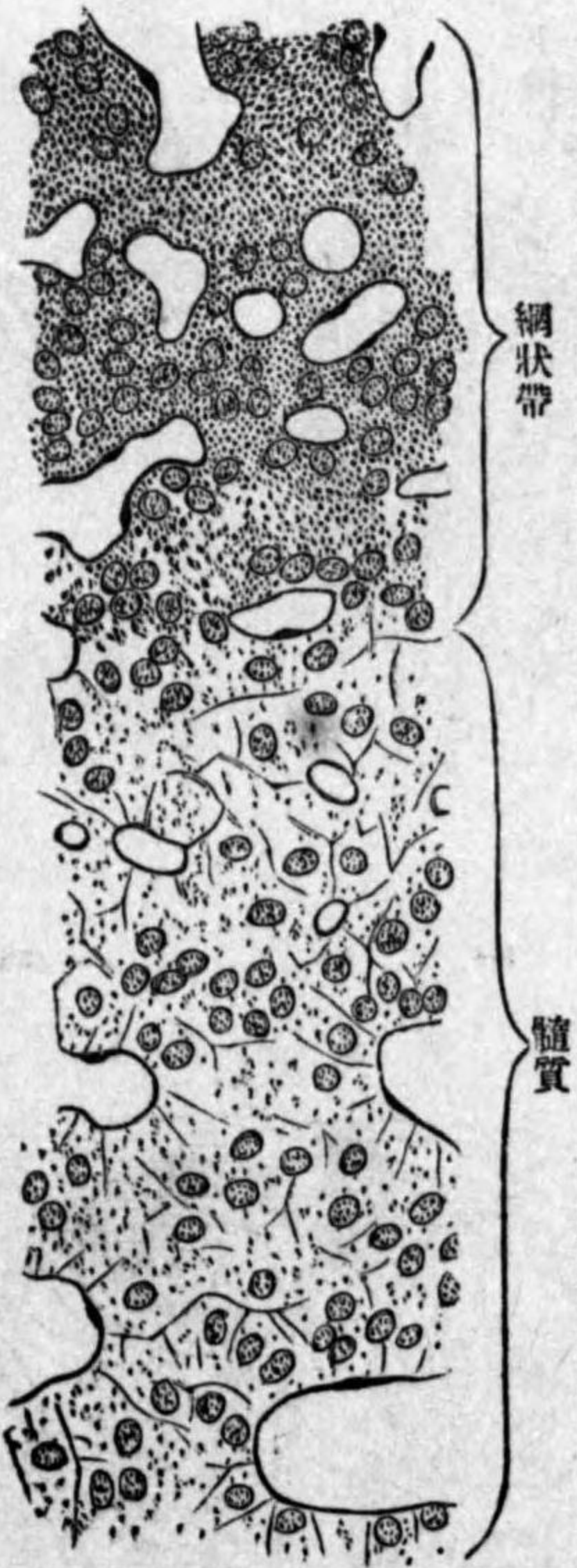
二 副腎 Glandulae suprarenales, Nebennieren

副腎ハ扁平三角形ニシテ、尖端ハ薄ク上方ニ向ヒ、基底ハ稍厚ク陷凹シテ、腎ノ上端ニ接シ、後面ハ橫隔膜ニ接シ、前面ハ右側ハ肝臟、左側ハ胃及脾ヨリ被ハレ、色ハ帶褐黃色ヲ呈シ、腎ノ脂肪囊内ニ包マレ、結締組織性ノ被腹 Hülle ヲ被リ、前面ノ下部ニ血管神經ノ通路タル溝即チ副腎門 Hilus アリ、通常左右不同ニシテ、右ハ縱徑長ク上端尖リ、左ハ廣ク上端圓シ、實質ハ皮膜ヨリ來ル結締組織性中隔ト上皮性細胞群トヨリ成リ、皮質ト髓質トニ分ル、皮質 Substantia corticalis ハ黃色ニシテ稍硬ク三層ヲ爲ス、即表層ニ於ケル細胞ハ小扁平ニシテ、原形質中ニ小圓形塊(球狀帶 Zona glomerulosa) ヲ爲シ、中層ハ圓形



中ニ不規則ニ存在シ黃色若クハ黃褐色ノ色素顆粒ヲ含ミ或ハ染色ス(網狀帶 *Zona reticularis*) 髓質 *Marks substanz* ノ細胞ハ多角形ニノ顆粒ヲ含ミ薄壁ノ靜脈管ヲ圍擁シ

圖五百六第
(犬)質髓ノ腎副



相連リテ網狀ヲ呈ス動脈ハ腹部大動脈下橫隔膜動脈及腎動脈ヨリ來リ其毛細管ハ髓質ニ於テハ靜脈ニ移行シ靜

脈ハ右側ハ下大靜脈左側ハ腎靜脈ニ歸ス淋巴管ハ淺深二部ニシテ許多アリ神經ハ內臟叢ヨリ來リ多クハ無髓ニシテ許多アリ腺質中ニ於テ叢ヲ爲シ髓質ニ於テハ神經細胞散在シ髓質ノ細胞ト神經ノ連絡アリト

丁 生殖器 *Organa genitalia, Geschlechts apparat*

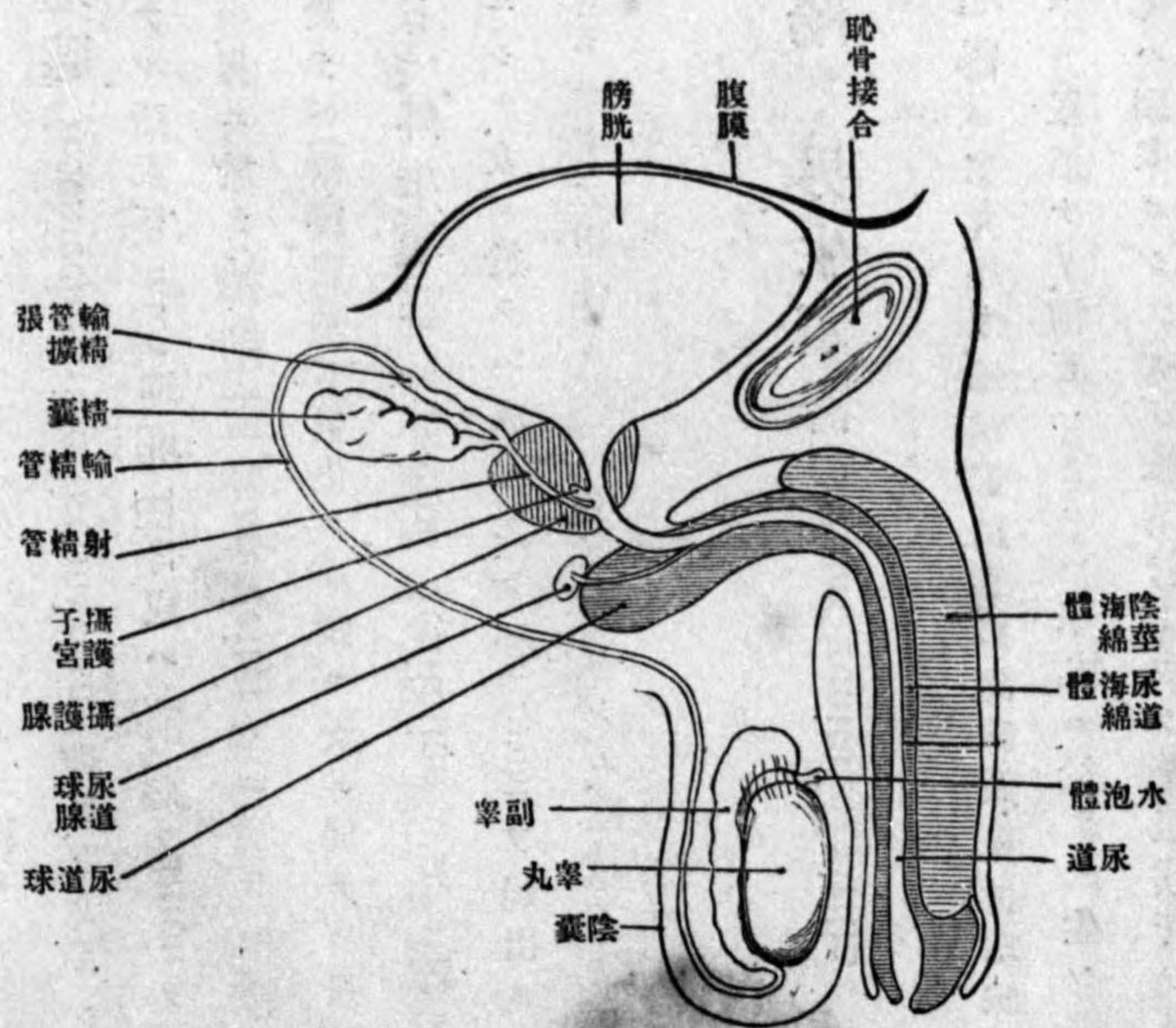
生殖器ハ男女ニ於テ同一源ヨリ發生スルヲ以テ發育ノ後ト雖モ往々相一致スルモノ

尠シトセズ區別シテ內生殖器外生殖器ノ二種トナス **內生殖器** *Inneren genitalien* ハ即**生殖腺** *Geschlechtsdrüse, Keimdrüse* (卵巢, 辜丸)ニシテ中ニ新個體 *Individuum*ヲ生ズルニ要用ナル種素 *Keimstoff* 即**卵** *Eier* 或ハ**精蟲** *Samen*ヲ生ズ而シテ其生産物ヲ輸出スル排泄管ハ男ニ於テ**輸精管** *Samenleiter* 女ニ於テハ**輸卵管** *Eileiter* ナリ此管ノ末端部ハ男ニ於テハ(攝護竇)殆ト退化スト雖モ女ニ於テハ強ク發達シテ胚ノ發育ニ備フ(子宮 *Gebärmutter*) **外生殖器** *Ausseren genitalien* ハ男ニ於テハ種素ノ排出道(尿道 *Harnröhre*)ニシテ女ニ於テハ成熟兒 *Reifen frucht*ヲ娩出ス腔 *Scheide*ハ同時ニ交接器 *Begattungsapparat*ニシテ兩性ノ種素ヲ接觸セシム陰核ト陰莖又大陰唇ハ陰囊ト同質異形體ナリ

陽 男生殖器 *Organa genitalia virilia*

內生殖器ハ辜丸, 副辜, 輸精管, 精囊, 攝護腺及尿道球腺等ニシテ**外生殖器**ハ陰莖及之ニ屬スル尿道ナリ精液 *Samen*ハ辜丸ニ於テ成生シ排泄管ニヨリテ尿道ニ注ク排泄管ノ始部ハ副辜ニシテ次デ輸精管ト成リテ鼠蹊管ヲ昇リ膀胱底ニ於テ精囊ニ合シ短

第六百六十六圖 男 生 殖 器 偏 側 模 型 圖



キ射精管ヲ以テ尿道ニ終ル、攝護腺ハ尿道及射精管ヨリ穿通セラレ、尿道球腺ハ尿道ノ部ニアリ

イ 睪丸 Testis,

Hoden, Testikel, Orchis, Didymis

睪丸ハ側方ニ壓平セラレタル橢圓形ニシテ内面外面、上端、下端、弓形ノ前縁、殆ド直線ノ後縁ヲ現ハス。重量約十五瓦、長サ四仙、迷其縱軸幅三仙、迷、厚サ二仙、迷、其縱軸ハ沿直ナラズ斜ニ外前方ニ傾キ、通常左睪ハ右睪ヨ

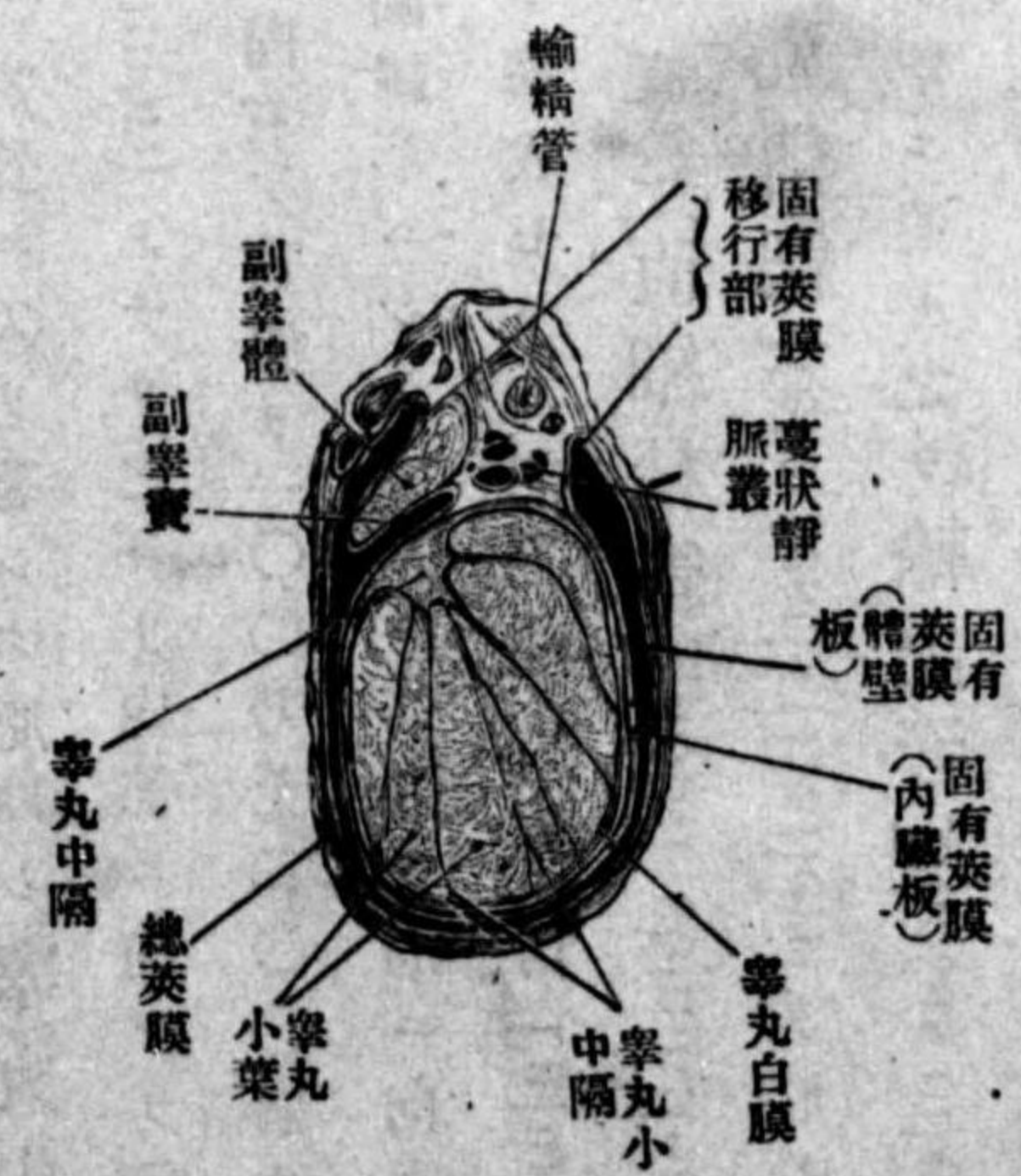
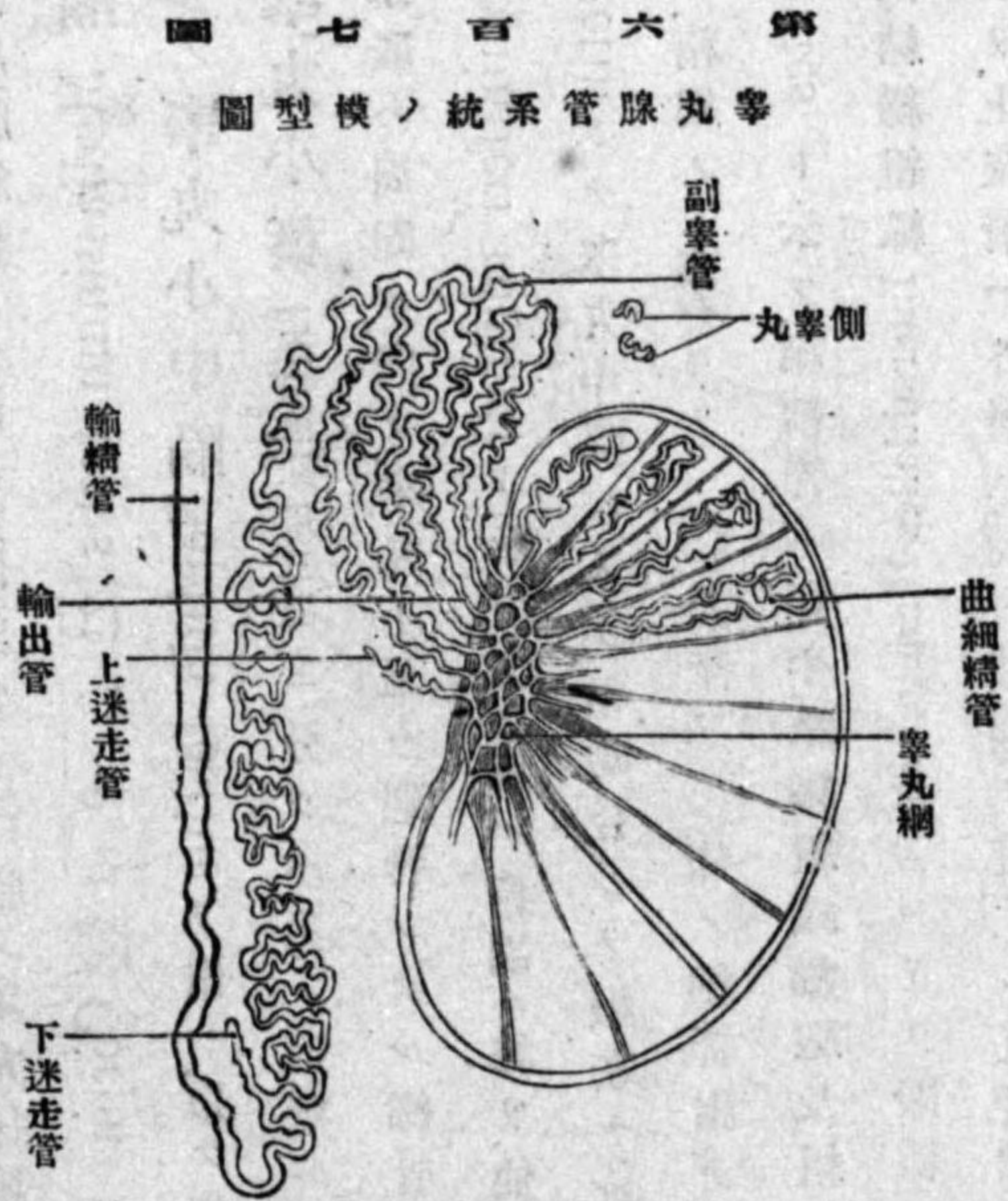
リ稍、低ク位ス

睪丸ノ表面ハ緻密ナル白膜 Tunica albuginea ヲ被リ、次層ニ血管ニ富ミタル鬆粗結組織層(脈絡膜 Tunica vasculosa) ヲ被リ、白膜ハ睪丸後縁ヨリ實質ニ入り著シク肥厚シ、睪丸中隔 Mediasinum testis (はいもる體 Corpus Highmori) トナリ之ヨリ内部ニ向ツテ許多ノ睪丸小中隔 Septula testis ヲ出シ、以テ睪丸固有ノ實質ヲ一〇〇乃至二〇〇個ノ睪丸小葉 Lobuli testis ニ分ツ、小葉ノ形狀ハ長圓錐形ニシテ尖端ハ睪丸中隔ニ向ヒ基底ハ周圍ニ向フ、睪丸小葉ハ廻轉シタル細管ヨリ構成セラル、之ヲ曲細精管 Tubuli seminiferi contorti ト云フ、其一端ハ盲端ニ終リ、他端ハ直走(直細精管 Tubuli seminiferi recti) シテ睪丸中隔ニ入り相吻合シテ緻密ナル睪丸精網 Rete testis (Halleri) ヲ形成ス、精網ノ上部ヨリ一〇乃至二〇條ノ細管出デテ副睪ニ連ル、之ヲ輸出管 Ductus efferentes ト云フ、細精管ハ扁平結締組織細胞及組織間細胞 Interstitielle Zellen ヲ成ル組織間結締組織 Interstitielles Bindegewebe ニヨリテ圍擁セラレ、薄キ固有膜、重層上皮ノ二層ヨリ成リ、上皮層ハ外層ニ於テ精蟲ノ發生ニ直接關係ナキ無膜ノせるとり細胞 Ser-tolische zellen (足細胞 fuszellen) ト精蟲ヲ產生スル圓形細胞 Samenzellen トヨリ成ル、此細胞ハ休止時ニハ只數層ノ圓形細胞ニ過キズト雖モ作用時ニ於テハ二種ノ細胞ヲ現

ハス其外層ハ生精原細胞 Spermatogonien ニシテ間接分裂ニヨリ大ナル精母細胞 Spermatocyten, Mutterzellen ヲ生シ此者更ニ二廻ノ分裂ヲ經テ精蟲細胞 Sperma-

第六百八十四圖

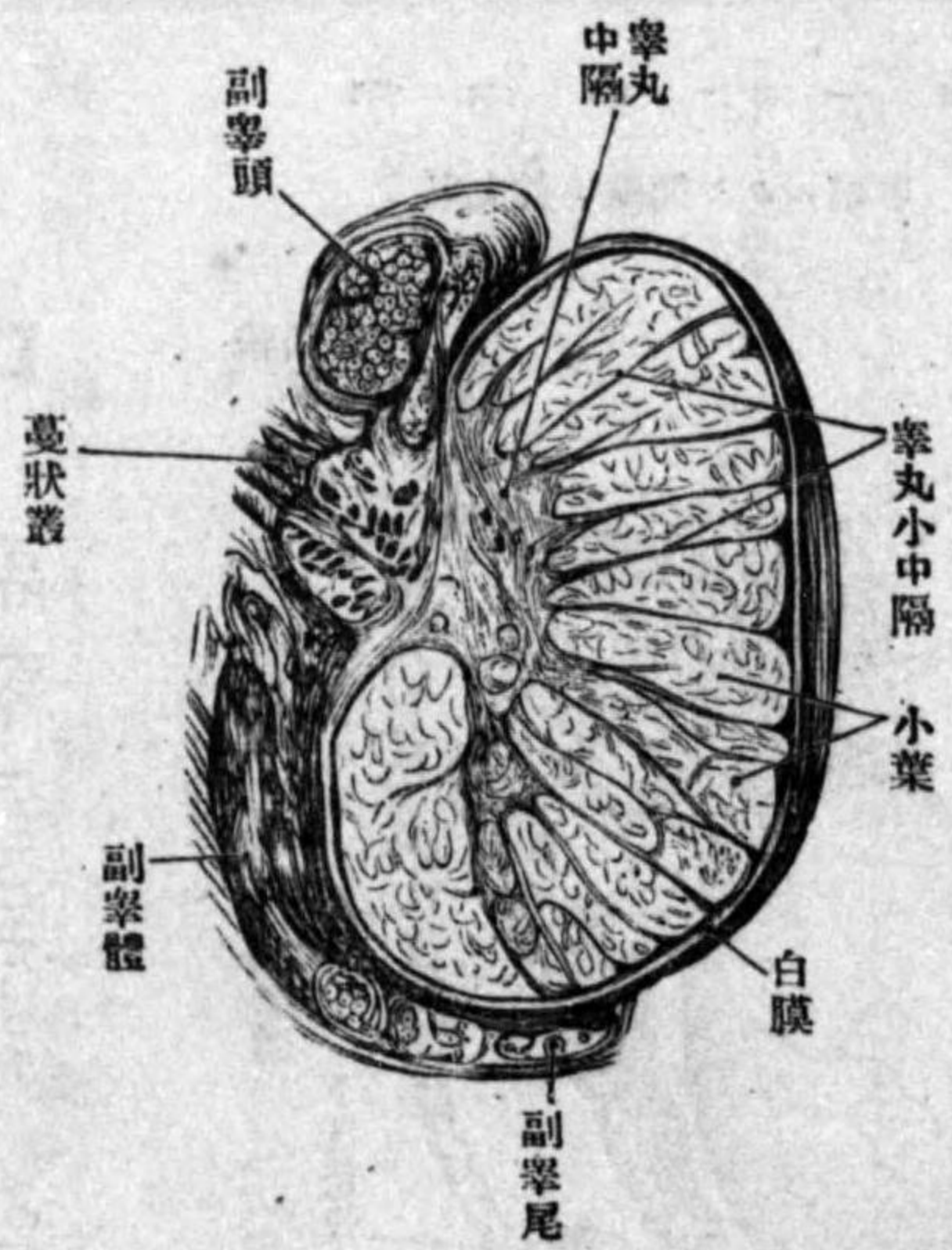
右睾丸水平斷



tiden, Samenzellen トナル此細胞ハ直チニ精蟲ニ變ズベキモノナリ精蟲 Spermien, Spermatozoen ハ纖維狀態ニシテ頭 Kopf 頸 Hals 及尾 Schwanzfaden ノ三部ヨリ成リ人ニ於

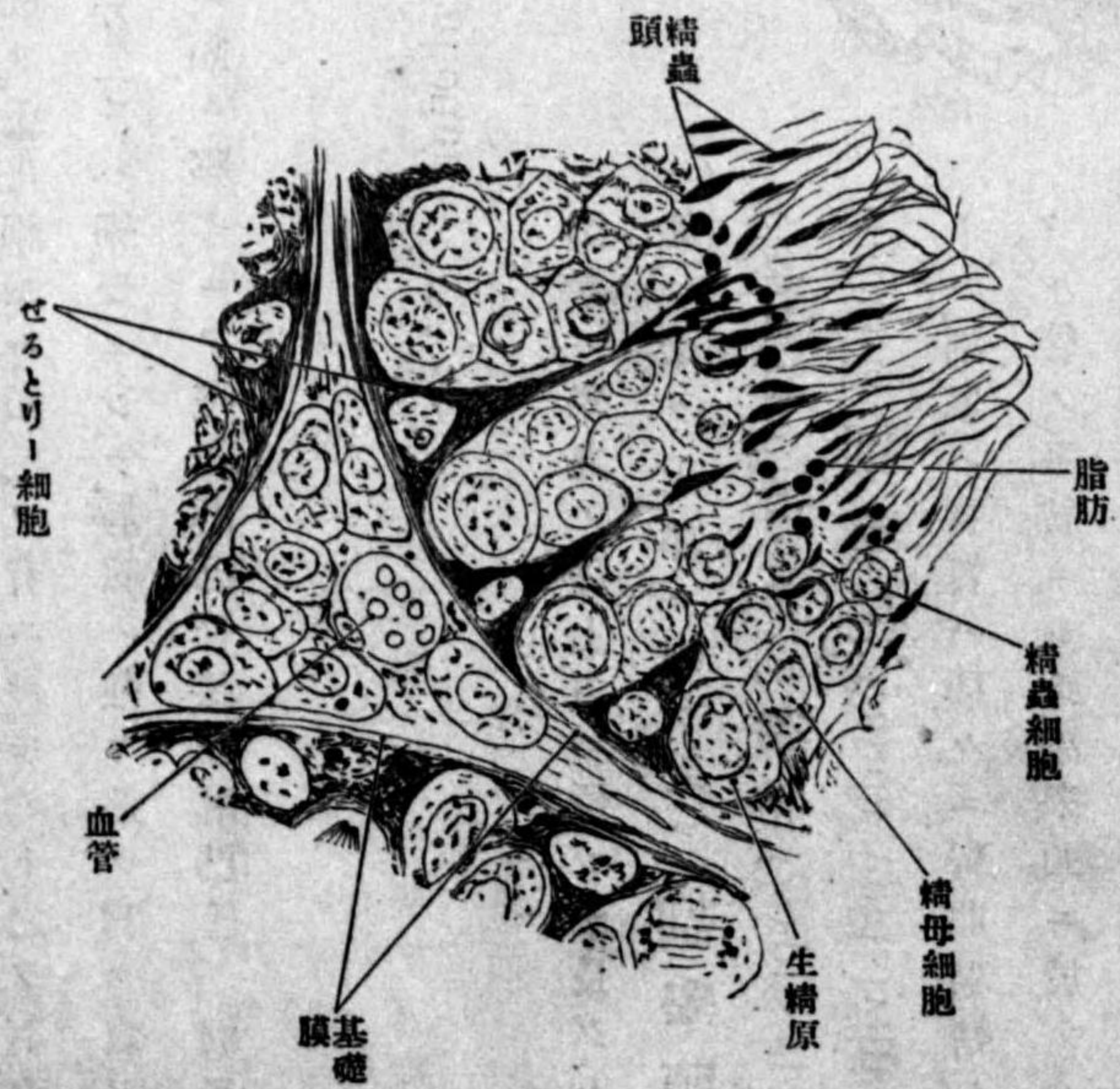
第六百六十九圖

右睾丸矢狀斷



第六百七十圖

細精管橫斷片(白鼠)約六百倍



テハ五〇—五五ミルヲ有シ精蟲細胞ノ核ハ頭原形質ノ一部ハ尾ト成リ中心體ハ頸及軸條 Achsenfäden ノ一部ニ變ズ直細精管ハ單層柱狀上皮精網ハ單層ノ骰子形或ハ扁平上皮ヲ被ル輸出管ハ輪狀滑

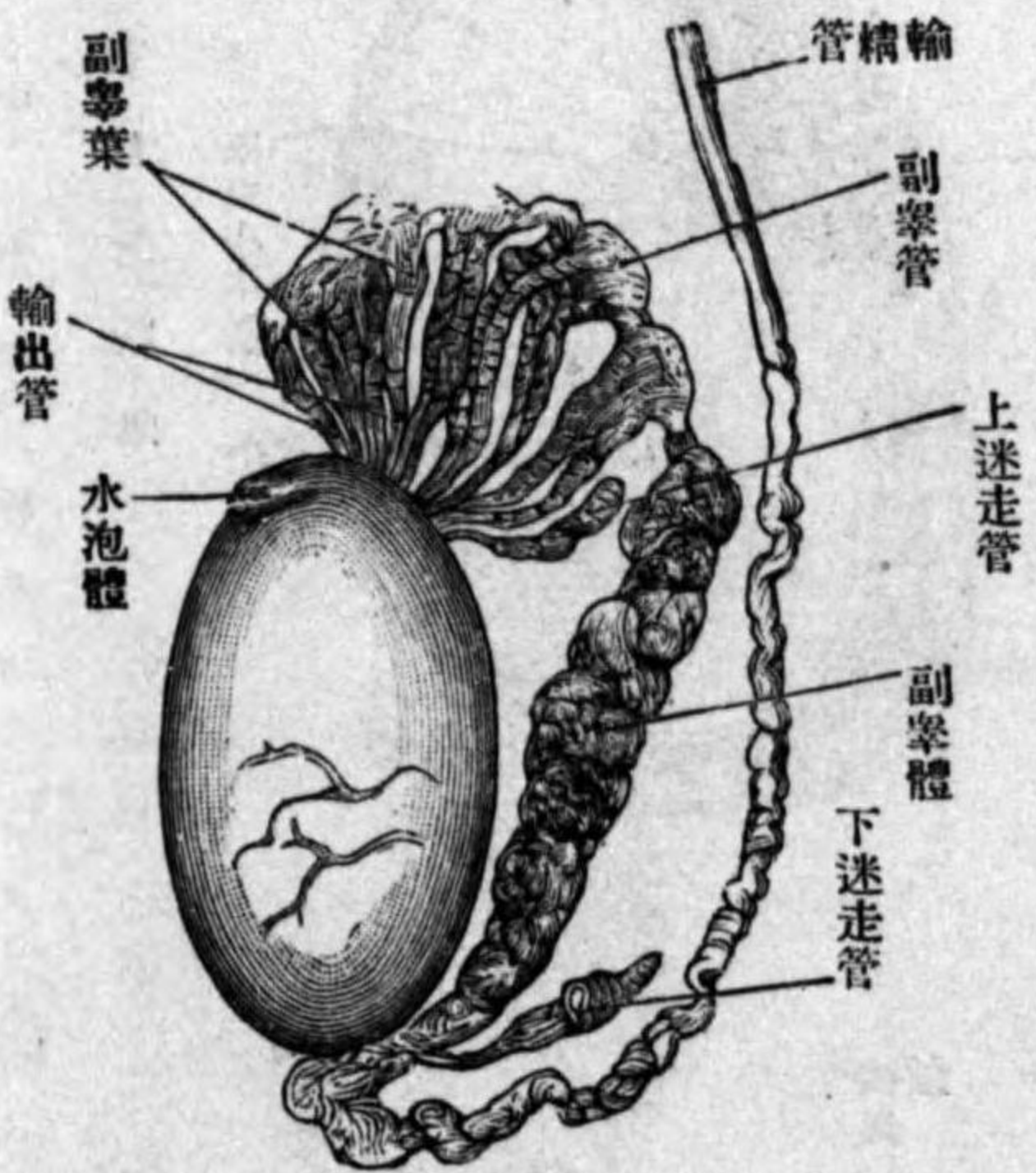
平筋層固有膜及單層柱狀上皮層トヨリ成リ、上皮細胞ハ顔毛ヲ有スルモノト、之ヲ有セザルモノトヲ混ズ、内精系動脈 Art. spermatica int. ハ細長ニシテ、靜脈ハ強キ叢ヲ爲ス之ヲ蔓狀叢 Plexus pampiniformis ト云フ、淋巴管ハ頗ル夥多ニシテ、淺在淋巴管深在淋巴管ノ別アリ

□ 副辜 Epididymis, Nebenhoden

副辜ハ辜丸ノ後上方ニ位シテ長ク、上部ハ太ク下部ハ細シ、之ヲ副辜頭 Caput epididymis 副辜體 Carpus epididymis 副辜尾 Cauda epididymis トス、副辜ノ實質ハ種々ニ彎曲廻轉シタル管ノ系統ニシテ、副辜頭ニ於テハ數多ノ小葉ニ分レ、其一端ハ輸出管ニ連リ、他端ハ副辜ノ後方ニ於テ一管ニ集合ス、之ヲ副辜管 Ductus epididy-

第六百一十一圖

辜副ルタシ開離ニ竝丸辜



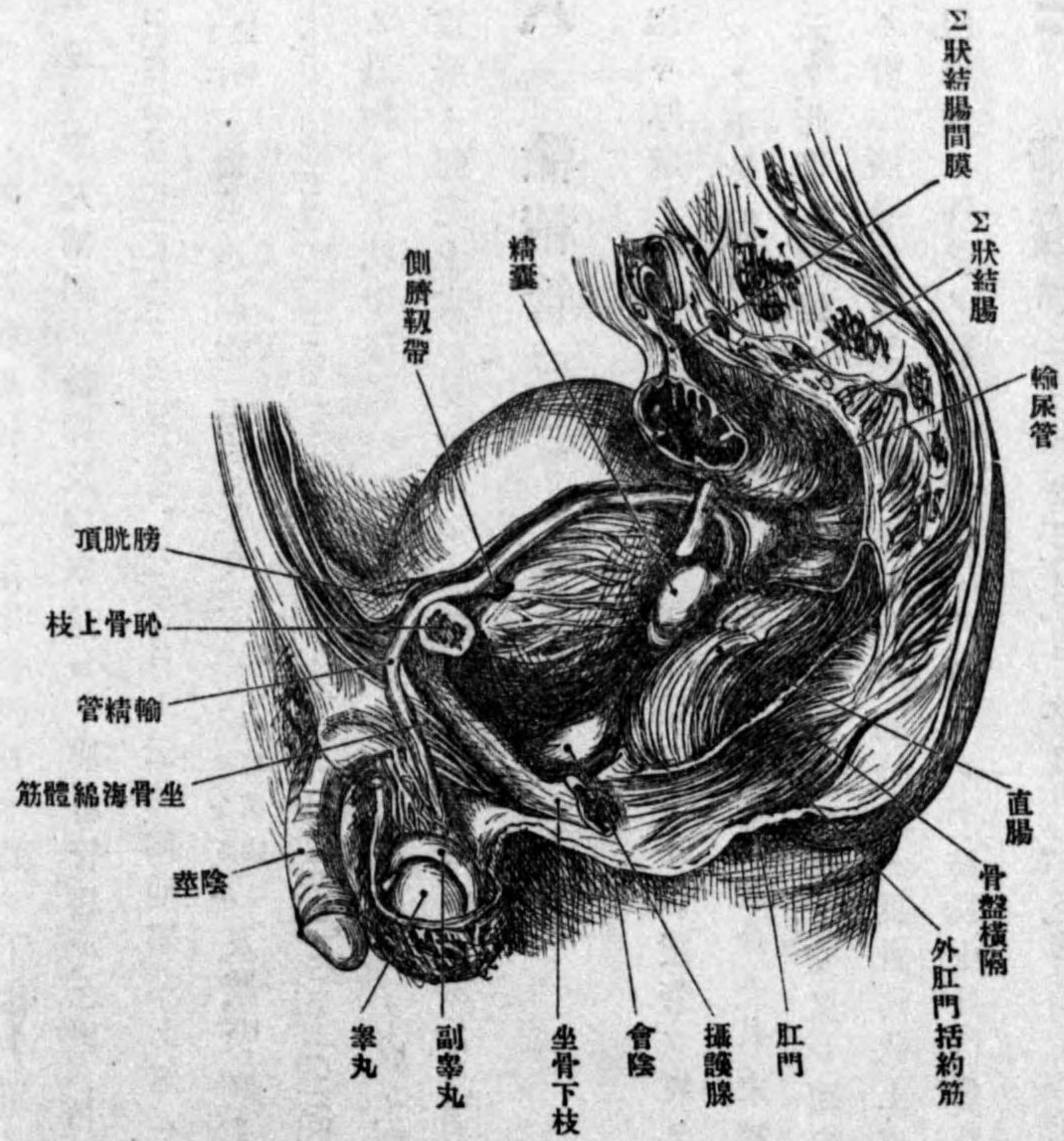
mis ト云フ此管ハ強ク擴張廻轉シテ副辜體及尾ヲ爲シ、下端ハ單一ナル輸精管 Vas deferens ニ連ル、辜丸精網ノ後側及副辜尾ヨリ屢、盲管起ル、之ヲ上及下迷走精管 Ductulus aberrans (Halleri) superior, inferior ト云フ、爾他辜丸上部ニ有莖水泡體 Gesticelte Hydatide みるれる 無莖水泡體 Ungesticelte Hydatide うなるるふ 及漿膜ヨリ生ズル鞘膜水泡體 Hydatides tunicae vaginalis (Morgagni) ヲリ又側辜丸 Paradidymis (Giraldis'sches Organ) ヲリ、各胎生ノ遺物ナリ、就中後者ハ二三分岐シタル小盲管ヨリ成ル、副辜ノ管壁ハ輸出管ニ近似シ重層ノ顔毛上皮ヨリ被ハル、筋層ハ輸精管ニ近ヅクニ隨テ肥厚ス

ハ 輸精管 Ductus deferens, Samenleiter

輸精管ハ細キ厚壁ノ管 長サ五十乃至六十仙 迷ニシテ、精系ヲ上リ鼠蹊管ヲ經テ前腹壁後面ニ達シ、外腹膜彎曲シテ小骨盤内ヘ下リ膀胱底ニ於テ精囊ト連合ス、其末端ニ近キ部ヲ膨大部 Ampulla ト云フ、此管ノ腹腔ニ入ルヤ直チニ下腹壁動脈ト交叉シ腹膜ニ覆ハル、管壁ハ外縦内輪走ノ滑平筋層、粘膜下膜、固有膜及重層圓柱或ハ重層磚狀上皮ヨリ成リ筋層ノ外圍ニ結締組織性ノ外膜ヲ被ル、膨大部ハ菲薄ニシテ粘膜中分枝管狀線ヲ含ム

ニ 精囊 Vesiculae seminales, Samenbläschen

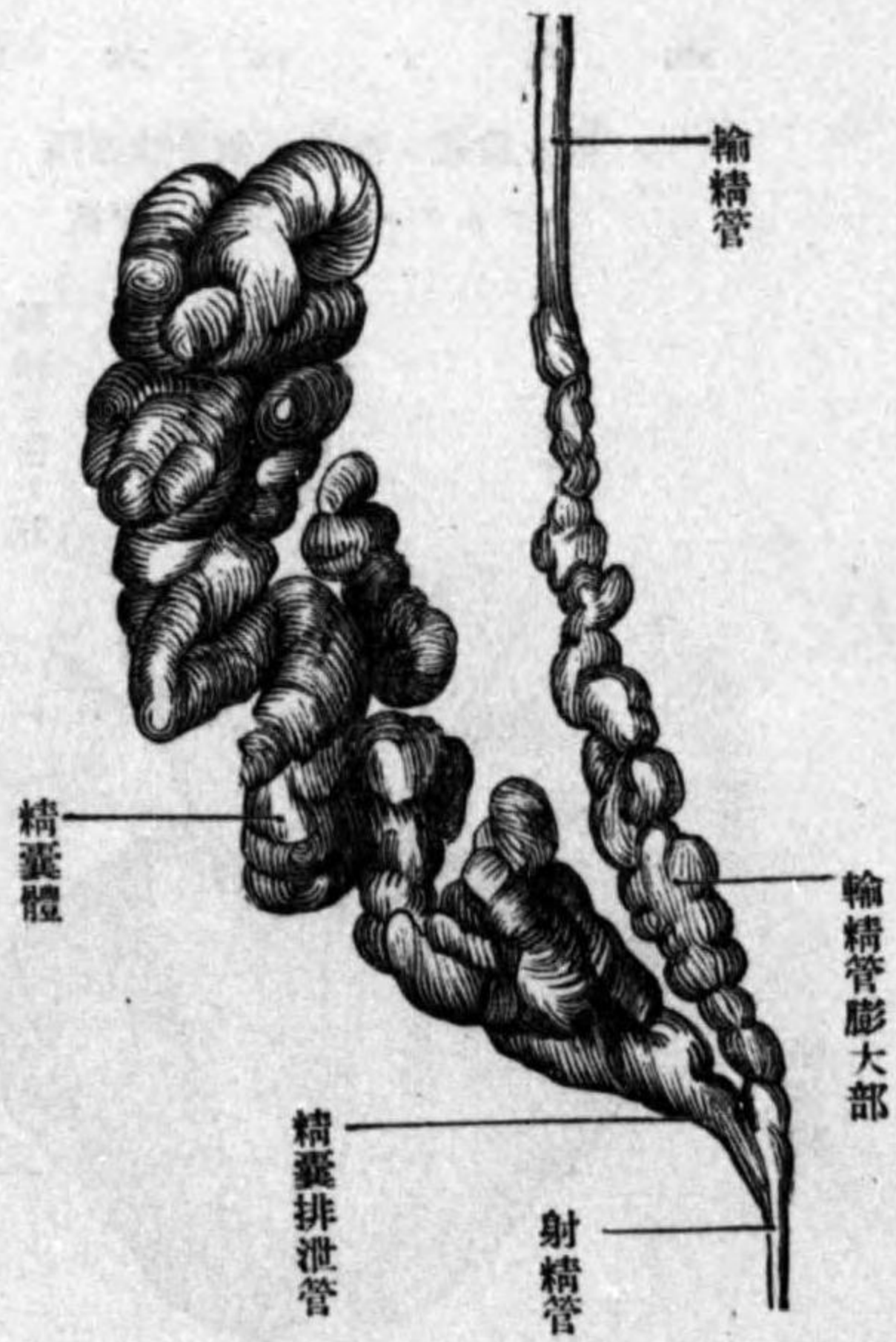
第六百六十二圖 男 骨盤內臟



精囊ハ扁平
長楕圓形ニ
シテ長サ四
仙ニ幅一・五
乃至二・四仙
迷膀胱底ニ
於テ輸精管
ノ外側ニ位
シ、後側ハ直
腸ニ接ス腸
ヨリ得此器
ハ膜質囊ニ
シテ後方ハ
盲端ニ終リ
數多ノ膨出
ヲ有シ且數

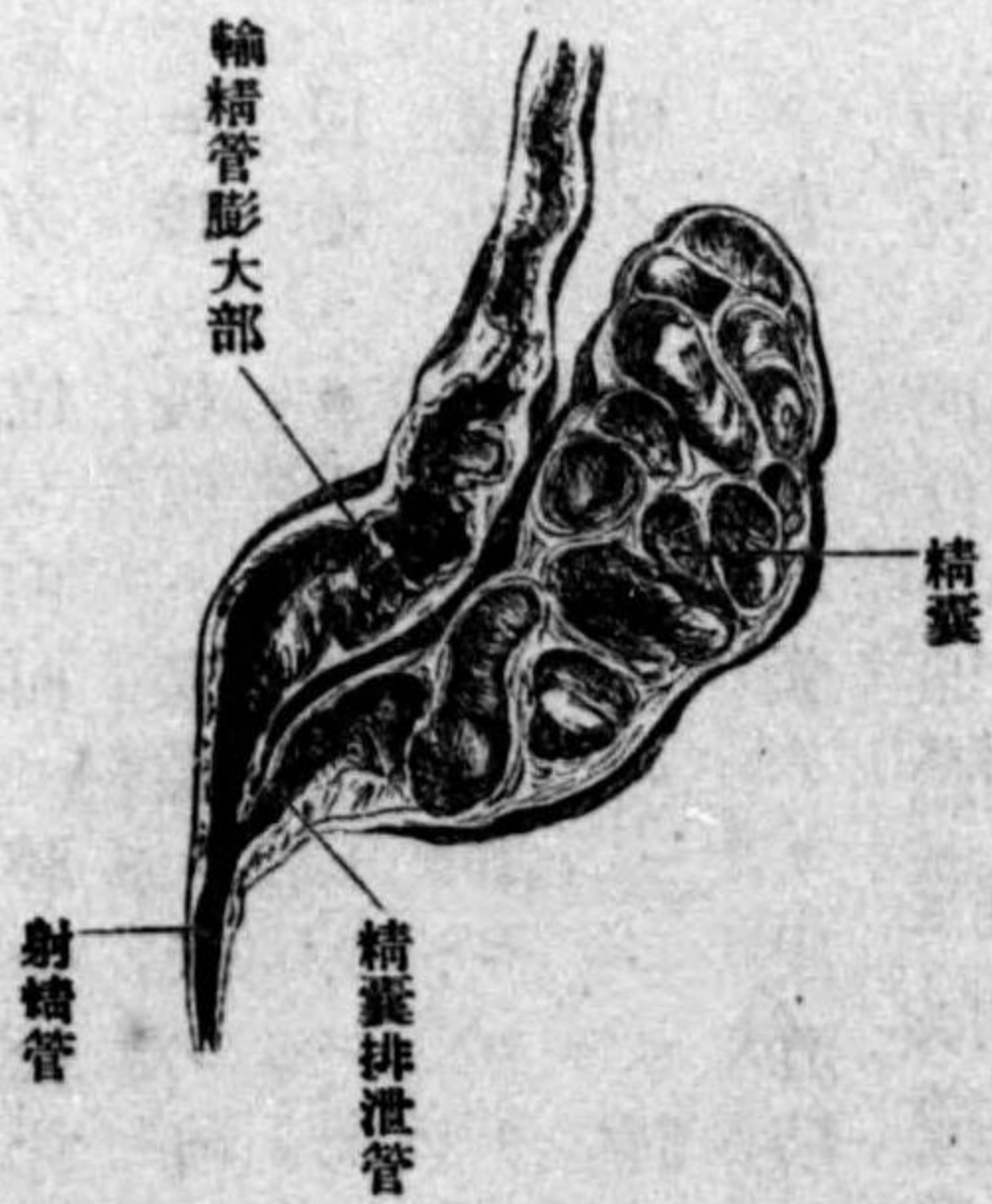
第六百六十三圖

右精囊及輸精管



第六百六十四圖

精囊及輸精管壺腹縱斷面



廻彎曲スト雖モ集合シテ前述ノ形狀ヲ呈ス、其前端ハ狹小シテ輸精管ト合シ射精管ト成ル、囊壁ハ輸精管壺腹ト同シ

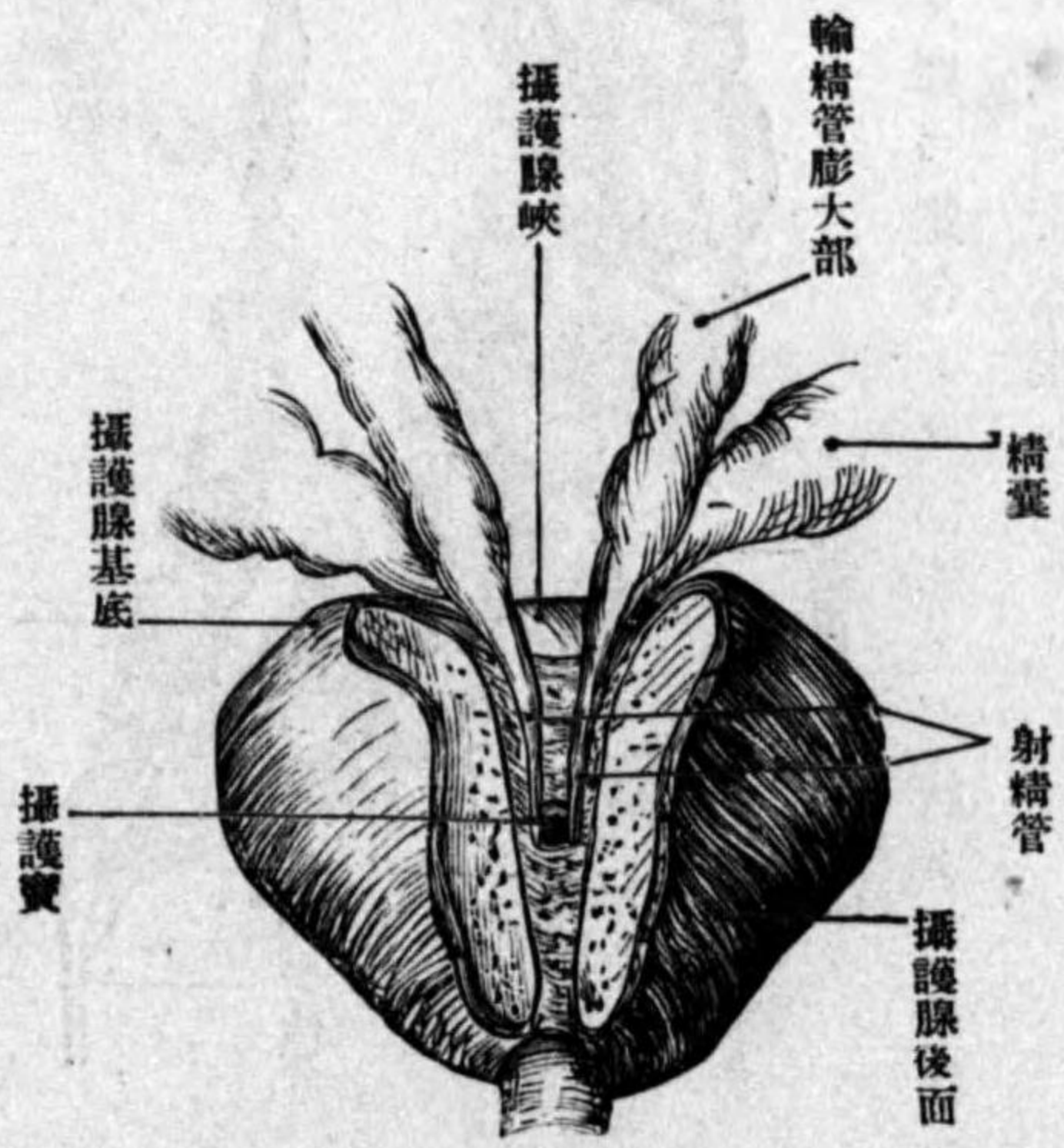
木 射精管 Ductus ejaculatori, Ausspritzungskanäle

射精管ハ短ク攝護腺ヲ穿チテ尿道精阜ノ上攝護腺竇ノ側方ニ開口ス、管壁ハ外縱走内

輪走ノ滑平筋層ト單層圓柱上皮トヨリ成リ緻密ナル靜脈叢ヲ含ミタル外膜ヲ被ル

攝護腺 Prostata, Vorsteherdrüse

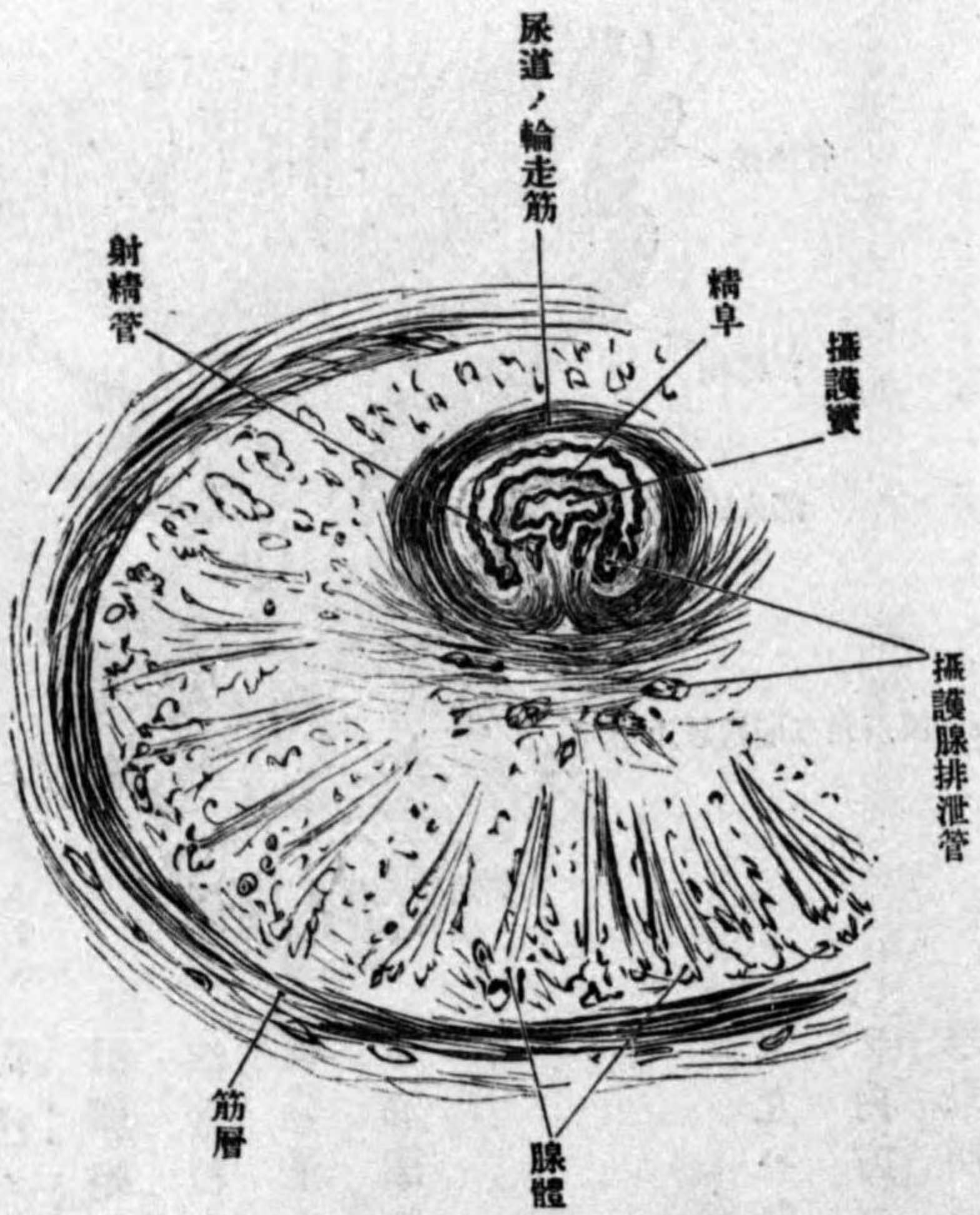
圖 五 十 百 六 第
射シ除載ヲ部一ノ側後腺攝攝
ノモルタメシセ出裸ヲ管精



culus prostaticus ナリ、攝護腺ノ前面ハ中恥骨攝護靱帶 Lig. puboprostaticum (pubovesicale) medium ヲ以テ恥骨軟骨接合ノ後面ト連結ス

攝護腺ハ栗子形ニシテ、縱徑三・二乃至四・二仙、迷幅三・五乃至五仙、迷厚サ一・七乃至二・二、基底三仙、迷重量一・七乃至二・八瓦、基底ハ後方、尖端ハ前方ニ向ヒ、膀胱ノ下方ニ位シ、前面ハ恥骨軟骨接合ニ接シ、後面ハ直腸ニ接シ、前部ヲ尿道ニヨリテ穿通セラレ、表面ニ現ハレタル中央ノ溝ニヨリテ二個ノ側葉 Seitliche Lappen ニ別ル、腺ノ實質中ニ小囊アリ、尿道精阜ノ中央ニ開口ス、即攝護腺竇 Utriculus

圖 六 十 百 六 第
(大 擴) 斷 橫 腺 護 攝



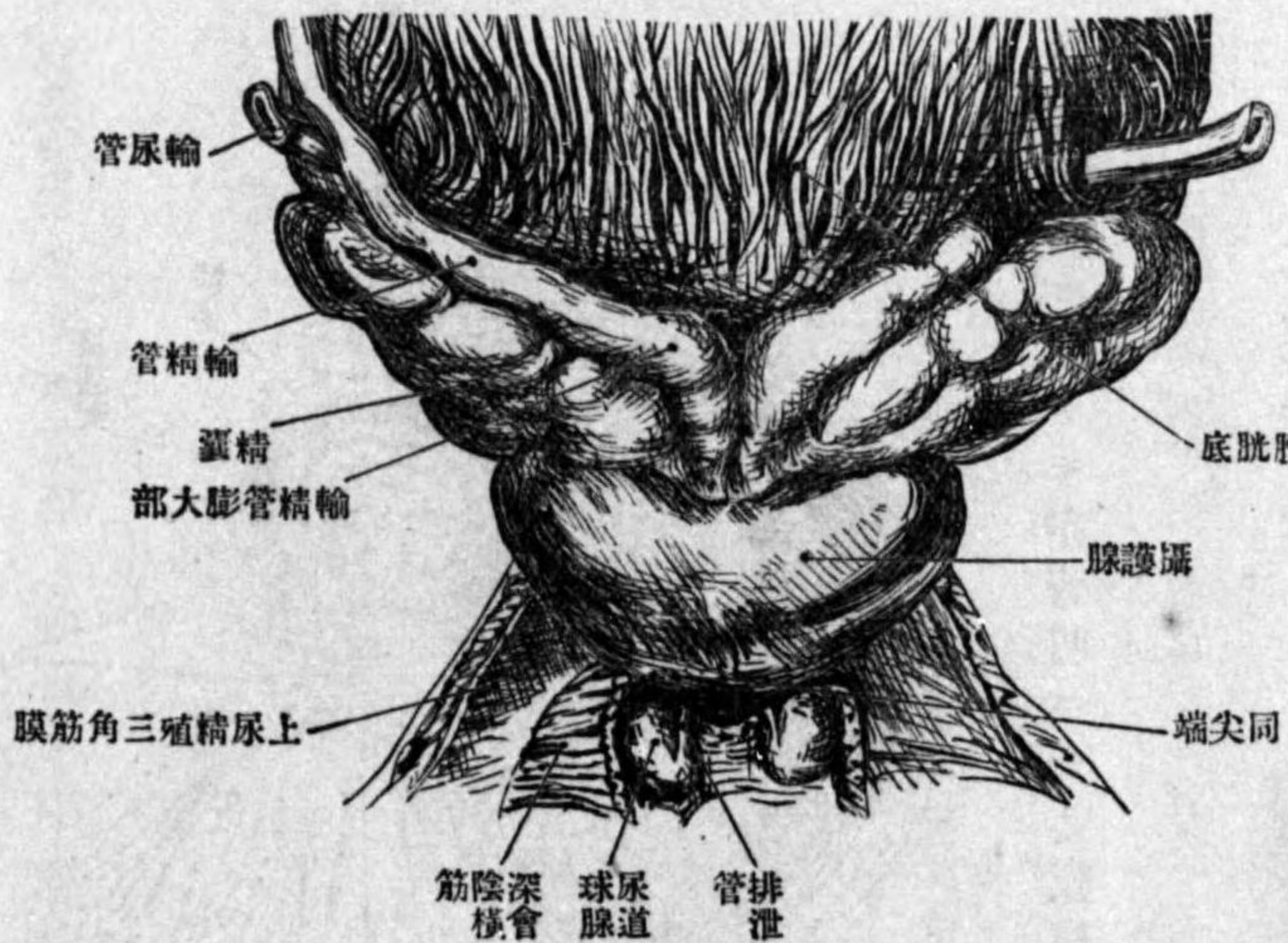
攝護腺ノ質ハ種々ニ織リ成サレタル滑平筋纖維、結締組織纖維及三十乃至五十個ノ漿液性單分枝管狀腺ヨリ成リ、二個ノ大ナル排泄管ト多數ノ管トヲ以テ尿道攝護部ニ注グ、腺ノ上皮ハ單層骰子形ニシテ大排泄管ハ中間上皮ヲ被リ、滑平筋ハ尿道周圍ニ接近スルニ從ヒ著明トナリ

テ輪狀ヲ爲シ、外面ニ於テモ亦著明ニシテ膜様尿道括約筋ト接ス、攝護腺ハ血管神經ヲ富有ス

尿道球腺 Glandulae bulbourethrales (Cowperi)

攝護腺 尿道球腺

第六百七十七圖 攝護腺及尿道球腺等後側



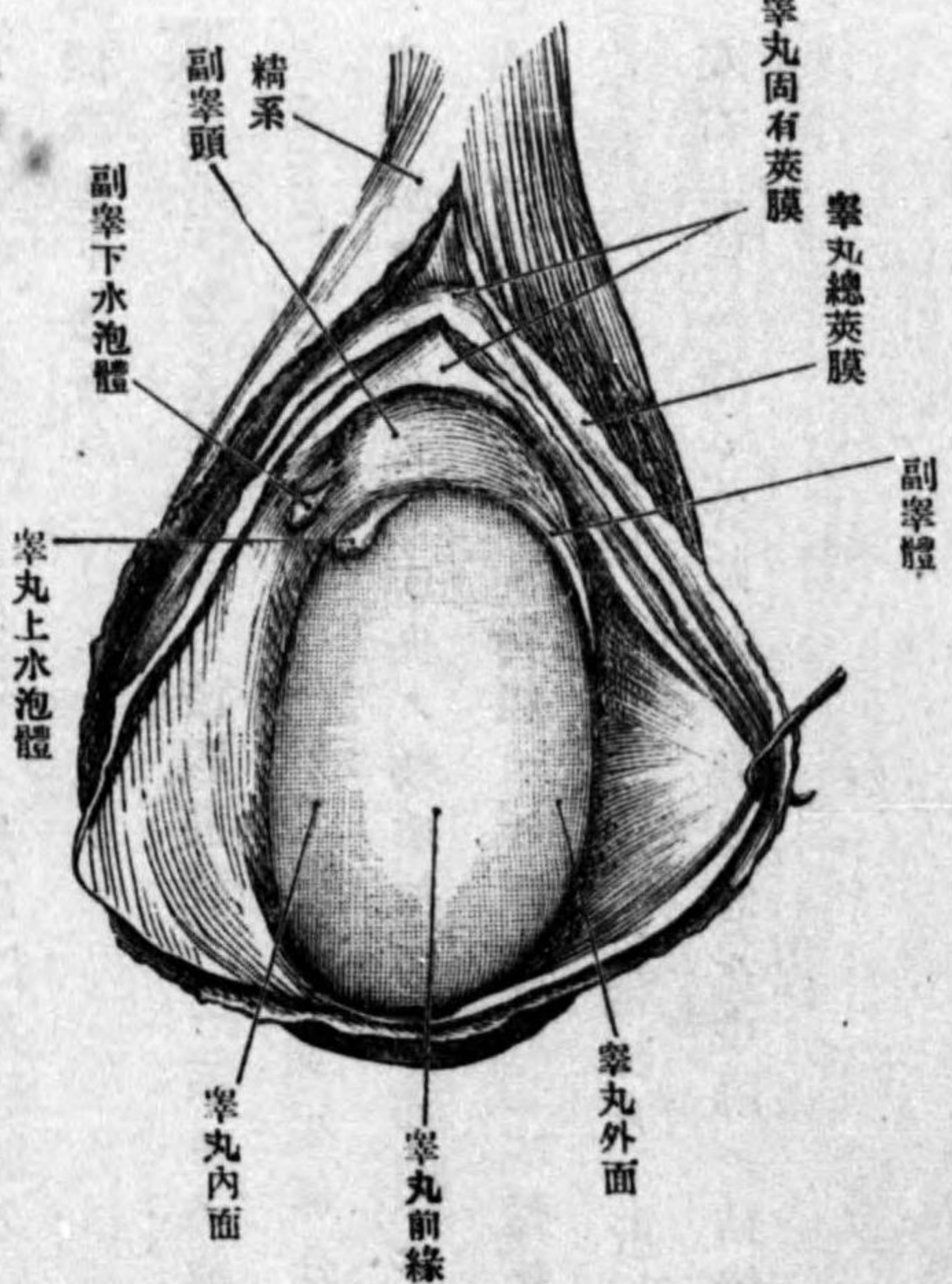
尿道球腺ハ一對ノ豌豆大ノ腺ニシテ
増齡ニ從ヒ漸次縮小シ尿道球ノ後方
深會陰橫筋中ニアリ短管ヲ以テ尿道
海綿部ノ後部ニ通ズ此腺ハ暗黃乃至
褐色ノ管狀及胞狀ノ混合腺ニシテ粘
液細胞ニ類似シタル腺細胞ヲ有シ排
泄管枝ハ低キ單層柱狀上皮ヲ被リ大
管ハ上皮細胞重層ニ爲シ小葉間ニ滑
平筋纖維ヲ有ス

十部 辜丸ノ被膜

Hüllen des Hodens

辜丸ハ白膜ノ外數層ノ被膜ヲ被ル之
ヲ内方ヨリ算フレバ固有莢膜、總莢膜
辜丸筋膜、陰囊之ナリ

第六百八十八圖 莢膜前側ヲ開キ左ノ副辜丸及副辜丸ヲ見ル



1. 固有莢膜 *Tunica vaginalis propria*、腹膜ノ延長部ニシテ二葉ヨリ成ル、内臟板
Lamina visceralis 及體壁板 *Lamina parietalis* 之ナリ此二葉ノ移行部ハ辜丸ノ後緣ニ
シテ副辜ノ附着部ナリ、辜丸
及副辜ノ間ニ外方ヨリ固有
莢膜ノ皺襞ガ入ル之ヲ副
辜竇 *Sinus epididymis* ト云
フ此膜ノ二葉間即互ノ接觸
面ハ常ニ少量ノ漿液ヲ含ム
之ヲ漿液囊 *Serosensack* ト云
フ此囊ト腹膜トノ連續部ハ
精系中ニ走ル腹膜ノ鞘狀突
起 *Processus vaginalis Peritonaei*

ニシテ最初ハ中腔ニシテ二腔ノ交通ヲ營ムト雖後ニ癒著シテ鞘狀韌帶 *Ligamentum vasi-*
nale (*Rudimentum proc. vaginalis*) トナル

2. 總莢膜 *Tunica vaginalis communis* ハ結締組織性ノ被膜ニシテ、辜丸副辜及精系ヲ

包ミ固有莢膜ノ體壁板ト密著シ内鼠蹊輪ニ於テ橫筋膜 fascia transversaニ移行ス
 3. 舉辜筋膜 Tunica cremasterica 又舉辜筋 M. cremaster ハ内斜腹筋及橫腹筋纖維ノ延長部ニシテ總莢膜ト癒合ス

4. 柱間鞘 Vagina intercolumnaris ハ外斜腹筋腱膜ノ一系ニシテ外鼠蹊輪部ヨリ起リ柱間纖維(脚間纖維)ト連合ス

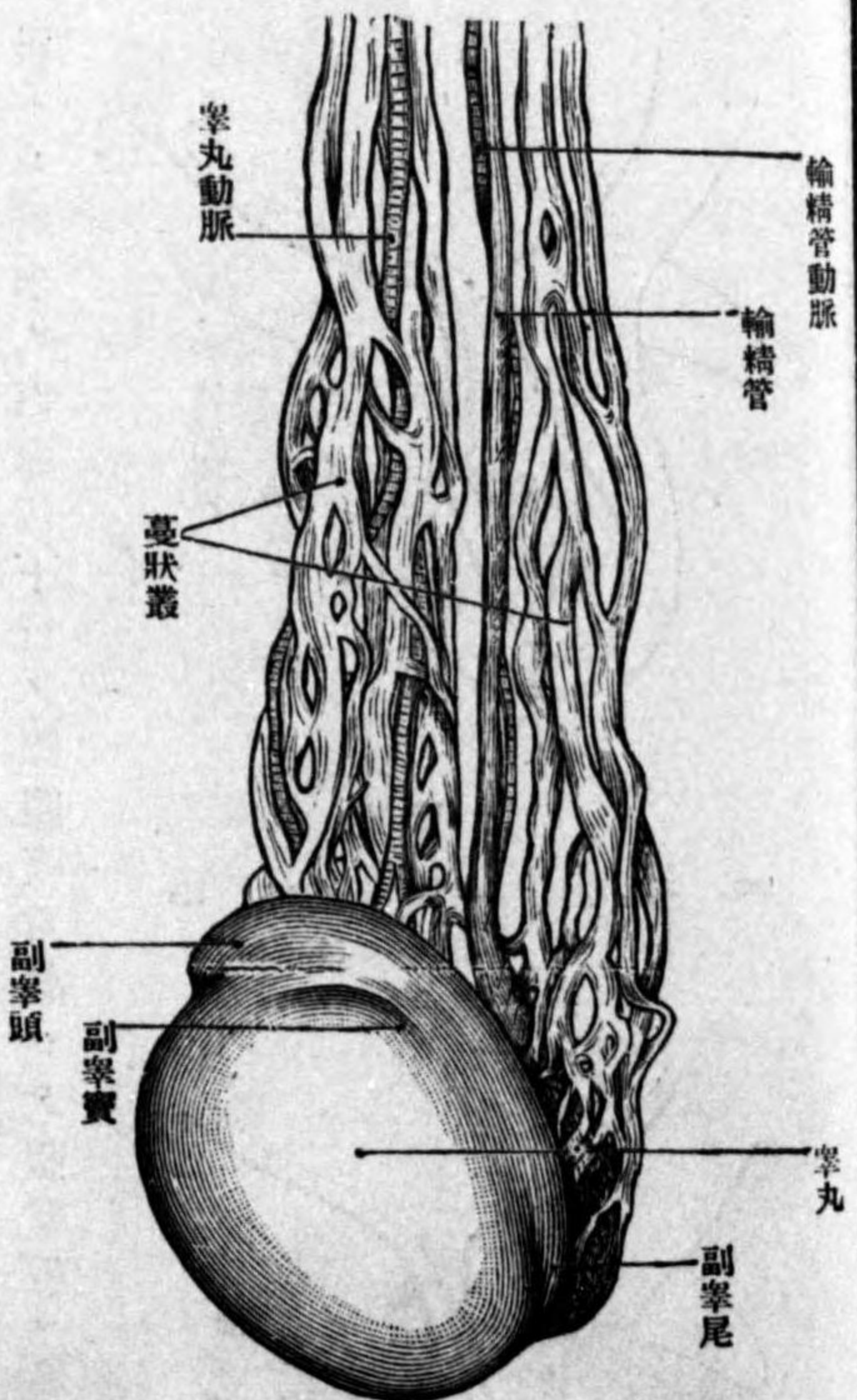
5. 淺筋膜 fascia superficialis ハ淺腹筋膜ノ一系ニシテ薄シ

6. 陰囊 Scrotum, Hodensack ハ皮膚ノ擴張シタル部分ニシテ皮下組織ト外皮ヨリ成リ一對ノ皮皺襞ヨリ發育シ中央ノ狹窄部即チ縫腺 Raphe ハ其癒著ヲ顯ス外皮ハ薄ク皺襞色素竝ニ皮脂腺ニ富ミ稀粗ナル剛毛ヲ生ジ鬆粗ナル皮下組織ハ肉様膜 Tunica dartos ト稱スル滑平筋層ヲ有ス陰囊ハ縫腺ニ一致シタル陰囊中隔 Septum scroti ニヨリテ左右二區ニ分レ各區ニ一丸ヲ容ル中隔ハ結締組織及滑平筋ヨリ成リ肉様膜ノ連續タリ

精系 funiculus spermaticus, Samenstrang

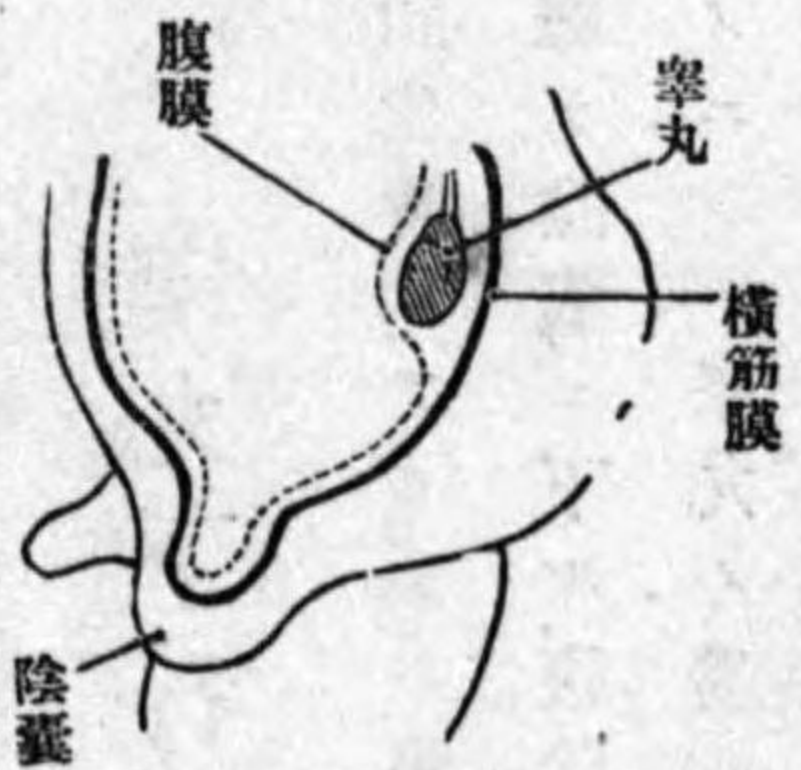
精系ハ辜丸ヨリ腹壁ニ互ル太キ索條ニシテ輸精管、脈管、神經、結締組織、總莢膜、舉辜筋膜、

圖九百六十六 左辜丸及精系ノ外側

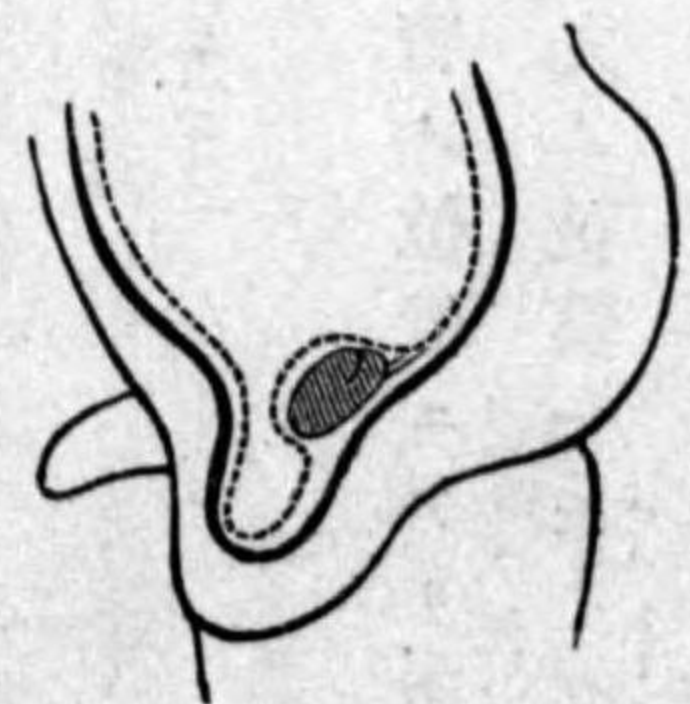


鞘狀韌帶 Ligamentum vaginale 淺腹筋膜ノ延長部等ヨリ成リ腹壁ヲ穿通スル際漸々其鞘層ヲ失フモノトス、即外鼠蹊輪ニ於テ淺腹筋膜、鼠蹊管内ニ

圖二百六十二 辜丸下行型圖



圖二百六十一 同上



於テ舉辜筋膜、内鼠蹊輪ニ於テ總莢膜ヲ失ヒ輸精管、内精系動脈、同靜脈及鞘狀韌帶等ハ互ニ相分離シ輸精管ハ小骨盤ニ下リ血管神經ハ上方

ニ向フ

睪丸下行 Descensus testium

睪丸ハ胎生時ニアリテハ腹腔内ニ於テ腎ノ位置ニアリ、産生時ニ先ツテ下行ヲ始メ鼠蹊管ヲ經テ陰囊ニ下ル、腹壁ヨリ來ル睪丸ノ被膜 Hilum ハ既ニ睪丸下行ニ先ツテ生ジタルモノニシテ睪丸ノ爲ニ押出セラレタルモノニアラズ、睪丸ハ腹腔ニ於テハ前側ノミ腹膜ニ被ハレ(將來ノ内臟板)下行ノ際腹膜重疊シテ體壁板ヲ爲シ、下行ノ當時其漿膜

圖 二 十 二 百 六 第
上 同

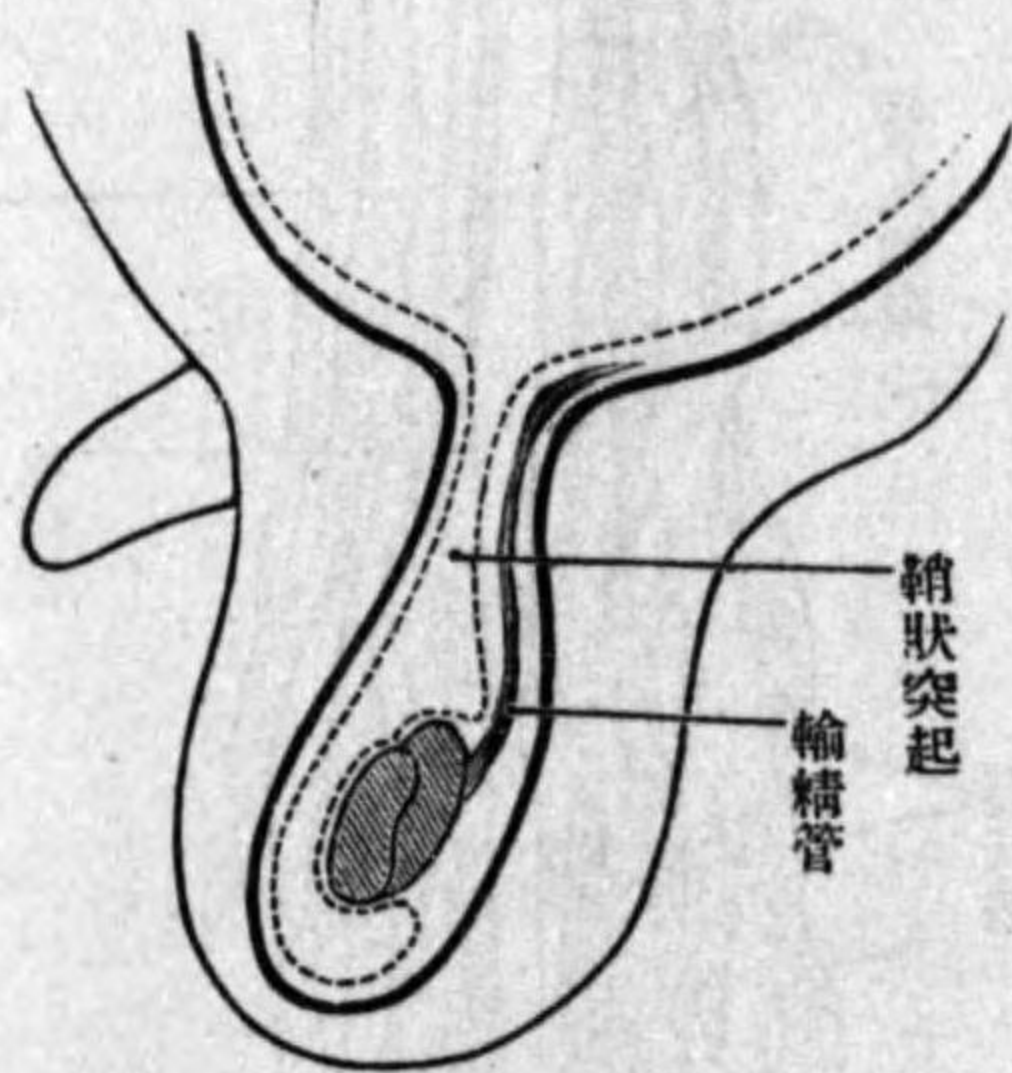
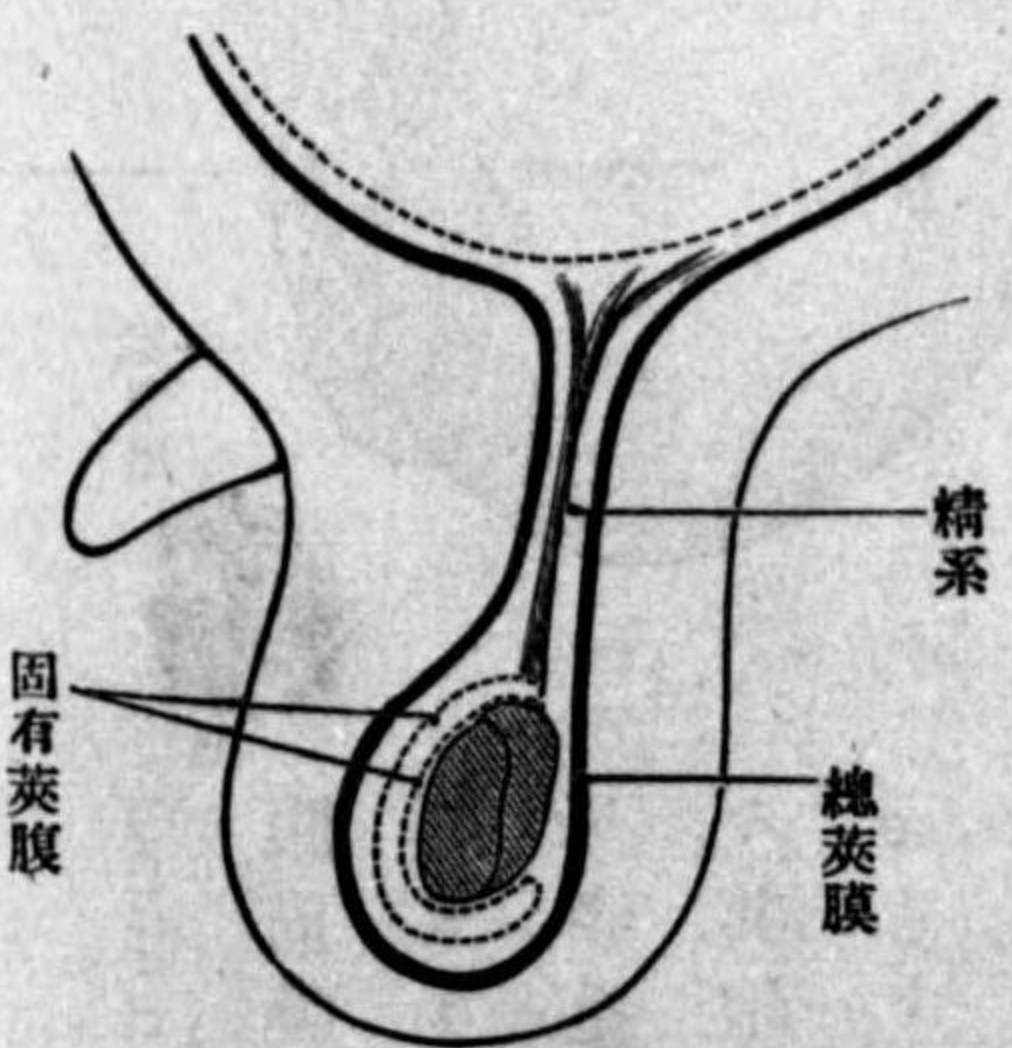
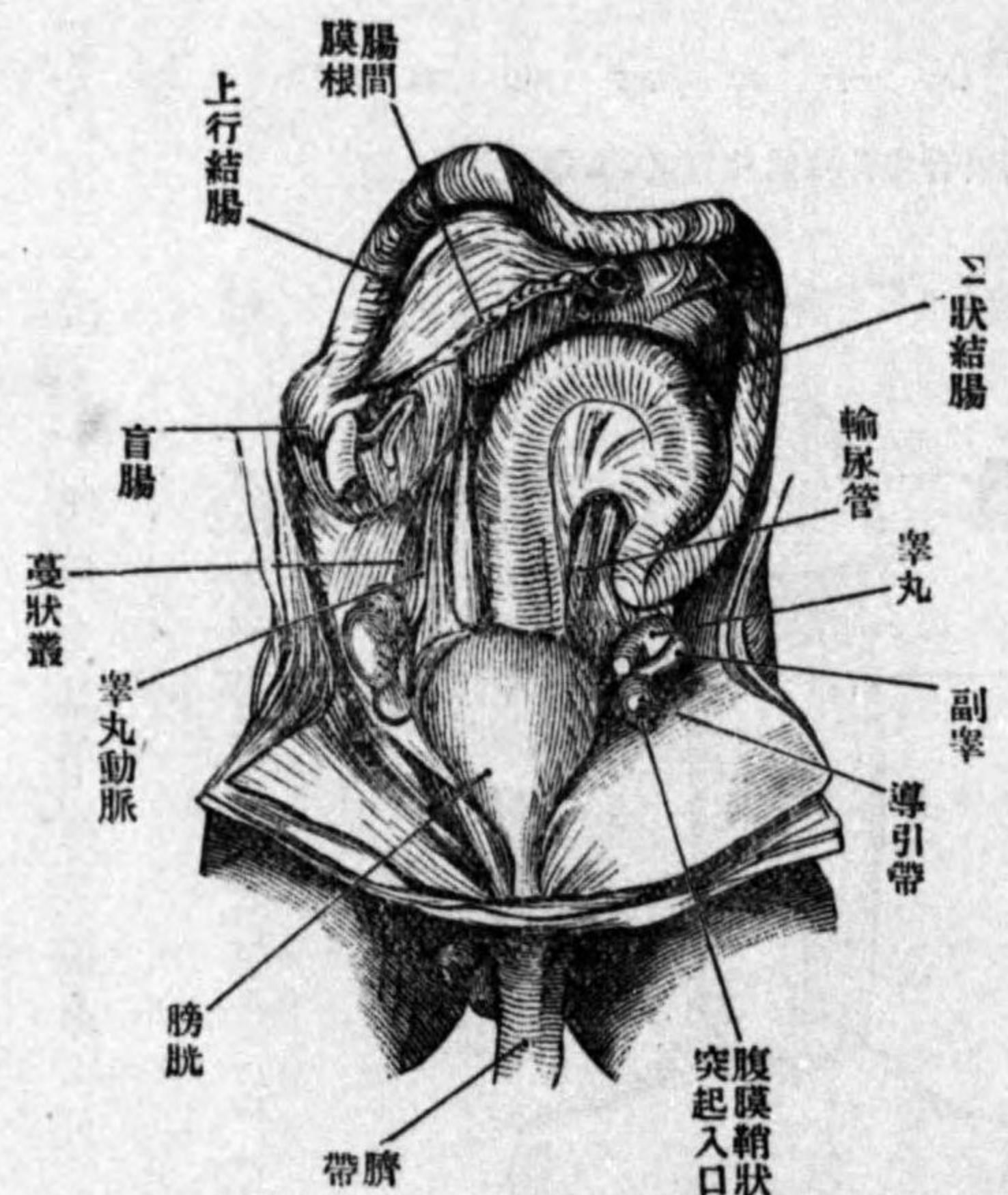


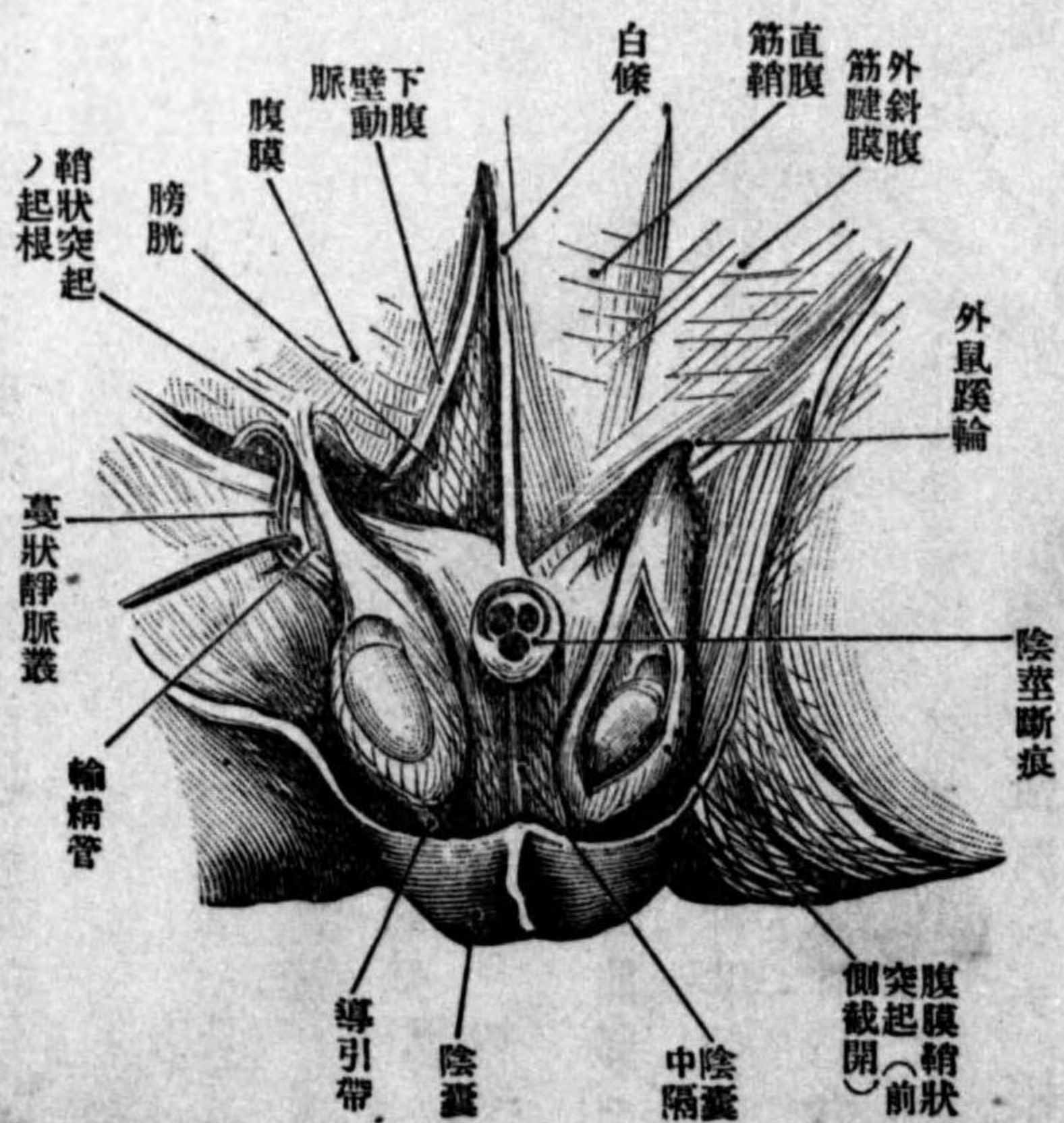
圖 三 十 二 百 六 第
上 同



第 六 百 二 十 四 圖
六ヶ月胎兒内臟



第 六 百 二 十 五 圖
約十ヶ月ノ胎兒鼠蹊及陰部(右側ハ腹筋ヲ截除ス)



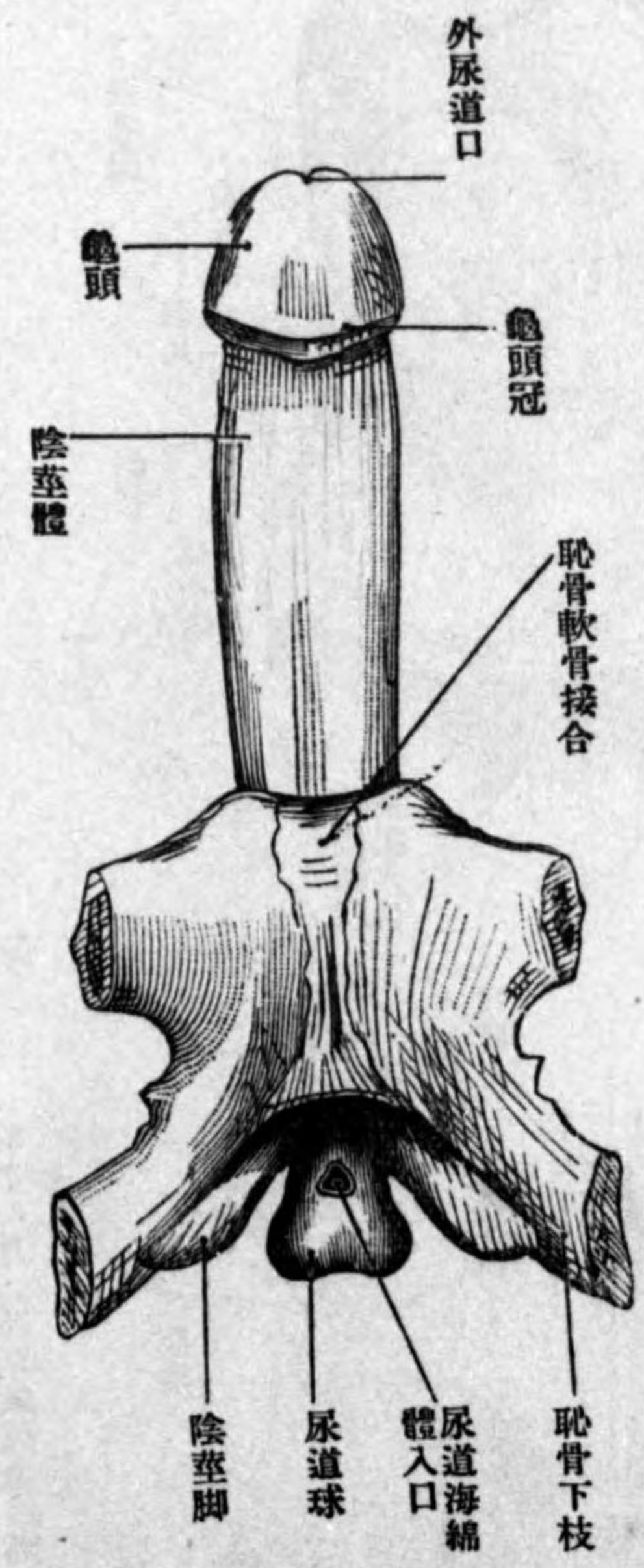
腔ハ一管即チ腹膜鞘狀突起 Processus vaginalis peritonei ヲ以テ腹膜腔ニ通シ後ニ至リ鞘狀突起内面相癒著シテ索條即チ鞘狀靱帶ニ變ジ下部ハ固有ノ睪丸固有莖膜ト成ル突起

睪丸下行

癒著セズシテ腹腔斯ク腹膜ヨリ覆ハレタル辜丸ハ副辜ト共ニ横筋膜ヨリ來ル鞘ヲ被ルト通ズルヲアリ
 即チ總莖膜ナリ、其他腹筋層ヨリ舉辜筋膜、柱間筋膜、淺筋膜來リ、外鼠蹊輪ノ外方ハ外皮擴張シテ陰囊ヲ形成ス、辜丸ノ下端ハ陰囊底ト一索條(導引帶 Gebernaculum testis, Hunteri, Leiband)ニ依リテ連合シ、其下行ヲ補ク

リ 陰莖 Penis, Männliche Glied

圖六十二百六第
 側後合接骨軟竝側背ノ(上舉)莖陰



陰莖ハ圓柱形
 約九仙迷周圍ニシテ骨盤前部ニ固著シ、静止時ニハ恥骨軟骨接合ノ前側ヨリ下垂ス、區別シテ根 Radix, Wurzel

體 Corpus, Schaft 龜頭 Glans, Eichel ノ三部トシ、上面ヲ陰莖背 Dorsum Penis トス

之ニ反シタル面ヲ尿道面 facies urethralis ト名ク、陰莖ノ實質ハ三個ノ海綿體 Schwellkörpern ヨリ成リ、外皮ヲ以テ被ハル、海綿體ノ一ハ尿道ヲ圍擁シ(尿道海綿體)他ノ二個(陰莖海綿體)ハ其上ニ竝列ス

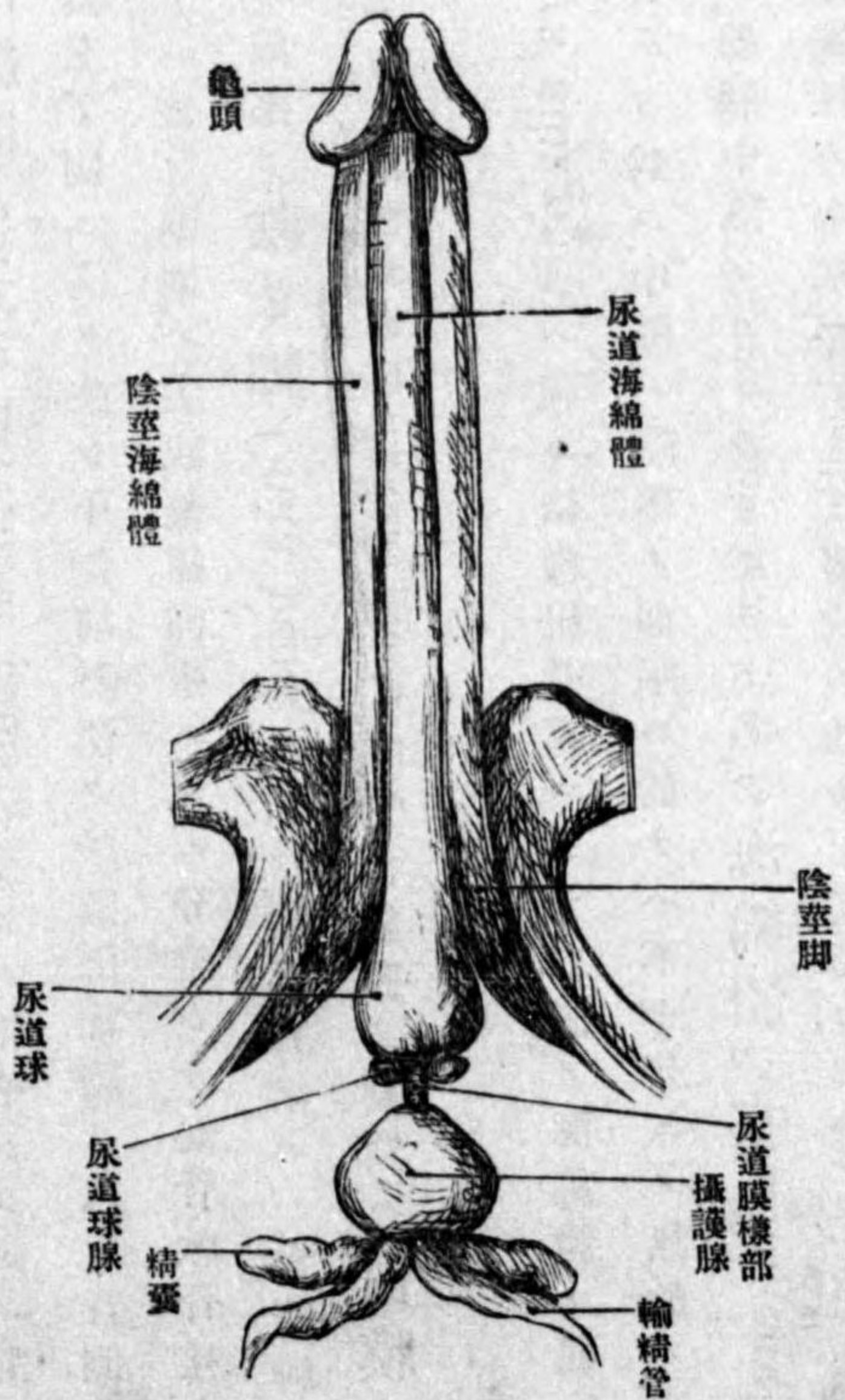
1. 陰莖海綿體 Corpora cavernosa penis ハ少シク壓平シタル一對ノ圓柱ニシテ、相互ニ接著シ、其上下側ニ溝ヲ生シ、下側溝ハ深ク尿道海綿體ヲ入レ、背側溝(陰莖背溝 Sulcus dorsalis penis)ハ淺ク、前端ハ尖銳、後端即根ハ互ニ分離シテ恥骨軟骨接合、恥骨及坐骨ノ下

枝ニ附著ス、此部ヲ陰莖脚 Crura penis ト云フ、陰莖背溝ニハ血管神經ヲ通ジ、
 Vena dorsalis penis 走リ、其兩側ニ陰莖背動脈 Aa. dorsales penis フリ、其側方ニ陰莖背神經 N. dorsales penis ナ見ル、海綿體ノ實質ハ白膜ト個有ノ海綿質ヨリ成ル

白膜 Tunica albuginea ハ強キ結締組織膜ニシテ、二個ノ海綿體ノ間ニ於テ陰莖中隔 Septum penis ヲ爲ス、中隔ハ陰莖ノ前半ニ於テハ不十分ニ、無數ノ裂隙ヲ生シ、櫛狀ヲ爲スヲ以テ櫛狀中隔 Septum pectiniforme ト名ク、海綿體 Schwammgewebe ハ滑平筋束ヲ有スル結締組織性ノ小梁 Trabeculae 網狀ニ結合シ、其間タニ海綿腔 Cavernösen Bluträumen ヲ生ズ、海綿腔壁ハ單層扁平上皮ヲ以テ被ハレ、内ニ靜脈血ヲ充タヌ、海綿體ノ動脈ハ一部ハ白膜下ニ於テ毛細管網(表層皮質網 Oberflächliches Rindennetz)ヲ爲ス、此網ハ海綿質

ノ表層ニアリテ次層ニ於ル海绵腔ニ通ズル静脈網(深層皮質網 Ticles Rindennetz)ト連リ、
 動脈ノ一部ハ直ニ静脈網ニ注グ、海绵體ノ静脈(導血静脈 Venae emissariae)ハ一部ハ静脈

第六百二十七圖
 陰莖(上舉)下側位攝護腺精
 囊(下方)牽引ス)下側位



網一部ハ海绵體ノ深部ヨリ起リ白膜ヲ穿通シ陰莖背静脈ニ注グ
 2. 尿道海绵體 Corpora cavernosum urethraeハ延長シタル圓錐形ニ

ノ基底ハ後方陰莖海绵體ノ間ニ於テ膨大ス之ヲ尿道球 Bulbus urethraeト云フ前
 ハ更ニ膨大ノ圓錐形ヲ成ス即龜頭 Glans penis ナリ龜頭ハ陰莖海绵體ノ前尖ヲ覆ヒ
 陰莖ノ前端ヲ形成ス其基底ヲ龜頭冠 Corona glandisト云ヒ其後方ヲ龜頭頸 Collum

第六百二十八圖
 猿ノ陰莖海绵體切片(約二〇〇倍)



外尿道口 Orificium urethrae
 一般ニ滑澤ニシテ冠部
 ニ近クニ随ヒ多少著明ノ乳頭
 Papille 顯ハレ小皮脂腺ヲ具フ
 ト雖モ龜頭冠ニハ之ヲ缺ク
 陰莖ノ筋膜 Fascia penis 龜
 頭ヲ除キ三海绵體ヲ共ニ被包
 ス其恥骨軟骨接合ニ連ル纖維
 ヲ深提莖韌帶 Lig. suspen-
 sorium penis profundum ト云
 フ白條ニ互ル部ヲ淺提莖韌
 帶 Lig. suspensorium penis
 superficiale ト云フ
 外皮ハ陰莖體ニ於テハ緩ク附
 著シテ移動シ易ク龜頭ニハ密

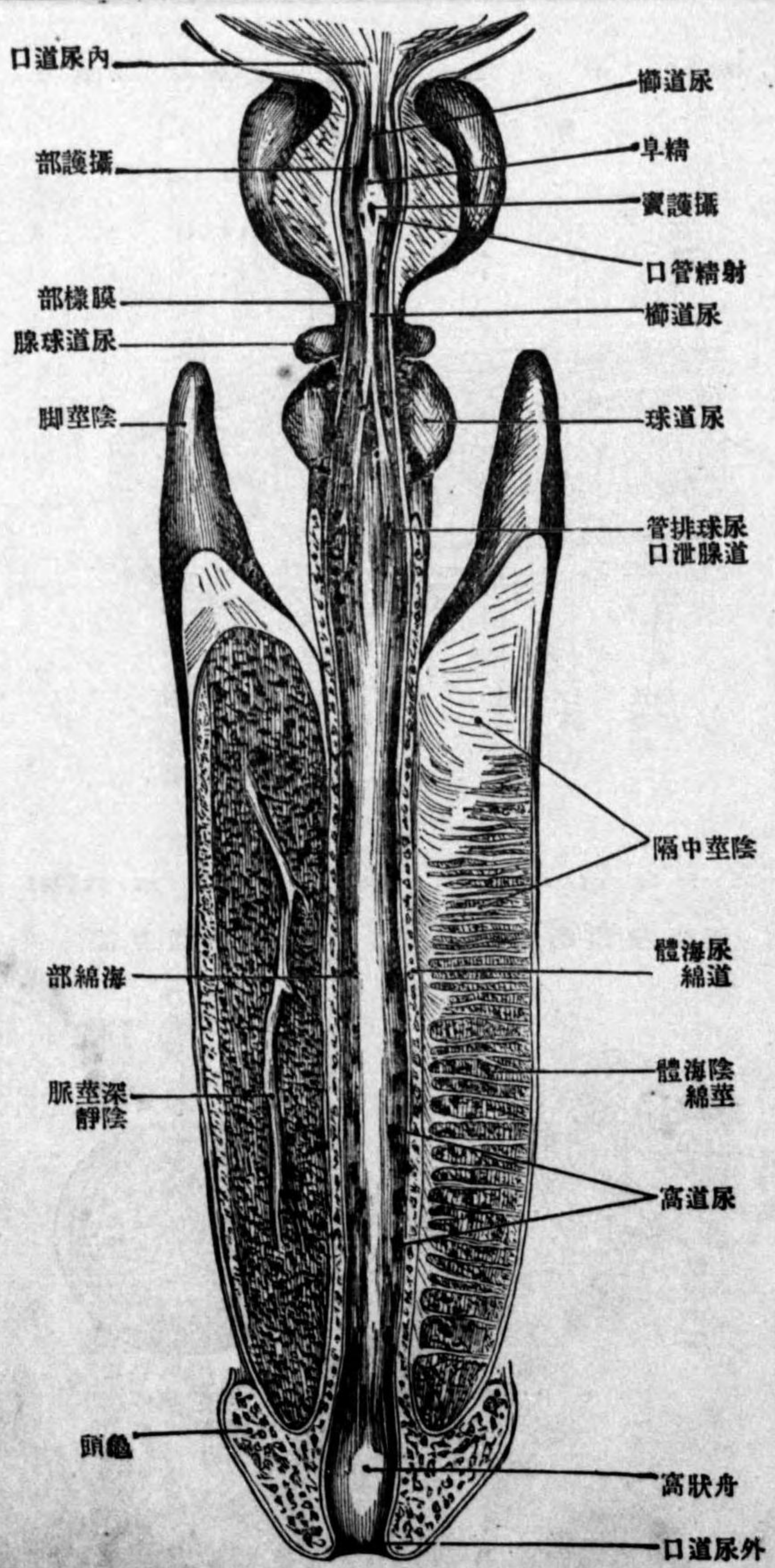
著シ體ト龜頭ノ移行部ニ於テ輪狀ノ皺襞ヲ成ス之ヲ前皮 Praeputium, Vorhaut ト云フ、小兒ニ於テハ通常龜頭ノ全部ヲ包ミ前方ニ口(包皮口 Orificium praeputii)ヲ開ク大人ニ於テモ猶著明ナルモノアリ即包莖 Phimose ナリ、前皮ハ通常龜頭ヲ越エテ後方ニ移動シ得ベシ、其形狀ハ殆ド輪狀ヲ呈スト雖モ下方ハ前皮繫帶 frenulum praeputii ト成リ外尿道口ノ後側ニ終ル、龜頭ト前皮ノ間ニ生ズル白色有臭ノ糊狀塊ヲ前皮垢脂 Smegma praeputii ト云フ、専ラ龜頭ヨリ脫離シタル上皮ト汗腺(Glandulae praeputiales, Tysonianae)ノ分泌物ヨリ成ル

又 尿道 Urethra, Harnröhre, Canalis uro-genitalis

尿道ハ尿道海綿體ヲ縱貫スル長キ膜管ニシテ膀胱ニ始マリ龜頭ノ前端ニ終ル其長サ陰莖ニ準シ約二〇仙迷ヲ算ス、形狀ハ又陰莖ノ形狀ニ隨ヒ、下垂時ニハS字狀ヲ呈シ、勃起時ニハ弓形ニ彎曲ス、周圍ノ關係ニ由リ區別シテ攝護部、膜樣部、海綿部ノ三部トス

1. 攝護部 Pars prostatica ハ長サ約三仙迷ニシテ擴張性ヲ有シ攝護腺ノ前部ヲ穿通シ前方ニ開キタル弓ヲ成ス、後壁ニ精阜 Colliculus seminalis ト稱スル小丘アリ、其上ニ攝護腺開口シ、其兩側ニ射精管開口キ、精阜ノ周圍部ニハ攝護腺ノ排泄管數多開口ス

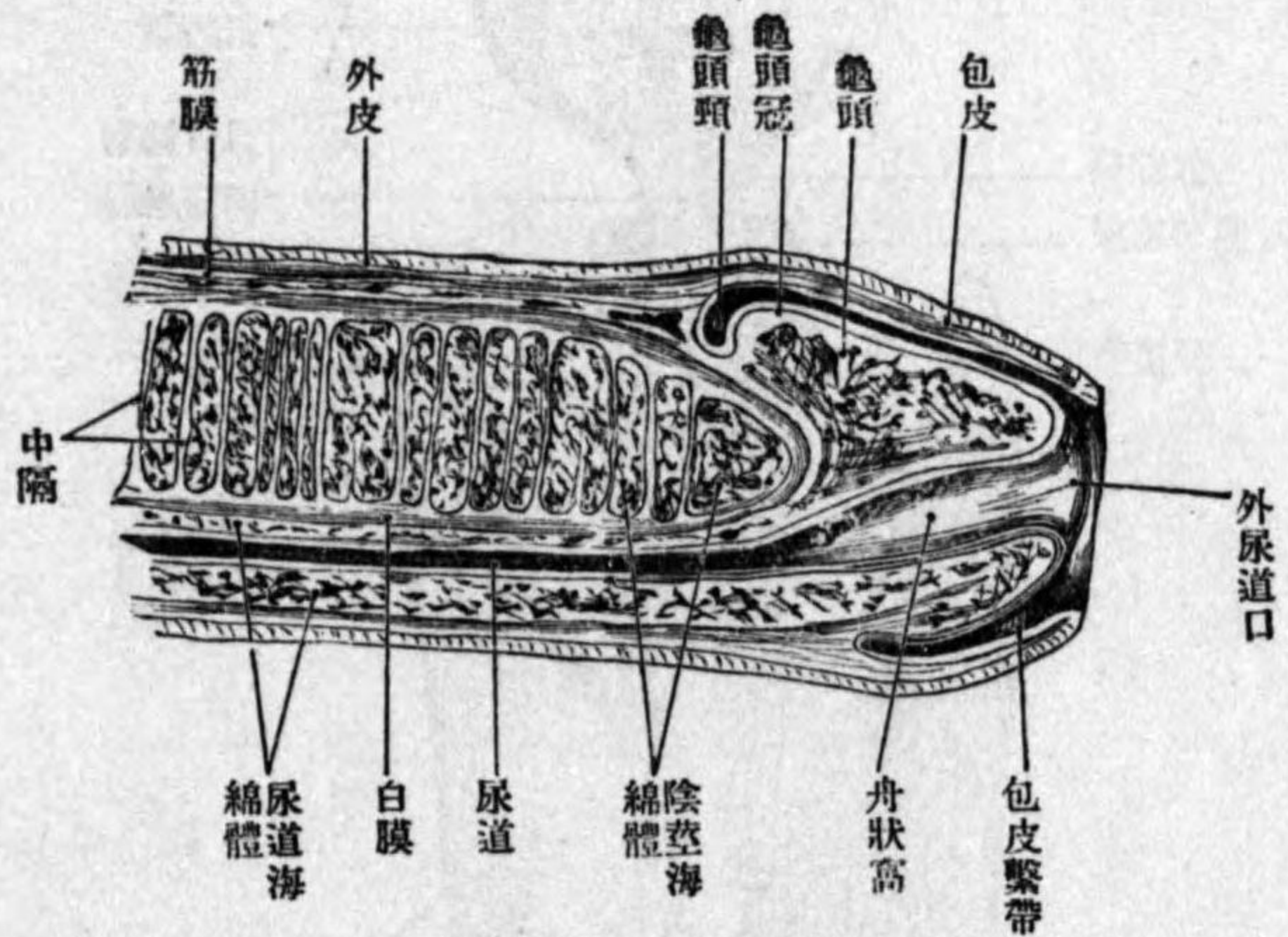
第六百二十九圖 尿道(陰莖上側矢狀斷)



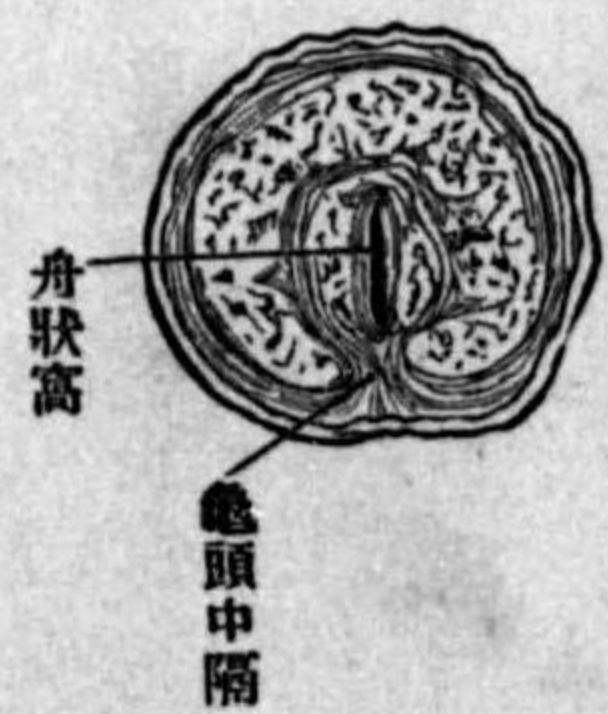
2. 膜樣部 Pars membranacea ハ長サ約二仙迷、恥骨軟骨接合ノ下後方ニアリ、此部ハ尿

道中最モ狭ク僅ニ擴張性ヲ有シ骨盤橫隔 Beckendiaphragma, M. constrictor urethrae 以

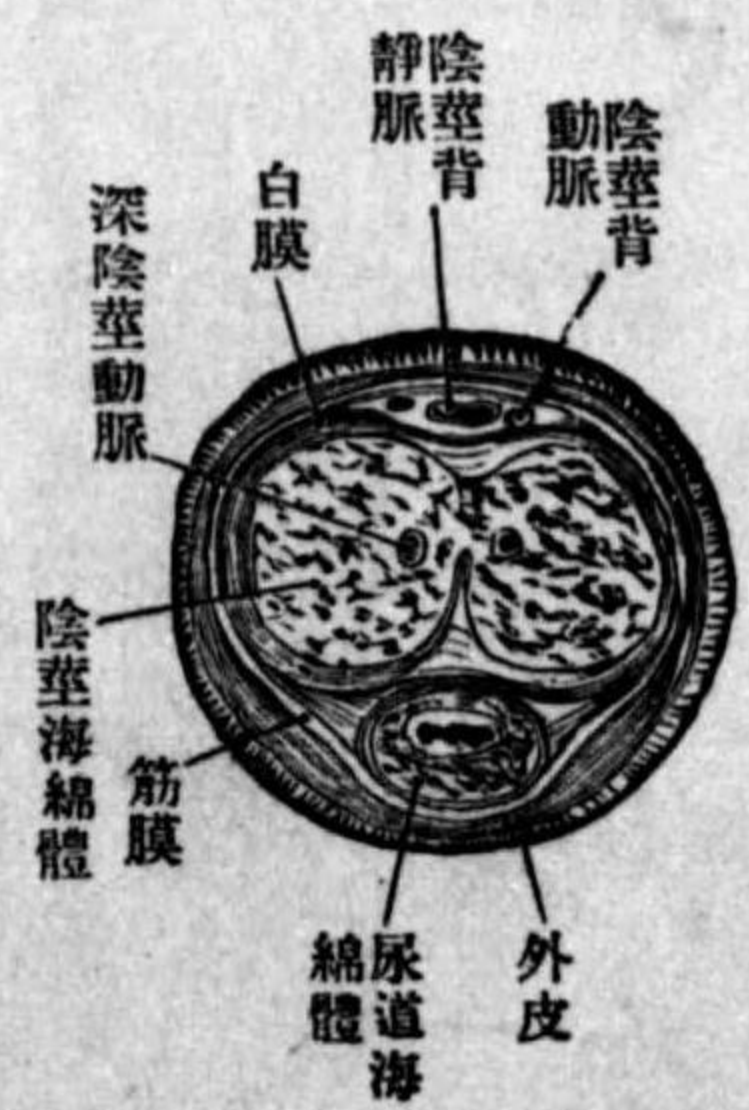
第六百三十三圖 包莖矢狀斷



第六百三十三圖 龜頭橫斷面



第六百三十一圖 陰莖體橫斷面



テ圍擁セラレ恥骨弓ノ下方約二仙迷ヲ隔テ、尿道三角靱帶 Lig. triangulare urethrae ヲ

穿通ス

3. 海綿部 Pars cavernosa ハ後端少シク擴張シ尿道球腺竝ニ通ズ前庭ハ龜頭ノ下方ニ於テ擴張シ(舟狀窩 fossa navicularis)龜頭尖端ニ於テ縱裂狀ノ外尿道口 Orificium urethrae externum ニ終ル舟狀窩後境ノ上側ヨリ一皺襞垂ル之ヲ舟狀窩瓣 Valvula fossa navicularis ト云フ

尿道ハ粘膜 Schleimhaut 及筋質 Muskulatur ヨリ成ル粘膜ハ縱皺襞ヲ有シ且尿道腺 Glandulae urethrales (Littrii) ト稱スル小腺ヲ現ハシ海綿部ハ單層ノ柱狀上皮ヲ被リ舟狀窩ニ至レバ磚狀ニ變ス自他海綿部ニハ前方ニ開キタル大小ノ凹陷アリ之ヲ尿道窩 Lacunae urethrales (Morgagnii) ト云フ筋質ハ外縱走内輪走シ海綿部ノ大部ハ筋質ヲ有セズ

陰 女生殖器 Organa genitalia muliebra

女性内生殖器ハ一對ノ卵巢子宮喇叭管及單個ノ子宮ニシテ外生殖器ハ腔及外陰部ナ